

ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書

XIII—1

1986

滋賀県教育委員会
財団法人滋賀県文化財保護協会

ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書

XIII—1

1986

滋賀県教育委員会
財團滋賀県文化財保護協会
法人

序

県下のは場整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査はすでに13年目を迎え、は場整備事業の拡大に伴う発掘調査件数の増加によって種種の資料や成果が蓄積されております。

発掘調査で得られたその成果を公開し、広く埋蔵文化財に関する御理解を深めて頂く一助にしたいと、ここに昭和60年度に実施いたしました発掘調査の報告書を4分冊に分けて刊行するものであります。

最後に発掘調査にあたり、御協力頂きました地元関係者並びに関係諸機関に対し、厚く感謝の意を表すと共に報告書の刊行に御協力頂きました方々に対しても厚くお礼申し上げます。

昭和61年3月

滋賀県教育委員会教育長
南 光 雄

例　　言

1. 本書は県営埋蔵文化財の発掘調査報告書で、昭和60年度に発掘調査したものである。
2. 本調査は滋賀県農林部からの依頼により、滋賀県教育委員会を調査主体とし、(財)滋賀県文化財保護協会を調査機関として実施した。
3. 本書には守山市赤野井遺跡、守山市赤野井浜遺跡、守山市杉江東遺跡、守山市山賀・杉江遺跡、中主町木部遺跡、中主町比留田遺跡、中主町五条遺跡、中主町野川遺跡の報告を収めた。
4. 本書で使用した方位は磁針方位に基づき、高さについては東京湾の平均海面を基準としている。
5. 本事業の事務局は次のとおりである。

滋賀県教育委員会

文化財保護課長	市 原 浩
課長補佐	中 正 雄 彦
埋蔵文化財係長	林 博 通
タ 技師	葛 野 泰 樹
管理係　主事	山 本 徳 樹

(財)滋賀県文化財保護協会

理事長	南 光 雄
事務局長	江 波 弥 太 郎
埋蔵文化財課長	近 藤 澄
調査三係長	大 橋 信 弥
タ嘱託	岩 間 信 幸
タ嘱託	氏 丸 隆 広
総務課長	山 下 弘
タ嘱託	松 本暢 弘
タ嘱託	中 谷 サカエ

6. 本書の執筆・編集は、調査担当者大橋を中心として岩間、氏丸、調査員鶴垣正宏、井浦由美、福井真理子が行い、文書の末尾に執筆者名を付した。
7. 出土遺物や写真・図面については滋賀県教育委員会で保管している。

目 次

第1章 赤野井遺跡	
1. はじめに	3
2. 位置と環境	3
3. 遺構	4
4. 遺物	15
5. おわりに	16
第一表 遺物観察表	17
第2章 杉江東遺跡	
1. はじめに	73
2. 位置と環境	73
3. 遺構	73
4. 遺物	73
杉江東遺跡出土遺物観察表	79
第3章 赤野井浜遺跡	
1. はじめに	87
2. 位置と環境	87
3. 遺構	87
4. 遺物	87
5. おわりに	87
第4章 山賀・杉江遺跡	
1. はじめに	91
2. 位置と環境	91
3. 調査の経過	91
4. 調査の結果	91
5. 遺物	100
6. まとめ	103
第5章 木部遺跡	
1. はじめに	109
2. 調査の方法	109
3. 調査の結果	109
4. 出土遺物	119
5. まとめ	120
第6章 比留田遺跡	
1. はじめに	121

2. 調査の方法	121
3. 調査の結果	121
4. 出土遺物	121
5. まとめ	133
第7章 五条遺跡	
1. はじめに	135
2. 調査の方法	135
3. 調査の結果	135
4. 出土遺物	145
5. まとめ	145
第8章 野田遺跡	
1. はじめに	147
2. 調査の方法	147
3. 調査の結果	147
4. まとめ	147
第9章 木部遺跡	
1. はじめに	157
2. 位置と環境	159
3. 調査の方法と経過	159
4. 遺構	159
5. 遺物	161
第1表 遺物観察表	174

挿図目次

第1章 赤野井遺跡

第1図 周辺遺跡図	1
第2図 遺跡位置図	2
第3図 トレンチ全体図	5
第4図 第1トレンチ西部遺構図	7
第5図 第1トレンチ東部遺構図	9
第6図 第2トレンチ遺構図	11
第7図 第3トレンチ遺構図	13

第2章 杉江東遺跡

第1図 トレンチ全体図	74
第2図 トレンチ全体図	75
第3図 遺構平面図	77

第3章 赤野井浜遺跡

第1図 トレンチ全体図	89
-------------	----

第4章 山賀・杉江遺跡

第1図 遺跡位置図	92
第2図 トレンチ配置図	93
第3図 土層柱状図	95
第4図 4・8・10・11(上層) トレンチ遺構平面図	98
第5図 11(下層) 35トレンチ遺構平面図	99

第5章 木部遺跡

第1図 位置図	110
第2図 予備調査試掘坑設定図	111
第3図 木部遺跡試掘坑設定図	113
第4図 試掘坑柱状断面図(1)	115
第5図 試掘坑柱状断面図(2)	117

第6章 比留田遺跡

第1図 位置図	122
第2図 比留田遺跡試掘坑設定図(1)	123

第3図 比留田遺跡試掘坑設定図(2).....	125
第4図 比留田遺跡試掘坑設定図(3).....	127
第5図 試掘坑柱状断面図(1).....	129
第6図 試掘坑柱状断面図(2).....	131
第7図 出土遺物実測図.....	133
第7章 五条遺跡	
第1図 位置図.....	136
第2図 五条遺跡試掘坑設定図(1)	137
第3図 五条遺跡試掘坑設定図(2).....	139
第4図 五条遺跡柱状断面図(1).....	141
第5図 五条遺跡柱状断面図(2).....	143
第8章 野田遺跡	
第1図 位置図.....	148
第2図 野田遺跡試掘坑設定図(1).....	149
第3図 野田遺跡試掘坑設定図(2).....	151
第4図 野田遺跡試掘坑設定図(3).....	153
第5図 試掘坑柱状断面図.....	155
第9章 木部遺跡	
第1図 周辺遺跡図.....	157
第2図 調査区全体位置図.....	158
第3図 調査区トレーニング配置図.....	163
第4図 遺構平面図(1).....	165
第5図 遺構平面図(2).....	169
第6図 遺物.....	173

図版目次

第1章 赤野井遺跡

- 図版一 赤野井遺跡
- 図版二 赤野井遺跡
- 図版三 赤野井遺跡
- 図版四 赤野井遺跡
- 図版五 赤野井遺跡
- 図版六 赤野井遺跡
- 図版七 赤野井遺跡
- 図版八 赤野井遺跡
- 図版九 赤野井遺跡
- 図版十 赤野井遺跡
- 図版十一 赤野井遺跡
- 図版十二 赤野井遺跡
- 図版十三 赤野井遺跡
- 図版十四 赤野井遺跡
- 図版十五 赤野井遺跡
- 図版十六 赤野井遺跡 杉江東遺跡
- 図版十七 赤野井遺跡
- 図版十八 赤野井遺跡
- 図版十九 去野井遺跡
- 図版二十 赤野井遺跡
- 図版二十一 赤野井遺跡
- 図版二十二 赤野井遺跡
- 図版二十三 赤野井遺跡
- 図版二十四 赤野井遺跡
- 図版二十五 赤野井遺跡
- 図版二十六 赤野井遺跡
- 図版二十七 赤野井遺跡

第2章 杉江東遺跡

- 図版一 杉江東遺跡
- 図版二 杉江東遺跡
- 図版三 杉江東遺跡
- 図版四 杉江東遺跡

- 図版五 杉江東遺跡
図版六 杉江東遺跡
図版七 杉江東遺跡
図版八 杉江東遺跡

第3章 赤野井浜遺跡

- 図版一 赤野井浜遺跡

第4章 山賀・杉江遺跡

- 図版一 1. 調査区遠景 2. 調査風景
図版二 1. T-4 SD-1 2. T-4 SD-3, SK-3
図版三 1. T-8 SD-1 2. T-10 SD-1
図版四 1. T-11第一次遺構面SD-2~4周辺 2. T-11第二次遺構面SD-1
図版五 1. T-35全景 2. T-35 SD-1・2, SK-1
図版六 遺物
図版七 遺物
図版八 遺物
図版九 遺物実測図
図版十 遺物実測図

第5章 木部遺跡

- 図版一 1. 調査前景 2. 調査遠景
図版二 1. 耕作土掘削状況 2. 柱状図作成状況
図版三 1. 試掘坑断面 2. 試掘坑断面
図版四 1. 試掘坑断面 2. 遺物

第6章 比留田遺跡

- 図版一 1. 調査前景 2. 調査状況
図版二 1. 埋めもどし状況 2. 試掘坑断面
図版三 1. 試掘坑断面 2. 試掘坑断面
図版四 1. 試掘坑断面 2. 試掘坑断面

第7章 五条遺跡

- 図版一 調査前景
図版二 耕作土掘削状況・試掘坑遺構出土状況
図版三 試掘坑断面

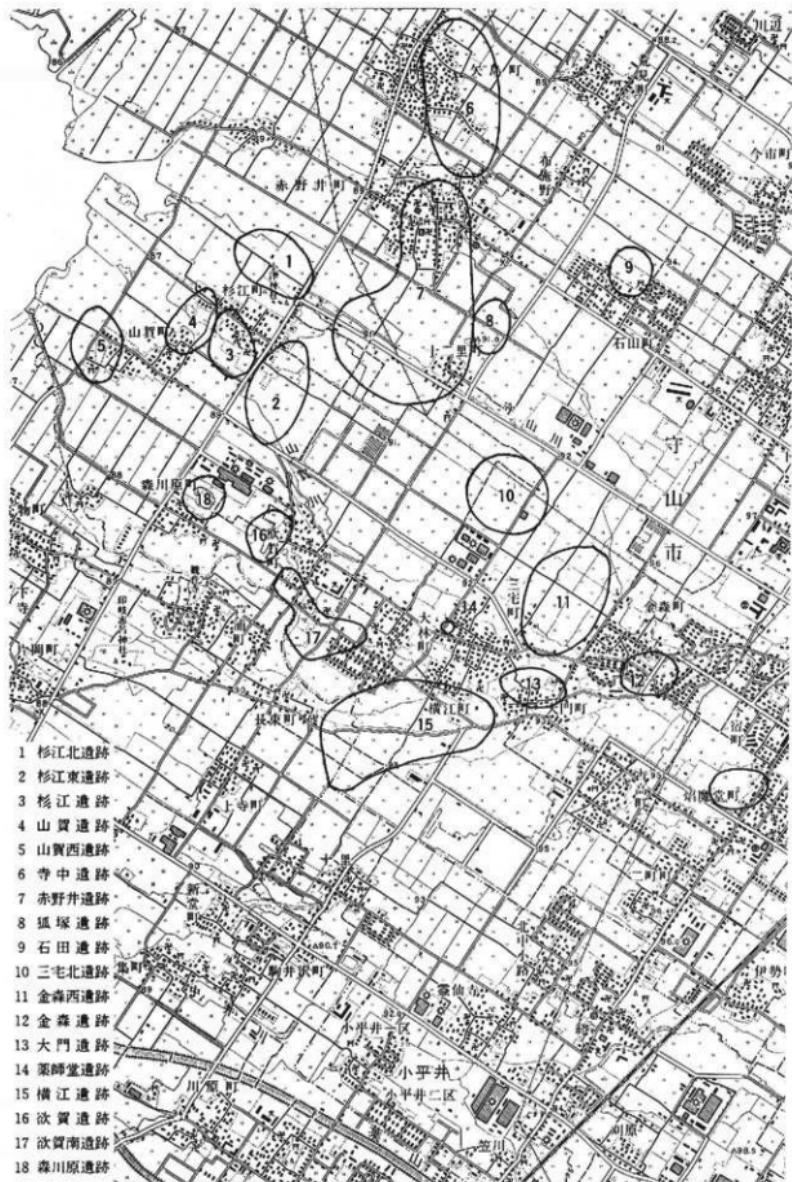
第8章 野田遺跡

- 図版一 1. 調査前景 2. 調査状況
- 図版二 1. 柱状図作成状況 2. 試掘坑断面
- 図版三 1. 試掘坑断面 2. 試掘坑断面

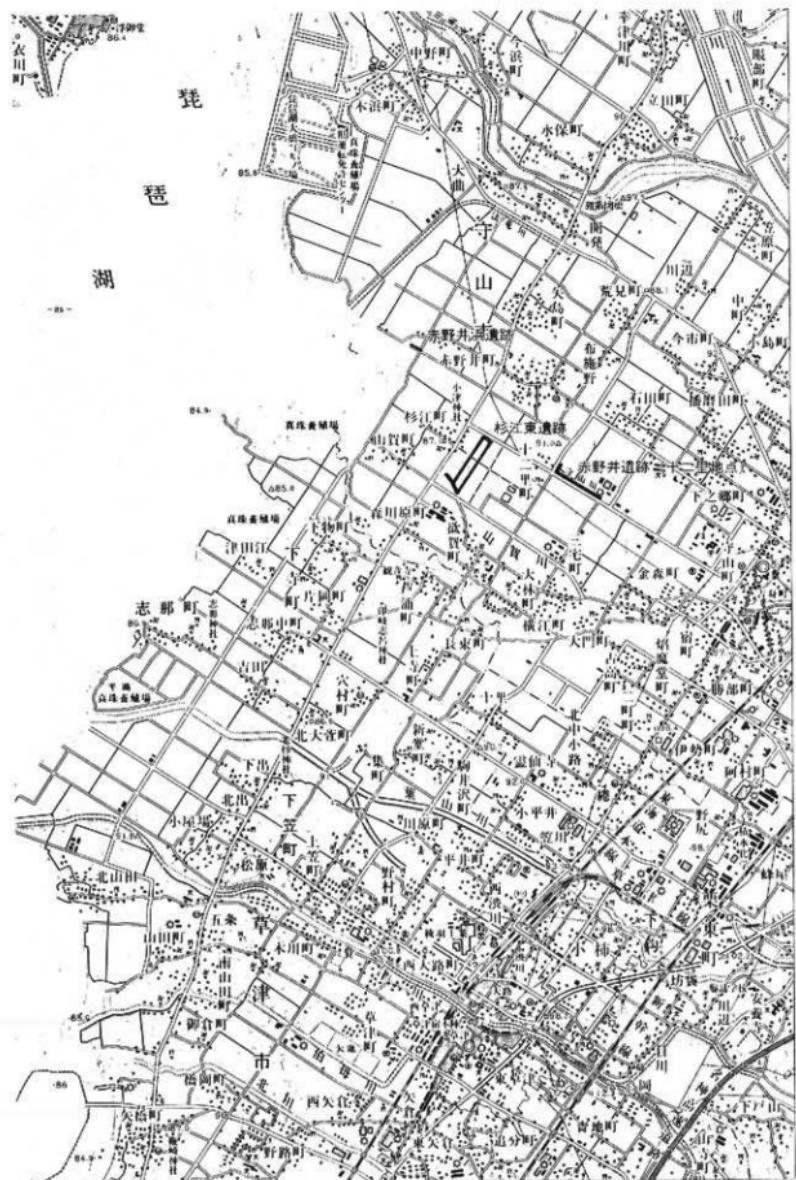
第9章 木部遺跡

- 図版一 1. 試掘トレンチ調査区遠景 2. 試掘トレンチ調査風景
- 図版二 1. T-3トレンチ調査状況 2. T-4トレンチ調査状況
- 図版三 1. T-7トレンチP25遺物出土状況 2. T-11トレンチP33遺物出土状況
- 図版四 遺物
- 図版五 遺物
- 図版六 遺物
- 図版七 遺物
- 図版八 遺物
- 図版九 遺物
- 図版十 遺物
- 図版十一 遺物
- 図版十二 遺物
- 図版十三 遺物
- 図版十四 遺物
- 図版十五 遺物
- 図版十六 遺物
- 図版十七 遺物
- 図版十八 遺物実測図
- 図版十九 遺物実測図
- 図版二十 遺物実測図
- 図版二十一 遺物実測図
- 図版二十二 遺物実測図
- 図版二十三 遺物実測図
- 図版二十四 遺物実測図
- 図版二十五 遺物実測図
- 図版二十六 遺物実測図
- 図版二十七 遺物実測図
- 図版二十八 遺物実測図
- 図版二十九 遺物実測図
- 図版三十 遺物実測図

第1章 赤野井遺跡



第1図 周辺遺跡図



第2図 遺跡位置図

1. はじめに

本報告は、守山市における、県営ほ場整備事業守山南部地区十二里工区工事にともない、昭和60年度に実施した発掘調査結果をまとめたものである。総調査面積は約3000m²である。

調査は、滋賀県教育委員会文化財保護課を調査主体者とし現地調査は、財団法人滋賀県文化財保護協会調査三係長・大橋信弥、同調査員福垣正宏が担当した。調査期間は昭和60年10月21日から昭和60年12月31日までである。

現地では調査補助員として、河野武、久修一郎、久野丈、佐野峰生、横谷裕人、政岡伸洋の参加があった。また作業員として、前田穢次、川村末吉、金崎勘治、大友利子、木村静子、北村みつ、川畠真美、中田ゆき、山本きよみ、が協力した。

本書は、福垣が、これを編集執筆したが、2、位置と環境については、佛教大学学生東高志との共同執筆する。

2. 位置と環境

赤野井遺跡（十二里地点）は、守山市十二里町5番、302番、241-12番、284-1番、261-1番に所在する。小字は、南中綱田、南上綱田、橋本、中島、立後寺である。

赤野川遺跡（十二里地点）は野洲川のもたらした土砂により発達した沖積平野に位置する。

赤野井遺跡（十二里地点）は、野洲川の現在の北流及び南流と旧河道の境川と江西川の四本を中心に形成された沖積平野上の微高地である自然堤防上に立地する遺跡である。当遺跡所在地が自然堤防上であろうとする理由は、現状において周辺よりやや高位を持ち、基盤層は水はけのよい砂層であること、現状の守山川の流路と直行する形で南から北へ流れる自然河川を検出し、その河川がすでに廃川となっていることから、土砂の自然堆積による自然堤防の形成が広くおこなわれたことがわかるのである。

ここで、やや視野を大きく括げて守山市全体の環境を見てみると、守山市域は湖東平野の南西部、野洲川の下流から湖岸にかけての扇状地性三角州上に位置している。この扇状地は野洲川が例えれば信楽山地にみられるような粗粒な花崗岩質の山地系、古跡琵琶湖層群の水口丘陵といった柔かい土壤を開拓・浸食し、その堆積作用によって形成されたものである。豪雨時においては、その多大な土砂の流出によって氾濫原として不安定な状態ではあったが同時にその肥沃な土壤の恩恵を受けて古より人々の生産・生活が展開されてきた。

赤野井遺跡は、ほぼ市の中央部、かつての主流河道である境川の分流の守山川筋に位置している。付近の遺跡としては、北に隣接する寺中遺跡、西に赤野井浜遺跡、東に吉見西遺跡、南に金ヶ森西遺跡等があり、いずれも弥生時代の土器片や遺構面を検出しており、古代よりこの地域が水稻耕作を中心とする人々の生活・経済基盤として確立していたことをうかがわせる。これらの遺跡はそれ以降も継続して営まれており、また寺院跡である観音堂遺跡、杉江北・東遺跡などの鎌倉時代の遺跡の所在が確認されており、弥生時代前期より中世に至る連続とした遺跡の存在が周知されている。

赤野井遺跡においても弥生時代を通じての土器片・石斧・石戈等が検出されており、古墳時代の遺跡として、前期の方形周溝墓、後期の古墳二基、それ以降も鎌倉時代に至るまでの多くの遺物が検出されている。このような複合遺跡の傾向は前述した周辺遺跡にも当てはまるのであるが、しかしそれ以降の遺跡の希薄さは、中世にお

ける野洲川の氾濫、あるいはその活動に応じた地理諸条件の変化に起因している面があると思われ、これは守山市全域に言えることであるが、野洲川の活動状況が、その時期の地域の生産を基軸とする社会体系に大きな影響を及したと考えられる。その意味で、この地域の歴史的発展の経過を探るには、野洲川の活動による景観の歴史的変遷をみることが必須であると思われる。(東、船垣)

3. 遺構

遺構は土器が出土した遺構として、S D 001、S D 002、S D 003、S D 004、S B 003、S B 004、畔跡、上塙があげられる。遺物が出土しない遺構として、S D 005、S B 001、S B 002、があげられる。遺構面(基盤層上面)は、トレンチ全域にわたって現地表面から浅い地点にある(G L—20~40cm)。また、表土(耕作土)下層の床上直下にすぐ遺構面が存在し、遺構面より上層に上器包含層は存在しない。これらの遺構について、以下各トレンチごとに述べることにする。

第1トレンチ

S D 001

S D 001は、トレンチ最西端に部分的に表出している自然河川である。S D 001は、南西から北東へトレンチを貢流して第2トレンチのS D 003、S D 004につながる。これら3河川は同一のものが部分的にトレンチ内に表出しているものである。

S D 001の、最深部で遺構面下50cmである。埋土は、埋土が薄く層序的に堆積しており、上部は、カクラン等により削られている。埋土のうち第6層(褐色泥土)は、S D 003の第2層、S D 004の第2層によく似ている。第6層は、土師器片が小量出土しているが、器形等は不明である。

なお、S D 001の埋土の最上部には、浅い土壠が3箇所、柱穴のあるピットが2箇所が存在していた。遺物は出土していない。

S D 002

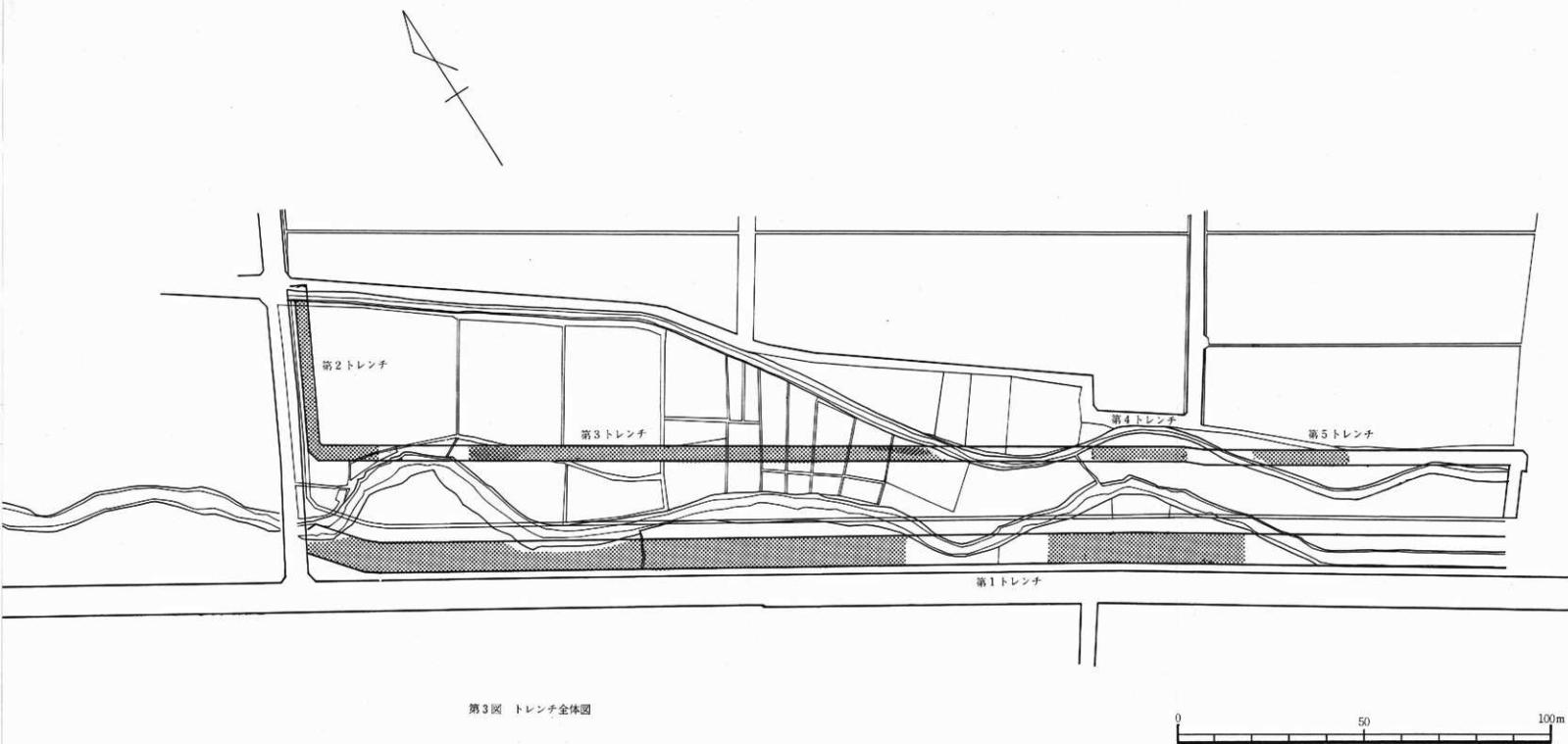
S D 002は、トレンチ最東端に部分的に表出している自然河川である。S D 001は、東から北西へ流下しておりそのさい蛇行した左岸がトレンチ内に姿を現わしている。S D 002は、第3トレンチのS D 005につながるものとみられる。

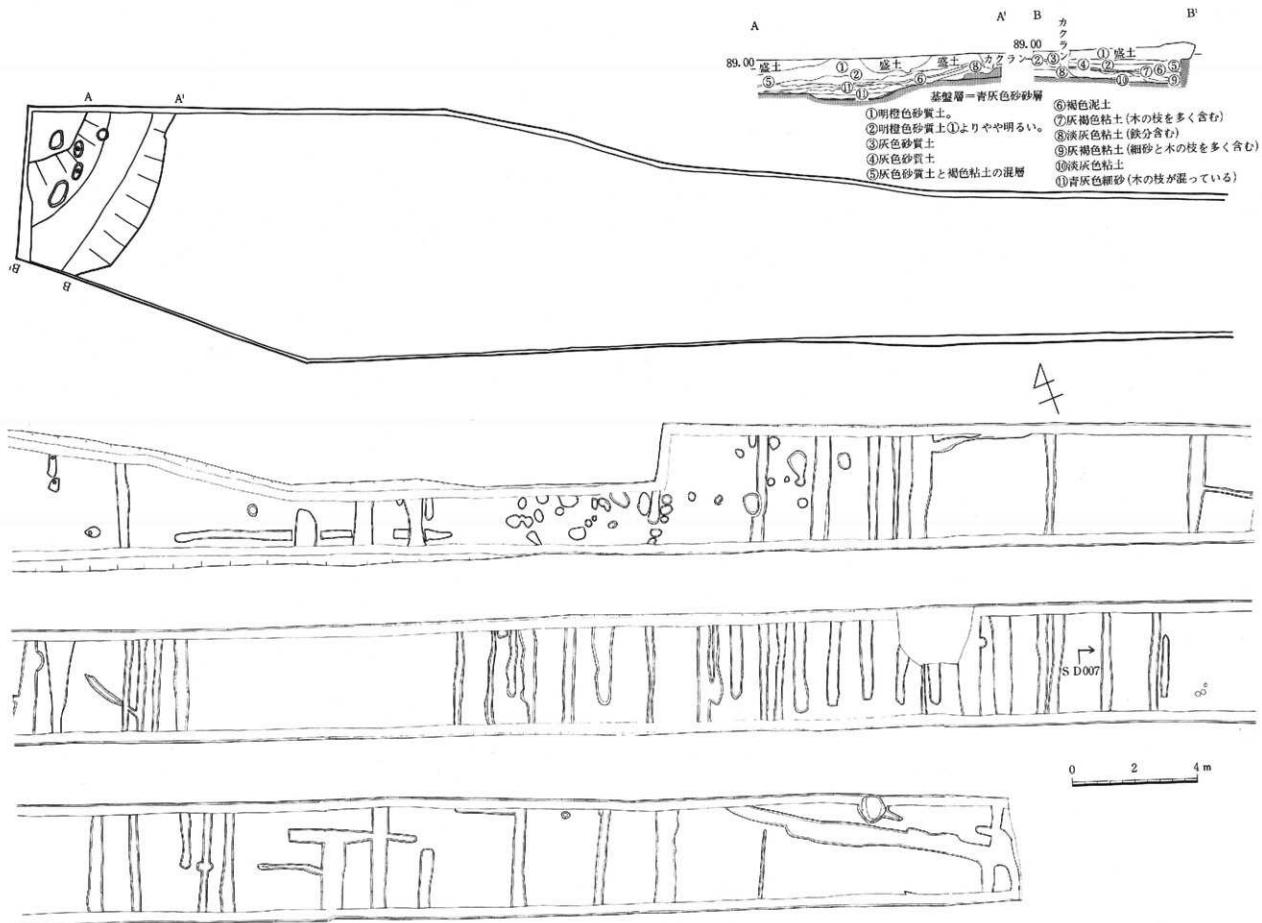
A-A'地点における河底の形状は、段をもっており、最深部は、遺構面より68cmを測る。埋土は層序的に堆積しており、第1層から第4層まで(ほとんどすべての埋土)から土器を検出している。

S B 001

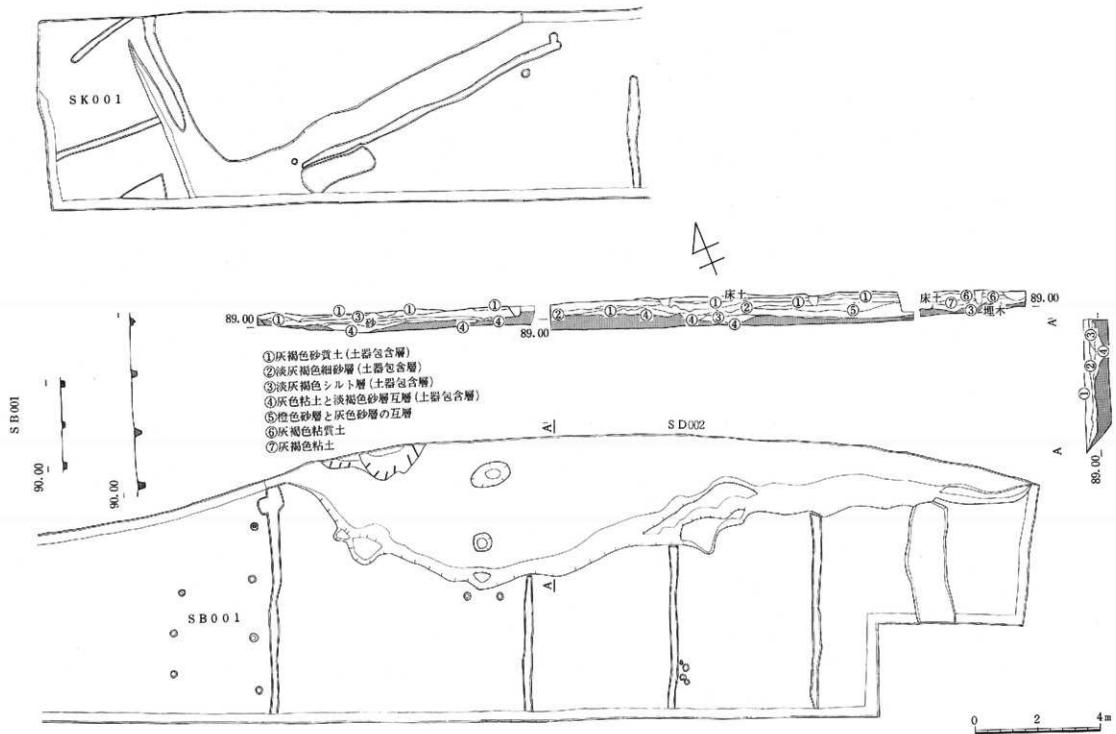
S B 001は、S D 002の南にある掘立柱建物である。西側にピット3箇所柱列があり、東側は、ピット4箇所の柱列である。この柱列はほぼ平行関係にあり、方位は東北東を差す。ピットの深さは、5cmから15cmを測る。ピットの埋土は灰褐色土である。

しかし、この建物跡には疑問を持たれる箇所が多い。第1に、西列のピットの心々距離は140cmであるのに東列の心々距離は180cmである。第2に西列と東列のピットがきっちり対応しないで、ややずれている。第3に東列の北端のピットに対応すべき西列のピットがない。などの事実から、S B 001は住居跡でない可能性ももたれるのである。

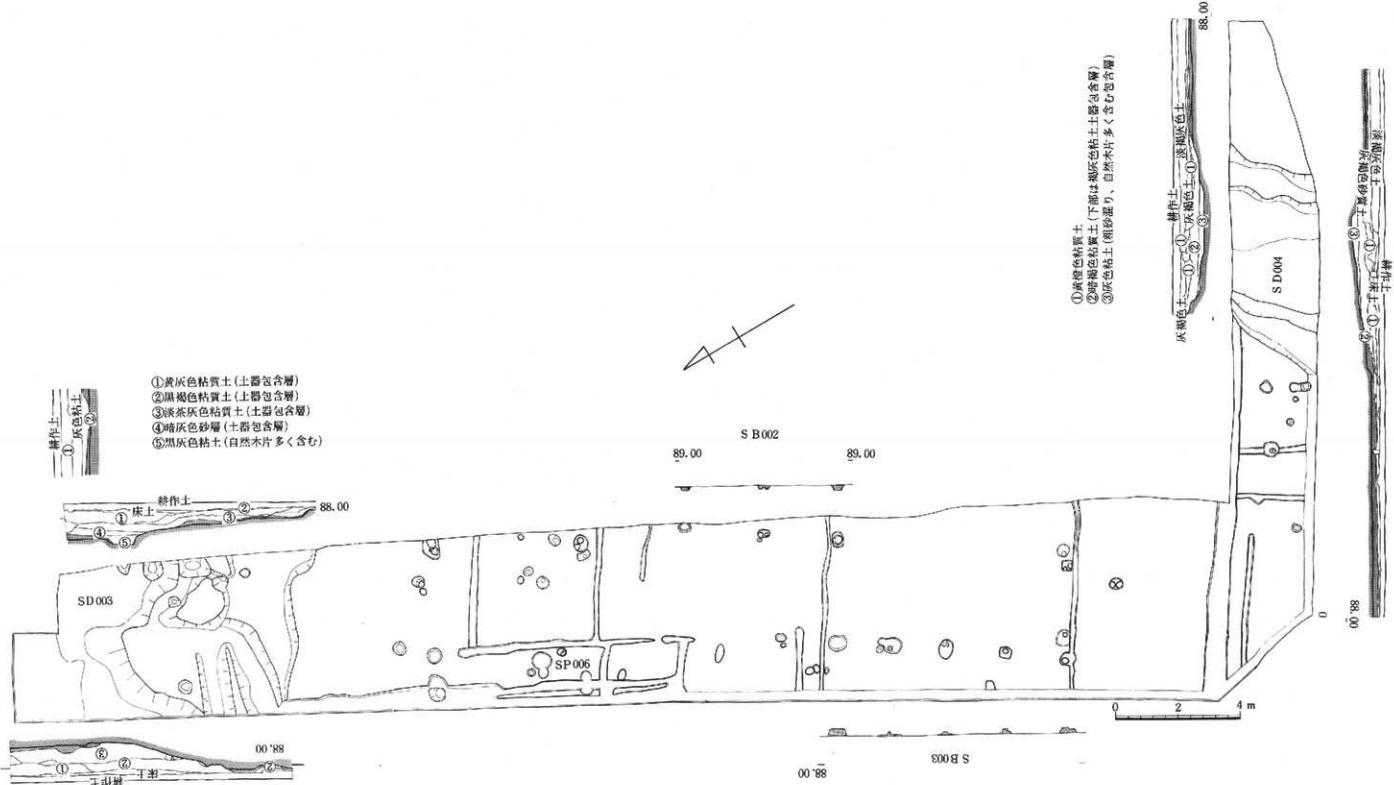




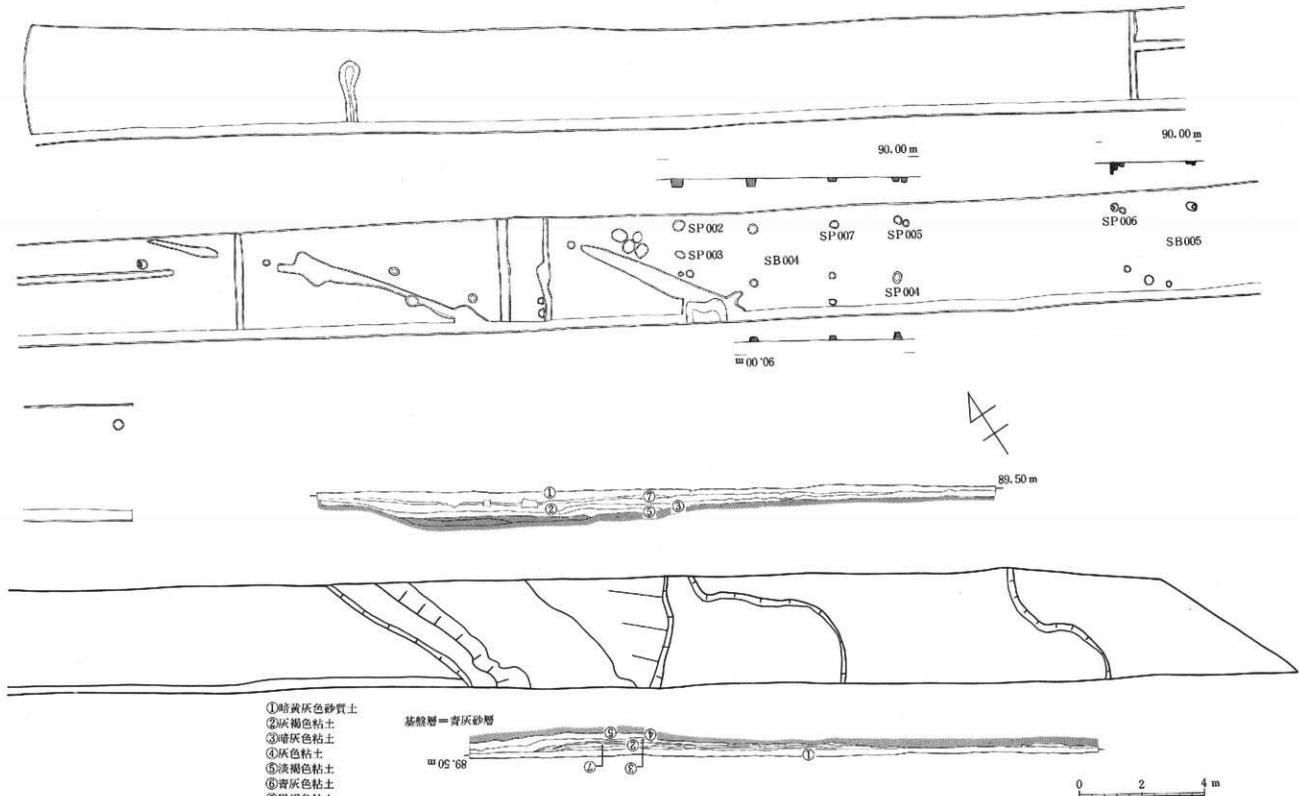
第4図 第1トレンチ西部造構図



第5図 第1トレンチ東部遺構図



第6図 第2トレンチ遺構図



第7図 第3トレンチ遺構平面図

第2トレンチ

S D 003

S D 003は、第2トレンチの南北調査の北端にあり、トレンチを貫流する。西北西の方向に向って流下していると思われる。S D 003は、トレンチの中央部において、小規模な分流をつくっている。最深部は遺構面より88cmを測る。埋土は層序的に堆積しており、床土直下の第1層から第4層までが土器を包含する。

S D 004

S D 004は、第2トレンチ、東西調査区東端に表出している。東北方向を向いてトレンチを貫流する。最深部は遺構面より80cmを測る。埋土は層序的に堆積しており、第1層と第2層が土器を包含する。またこの第1層と第2層は、S D 003の第1層、第2層と七質、色調とも非常によく似ている。

S B 002

S B 002は、第2トレンチ、南北調査区、東辺近くにあり、1列3箇所のピットからなる。深さは12~16cmであり、3箇所とも柱穴を持つ、心々距離は2m 52cmである。埋土は灰褐色土である。

S B 003

S B 003は、第2トレンチ、南北調査区、西辺近くにあり、1列5箇所のピットからなる。深さは12~20cmを測る。4箇所に柱穴を持つ。心々距離184cmであり、埋土は灰褐色土である。

S B 002、S B 003ともに東北方向を向いており。ピットは、まったく対応しないが方位のみは同一性がある。

第3トレンチ

S D 004

S D 004は、第3トレンチ東端部に表出する自然河川である。南から北へ流下しており、その位置から言って、第1トレンチ S D 001の下流と推定される。川幅は最大で22mと広く、最深部で遺構面から約60cmの深さである。遺物は出土していないが、埋土はS D 001のものと非常によく似ている。

S B 004

S B 004は、第3トレンチ中央部にある。二列（一箇所消滅）七箇所からなるピット群である。中軸は北西方に向いており、ピットの深さは20cm~6cmである。4箇所から中世土器が、いずれも完形に近い形で出土している。これは、住居建築のさい、なんらかの祭祀的用途をもって、柱穴に埋納されたものと考えられる。

S B 005

S B 004より12m南東に位置する一列2箇所のピット群である。一箇所のピットから中世土器が出土しているが、その用途はS B 004と同様と思われる。

4. 遺 物

遺物については、観察表にくわしい観察はゆだねるので、この項では、とくにめだった遺物と遺物の概略をのべておきたいと思う。

S D 002

第1層 最上層である。黒色土器、「て」の字状口縁の土師質小皿などが出土している。黒色土器は楕円のもので、内外面黒色のもの、内面黒色のものがある。灰釉、綠釉の高台は貼付けで、灰釉はつけかけ施釉である。

第2層、土師器は「て」の字状口縁の小皿が出上し、つけがけの灰釉の小皿などがあるが、須恵器杯等時代の上の遺物が混る。

第3層、最下層であり、須恵器杯、「て」の字状口縁の土師器、黒色土器等が出土する。黒色土器は、いずれも、横方向のていねいなヘラミガキで調整される。(内面だけのものと両面ミガキのものがある。) 外面底部高台内までヘラミガキされる例もある。土師器については口径9cm~14cm程度で浅手の杯と碗が多く出土している。灰釉、綠釉の出土もみられる。

S D 003

第1層、布留式期の最終段階の近江系受口甕(甕、高杯)が出土する。奈良時代の土師器も併存する。

第2層、畿内の影響をうけた内面端部肥厚の甕と近江系の受口甕が混在する。(いずれも布留式最終段階) 高杯、壺などの他に、ミニチュア鉢、小型丸底壺、小型器台などの祭祀用品も出土する。

第3層、第2層と同じ器種構成であるが、他にミニチュア甕も出土している。

第4層、甕は畿内系、近江系があるが、時期は、庄内式併行のもの(283)から、布留式のもの、布留式より後出するもの(281、282、284~289)がある。

S D 004

第1層、層位的に混乱がみられ、近世の半磁器湯飲み(317)、灰釉碗、須恵器杯、弥生式様式甕(318) 布留式期の畿内系、(316) 近江系甕(314,315)が出土している。

第2層、布留式期の土器が中心に出上している器種は、近江系、畿内系甕、底部の非常に退化した壺(387、388)に混って庄内式高杯壺部(405)がある。

S B 004

SB004の各Pitからは二段ナデ調整の土師質皿、「て」の字状口縁の土師質小皿、黒色土器碗などが出土している。これらの上器は、諸特徴から11世紀のものと考えられる。

S B 005

土師質皿はの中に「て」の字状口縁のものも、2枚混っている。これらの皿も11世紀のものと考えられる。

SD002第3層の出土遺物も、SB004、SB005と同時期のものと考えられる。

4. おわりに

赤野井遺跡(十二里地点)の発掘調査においては、自然河川、掘立柱建物跡を検出した。自然河川の堆積土からは、非常に多くの土器(平安、古墳時代)を出土した。このうち自然河川出土の古墳時代遺物は、吉身西、金森西など同時代の遺跡から流下して来たものであろう。住居跡及び自然河川の平安時代出土遺物は、現十二里村落の前身の集落に伴うものと考えられる。

第一表 遺物観察表

種類番号	法量	形態・技法の特徴		色	調	胎土・焼成	備考
		底	部				
土器 小皿	1 口径9.8cm	底部欠損 口縁は外方に向って内側ぎみにのびる。 腹部は上につまみ上げてまるくおさめる。 技法：全面ヨコナナ	乳褐色	胎土：微細なものから1mm程度の 石英・長石・その他の砂粒 を含む。 焼成：焼青	胎土：1層	S D002	
土器 小皿	2 口径13.6cm	底部はほぼ平坦、1脚部は内側ぎみに短く外に開きすぐりに屈曲外反 し、端部を巻き上げよくおさめる。 技法：全面マツツ	暗灰茶色	胎土：2～3mm位の石英・長石粒 を含む。 焼成：やや硬質。	胎土：2～3mm位の石英・長石粒 を含む。 焼成：やや軟質。		
土器 高台器 柄 瓶	3 口径 13.5cm 高台径 6.7cm 器高 4.05cm	ほぼ円柱状底部から、体部が内寄して外上方にのび、端部は丸くねじらせてある。 底外部周に断面三角形の低い高台が貼りついている。 技法：内面・外面山線、体部はリつけ高台はヨコナナ。他是未調査	乳褐色（一部が褐色）	胎土：微細～1mm程度の石英及び 砂粒を少し含む。 焼成：軟質。	胎土：2～6mmの小石を数個と、 砂粒を含む。		
土器 盤皿	4 口径 15.9cm	体部はほぼまっすぐに広がり、端部は丸くおさめる。 技法：全面マツツ	乳白色	胎土：良好。 焼成：軟質。	胎土：良好。 焼成：軟質。		
土器 盤皿	5 底径 9.9cm	底部は外側外周で接地し、中央にむかいで少し上向。 口縁は底部と境を明確に、内寄しながら外に開く。 技法：内外面共未調査	乳白色	胎土：2～6mmの小石を数個と、 砂粒を含む。	胎土：2～6mmの小石を数個と、 砂粒を含む。		
黒 色陶 器	6	底部と体部に境はなく、なめらかに内寄している。 高台は焼かず退化している。 技法：ヘラミガキ	暗灰色	胎土：良好。 焼成：やや軟質。	胎土：0.5～1mm位の石英・長石 を少し含む。		
~	7 口径 13.1cm	底部欠損 体部は内側ぎみに外上方にのび、端部は肥厚させ丸くおさめる。 技法：内外面共ヨコナナと思われるがマツツ。	光褐色（内面黒灰色）	胎土：0.5～1mm位の石英・長石 を少し含む。	胎土：灰白色微粒を多く含む。		
~	8 口径 14.8cm	口縁はゆるく内寄し、端部内面下に一条の沈縫をめぐらす。 端部は、上方へつまみ出す。 技法：口縁周辺はヨコナナ。他是マツツ。	内面黒灰色 外面口縁部輪灰色、体部輪灰色	胎土：やや軟質	胎土：0.5～1mm位の砂粒を少し含む。		
	9 口径 14.5cm	底部欠損	乳褐色	胎土：0.5～1mm位の砂粒を少し含む。			

黒 色 土 器	外 部 内 部	体部はやや内弯して外上方にのび、腹部はやや外へしてつまみ出し なくおさめる。端部内側に一条の沈線を施す。	内面黒灰色 焰法：金内面・外面口縁ヨコナデ。他はマツツ。	含む。 焼成：やや軟質	n
灰 釉 ・ 輪 ・ 輪	外 部 内 部	口径 14.4cm 高台径 7.8cm 留高 4.8cm 技法：他はヨコナデ、口縁内外面に飾輪がある。	乳白色 焰土：微細なものから 2mm程度までの石英・長石・その他の砂粒を含む。 焼成：硬質	n	n
綠 釉 ・ 輪	外 部 内 部	高台径 5.8cm 高台がふんぱり貼りついている。 技法：内外面共マツツ。	素地は乳白色(上部) 施釉部は時計色 焰土：砂粒を少し含む。 焼成：軟質	n	n
小 脚 質	外 部 内 部	底盤外周に長い脚の断面三角形の窓台をもつ。窓台はふんぱり貼りつ く。底部は内弯しながらのびる。 技法：内外面共マツツ。	素地は乳白色(七脚窓) 施釉部はほんの少し残っており剛線 色 焰土：白色砂粒を少し含む。 焼成：軟質	n	n
黑 色 脚 質	外 部 内 部	扁平な底盤から口縁部が幅く立ちあがり、前曲反して端部を巻き 上げ九くおさめる。端部内側に一茶の沈線を施す。 技法：内面底部、口縁部、外面口縁ヨコナデ。他は未調査。	淡乳白色 焰土：良好 (微少燒わざかに含む) 焼成：やや軟質	S D002 n	第 2 層
黒 色 脚 質	外 部 内 部	持ちあがりきみの底盤から、口縁が細く立ちあがり、色は前曲反 して端部をつきあげ丸くおさめる。端部内側に一条の沈線を施す。 技法：底部内面、11脚内外面ヨコナデ。他は未調査。	淡乳白色 焰土：微細な長石・石英・その他の砂粒を含む。 焼成：硬質	n	n
黒 色 脚 質	外 部 内 部	口縁部は外方に向って内弯きみにのび、腹部内面に沈線を立て、外 面は強いナデのためへこみを有する。また先端は丸くおさめる。 技法：輪部外面ヨココナデ。他はヘラミガキ。	内外面共黒色 焰土：精良 焼成：硬質	n	n
黒 色 脚 質	外 部 内 部	口縁は浅く内弯し、腹部内面下で一条の沈線を固らす。 (外面体部ややマツツぎみ)	内外面共黒色 焰土：精良 焼成：硬質	n	n

黑色 色 部 部 出 器 器具 部 部 灰 部 部 部	17 n	14種 14種 深筋 出器 器具 高台 器具 高台 器具 灰 部 部 部	13.9cm 13.1cm 10.0cm 4.3cm 6.6cm 2.3cm 7.6cm 14.2cm 14.2cm 11.2cm 6.6cm 2.3cm 14.2cm 14.2cm 16.8cm 13.0cm	口端は内湾きみにのび、端部付近内面に段をもち 九くおさめる。 技法：内外面共ヨコナデのあとにヘラミガヤ。 内面と端部外面染色化。	素地乳白色 内面黒色 外面赤褐色	胎土：砂粒を少し含む。 焼成：やや硬質	S D002 第 2 层 n
黑色 色 部 部 出 器 器具 部 部 灰 部 部 部	18 n	14種 天井 器具 高台 器具 高台 器具 灰 部 部 部	13.1cm 6.1cm 2.6cm 14.2cm 10.0cm 4.3cm 6.6cm 2.3cm 14.2cm 11.2cm 6.6cm 2.3cm 14.2cm 14.2cm 16.8cm 13.0cm	口端は内湾し、端部内面下で茶の沈殿を隔らす。 端部は九くおさめる。 技法：内外面共断続的なヘラミガヤ。 下井部はほぼ直進、口輪部は内湾きみに外方へのびる。 端部は九くおさめる。 技法：天井部外面は未調整。他はヨコナデ。 体部は直線的に立ちあがり、端部は丸くおさめている。 底部はほぼ平滑で、断面遊走形の高台が附りついでいる。 技法：ヨコナデ。はりつけ高台は、はりつけ後ナデ。 体部は内湾きみに立ちあがめる。端部は丸くおさめる。 断面：内湾きみの高台が張り貼いている。 底部に糸切り模様が見られる。 貼りつけ高台で、貼りつけ後ナデ。	乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色	胎土：0.2~3mm粒度の石英・長 石・黒色砂粒を含む。 焼成：硬質	n
黑色 色 部 部 出 器 器具 部 部 灰 部 部 部	19 n	口径 天井 器具 高台 器具 高台 器具 灰 部 部 部	9.9cm 6.1cm 2.6cm 14.2cm 10.0cm 4.3cm 6.6cm 2.3cm 14.2cm 11.2cm 6.6cm 2.3cm 14.2cm 14.2cm 16.8cm 13.0cm	下井部はほぼ直進、口輪部は内湾きみに外方へのびる。 端部は丸くおさめる。 技法：天井部外面は未調整。他はヨコナデ。 体部は直線的に立ちあがり、端部は丸くおさめている。 底部はほぼ平滑で、断面遊走形の高台が附りついでいる。 技法：ヨコナデ。はりつけ高台は、はりつけ後ナデ。 体部は内湾きみに立ちあがめる。端部は丸くおさめる。 断面：内湾きみの高台が張り貼いている。 底部に糸切り模様が見られる。 貼りつけ高台で、貼りつけ後ナデ。	乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色	胎土：微細～1mmの石英・長 石・その他の砂粒を含む。 焼成：硬質	n
黑色 色 部 部 出 器 器具 部 部 灰 部 部 部	20 n	口径 天井 器具 高台 器具 高台 器具 灰 部 部 部	14.2cm 6.1cm 2.6cm 14.2cm 10.0cm 4.3cm 6.6cm 2.3cm 14.2cm 11.2cm 6.6cm 2.3cm 14.2cm 14.2cm 16.8cm 13.0cm	下井部はほぼ直進、口輪部は内湾きみに外方へのびる。 端部は丸くおさめる。 技法：ヨコナデ。はりつけ高台は、はりつけ後ナデ。 体部は内湾きみに立ちあがめる。端部は丸くおさめる。 断面：内湾きみの高台が張り貼いている。 底部に糸切り模様が見られる。 貼りつけ高台で、貼りつけ後ナデ。	乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色	胎土：微細～1mmの石英・長 石・その他の砂粒を含む。 焼成：硬質	n
黑色 色 部 部 出 器 器具 部 部 灰 部 部 部	21 n	口径 天井 器具 高台 器具 高台 器具 灰 部 部 部	11.2cm 6.6cm 2.3cm 14.2cm 10.0cm 4.3cm 6.6cm 2.3cm 14.2cm 11.2cm 6.6cm 2.3cm 14.2cm 14.2cm 16.8cm 13.0cm	下井部は丸くおさめる。 技法：ヨコナデ。はりつけ高台は、はりつけ後ナデ。 体部は内湾きみに立ちあがめる。端部は丸くおさめる。 断面：内湾きみの高台が張り貼いている。 底部に糸切り模様が見られる。 貼りつけ高台で、貼りつけ後ナデ。	乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色 乳灰色	胎土：微細～1mmの石英・長 石・その他の砂粒を含む。 焼成：硬質	n
黑色 色 部 部 出 器 器具 部 部 灰 部 部 部	22 n	高台 器具 高台 器具 高台 器具 灰 部 部 部	7.6cm 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具	底端のみ残存。平頂な底部より内湾台形の高台がはばまつすぐ下へ貼り付 いている。 外曲底部の外周より、断面台形の高台がはばまつすぐ下へ貼り付 ている。 技法：外曲長部はマツ、他はヨコナデ。 内面の底部に沈殿がめぐっている。	素地乳白色(十脚四)	胎土：微細～1mm粒度までの長石 ・石英・出色砂粒を含む。 焼成：硬質	n
黑色 色 部 部 出 器 器具 部 部 灰 部 部 部	23 n	口径 天井 器具 高台 器具 高台 器具 灰 部 部 部	14.2cm 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具	底部欠損。口端は内湾きみに外方へのびる。 端部は丸くおさめる。 技法：全面マツ。	乳白色	胎土：微細～1mm粒度までの長石 ・石英・出色砂粒を含む。 焼成：硬質	n
黑色 色 部 部 出 器 器具 部 部 灰 部 部 部	24 n	口径 天井 器具 高台 器具 高台 器具 灰 部 部 部	16.8cm 13.0cm 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具 器具	半円な底部より内湾して口輪部が立ち上がり。 端部近くで外反し、先は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	乳赤褐色	胎土：微細～0.5mm粒度の長石・石 英・クリinkerを少し含む。 焼成：やや硬質	n

上部 脚部 背部 等部	25	底径 8.8cm 体部は内寄みに立ち上がる。 底部はほぼ平坦。 技法：内部はヨコナダ、底部内面は未調整。外面はマツメ。	乳灰褐色	粘土：1mm位の長石・虫歯モド 微細な金ツモモを含む。 焼成：軟質
土器 蓋	26	口径 15.4cm 底面丸形。体部は内寄して外上方にのび、口縁は端部を斜め上方に乳褐色（内面・外面口縁黒色） つきみ出し丸くおさめる。端部内側に一束の洗擦をめぐらす。 技法：内部ヘラミガキ。 口縁端部及び外面ヨコナダ。	青灰色	粘土：0.5~1mm位の砂粒を少し含む。 焼成：やや硬質
桶	27	口径 11.1cm 底部丸形。 体部は外上方にまっすぐになり、端部は丸くおさめる。 技法：内外端共にヨコナダ。	青灰色	粘土：微細な石英・長石を少し含む。 焼成：硬質
桶 杯	28	口径 14.0cm ほぼ平札な底部から、体温が外上方にまっすぐのび、端部は丸くおさめる。底面部に断面台形の中央が削んだ高台がまっすぐ貼りついている。 高台径 9.9cm 器高 5.1cm 技法：全内面・外面体部口縁ヨコナダ。 外面端部糸切り質。	青灰色	粘土：微細な石英・長石・黒色砂粒を少し含む。 焼成：硬質
土器 器 小皿	29	高台径 10.4cm ほぼ平札な底部より内寄して口縁部が立ち上がる。底部外側の外端より灰白色 り断面四角形の比較的短く凹面を有して内傾する高台を貼りつける。 技法：外面底部の高台より、内部の口縁は未調整。 内面底部の口縁は不定方仕上げ。他のヨコナダ。 底外部糸切り質。	灰白色	粘土：0.5~2mm位の長石その他の砂粒を含む。 焼成：やや硬質
土器 器 小皿	30	口径 10.8cm ほぼ平札な底部から11mm位が内寄みに短く立ちあがり、底曲外反して端部をつまみ上げなくおさめる。 底径 4.3cm 器高 1.5cm 技法：底部内面ハケ口調整。11mm内外面ヨコナダ。 底外部糸切り質。	淡灰褐色	粘土：0.5mm位の石英・長石を少し含む。 焼成：やや硬質
土器 器 小皿	31	口径 10.5cm 11mm部は体部との境で大きく前曲して外方向に外へのび、端部は乳灰褐色 器高 1.3cm 丸くおさめる。 技法：口縁部ヨコナダ、底部、体部は未調整。 底面部はヨコナダの後ハケ口。	乳灰褐色	粘土：0.5~2mm位の長石・砂粒を含む。 焼成：軟質
土器 器 小皿	32	口径 11.3cm 細い底部から体部が浅く内寄みに開き、口縁部は屈曲外反し水平。 技法：2mm位の砂粒数個と微細粒。	乳灰褐色	粘土：2mm位の砂粒数個と微細粒。

上小 脣器			方向にのび、端部を上方に巻きこむ。端部手前で段をとり、内側に沈線を施す。	船法：全内面・外面口縁ヨコナデ。他是未調整。 沈線を施す。	燃成：硬質	を少し含む。
	33	11棒	扁平な唇器である。口輪部と体部の境界が大きく外反し、端部は肥厚させくおさめる。	船法：外面の端部付近から端部にかけては未調整。他是ヨコナデ。 いずれもマツワ。	船付 : 0.2~2mm位の砂粒を含む。 燃成：やや硬質	S D002
土小 脣器 器具	34	11棒	扁平な唇器から口輪が中央に近く立ちあがり端部外反して淡乳褐色端部をつまみあげくおさめる。端部内側に一条の沈線を施す。	船法：内面底部1等、外面口縁ヨコナデ。他是未調整。	船付 : 良好 (微砂粒少し含む)	を含む。
	35	口添	扁平な唇器から口輪部が短く外反ぎみに立ちあがり、端部は上方に淡乳褐色つきみ上げくおさめる。端部内側に一条の沈線を施す。	船法：底部内面、11棒内面ヨコナデ。他是未調整。	船付 : 2mm位の砂粒数個と微細な石英・長石を少し含む。	燃成：やや硬質
	36	口添	扁平な唇器から口輪部が内等ぎみに立く立ちあがり、周曲外反乳灰褐色として端部を巻きこむ(九くおさめる)。端部内側に二条の沈線を施す。	船法：内面底部、口輪部、外面口縁ヨコナデ。他是未調整。	船付 : 淡乳白色・長石を少し含む。	燃成：やや硬質
	37	11棒	丸味のある平らな唇器より、体部は内弯して外上方に開き、前曲外、乳灰褐色反して口輪部が立く立ちあがり、端部は巻き上げくおさめる。内側に一条の沈線を施す。	船法：内面底部、口輪部ヨコナデ。他是未調整。	船付 : 微纏毛石英・長石を少し含む。	燃成：やや硬質
	38	口添 唇器	中央が立ちあがり丸味のか味の丸みある底部から口輪部は強く前曲外反し端部は少しつまみ上げくおさめる。内側に二条の沈線を施す。	船法：外端部未調整。他是ヨコナデ。	船付 : 良好 (微砂粒少し含む)	を含む。
	39	11棒	扁平な唇器より口輪部が圓曲外反して立く立ちあがり、端部をつまみ上げくおさめる。端部内側に二条の沈線を施す。	船法：内面底部、口輪部、外面口縁ヨコナデ。他是未調整。	船付 : 淡乳褐色	燃成：やや硬質
	40	11棒	扁平な唇器から口輪部が短く外反ぎみに立ちあがり、端部をつまみ上げ九くおさめる。端部内側に二条の沈線を施す。	船法：内面底部未調整。他是ヨコナデ。	船付 : 0.5mm位の長石を少し含む。	燃成：やや硬質

土小 瓶 器	41	口径 9.8mm 高さ 10.3mm 形状：瓶部外面部調整。	接法：底部内面、口縁内外面ヨコナデ。他の未調整。 底部はほぼ平坦。上縁部は内側を少し外に傾き、すぐには瓶外反し、端部を巻き上げ丸くおさめる。 技術：瓶部外面部調整。他是ヨコナデ。	乳灰色 乳灰褐色	胎上：石英と赤色砂粒を含む。 胎成：軟質。
	42	口径 10.3mm 高さ 9.2mm 形状：瓶部外面部調整。	接法：内面と口縁外面部ヨコナデ。他の未調整。 底部は丸い。上縁は内側を少し外に傾き、すぐには瓶外反し、端部を巻き上げ丸くおさめる。 技術：内面と口縁外面部ヨコナデ。他の未調整。	乳灰褐色 乳灰褐色	胎土：0.1mm位の石英を含む。 胎成：軟質。
	43	口径 9.2mm 高さ 9.2mm 形状：瓶部外面部調整。	接法：内面と外縁上方向がヨコナデ。外縁下方向がヨコナデ。 底部は丸い。内側を少し外に傾き、上縁部は体部との境で屈曲し水平方向に外へのび端部は丸くおさめる。 技術：内面外面部マツツ。	乳灰褐色 乳灰褐色	胎土：1mm位の長石を含む。 胎成：軟質。
	44	口径 9.3mm 高さ 11.6mm 形状：瓶部外面部から内側をひろがり、上縁部は短く外反し、端部を丸くおさめる。	接法：内面と外縁上方向がヨコナデ。外縁下方向がヨコナデ。 底部を丸くおさめる。端部を丸くおさめる。端部内側に一一条の丸縫を施す。 技術：内面・外縁ヨコナデ。他の未調整。	乳灰褐色 乳灰褐色 乳灰褐色 (内面スス付器のため黒色)	胎土：0.1mm位の石英と砂粒を少し含む。 胎成：軟質。
土 瓶 器 ・ 小 皿	45	口径 9.4mm 高さ 1.9mm 形状：瓶部外面部から内側をひろがり、上縁部は短く外反し、端部を丸くおさめる。	接法：内面と外縁上方向がヨコナデ。外縁下方向がヨコナデ。 底部を丸くおさめる。端部内側に一一条の丸縫を施す。 技術：内面・外縁ヨコナデ。他の未調整。	乳灰褐色 乳灰褐色 乳灰褐色 (内面スス付器のため黒色)	胎土：3mm位の石英1個と微細な石英、長石、砂粒を少し含む。 胎成：軟質。
土 瓶 器 ・ 小 皿	46	口径 9.4mm 高さ 1.9mm 形状：瓶部外面部から内側をひろがり、上縁部は丸くおさめる。	接法：内面と外縁ヨコナデ。他の未調整。	乳灰褐色 乳灰褐色	胎土：微細な石英、長石。その他他の砂粒を含む。 胎成：硬質。
	47	口径 9.2mm 高さ 2.6mm 底径 4.8mm 形状：瓶部外面部マツツ。	接法：瓶部外面部マツツ。他是ヨコナデ。	乳灰褐色 乳灰褐色	胎土：微細な石英、長石。その他他の砂粒を含む。 胎成：硬質。
	48	口径 10.3mm 高さ 2.25mm 形状：瓶部外面部よりやや内側をひろがり、内側をひく。	接法：瓶部外面部調整。他のヨコナデ。	乳灰褐色 (内面は乳赤褐色)	胎土：微細～1mm位のクサリ繊維、黒色砂粒等を含む。 胎成：やや硬質。
	49	口径 10.8mm 高さ 11.6mm 形状：瓶部外面部よりやや内側をひろがり、内側をひく。	接法：瓶部外面部よりやや内側をひろがり、内側をひく。	乳灰褐色	胎土：微細～1mm位のクサリ繊維。

S D002 第 3 層	その他の中粒を少し含む。 焼成：やや硬質
50 口径 11.6cm 底径 6.7cm 器高 2.7cm	底部より内側して口縁が立ち上り、端部は丸くおさめる。口縁部の乳白色 底部近くに横いナダによる段を生じている。底部には板状の付着があり。 技術：外面装飾は未調整。他ヨコナナ。
51 口径 11.5cm 底径 4.4cm 器高 3.0cm	ほぼ平坦な底盤から、内面ぎみに口縁がのびる。 端部は丸くおさめる。 技術：内外面ヨコナナ。
52 口径 11.0cm 底径 4.6cm 器高 2.2cm	平坦な底部よりやや内寄ぎみに口縁部が立ち上る。 端部は丸くおさめる。 技術：全面ヨコナナ。
53 口径 11.3cm 底径 3.2cm 器高	底部はほぼ平坦で、口縁部はまっすぐのびる。 端部は丸くおさめる。 技術：全面ヨコナナ。
54 口径 11.6cm (底部欠損の為)	1縁はごく浅く内寄し、端部近くでわざかに外反する。 端部は丸くおさめる。 技術：内外面ヨコナナ。
55 口径 11.1cm 底部欠損。	底部は外方に向って内寄ぎみにのびる。 端部は丸くおさめる。 技術：全面マツフ。
56 口径 10.8cm 底径 6.6cm 器高	底部欠損。底盤より内寄して1縁が立ち上る。 端部は丸くおさめる。 技術：全面ヨコナナ。
57 口径 10.8cm 底径 6.6cm 器高 2.0cm	底盤はほぼ平坦。口縁部はまっすぐ立ち上がり、外方に向ってのびる。 端部は丸くおさめる。 技術：内面はヨコナナ。外面はマツフ。

	58	口径	10.9cm	底部欠損。口縫部は内弯きみに外上方にのび、端部は外反してつまみ出しおさめる。 技法：外面底部調整。他はヨコナデ。	乳褐色	胎土：良好 焼成：やや硬質	S D002 新 3 磨
上・ 下・ 脣 器 皿	59	口径	11.7cm	底部欠損。口縫部はゆるやかに内弯きみにのび、端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	淡乳褐色	胎土：焼縮～1mm程の石英及びその他の形粒を少しあす。 焼成：硬質	
	60	口径	11.8cm	体部はほぼまっすぐに広がり、端部は丸くおさめる。 技法：ヨコナデ。	淡乳褐色	胎土：良好 焼成：軟質	
	61	口径	12.0cm	底部欠損。底部より内弯気味に口縫が立ち上がる。 端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	乳褐色 (外面内筋分付管)	胎土：良好 焼成：やや硬質	
	62	口径	14.8cm 底径 幅 高さ	平坦な底部から内弯きみにのび、端部は丸くおさめる。 外面崩いナデのため、底部と口縫部の境に段をなす。 技法：外面底部未調整。他はヨコナデ。	乳褐色	胎土：良好 焼成：やや硬質	
十杯 醤油 器	63	口径	14.2cm	底部欠損。口縫部は直角的に立ち上がり、端部は丸くおさめる。 端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	乳白色	胎土：微細な形粒を少し含む。 焼成：硬質	
	64	口径	14.8cm	体部は内弯気味に立ち上がり、端部は丸くおさめる。 口縫部にスガ付管。 技法：全面ヨコナメツ。	乳白色	胎土：0.1mm程の石英、0.5mm程のウンモを含む。 焼成：やや硬質	
	65	口径	13.0cm	底部欠損。底部より内弯して口縫が立ち上がる。 端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	乳褐色	胎土：良好 焼成：やや硬質	
	66	口径	12.6cm	底部、体部内側欠損。体部は内弯きみに外上方にのび、口縫部を肥厚させ、端部は丸くおさめる。 技法：外面共ヨコナデ。	乳灰色	胎土：燒縮な石英・長石・形粒を少しあす。 焼成：やや硬質	
	67	口径	11.6cm	11種は、内弯きみに上にのび外に開く。	乳灰色	胎土：赤色微細粒を含む。	

上部 脚器 杯	68	口径 12.6cm 底径 8.2cm	長部欠損。底部より内弯して口縁部が立ち上り、端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	乳白色（内面鉄分付着）	胎土：良好 焼成：やや硬質
上部 脚器 器	69	口径 12.5cm 底径 8.2cm	平坦な底部よりやや内弯するに伴い縁が立ち上り、端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	乳白色	胎土：0.2mm～0.5mm位の形状を少し含む。 焼成：やや硬質
上部 脚器 杯	70	口径 15.0cm 底径 10.8cm	底部欠損。底部より、ほぼまっすぐ口縁部が立ち上がる。 端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	乳白色	胎土：良好 焼成：やや軟質
上部 脚器 器	71	口径 15.2cm 底径 10.8cm	底部欠損。口縁は、内弯ぎみに外に開きのびる。 端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	乳白色	胎土：赤色砂粒と砂粒を少し含む。 焼成：軟質
上部 脚器 器	72	口径 12.2cm 底径 9.2cm	は半折た底部から口縁が内弯ぎみに外上方にのび、端部付近を厚せ、丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。他是未調整。	乳白色	胎土：微細な石英・長石を少し含む。 焼成：やや硬質
上部 脚器 器	73	口径 13.6cm 底径 9.2cm 器高 2.1cm	平坦な底部から口縁が外方に向って内弯ぎみにのびる。 端部は丸くおさめる。 技法：底部外面は火照焼。他是ヨコナデ。	乳白色	胎土：微細～1mm程までの石英・長石、その他の砂粒を含む。 焼成：硬質
上部 脚器 器	74	口径 13.2cm 底径 9.2cm	体部はやや内弯ぎみに立ちあがり、端部は少し外反し丸くおさめる。 体部外面に3本の沈線がみられる。 技法：内面はマツツ。外面もマツツしているかヨコナデが見られる。	乳白色	胎土：0.1mm位の長石を含むが良好。 焼成：やや軟質
上部 脚器 器	75	口径 12.0cm 底径 8.2cm	体部はやや内弯ぎみにたちあがり、口縁部はやや外反して丸くおさめる。 技法：内外面共マツツしているが、一部ヨコナデがみられる。	乳白色	胎土：微細～0.5mm位の石英を含む。 焼成：軟質
	76	口径 12.6cm	ほぼ平坦な底部から体部がまっすぐ外上方にのび、端部を丸くおさめる。	乳白色	胎土：0.5mm位の石英・長石・砂

土 師 器 部 品 部	77	口径 15.0cm 底径 8.0cm	体部はやや内湾してたらあがり、端部は丸くおさめる。 3分の2から未調整。	(内面淡乳褐色)		粒を少し含む。	焼成：やや硬質
				乳白色	胎土：0.1mmの長石・微細な石英 0.7mmの小石を1コ含む。		
土 師 器 部 品 部	78	口径 14.0cm 高台径 7.5cm 器高 4.4cm	ほぼ平坦底部より、内湾して1階部がたちあがり、端部は丸くおさめる。外面底部の外周に断面台形の高台が下方へ貼り付き平面で接地。	乳褐色	胎土：0.2~1mmの砂粒を少し含む。	焼成：やや硬質	n
土 師 器 部 品 部	79	口径 14.6cm 高台径 7.4cm 器高 3.9cm	ほぼ下盤食底より内湾して1階に至っている。端部は丸くおさめる。外面底部の外周に断面台形の高台が外下方へ少しふらばりぎみに貼りつき平面で接地している。	乳褐色	胎土：良好 焼成：やや軟質	n	n
土 師 器 部 品 部	80	口径 13.5cm 高台径 6.8cm 器高 3.75cm	体部は内湾があり、端部は丸くおさめる。口縁部と全体との間に1本の沈縫が入られる。底部はほぼ平田で断面二角形の高台が張りついている。高台形に3本の沈縫がみられる。	乳白色	胎土：1mm位の長石・石英を含む。 焼成：軟質	n	n
土 師 器 部 品 部	81	口径 13.0cm 高台径 5.6cm 器高 3.6cm	ほぼ平坦な底盤から内湾して口縁にいたり、端部はやや外反して、乳白色である。底盤は内側に断面三角形の高台が貼りついている。	乳白色	胎土：良好 焼成：やや硬質	n	n
土 師 器 部 品 部	82	口径 15.9cm 高台径 7.6cm 器高 3.9cm	ほぼ平坦底部に断面三角形で先端で接地する高台が張りつく。口縁は内湾し、途山あるやかな段を行う。	乳白色	胎土：微細な砂粒を少し含む。 焼成：やや硬質	n	n
土 師 器 部 品 部	83	高台径 7.0cm	底部は平田で外周に断面四角形で先端で接地する高台がはりつくる。口縁は内湾し、途山あるやかな段を行う。	内面乳白色 外而乳白色	胎土：陶質 (1mmの砂粒を数コ含む) 焼成：やや硬質	n	n

土 師 器 ・ 械	84	高台径 8.1cm 底部のみ残存。底部内面はなめらか。 断面長方形の高台を有し、その端部は丸くおさめる。 技法：はりつけ高台ヨコナデ。	乳白色	胎土：微細な砂粒を少し含む。 焼成：やや軟質	S D002 試 3 層
*	85	高台径 6.5cm 底部光存。厚めで平坦な底部より内弯して、口縁部が内側で接着して貼り付いてい る。 技法：外面底部は山型糸切り痕あり。他はヨコナデ。	乳白色	胎土：0.2~1mm位の長石灰色砂 粒等を含む。 焼成：やや硬質	"
土 師 器 ・ 械	86	高台径 8.5cm 高台付近のみ残存。断面長方形の高台が外へふんばりぎみにはりつ いている。 技法：マツヅ。	乳白色	胎土：微細な砂粒を少し含む。 白内面に鉛分付着。 焼成：やや軟質。	"
土 師 器 ・ 械	87	高台径 7.8cm 底部のみ残存。中央がやや低い處から内弯ぎみに体部へのびる。 底部外間に断面高台形の高い高台がふんばりぎみにて貼りついている。 技法：外面底部糸切り痕あり。他はヨコナデ。	淡乳白色	胎土：0.2~1mm位の石英・長石 その他の砂粒を少し含む。 焼成：やや硬質	"
土 師 器 ・ 械	88	高台径 6.8cm 底部はほぼ平坦で断面逆三角形の高台がはりついている。 技法：体部の外側はヨコナデ。底部は米開脚。内面はマツヅ。 はりつけ高台は、はりつけ後ナデ。	乳淡赤褐色	胎土：1mm位の長石と微細な石英 を含む。 焼成：軟質。	"
灰 輪 器 ・ 械	89	口径 10.6cm 体部は内弯し、口縁付近でやや外反する。 技法：全面ヨコナデ。 口縁端部の一部に施釉。	灰白	胎土：微細な長石をわずかに含む 焼成：硬質	"
灰 輪 器 ・ 械	90	口径 13.6cm 口縁はほぼまっすぐ立ちあがり、端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	灰褐色	胎土：微細～2mm程度までの長石 石英・褐色砂粒を含む。	"
灰 輪 器 ・ 械	91	口径 13.5cm 高台径 6.1cm 高 4.5cm 底部はほぼ平らである。 技法：底部外側未削整。その他ヨコナデ。はりつけ高台を有す。	灰白色	胎土：微細～1mm程度。 焼成：硬質。	"
灰 輪 器 ・ 械	92	口径 18.6cm 底部久損。口縁部は外方に向って内弯ぎみにのび、端部は丸くおさ める。	淡灰褐色	胎土：微細～1mm程度の長石・黑 色砂粒を含む。	"

SD002 第3層			
灰 輪 ・ 柄		色砂粒を含む。 焼成：硬質	
灰 輪 ・ 柄	93 口径 11.3cm 高台径 6.0cm 器高 2.65cm	底部はほぼ平らで、断面逆台形の高台がやや外側へふんばった形で 貼りつけてある。体部は内穹気味にたらあがり、1捲部はやや外穹 ぎみに丸くおさめる。 技法：底部、内外面ともヨコナデ。 貼りつけ高台ではりつけ後ナデ。	底土：1mm位の長石を含む。 焼成：硬質
灰 輪 ・ 柄	94 口径 12.6cm 高台径 6.0cm 器高 5.0cm	底部はほぼ平らで、底部から1捲部に内穹ぎみのび口輪端部で少 し外反し、端部は丸くおさめる。断面三角形の高台がほぼ垂直に下 つてはりついている。 技法：口輪部に施釉、全面ヨコナデ。 はりつけ高台、はりつけ後ナデ。	底土：微細～1mmの石英およびそ の他の砂粒を少し含む。 焼成：硬質
灰 輪 ・ 柄	95 口径 16.0cm	口輪部は内穹気味にゆるやかに上がへりび、端部は短く外へひっぱ り丸くおさめる。 技法ヨコナデ。 口輪上方に内外面共に施釉。	底土：乳白灰色 内面は、鉄分付着のため赤褐色 焼成：硬質
灰 輪 ・ 皿	96 口径 12.3cm 高台径 6.2cm 器高 2.5cm	平坦な底部より内穹して1捲が立ち上り、端部は丸い。 外部底部の外周より断面台形の短い高台が内側で接地して外ドカへ 貼りついている。 技法：外面底部に回転糸切り痕あり。他はヨコナデ。	底土：0.2～1mm位の長石、黒色 砂粒を含む。 焼成：やや硬質
灰 輪 ・ 皿	97 高台径 6.3cm	底部のみ残存。扁平な底盤から、内穹ぎみに体部にのびる。 底部外周に断面台形の高台が内側を接地してふんばりぎみに貼りつ いている。 技法：内面・外面高台、体部はヨコナデ。 外面底部に回転糸切り痕あり。	乳白灰色 焼成：やや硬質
灰 輪 ・ 杯	98 11径 13.5cm 高台径 7.3cm 器高 4.45cm	平坦な底盤から内穹ぎみに口唇にいたり、端部は外反して丸くおさ める。底部外周に断面台形の接地面が凹んだ高台が外下方にふんば って貼りついている。 技法：全面ヨコナデ。	底土：微細な石英、長石を少し含 む。 焼成：やや硬質

須 島 器 ・ 杯	99	口径 14.0cm	底部久掛。底部よりまっすぐ口縁部がたち上る。 端部は丸くおさめる。	内面灰褐色 外面暗灰色（自然釉付質）	胎土：微細～0.5mm位の黒色砂粒 等を含む。 焼成：やや硬質	S D002 第 3 层
	100	高台径 8.8cm	底部のみ残存。扁平な底部から内凹きみに体部がびがる。 外面部回転糸切り痕あり。内部はヨコナナド。 技法：全面ヨコナナド。	濃綠色 (紫地深褐色)	胎土：微細な石英、長石を少し含む。 焼成：やや軟質	"
縁 輪 ・ 皿	101	径 7.4cm	平坦な底部より内凹して口縁部が立ち上がる。外面部の外周に断 面台形の高台がややふんぱり無味で接して貼りついている。 内面底部に沈線があぐっている。	暗綠色（紫地一淡灰褐色）	胎土：良好 燒成：やや硬質	"
	102	径 5.8cm	平坦な底部より内凹して口縁部が立ち上がる。外面部の外周に断 面台形の高台がややふんぱり無味で接して貼りついている。 技法：外面部底部に回転糸切り痕あり。他是ヨコナナド。	暗綠色（紫地一乳褐色）	胎土：良好 (0.2~1mm位)の砂粒 を含む) 焼成：やや硬質	"
縁 輪 ・ 蓋	103	蓋部径 11.3cm	頭部に一条の凸部をもつ。体部は内窓しながら丸みをおびる。 外面部で内板し段を有する扁平が平面で接してまっすぐ下へ貼 りついている。	淡乳褐色。施釉部は暗褐色 (紫地・土削開)	胎土：微細を含む。 焼成：軟質	"
	104	口径 22.8cm	口頭部は強く外反し、端部は内側に肥厚させる。端部に外板する凹 面をもつ。 技法：内外面共ヨコナナド。	淡乳褐色	胎土：砂粒を多く含む。 焼成：軟質	"
土 器 ・ 壺	105	口径 21.0cm	施釉部は外面に内板氣味の面をもち、上下に肥厚させる。 技法：マツツ（ヨコナナドであろう）	乳白色	胎土：微細～2mm程度の石英、長 石、その他の砂粒を多く含 む。 焼成：やや軟質	"
	106	口径 25.7cm	高环脚部のみ残存。円筒形の脚柱部から繩に向ってラバ状に開く 技法：外面ヘラケイリ。 内面シボリをヘラケメリで消している。	淡乳褐色（一部赤褐色）	胎土：微細な石英、長石、砂粒を 少し含む。 焼成：やや硬質	"

S D002 第3層			
他の砂粒を含む。			
須 麁 器 皿	れる。 技法：全面ヨコナデ。	焼成：硬質 胎土：微細～3mmの長石、石英等を含む。	
108	瓦片部は中央がやや肥厚して平坦で、山腹部に向けて内湾する部分 も肥厚気味である。つまりはへん平な複室様形を示している。 技法：ヨコナデ。大井部はヘラケズリ。土器の向転方向は右まわり	焼成：硬質 胎土：微細～3mmの長石、石英等を含む。	"
須 麁 器 皿	109 口径 11.5cm 技法：ヨコナデ。	胎土：微細～1mmの砂を含む。 焼成：硬質	"
*	110 口径 13.8cm 技法：全面ヨコナデ。	胎土：微細～0.5mm位の小石を含む。 焼成：硬質	"
須 麁 器 皿	111 口径 15.2cm 底部欠損。 外反気味に口縁部が開き、端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	胎土：微細～0.5mm位の長石、黒色砂粒を含む。 焼成：やや硬質	"
*	112 高台径10.5cm 底部のみ残存。 断面台形の高台の低い高台を有す。 技法：全面ヨコナデ。はりつけ高台。	胎土：微細～2mmの石英、長石、その他の砂粒を含む。	"
須 麁 器 皿	113 高台径 9.2cm 平坦で厚めの底部より内湾して口縁部が立ち上がる。外面底部外周 に断面台形でやや縮めた高台が平面で接地して、ややふんばりぎみ に貼り付いている。 技法：外面底部の高台内側の只接調整。他是ヨコナデ。	胎土：0.2～1mm位の長石、黒色砂粒を含む。 焼成：やや硬質	"
*	114 高台径 8.1cm 面台形の高台が内側で接地して貼り付いている。 技法：外面底部の高台より内側に回輪糸切り張り。 他们是ヨコナデ。	胎土：微細～1mm位の長石、黒色砂粒を含む。 焼成：やや硬質	"
須 麁 器 皿	115 口径 10.0cm 底径 6.0cm 平坦な底部より、ほぼまっすぐ上方へ山腹部が伸びる。 技法：外面底部の只接調整。他是ヨコナデ。	胎土：微細～0.5mm位の長石、黒色砂粒を少し含む。 焼成：やや硬質	"
*	116 口径 11.4cm 比較的早く、平坦な底部より内湾気味に1段に至る。	胎土：良好	"

測定器 杯 土	高台径 6.8cm 器高 2.3cm	高台の内側に段を有する。 技法：外底部に回転糸切り痕あり。他はヨコナナ。	焼成：やや硬質	S D002 第 3 層		
				高台径 4.4cm	高台の内側に段を有する。 技法：ろくろ成形のち回転ナナ型盤のち底部外面のみカンナケズリ 内面に挫織を施す。	焼成：やや硬質
白小 皿 張 模 範 複 製	117 高台径 4.4cm	高台の内側に段を有する。 技法：ろくろ成形のち回転ナナ型盤のち底部外面のみカンナケズリ 内面に挫織を施す。	焼成：やや硬質	117 口径 25.6cm	ゆるやかに内弯し、口沿端部は外傾する面をもち、端部から約 8mm 下に厚目の鋸をもつ。 技法：内外共ヨコナナ。	焼成：軟質
土 胎 質 羽 金	-118 口径 23.2cm	体部は内傾しつつ上方に伸びた部分は短かく直立して、端部は水平 面をもつ、つばの断面は台形をなす。 技法：全面ヨコナナ。	焼成：やや硬質	-119 口径 24.8cm	口縁以下火搾。 端部付近で内弯ぎみにのび、端部は玉筋状に肥厚している。 技法：全面ヨコナナ。	焼成：やや硬質
須 恵 器 ・ 鉢	120 底径 13.2cm	平坦な底部より、体部は外方にまっすぐのびる。 技法：体部外面はヨコナナ。 内面底部は未調校。	焼成：やや硬質	121 底径 9.3cm	利鑿、磨滅、著しい。	焼成：軟
土 胎 器 ・ 盤	122 口 径 9.4cm	利鑿、磨滅、著しい。	焼成：軟	123 口 径 9.4cm	利鑿、磨滅、著しい。	焼成：軟

土 器 類								
*	125	口径 12.0cm ヨコナデ調整				焼成：軟		
*	126	L1 径12.0cm 刃彫、肩彫、審しい。				焼成軟		
*	127	口径 11.2cm ヨコナデ調整				焼成：軟		
*	128	口径 12.6cm ヨコナデ調整				焼成：軟		
*	129	口径 13.5cm ヨコナデ調整				焼成：軟		
*	130	口径 13.6cm ヨコナデ調整				焼成：軟		
*	131	口径 13.0cm ヨコナデ調整				焼成：軟		
*	132	口径 13.4cm ゆるやかなアゴをもち、外反した後、丸くおさめる。 技法：全面マツツ。				胎土：1mm大的の長石、砂粒を含む 焼成：やや軟質		
*	133	口径 12.2cm ヨコナデ調整				焼成：軟		
						漆系ベージュ色		

134	口径 14.3mm	ヨコナナデ調整	淡褐色	焼成：軟	
135	口径 15.0mm	ヨコナナデ調整	淡褐色	焼成：軟	
136	口径 13.0mm	ヨコナナデ調整	淡褐色	焼成：軟	
137	口径 13.1mm	ヨコナナデ調整	淡褐色	焼成：軟	
138	口径 17.2mm	ヨコナナデ調整	ベージュ色	焼成：軟	
139	口径 16.0mm	磨耗者らしい。	赤色、一部黒色	焼成：軟	
140	口径 14.6mm	口縁部のみ残存。 口縁は外反屈曲してアゴをもつて立ち上り、縁部は水平な面を有し。 構へつまみ出し、丸くおさめる。	淡灰褐色	胎土：0.2~2mm位の長石、石英、 黒色砂粒等を含む。 焼成：やや焼黄	
141	口径 14.4mm	口縁部のみ残存。 口縁は外反屈曲してアゴをもつて立ち上り、縁部は水平な面を有し。 構へつまみ出し、丸くおさめる。	乳褐色（外面全体にスス付着）	胎土：0.2~1.5mm位の長石、石英、 黒色砂粒等を含む。 焼成：やや焼黄	

上 部 岩 藻	142	口径 13.0mm 外に開き、端部は少しつまみ出している。 技法：外面と内面口縁端部はヨコナデ。 他内面はマツツ。	13.0mm 体部から「く」の字形に腹部が外反し、ゆるやかな腹をもち、やや外に開き、端部は少しつまみ出している。 技法：外面と内面口縁端部はヨコナデ。 他内面はマツツ。	淡褐色。外面スヌ付着	胎土：0.5~2mm位の長石、石英、その他砂粒を多く含む。 焼成：やや硬質	S D003 第 2 层
	143	口径 14.6mm 磨滅著しい。	14.6mm 磨滅著しい。	淡褐色	胎土：0.1~2mm程度の長石、灰 色砂粒を含む。 焼成：軟	"
中 部 岩 藻	144	口径 11.0mm マツツ著しい。	11.0mm マツツ著しい。	淡褐色	胎土：0.1~2mm程度の長石、灰 色砂粒を含む。 焼成：軟	"
	145	口径 11.1cm 技法：外面・端ヨコナデ。以外マツツ。	11cm 11cmは頭部で外反し、頭をもって外方にせち上がり、端部は丸くおさめる。 技法：外面・端ヨコナデ。以外マツツ。	乳白色	胎土：0.5mm位の長石、石英、金 属性母を含む。 焼成：やや硬質	"
下 部 岩 藻	146	口径 15.0mm 技法：内面ヨコナデ。	15.0mm 15.0mmは頭部より、やや内掌氣味に斜め上方に伸び、端部で内方 に向て肥厚する。 技法：内面ヨコナデ。他はマツツ。	淡乳褐色	胎土：0.1~2mm程度の赤茶色砂 粒を含む。 焼成：硬質	"
	147	口径 12.8mm 技法：全面ヨコナデ。	12.8mm やや内弯ぎみで口縁端部内側は肥厚し、丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。	深黒褐色	胎土：0.5~1mm位の長石、石英、 黑色砂粒などを多く含む。 他、3mm位の小石粒を1:2 合。	"
下 部 岩 藻	148	口径 14.2cm ヨコナデ調整	14.2cm ヨコナデ調整	褐色	胎土：0.5~1mm位の長石、石英、 黑色砂粒などを多く含む。 他、3mm位の小石粒を1:2 合。	"
	149	口径 15.0mm 内掌氣味をもびた体部から腹部が「く」の字状に屈曲し、11頭部はやや 内掌氣味に斜め上方に伸び、端部で内方向に肥厚する。 技法：口縁部内外面ヨコナデ。体部外端マツテハケ。体部外面マツツ。	15.0mm 九味をもびた体部から腹部が「く」の字状に屈曲し、11頭部はやや 内掌氣味に斜め上方に伸び、端部で内方向に肥厚する。 技法：口縁部内外面ヨコナデ。体部外端マツテハケ。体部外面マツツ。	乳淡褐色	胎土：微細~3mm大の長石、砂粒 他、3mm位の小石粒を1:2 合。	"
下 部 岩 藻	150	口径 19.6mm 体部より外方へ屈曲した口縁は、わざかに内弯し、その長さは一定	19.6mm 体部より外方へ屈曲した口縁は、わざかに内弯し、その長さは一定	断面中央部底灰色	胎土：微細~3mm大の長石、砂粒 他、3mm位の小石粒を1:2 合。	"

土 師 器 部 品	黒 色 上 部 部 品	151 高台径 7.8cm	形態=底盤から口縫へ丸みをもつて上へ伸びる。土踏の厚さは僅い。内面 黑色 断面三角形の高台は底盤が開けへんばつて貼付している。 手法=内面ヘラミガキ、外面（口縫）ナヂ、底盤未調整	体部は内弯し、口縫部はやや外反する。 技法：全面マツツ。	内面乳白色。外面淡乳褐色。 胎成：やや軟質	S D003 第 2 层
土 師 器 部 品	土 師 器 部 品 ・葉	152	手法は内弯し、口縫部はやや外反する。 技法：全面マツツが激しい。 調整不明。	内面 黑色 外面 淡黃灰色	胎成：硬質	S D002 第 3 层
土 師 器 部 品	土 師 器 部 品 ・葉	153	底部中央に穿孔がある。 磨耗著しく調性不明。	赤褐色	胎成：軟質	S D003 第 2 层
土 師 器 部 品	土 師 器 部 品 ・葉 ・底 部	154	はぼ平折爪のみのある底盤から体部が外に大きく開いて伸びる。 技法マツツ（内面にハケメの跡が少し残る）	淡引銀色 底部黑色	胎成：軟質	S D003 第 2 层
土 師 器 部 品	土 師 器 部 品 ・葉	155 口徑 13.4cm	「縫部は斜め上方にまっすぐ伸びり、端部は内方に肥厚し、丸く おさめる。 技法：内面口縫部ヨコナヂ。 端部と外側はマツツ。	淡米褐色	胎成：硬質	S D003 第 2 层
土 師 器 部 品	土 師 器 部 品 ・葉	156 口徑 18.0cm	「縫部は「く」の字状に屈曲し、口縫部は外方に開いて伸びる。 端部は内方に少し肥厚している。 技法：全面マツツ。	淡米褐色	胎成：硬質	S D003 第 2 层
土 師 器 部 品	土 師 器 部 品 ・葉	157 口徑 17.5cm	「縫部は直線的に外方に伸びる、端部はやや尖っている。 技法：外外面ナヂ調整	乳紫色	胎成：軟質	S D003 第 2 层
土 師 器 部 品	土 師 器 部 品 ・葉	158 口徑 18.2cm	「縫部はやや外反し、端部は丸くおさめる。 技法：全面マツツ。	乳紫色	胎成：やや軟質	S D003 第 2 层

土 師 器 ・ 鑄 型	159	口径 13.0cm	脚部は「く」の字状に外へ開き、端部は丸くおさめる。 技法：外面上部はヨコナデ。その他マツ。著しい。	乳白色	内面灰褐色、外面茶褐色	粘土：良 焼成：良	粘土：1 mm以下の灰石、石英、0.1 ～2 mmの灰(3)、黒色、黄 茶色砂粒を含む。	S D003 第2層
	160	口径 16.8cm	口縁部は外方に伸びび、端部は上方に肥厚し、外端面は丸い。 技法：全体外面にハケ日あり。他ヨコナデ。	※	※	※	※	※
小型 器具台	161	口径 10.0cm	底部は少し斜め上方に開いて伸びび、口縁から端部で脚曲外反し、端 部は丸くおさめる。 技法：口縁部はヨコナデ。他マツ。	※	淡茶褐色	※	粘土：微細な砂粒を少しある。	※
	162	口径 10.4cm	口縁部が「く」の字状に外に開き、端部は丸くおさめる。 技法：全面ヨコナデ。(一部マツ)	※	乳茶色	※	粘土：精良 焼成：硬質	※
*	163	口径 8.6cm	口縁は外反し、端部はやや尖っている。 技法＝全面ナデ、口縁部に黒色物付着	※	赤褐色	※	粘土：精良 焼成：硬質	※
	164	口径 9.2cm	杯底は口縁に向けて腰くなりながら、ほぼ直線的に広がり、端部で 上方にやや傾曲してつまり上げておさめる。端部もほぼ直線的に広 がり、關注部三方に円形のスカッシュを有す。 技法：杯部及び脚部外面ヨコナデ。脚部内面は未調節。	※	※	※	粘土：微細～1 mm以下の灰色砂粒を 含む。 焼成：やや軟質	※
土器 ・ 陶器 小 型	165	※	※	※	※	※	粘土：良好 焼成：軟質	※
	166	※	※	※	※	※	粘土：0.5～2 mmの石英、長石を 多く含む。	※
	167	※	※	※	※	※	焼成：やや軟質 焼成：やや硬質	※

土解器 ・堀	168	底径 4.9cm	ほぼ平坦な底部からやや外反気味に体部が斜め上方に伸びる。 挿法：マメツ	黒灰褐色	焼成：軟質	胎土：0.5~1.5mmの長石、石英 くさり礫など砂粒を多く含む。 fr.
土膏 解器 ・部	169	口径 19.1cm	側部底部欠損。杯部は底部から内弯気味にのび、口輪部は外上方に まっすぐ開き、端部は丸くおさめる。 挿法：内面ナミガキ。外面ナミメのハケ目。	乳褐色	焼成：軟質	胎土：1~3mmの石英、長石、 砂粒を多く含む。 焼成：やや軟質
土膏 解器 ・部	170	底径 10.0cm	調整等、底底剥離、芦しく不明	淡褐色	胎土：良好	胎土：非常に悪い 焼成：軟質
	171	口径 16.2cm	体部は内弯し、上部は斜め上方にまっすぐ伸びる。 下法上：マメツ。	赤褐色	焼成：軟質	胎土：微細な長石、石英を含む。 fr.
	172		消耗著しく調整不明	淡褐色	焼成：軟質	
工具 解器 ・部	173		杯底部側刃に強い縁を有する 消耗著しく調整不明	褐色	焼成：軟質	
土膏 解器 ・部	174		消耗著しく調整不明	褐色	胎土：良好	
	175		消耗著しく調整不明	褐色	焼成：軟	内外とも褐色と灰色のまだら ベージュと灰色。(内) 灰色
	176					

				焼成：普通	
十高 師木 器開 部	177	脚部、ツバ状に開く。 手法：マツツサシく不明	明淡赤褐色	胎土：0.5~2mm位の長石、くさり砂、褐色砂粒等含む。	
上 飾 器 部 合	178	磨耗著しく調査不明	赤褐色	胎土：良好 焼成：軟質	
	179	磨耗著しく調査不明	橙色	胎土：0.5~2mm位の長石、黒色砂粒、クサリ砂等を多く含む。 焼成：やや軟質	
十脚 脚部 部	180	底部径 9.9cm 田字状の脚部より、ラッパ状に輪郭が開き、端部は内傾して、先は丸くおさめる。 手法上：マツツサシく不明	乳褐色	胎土：1~3mmの小石粒を含む。	
十脚 脚 部 高部	181	11径 14.6cm 下方向に下ったちラッパ状にひらく、輪郭にハケ付があり。 手法上：マツツサシく不明	赤い緑色	胎土：1~3mmの小石粒を含む。	
	182	底径 10.8cm 輪郭はラッパ状に開く 磨耗著しく調査不明	淡褐色	胎土：良好 焼成：軟質	
十脚 脚 部 高部	183	輪郭のみ大きく「ハ」字状に開く。輪郭より端部に下る。端部平面 は垂直な平面をもつ。 手法上：マツツサシく	赤褐色	胎土：1mm前後の石英、長石を多く含む。 焼成：軟質	
土 飾 器 部 合	184	軽微、調査著しく調査不明	明赤褐色	胎土：非常に精練し剥離のため不明。 焼成：軟質	
	185	11径 12.8cm 磨耗著しく調査不明	ベージュ色	胎土：良好	

S D002 第2番			
上 部	186 口径 3.2cm 底部外面中央に突起を有する。	明褐色 底部表面調査不明	焼成：軟
土壌 砂杯 器・部 品	187 路面調査して調整しない	赤褐色（外は薄い）	焼成：良
土壌 砂杯 器・部 品	188 路面調査して調整不明	薄い赤褐色	胎土：良好 焼成：良好
土壌 砂杯 器・部 品	189 口径 12.8cm 口縁部はぼぼまつすぐにして外に開き、端部は外下方 に少し肥厚させ丸ねじめる。 手法上：内面と口縁端部はマツ。他の外面はヨコナデ。	淡乳灰色	胎土：形栓を多く含む。 焼成：やや軟質
土壌 砂杯 器・部 品	190 口径 15.0cm 口縁は断面二角形の頭をもち（内面が少し外反）には手底に長く立、明乳褐色 ち上がる。 手法上：全体にマツ。	淡乳褐色	胎土：1~3mmの砂粒（小石）を 多く含む。 焼成：軟質
"	191 口径 14.0cm 口縁はやや立ち、下端部に細い棱を伴つ。 ヨコナデ調査	淡褐色	胎土：良好 焼成：軟
"	192 口径 21.6cm 口縁端部は折出げられ、垂下する ヨコナデ調査	薄紫色	焼成：軟
"	193 口径 17.0cm 口縁部のみ残存。口縁部は外反に朱に伸び、端部は外端面をもって淡乳褐色 ねじめる。 手法上：マツ精しい	淡乳褐色	胎土：0.5~1mm級の長石やくさ り繊維を含む。 焼成：やや軟質
"	194 口径 15.6cm 口縁は屈曲外反し、あごをもって立ち上り、二重口縁状になる。	内乳白色	胎土：1mm程度の長石、0.5~2

土 脣 器 皿			内面乳茶褐色 手法上：全面マツ。				
土 脣 器 皿	195	口径 16.6cm	底盤は平底でし縁は外上方にまっすぐに伸び、端部は丸く收める。 淡茶色 手法上：全面マツ。		焼成：軟質 胎土：0.5mmの長石を含む。 "。		
土 脣 器 皿	196	口径21.8cm	口縁部外面にヘラ指沈線を有する。 乳茶色 手法上：マツ。		焼成：軟質 胎土：良好 "。		
土 脣 器 皿・口縁	197		二重口縁の壺部の一部、1重脚折部の外側は凸筋状に突出している。 手法上：マツ。	内面淡赤青褐色 外面乳黄色 手法上：マツ。	胎土：0.5~1.5mmの長石、石英など砂粒を含む。 焼成：軟質 "。		
土 脣 器 皿	198	口径44.4cm	二重口縁の壺部の一部、口縁脚折部の外側は凸筋状に突出している。 手法上：マツ。	色調茶褐色 手法上：マツ。	胎土：1mmの白色石の粒を含む S D003 第3層 焼成：軟		
土 脣 器 皿	199	口径 14.9cm	屈曲外反し、あごをもって立ち上がり、端部はまきみ出し、丸く取 まる。 手法上：マツ。	乳灰茶色 手法上：マツ。	胎土：0.5~2.0mmの石英、長石、その他の中粒を多く含む。 焼成：やや硬質 "。		
土 脣 器 皿	200	口径 11.6cm	ヨコナナメ調整 手法上：マツ。	淡乳褐色 手法上：マツ。	胎土：良好 "。		

		S D003 第3層	
土器 器 蓋	201	口径：14.8cm 口縁部は外方に折曲げられ、つまみ出されている。 ヨコナテ調整、一部スヌ付着	外面：乳褐色、一部黒色 内面：乳褐色
"	202	口径：14.4cm 口縁部は外方に折曲げられ、つまみ出されている。 消耗著しく調整不明。	外面：黒色 赤褐色
土器 器 蓋	203	口径：10.0cm 口縁部は内方に肥厚している。 消耗著しく調整不明。	赤褐色
土器 器 蓋	204	口径：15.6cm 口縁部は内方にやや肥厚している。 消耗著しく調整不明。	乳褐色
"	205	口径：12.9cm 消耗著しく調整不明	乳褐色
"	206	口径：15.0cm 口縁部は丸く取める。 手法上：全面ヨコナデ。内外面一帯にスヌ付着	灰褐色 (内外面、一部にスヌ付着)
"	207	口径：15.0cm 口縁部は丸く取れる。 手法上：全面ヨコナデ。	乳赤褐色
高杯	208	ヨコナテ調整 杯底削缺邊に擦痕を有する。	乳褐色
高杯	209	口径：23.7cm 木不部、底部は内側氣味に外上方に伸び、14像部との境い日に頭をもじ。口縁部はやや外反して、さらによくおさめる。 手法上：内外共にヨコナデ。	乳褐色 船上：0.5～2mm位の石英長石、砂粒を含む。 燒成：やや軟質

	210	磨耗著しい	乳褐色	焼成軟		
高杯	211	磨耗著しい。	乳褐色	粘土：良好 焼成：軟	S D003 第2層	
器台	212 口径：9.2cm	磨耗著しい。	乳褐色	粘土：良好 焼成：軟	S D003 第3層	
脚台	213	ヨコナデ調整	赤橙色	粘土：良好 焼成：軟		
高杯	214	脚柱部はほぼ直線的で、上方ほど脚厚している。 手法上：脚内部は未調整・他はマツツ。	淡乳褐色	粘土：良好 焼成：やや軟質		
器台	215 口径：10.2cm	口縁は外に聞いてまっすぐ上方に伸びる。 端部はやとがり臭味に全くおきめる。 手法上：内外面ヘラミガキ、	焼色	粘土：精良 焼成：硬質		
脚台	216 口径：9.4cm	磨耗著しい。	淡乳褐色	粘土：良好 焼成：軟		
高杯	217 11種：10.4cm	磨耗著しい。	乳褐色	粘土：良好 (外面一部、黒斑)		
器台	218 口径：9cm	正面底部から内萼筒味に体部が伸び、口縁手前で最大幅となり口 輪は、短く直立して丸くおさめる。外面に粘土模様の 1mm立のクサリ跡を含む。	乳褐色 (外面一部、黒斑)	粘土：3～5mm立の砂粒状物と、 1mm立のクサリ跡を含む。		

小型 鉢		手法上：全内面、外面、1辺体部はヨコナデらしいが、マメツ、外 面底部は未調節らしいがマメツ。		S D003 第3層
		219	乳褐色 杯部の底部と脚部のみ残存。 脚部が底面下方へ開き、三方にスカシを空つ。 手法上：脚部内面にしづり日あり、底はヨコナデ。	
高 杯	220	底部外面中央凹のある平らな底部より体部がまっすぐ外上方へ伸びる 手法上：内面：タモノ葉状ハケ目 外面（底部）：未調整 (体部)：斜めハケ	淡灰褐色 (底部、暗灰色)	胎土：微細～0.5mm立の長石、ク サリ繊 黒色砂粒を含む。 焼成：やや硬質
變 形	221	1径：8.6cm 成形時の指圧痕跡。 消耗著しい。	乳褐色	胎土：良好 焼成：良
變 形	222	口径：9.7cm ヨコナデ調整	淡赤橙色	焼成：軟
高 杯		223 口径：13.3cm ヨコナデ調整	乳褐色	S D003 第1層
變 形		224 口径：13.1cm ヨコナデ調整	乳褐色～黒色 一部スス付着	S D003 第1層
變 形		225 1径：13.9cm ヨコナデ調整	乳褐色	S D003 第1層
變 形		226 1径：15.4cm ヨコナデ調整	乳褐色	S D003 第1層

"	227	口径：14.2cm " 228 口径：17.8cm	乳白色 " 脣毛著しく調整不明	焼成：軟 " 烧成：軟	"
土 拂 器 高 杯	229 " 230	脚部は下方に向かって少しづつ開いてゆき、塔やラバ状に開く。 手法上：脚内部未調整、しほりがある。他マメツ。	乳淡褐色 " 脣毛著しい	胎土：0.5~1mm位のくさり繊維を 多く含む。 焼成：やや吸音 " 烧成：軟	"
須 恵 器 杯	231	底部のみ残存。体部は、直線的に伸びる。断面台形の高台が張りつ いている。 手法上：内外端共ヨコナデ。張りつけ高台で張り付け後ナゾ底部は 未調整。	淡青灰褐色 " 脣毛著しい	胎土：微細な長石を含むが良好。 焼成：硬質 " 烧成：軟	"
"	232 口径：21.8cm	ヨコナデ調整	灰色	焼成：良好	"
鑿	233 口径：14.4cm " 234 口径：10.8cm	脚部著しい " 脣毛著しい	赤橙色 " 脣毛著しい	焼成：軟 " 烧成：軟	"
土 拂 器 蓋	235 口径：14.1cm	脚部は内側で外上方へ伸び脚部はやや尖り気味におさめる。 手法上：ロクロ成形。	淡褐色 " 脣毛著しい	胎土：稍良 焼成：硬質	"
染 付 瓶					

土 器 皿	236	口径：19.0cm 内方向	ほぼ平幅な底盤から内寄気味に体部が続き、やや外反した後端部は明赤茶褐色 外面深乳褐色	胎土：ほとんど精良 焼成：不良	S D003 第1層
	237	口径：20.0cm 浅く平べったい底部より口縁部は外上方にのびる端部はくぼんだ面を有す もつ。	手法：マツツ背しく不明	胎土：精良 焼成：不良	S D003 第4層
盤	238	口径：14.0cm 体部より屈曲外反し、アゴをもって口縁が立ち上り、端部は水平な面を有す 面を横へつまみ出し、先は丸くおさめる。 手法上：ヨコナデ。	手法：屈曲著しく不明	胎土：0.5~1mm位の砂粒を含む 焼成：やや硬質	胎土：0.5~1.5mm位の長石黒色砂 粒等を含む。 n
	239	口径：13.0cm 体部より屈曲外反して口縁が立ち上り、端部は凹面を有し、外側は水平な面をなす。先は横へつまみ出ししない。 手法上：ヨコナデ。	手法：屈曲著しく不明	胎土：0.5~1.5mm位の長石黒色砂 粒等を含む。 n	胎土：0.5~1mm位の砂粒を含む 焼成：やや硬質
v	240	口径：15.2cm 体部より屈曲外反して、アゴをもって口縁が立ち上る。端部はゆるい凹面を有する。水平な面を横へつまみ出し、先は丸くおさめる。 手法上：ヨコナデ。	手法：屈曲著しく不明	胎土：0.5~1mm位の砂粒を含む 焼成：やや硬質	胎土：0.5~1mm位の石英、長石、 その他の砂粒を多く含む。 n
	241	口径：15.1cm 口縁部のみ幾筋。Z字状に弯曲し、端部に外側する平面をもち、端部は丸くおさめる。 手法上：マツツ背しく不明	手法：屈曲著しく不明	胎土：0.5~1mm位の石英、長石、 その他の砂粒を多く含む。 n	胎土：0.5~2mm位の石英、長石、 砂粒を含む。 n
v	242	口径：13.6cm 端部は屈曲外反し、口縁部は弧をもつて短く外上方に伸びる先は丸くおさめる。 手法上：全内面・外面口縁部ヨコナデ。外面全体ハケ目。	手法：屈曲著しく不明	胎土：0.5~2mm位の石英、長石、 その他の砂粒を多く含む。 n	胎土：0.5~2mm位の石英、長石、 その他の砂粒を多く含む。 n
	243	口径：12.4cm 端部は屈曲外反し、口縁部はアゴをもつて短く外上方に伸び、端部はやや下向きに曲がる。 手法上：全内面・外面口縁部ヨコナデ。外面全体ハケ目。	手法：屈曲著しく不明	胎土：0.5~1mm位の長石、石英、 その他の砂粒を含む。	胎土：0.2~1mm位の長石、石英、 その他の砂粒を含む。
v	244	口径：15.2cm 口縁のみ残存。 体部より屈曲外反して口縁が立ち上り、端部は凹面を有する水平な面を有する。	手法：屈曲著しく不明	胎土：0.2~1mm位の長石、石英、 その他の砂粒を含む。	胎土：0.2~1mm位の長石、石英、 その他の砂粒を含む。

n			雨で傷へつまみ出ます。先は丸い。 手法上：全面ヨコナデ。	漆黒色	胎土：0.5~1mm位の石英、長石、 2~3mm位の石英を含む。 焼成：やや吸湿	焼成：やや吸湿
n	245	口径：11.2cm 手法上：ヨコナデ。	腹部で屈曲外反し、ゆるやかにアゴを形成した後方に開きながら伸び、端部は横につまみ出している。 手法上：ヨコナデ。	明淡乳褐色	胎土：0.5~2mm位の石英、石英、 その他砂粒を多く含む。 焼成：やや吸湿	焼成：やや吸湿
n	246	口径：13.2cm 手法上：ヨコナデ。	口縫部のみ現存。 口縫部は屈曲外反し、アゴを形成し、少し外に開きながら、斜め上方に伸び端部は上面に平面をもち、やや上方につまみ出している。 手法上：ヨコナデ。	漆黒色	胎土：微細～1mmの長石、石英、 葉母、砂粒等を多く含む。 焼成：やや吸湿	焼成：やや吸湿
n	247	口径：15.6cm 手法上：全面ヨコナデ	体部より急激に外反した口縫は、アゴを形成し、端部で外方に屈曲し、ややつまみ出したようにおきめる。 手法上：全面ヨコナデ。	漆黒色	胎土中心部暗灰色、表面は淡褐色！ 粗面、粗し、外側スズ付着のため焼成：やや吸湿	焼成：やや吸湿
n	248	口径：14.2cm 手法上：全面ヨコナデ。	口縫部のみ現存。体部より屈曲外反して口縫が立ち上り、端部はゆるやかな平面を備へつまみ出している。先は丸い。 手法上：全面ヨコナデ。	漆黒色	胎土：0.5mm~2mm位の長石、石英、 黑色砂粒等を含む。 焼成：やや吸湿	焼成：やや吸湿
n	249	口径：15.2cm 手法上：全面ヨコナデ。	口縫部より屈曲外反し、ゆるく「アゴ」をもつて口縫が立ち上る。 手法上：全面ヨコナデ。	漆黒色	胎土：0.5~1mmの長石その他の砂粒を含む。 焼成：やや吸湿	焼成：やや吸湿
n	250	口径：13.7cm 手法上：全面ヨコナデ。	外反気味の口縫は、アゴを形成したのち、外方へつまみ出したようにおさめる。端部は丸い。 手法上：全面ヨコナデ。	漆黒色	胎土：0.5~1mm位の長石、石英、 などが多く含む。 焼成：やや吸湿	焼成：やや吸湿
n	251	口径：13.0cm 手法上：全面ヨコナデ。	口縫部から断続付近のみ残存。 体部より、「く」の字状に屈曲外反し、「アゴ」を形成し口縫が開いている。端部は凹する水平な面で、外へつまみ出している。 手法上：全面ヨコナデ。	漆黒色	胎土一淡乳褐色（スズ付着） 外側一暗紅色（一部深紅褐色） 内面一暗紅色（一部深紅褐色）	胎土：0.5~1.5mm位の長石、石英等を含む。
n	252	口径：13.6cm 手法上：全面ハケ目。他はヨコナデ。	口縫部のみ現存。体部より屈曲外反して、「アゴ」をもつて口縫が立ち上る。端部は外側する平面向有し、横へつまみ出している。 手法上：体部前面ハケ目。他はヨコナデ。	漆黒色	胎土：0.5~1.5mm位の長石、石英等を含む。	焼成：やや吸湿

土 器 器	233	口径：14.4cm 頸部は「く」の字状に斜面外反し、「アゴ」を形成し、斜め上方に伸び 端部は水平につまり出している。 手法上：ヨコナナ。	淡灰褐色 外面スス付着	胎土：0.5～1mm位の長石、石英、 その他、砂粒を含む。 焼成：硬質	S D003 第4層
"	234	口径：15.4cm 口縁部は屈曲外反し「アゴ」を形成し、まっすぐ立ち上る。端部は外 方へ、つまり出し、口央がやや凹んだ水平面をもつ。 手法上：マメツ置しく不可。	淡乳灰色	胎土：0.5～2mm位の石英、長石、 黒色砂粒などを含む。 焼成：やや軟質	"
"	235	口径14.0cm 頸部から「く」の字状に屈曲外反し、ゆるやかな「アゴ」、淡褐色 を形成し、端部を少しつきみ出している。 口径：14.0cm	淡褐色	胎土：0.5～1mm位の長石、石英 を含む。 焼成：硬質	"
"	236	口径：22.7cm 口縁部付近のみ残存。 口縁部は斜め上方に伸び、端部は内方向に肥厚しておさまる。 手法上：外面ヨコナナ。他はマメツ。	明赤黄色	胎土：0.5～3mm位の長石、石英 を多く含む。 焼成：やや軟質	"
"	237	口径：15.8cm 断面は「く」の字状に屈曲外反して、アゴを形成し、ほぼ直角に真上 に伸び、端部は上に水平な面を持ち、真横につきみ出している。 手法上：内面・外面ヨコナナ。外面端部より下にハケ目。	淡乳白色	胎土：0.5～1.5mm位の長石、石英、 など鉄性を多く含む。 焼成：やや軟質	"
"	238	口径：12.0cm 頸部は屈曲外反し、アゴを形成した後、やや外に開き矢味に伸び、 端部は僅につまり出している。外面ヨコナナ開然 手法上：内面頸部以降マメツ。又は調整で粘土のつぶらが残る。	乳淡灰褐色 (外面スス付着)	胎土：0.5～1mm位の長石、石英、 黒色砂粒などを含む。 焼成：硬質	"
"	239	口径：15.0cm 口縁のみ残存。 体部より外反曲して口縁が立ち上がり、端部はゆるい凹面を有す る水平な面を構へつまり出している。先は丸くおさまる。 手法上：全面ヨコナナ。	淡灰褐色 (外面スス付着)	胎土：0.5～1mm位の長石、石英、 黒色砂粒などを含む。 焼成：やや軟質	"
"	240	口径：14.7cm 頸部は屈曲し、やや外反し、口縁は屈曲したアゴをもって立ちあが り、端部は大きくなりつまみ出し巻き込み出たため水平面を有する 手法上：全外面ヨコナナ。 内面体部未調査。	淡乳灰褐色	胎土：0.5～1mm位の長石、石英、 黒色砂粒を含む。 焼成：やや軟質	"
"	241	口径：16.4cm 頸部は「く」の字状に屈曲外反して、アゴを形成し、やや外上方に 淡褐色	淡褐色	胎土：0.5～1.5mmの長石、石英な どを含む。	"

				S D03 第4層
"	282	口径：15.2cm 手法上・内面ヨコナデ。 面不調和。	口縫は外反し、端部を上につまみあげるため丸味を おびた外側の面を有する。	手縫合 (外面一部ススキ付着) 船土：1~2mm位の石英、及石、 その他の砂粒を含む。 焼成：やや硬質
"	283	口径：19.3cm	口縫はゆるやかに内凹し、端部は内側を肥厚させ、丸くおさめる。 手法上：マメリ。	乳褐色 外面一部ススキ付着のため暗灰色 船土：0.1~2mm程度の長石、石英、 紫色、灰白色砂粒を含む。 焼成：軟質
"	284	口径：13.0cm	口縫部はゆるやかに内凹し、端部は内方へ肥厚している。 手法上：マメリ。	乳褐色 外面一部ススキ付着のため暗灰色 船土：0.1~2mm程度の長石、石英、 カサリ繊などと含む。 焼成：軟質
"	285	口径：13.0cm	口縫のみ残存。 内窓気味に口縫が立ち上がり、端部は丸くおさめる。 手法上：ヨコナデ。	乳白色 外面灰褐色。内面暗灰色。 船土：0.2~1mm位の長石、石英、 などを含む。 焼成：やや硬質
"	286	口径：11.0cm	口縫は外上方へ斜面的にのびる。端部は丸い。 手法上：ヨコナデ。	乳白色 (鉢分付着ではらに淡赤褐色) 外面灰褐色。内面暗灰色。 船土：0.2~1mm人の長石、雲母、 砂粒などを含む。 焼成：良好
"	287	口径：15.3cm	体縫より急に上方に削出した口縫は、先細りとなり、端部はややつ まみ上げたようにおさめる。	乳白色 (鉢分付着ではらに淡赤褐色) 外面灰褐色。内面暗灰色。 船土：0.5mm位の砂粒を含む。 焼成：軟質
"	288	口径：14.4cm	口縫部は鉢の上方に伸び端部は内方向に肥厚しておさめる。 手法上：ヨコナデ。	乳褐色 (外面ススキ付着のため黒色) 船土：0.5mm位の砂粒を含む。 焼成：軟質
"	289	口径：14.8cm	劉語は「く」の字状に屈曲し、口縫部は内側気味に上に伸びる。 端部は内方に少し肥厚し、丸くおさめる。 手法上・内面ヨコナデ。他のヨコナデ。	乳褐色 船土：0.5mm位の砂粒を含む。 焼成：軟質

*	270	口径：9.6cm 口縫部はまっすぐ外に開き、端部内側は、肥厚し、丸くおさめる。 手法上：ヨコナデ。	内部暗灰紫色 外面スス付着のため黒色	胎土：0.1~2mm位の砂粒を含む。
上 筋 骨 管 管	271	口径：12.8cm 内方に肥厚しておさめる。 手法上：ヨコナデ。	口縫部は輪郭からやや外に開き、斜め上方にまっすぐ伸びる端部で 胎体は褐色	胎土：0.5~1mm位の石英、黒色 砂粒を含む。 焼成：硬質
*	272	口径：15.4cm 口縫部は斜め外上方に開いて伸び、端部で内方向に肥厚し、丸くおさめる。 手法上：マツブ。	口縫部はまっすぐ外に開き、端部内側は肥厚し、上方に面をもつ。 胎体は褐色	胎土：0.5~1mm位の長石、石英 くさり砂を多く含む。 焼成：やや硬質
*	273	口径：11.8cm 口縫部はまっすぐ外に開き、端部内側は肥厚し、上方に面をもつ。 手法上：金面ヨコナデ。	胎体は褐色	胎土：良好 焼成：やや軟質
*	274	口径：11.6cm 端部は「く」の字状に屈曲し、口縫部は外に開いて、ゆるやかにアーチを形成し、端部は壇につまり出している。 口縫部内面に、一条の深い沈帯をもつ。 手法上：ヨコナデ。	口縫部は「く」の字状に屈曲し、口縫部は外に開いて、ゆるやかにアーチを形成し、端部は壇につまり出している。 口縫部内面に、一条の深い沈帯をもつ。 胎体は褐色	胎土：0.5~1mm位の長石、石英 くさり砂を含む。 焼成：硬質
*	275	口径：11.4cm 口縫部は外上方に伸び、端部は丸くおさめる。 手法上：ハケメ	胎体は外上方に伸び、端部は丸くおさめる。 手法上：ハケメ	胎土：良 焼成：良
*	276	口径：9.6cm ゆるやかに内少し、端部外側に、一条の沈帯らしき名残りがみられる。 手法上：マツブ苦しい	口縫部は外上方へまっすぐ開く。 胎体は丸くおさめる。 手法上：外側体部はマツブ。 他ヨコナデ	胎土：0.5~1mm位の長石、石英、 くさり砂を含む 程度の黒色、茶褐色砂を含む。 焼成：硬質
*	277	口径：10.6cm 体部より口縫が外上方へまっすぐ開く。 端部は丸くおさめる。 手法上：マツブ苦しい	胎土：良 焼成：良	胎土：0.5~1mm位の長石、石英、 くさり砂を含む 程度の黒色、茶褐色砂を含む。 焼成：硬質
*	278	口径：11.8cm 口縫部がやや尖っている。 手法上：内外側ともにナデ調整。	胎体は直線上に外上方に伸びる。	胎土：良 焼成：良
*	279	口径：11.0cm 口縫部は、外反して直線的に伸びる。 手法上：マツブ	明赤褐色	胎土：1.5mm位のくさり砂と4mm 位の長石、0.5~1mm位の長石、 石英を含む 焼成：軟質

*	280	口径：9.6cm 手法上：全面ヨコナデ	体部よりまっすぐ外上方へ口縁が傾く。 端部は丸くおさめる。	白灰褐色	胎土：0.1~2mm位の長石、黒色 砂粒などを含む 焼成：やや硬質
*	281	口径：12.8cm 手法上：全面ヨコナデ	口縁は傾め、内萼乳突に立ち上がり、端部は丸くおさめる。	乳褐色 (新山巖灰色)	胎土：0.5~1.5mm位の長石、黒色 砂粒などを含む 焼成：やや硬質
*	282	口径：14.2cm 手法上：内面ナデ調整 外面未調整	口縁はやや外反しながら上方にのびている。	内面と断面一暗茶色 外面一薄茶色	胎土：良好 焼成：良 焼成：やや硬質
*	283	口径：15.7cm 手法上：内外共ハケメ	口縁は少し内萼乳突に外に開き、端部はほぼ垂直に短く立ち上げる。 外面スヌのため黒色 内面 淡灰色	外面 口縫端部以下黑色 他 淡褐色	胎土：0.1mmほどの石英と微細粒 を少し含む 焼成：やや硬質
*	284	口径：11.6cm 手法上：マメリツ	輪郭は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外に開いて伸びる。 端部はやや尖り乳突におさめる。	外面 黑色 内面 乳褐色	胎土：0.5~1.5mmの長石、石英、 黑色砂粒など多くの砂粒を含む 焼成：硬質
*	285	口径：13.7cm 底端齊しく不明		外面 黑色 内面 乳褐色	胎土：良好 焼成：軟質
*	286	口径：15cm 手法上：口縫部上部のみヨコナデ、下部のみタテハケ 内面マメリツ	口縫部は外上方にまっすぐ伸び、端部は丸くおさめる。 手法上：口縫部上部のみヨコナデ、下部のみタテハケ 内面マメリツ	明灰白色	胎土：0.5mm位の石英、長石、黒 色砂粒を多く含む 3mm位の砂粒を含む 焼成：やや軟質
*	287	口径：16.6cm 内外共ヨコナデ		濃薄茶色	胎土：良好 焼成：軟質
*	288	口径：16.1cm 手法上：内面口縫部ヨコナデ 外面、内面颈部ヨコナデ	輪郭は「く」の字状に屈曲し、11環は外上方にまっすぐ開き、端部 はやや圓厚させて、丸くおさめる。 手法上：内面口縫部ヨコナデ 外面、内面颈部ヨコナデ	淡乳灰褐色(外面スヌ付着)	胎土：0.5~1mm位の石英、長石 を少し含む 焼成：やや硬質

土 角 類	289	口径：13.5mm 奥部は「く」の字状に屈曲し、口縁部はやや外反する。 端部は丸くおさめる。 手法上：内面全体ハテケズリ・口縁部内面ヨコハケ後、ヨコナダ。 外面ナメハケメ。	外面 淡茶褐色 内面 淡褐色	胎土：0.5~1.5mmの長石、石英など砂粒を多く含む。 焼成：やや硬質	S D003 第4層
	290	口径：16.2mm 頭部から内面気味にU線は伸び、端部内側は肥厚し、丸くおさめるハケメ。 手法上：全面ヨコナダ（一部マツ）	乳白色	胎土：0.1~1mm程度の長石、0.1~2mm程度の灰褐色砂粒、黒色砂粒を含む。 焼成：灰質	
漆	291	口径：14.1cm 口輪は大きく外反する。端部は、外傾する凹面をもつ 手法上：全面マツ。	乳灰色	胎土：1mm程の砂粒を少し含む。 焼成：やや硬質	
	292	口径：18.6mm 体部より外反した口縁は、端部で上方ににつまみ上げたようにおさまる。 手法上：外面及び端部内面ヨコナダ・内面マツ。 293 口径：14.6mm 外反して口縁が立ち上がり、端部は丸くおさめる。 手法上：全面ヨコナダ。	外面 淡乳灰色 内面 淡乳褐色	胎土：微細～2mmの長石、石英など砂粒を含む。 焼成：やや軟質	
漆	294	口径：17.4cm ヨコナダ調整	暗灰色	胎土：0.2~1mm位の長石、黑色砂粒、くさり砂などを含む。 焼成：やや硬質	
	295	口径：16.8mm U線は内弯し、外上方に伸びる。端部は丸くおさめる。 手法上：内面ヨコナダ・外面端部附近は、ヨコ方向のヘラミガキ 他はチテ方向のヘラミガキ。	淡赤黄色	胎土：1mm前後の長石、石英、虫形砂粒を含む。 焼成：軟質	
漆	296	口径： 4.0mm 底部は上げ窓で、少し内弯して体部が最もく。 手法上：底部外面はヨコナダ・側はマツ。	乳白色	胎土：0.5~3mmの長石、0.5~2mmの長石を多く含む。 焼成：やや硬質	

脚 台	297	底径： 6.4cm 鞘部は「八」の字状に開き、端部は内傾する面を持つ。 手法上：マツメ。	明淡茶褐色	胎土：0.5~2mm位の長石、石英、 黒色砂粒を多く含む。 焼成：軟質	S D003 第4層
	298	底径： 7.2cm 鞘部は「八」の字状に開く。 手法上：ナデ調整	薄乳白色	胎土：赤と白の砂粒含有。 焼成：軟質	*
蠻 虫	298	底径： 4.6cm 底部中央に孕卵が見える。 脚端部著しく調整不明	内面 黑色 外面 乳白色	胎土：良 焼成：軟質	*
	300	杯部の底部のみ残存。 手法などより直後の：口縁部が伸びる。 手法上：ヨコナデ。	乳白色	胎土：良好 焼成：軟質	*
土尚 脚杯 筋	301	裾部より下は外へ大きく開き、端部は丸くおさめる。 手法上：全面ヨコナデ	灰褐色	胎土：0.2~1mm位の長石、くさ り繊、黒色砂粒などを含む 焼成：やや硬質	*
	302	底径： 9.6cm 脣部は「八」の字状に開く 手法上：全面ヨコナデ	内面 淡灰色 外面 橙色	胎土：精 焼成：硬質	*
布留 器	303	脚部より下は口縁部に縮窄が開き、端部は丸くおさめる。 手法上：内面、脚部、絞り目あり・施部、内面斜めハケメ。 外面ヨコナデ。	淡灰褐色 (内面やや赤味をおびている)	胎土：良好 焼成：やや硬質	*
	304	底径：10.8cm 鞘部は「八」の字状に拡く ヨコナデ調整	暗褐色	胎土：良好 焼成：軟質	*
布留 器	305	11.1径：12.9cm 体部は内側して外上方に伸び、頭部でゆるく「く」の字状に屈曲し 口縁は更に内弯気味に広がり、端部手前で、段を取り丸くおさめ る。 手法上：ヨコナデ	乳褐色	胎土：良好 焼成：やや軟質	*

土器 器皿 杯	306	口径：16.6cm 底径：11.5cm 高さ：10.5cm	内側した体部から外方へ屈曲した口縁は、明確なアゴを形成した後、外反して端部は丸くおさめる。 手法上：ヨコナデ。	乳褐色 (内側上半分は褐色)	胎土：微細な長石を少し含む。 焼成：やや灰質	S D003 第4層
	* 307	口径：20cm 高さ：15.5cm	体部は斜め外上方に開いて伸びる。端部はやや尖り気味におさめる。 手法上：ヨコナデ・外側一部にハケメ跡あり。	淡乳褐色	胎土：0.5mm位の微細な砂粒を含む。 焼成：やや灰質	*
口 縁 杯	* 308	口径：15.6cm 底径：11.5cm 高さ：10.5cm	外側にアゴ状の形をもち、外反しつつ端部へと続く。 端部は丸くおさめる。 手法上：ヨコナデ	淡乳白色 (外面鉛付付着)	胎土：微細な砂粒を含む。 焼成：良好	*
	* 309	口径：15.6cm 底径：11.5cm 高さ：10.5cm	ヨコナデ調整	赤橙色の上に黒色がかかっている。	胎土：良好 焼成：軟質	*
高 杯	* 310	口径：15.6cm 底径：11.5cm 高さ：10.5cm	体部、脚部欠損、底部のみ残存。 平指な底盤より内掌して体部へ至る。 外面底部中央へこみあり。 手法上：全面マジツ。	乳赤褐色	胎土：0.2~2mm位の長石、石英、 黒色砂粒などを含む。 焼成：灰質	*
	* 311	底径：15.8cm 高さ：10.5cm	脚部は下端で大きくながり、脚部との境に縫をつくる ヨコナデ調整	赤褐色	胎土：1mm位の白色砂粒を含む。 焼成：灰質	*
高 杯	* 312	底径：13.1cm 高さ：10.5cm	「八」字状に開く脚部。端部は丸くおさめる。 手法上：内面はヨコナデ・外側はマジツ。	暗茶褐色	胎土：2mm前後の黒色砂粒、2mm 位の長石を含む。 焼成：硬質	*
	* 313	口径：7.2cm 底径：5.8cm 高さ：10.5cm	底部はほぼ平坦で、体部は鼓形を呈し、最大径は中段より上にある。 口縁は短めで、外上方へまっすぐ伸び、先は丸くおさめる。 手法上：内面の底部から体部にかけて不定方向のナデ。 頭部は未調整・他はヨコナデ。	暗褐色（断面、灰色）	胎土：0.2~0.5mm位の長石、石英、 黒色砂粒などを含む。 焼成：やや硬質	*

*	314	口径：13.6cm 頭部からやや外反気味に立ち上がり、ゆるやかなアゴを形成し、斜 め上方に伸び、端部は少し横につまみ出している。 手法上：マツメ。	頭部より外反屈曲して「アゴ」を形成してまっすぐに立ち上がる。 端部は外方に肥厚している。 手法上：マツメ着い	淡黃白色 胎土：0.5~1mm位の長石、石英 など砂粒を含む。 焼成：やや軟質	胎土：0.5~1mm位の長石、石英、長石、黑 色砂粒を多く含む。 焼成：やや軟質	S D 004 第1層
*	315	口径：9.2cm 腹部は「く」の字状に屈曲し、「V様部は外反して直線的に伸びる。 端部は光っている。 手法上：マツメ着い	腹部は「く」の字状に屈曲し、「V様部は外反して直線的に伸びる。 端部は光っている。 手法上：マツメ着い	乳白色（一部青灰色） 胎土：1~2mm位の長石、長石砂 粒を多く含む。 焼成：やや軟質	胎土：0.5~1mm位の長石、石英と1 mm位の褐色砂粒を多く含む 胎土：1~2mm位の長石、長石砂 粒を多く含む。 焼成：やや軟質	"
*	316	口径：14.3cm 腹部から内弯気味に体筋が続き、そのまま上方に伸び、端部は丸く おさめる。 手法上：ロウド彫形。	腹部から内弯気味に体筋が続き、そのまま上方に伸び、端部は丸く おさめる。 手法上：ロウド彫形。	乳白色 胎土：構造、焼質、良好 胎土：構造、焼質、良好 胎土：構造、焼質、良好	胎土：構造、焼質、良好 胎土：構造、焼質、良好 胎土：構造、焼質、良好	"
平 底 器 物	317	口径：10cm 上部：21.1cm 腹部屈曲外反し、アゴをもち、「口輪は斜く、内弯気味に立ち上がり 端部は上方につまみ出される。やや凹んだ内側する筋を有する。 手法上：内面口輪、外面口輪等部はヨコナメ。 他はマツメ。外面11cm下半に斜めの刻突列点文を施す。	上部：21.1cm 腹部屈曲外反し、アゴをもち、「口輪は斜く、内弯気味に立ち上がり 端部は上方につまみ出される。やや凹んだ内側する筋を有する。 手法上：内面口輪、外面口輪等部はヨコナメ。 他はマツメ。外面11cm下半に斜めの刻突列点文を施す。	白灰色 胎土：微細な長石、黒色砂粒を少 し含む。 焼成：良好	胎土：微細な長石、黒色砂粒を少 し含む。 焼成：良好	"
底 盤 ・ 脚 ・ 脚	318	口径：14.1cm 外方角に口輪部分が伸び、腹部でやや外反し丸くおさめる。 手法上：ヨコナメ 後 内外面 施袖	厚みのある底盤より内弯気味に体筋が焼く。 底部外周に断面台形の窓台がはりつく。 手法上：内面施袖、外面ヨコナメ。	淡乳褐色 胎土：構造、焼質、良好	胎土：構造、焼質、良好	"
須 巣 器 ・ 木	319	口径：14.1cm 外方角に口輪部分が伸び、腹部でやや外反し丸くおさめる。 手法上：ヨコナメ 後 内外面 施袖	厚みのある底盤より内弯気味に体筋が焼く。 底部外周に断面台形の窓台がはりつく。 手法上：内面施袖、外面ヨコナメ。	淡乳褐色 胎土：構造、焼質、良好	胎土：構造、焼質、良好	"
*	320	厚みのある底盤より内弯気味に体筋が焼く。 底部外周に断面台形の窓台がはりつく。 手法上：内面施袖、外面ヨコナメ。	胎土：構造、焼質、良好	胎土：構造、焼質、良好	胎土：構造、焼質、良好	"
柄	321	底盤は丸く平らでハの字の高台を付し、凹狀のくぼみをもつ。 手法上：ミズビキ成形。	胎土：構造、焼質、良好	胎土：構造、焼質、良好	胎土：構造、焼質、良好	"
黒 色 陶	322	口径：14.2cm 上外方に伸び、腹部内面に沈線をもつ。 手法上：内面施袖木調紋、他ナメ調整。 はりつけ高台。	内面 黑色 外面 灰色	胎土：良 焼成：良	胎土：良 焼成：良	S P 002 (S B 004)

土 鍋 器	323	口径：14cm 底高：10.6cm	外上方に伸びた後、外反し、端部は上へまみ上げられている。 底部は浅く平ら。 手法上：底部未調整・端部未調整・他ナナテ調整	明黄色	胎七：良 焼成：良	S P002 (S B004)
	324	口径：10cm 底高：6.1cm	外上方に伸びた後、端部は上へまみ上げられている。 底部は浅くて平ら。 手法上：底部未調整・内面及び口縁外面ナナテ調整	白色	胎七：良 焼成：良	S P002 (S B004)
土 鍋 器 上 筋	325	口径：15cm 底高：7.5cm	外上方に伸びた後、端部は上へまみ上げられている。 手法上：ナナテ。	体外部 明黄色 口縁部、体内部 淡黒色	胎七：良 焼成：良	S P003 (S B004)
	326	口径：15.4cm 底高：6.15cm	端部内面に沈線、端部は強いナナテにより外反する。 手法上：内面及び口縁端部外面ナナテ調整・口縁外面に指圧痕あり。 手法上：高台	内面と外面部の口縁部と断面は薄灰 色。外面部下端は薄い灰色。 外面部下端は薄い灰色。	胎七：良 焼成：不良	S P003 (S B004)
土 鍋 器 皿	327	口径：15.0cm 底高：6.15cm	端部が強いナナテにより外反している。高台は外方にふんばっている。 手法上：内面と口縁端部外面ナナテ調整。	内面と外面部下端は薄い灰色 外面部下端は薄い灰色。	胎七：良 焼成：良	S P007 (S B004)
	328	口径：15.0cm 底高：7.5cm	外上方に伸びた後、端部は丸い。口縁外部に強いナナテにより段が出来ている。 底部は浅く平ら。 手法上：口縁部外面及び内面一段ナナテ調整・他未調整。	暗橙色	胎七：良 焼成：良好	S P007 (S B004)
土 鍋 器 皿	329	口径：10.5cm 底高：1.75cm	外上方に伸びた後、矧く外反し、端部は丸い。 手法上：内面及び口縁部外面ナナテ調整・他未調整。	淡灰色	胎七：良 焼成：良	S P005 (S B004)
	330	口径：10.2cm 底高：1.5cm	外上方に伸びた後、外反し、端部は上へまみ上げられている。 底部は浅くて平ら。 手法上：底部未調整・他ナナテ調整	淡橙色	胎七：良 焼成：良	S P005 (S B004)
土 鍋 器 杯	331		底部に高い「八」の字の高台を付す。 手法上：はりつけ高台、クロ成形。	明黄色	胎七：良 焼成：良	S P004 (S B004)

土 師 器 ・ 美	332	口径：13.8mm 手法上：マツツ	喉部は屈曲外反し、アゴを形成した後、斜め外上方に伸び端部は横。淡乳黄色につまみ出している。	胎土：0.5~1mm位の長石、石英、その他多くの砂粒を含む。 2mm位の石英1コ含む。 焼成：灰質	S P006 (第2トレ ンチ)
+ 土 師 器 ・ 血	333	口径：14.4cm 手法上：マツツ	口縁部は屈曲外反し、アゴを形成し、やや斜め上方に伸びる。 端部はやや下方につまみ出されている。	胎土：0.5~1mm位の長石、石英、その他砂粒を多く含む。 燃成：やや灰質	S P006 (第2トレ ンチ)
土 師 器 ・ 血	334	口径：9cm 手法上：マツツ	ほぼ平坦な底盤よりやや内湾気味にU形部が焼き、一度外反した後淡乳白色端部は斜め上に少しづつみ出されている。	胎土：0.5~1mm位の長石、石英 を少し含む。 焼成：灰質	S P006 (S B005)
土 師 器 ・ 血	335		喉部は下方に向かって開いて伸びる。 手法上：マツツ。	胎土：0.5~1mm位のくさり糠を含む。 焼成：灰質	S D001 (第2トレ ンチ)
土 師 器 ・ 目	336	口径：8.8mm 手法上：マツツ	体部はゆるやかに内弯し、口縁部はやや外反し、端部は丸くおさめ乳白色 る。	胎土：微細な黒色砂粒を含む。	S P006 (S B005)
+ 天 日 桜	337	口径：14.0mm 手法上：マツツ。	口縁部はゆるく内弯し、端部は丸くおさめる。 口縁内側に一条の次線。	胎土：1mm位の石英を含む。 焼成：やや灰質	S P006 (S B005)
渡 佐 良 系 桜	338	高台径：7.3 cm 手法上：マツツ。	中央が円んだ感部外周に断面二角形の高台削り出される。 手法上：内面厚く、輪削されている。 外面部回転ナデ	胎土：微細な石英、長石を少し含む。 焼成：灰質	S D007 (第1トレ ンチ)
土 師 器 ・ 美	339		平盤で厚めの底盤より内弯してU形部に至る、外面部の外周に断面台形の高台がまっすぐ下削り出される 手法上：ロクロ成形。	胎土：良好 焼成：灰質	S K001 (第1トレ ンチ)
土 師 器 ・ 美	340	口径：12.8mm 手法上：マツツ。	U形は外反気味にのび、アゴをもって、上方につまみ出し端部は上方に平面をもつ。	胎土：微細な長石、2mm位の石英 を含む。 焼成：灰質	

土 飾 器 類	341	口径：13.8mm 手法上：全内面、外面部口縁ヨコナデ、外面部体部ハケ口。	脚部は屈曲外反し、口縁部はアゴをもって立ち上り、端部は外側に つまみ出たため丸味をわびた水平な面を有し、先は細い。 手法上：内面、外面部口縁ヨコナデ、外面部体部ハケ口。	淡乳灰褐色	胎土：0.5～1mm位の石英、長石 を少しあむ。 焼成：やや硬質	
*	342	口径：12.8mm 手法上：マツツ。	口縁は内凹味で端部は外傾した面をもつ。 手法上：マツツ。	乳褐色	胎土：良好 焼成：やや軟質	
*	343	口径：15.0mm 手法上：体内部未調整、外面マツツ（上方に指仔痕）。 口縁ヨコナデ。	内凹味の体部から急激に外反した口縁は「アゴ」を形成した後さ らに外反して外方につまみ出したようにおさめる。 手法上：体内部未調整、外面マツツ（上方に指仔痕）。	淡乳褐色 口縁部外側は鉛分付着のため一部 茶褐色	胎土：微細～1mm位の石英、長石 その他の砂粒を多く含む。 S D 004 第2層 n	
*	344	口径：15.4mm 手法上：内面口縁ヨコナデ。外面体部ハケ口らしいがマツツのため、 不鮮明。	脚部は屈曲外反し、口縁は「アゴ」をもって短く立ち上り、端部は 外側に強くつまみ出すため、水平な面を有し、丸くおさめる。 手法上：内面口縁ヨコナデ。外面体部ハケ口らしいがマツツのため、 不鮮明。	淡乳褐色（外面はスス付着）	胎土：0.5～1mm位の石英、長石 砂粒を少し含む。 焼成：やや硬質	
*	345	口径：12.4mm 手法上：内外と体部外側マツツ。 口縁外ヨコナデ。	口縁部端部で短く屈曲外反し、「アゴ」をもって立ち上り、再び屈曲 外反端部上方にはほぼ垂直に凹面をもつ。 手法上：内外と体部外側マツツ。 口縁外ヨコナデ。	乳灰色	胎土：砂粒を多く含む。 焼成：やや硬質	n
*	346	口径：11.0mm 手法上：全面ヨコナデ。	口縁が「く」字に屈曲外反して「アゴ」を形成して外方へまっすぐ 開く。 端部は内傾して外方へつまみ出している。	淡青白色	胎土：0.5～2mm位の黒色砂 粒、石英、長石を多く含む。 焼成：やや軟質	n
*	347	口径：13.3mm 手法上：全面ヨコナデ。	口縁部のみ突起。口縁は屈曲外反し、「アゴ」を形成して立ち上り、 横へつまみ出し、端部は丸くおさめる。	乳褐色	胎土：微細～1mm位の石英、長石 その他の砂粒を多く含む。 焼成：やや硬質	n
*	348	口径：12.8mm 手法上：マツツ。	脚部が「く」字状に屈曲外反し、ゆるやかな「アゴ」を形成しやや外 に開き気味に伸び、端部はやや下方に向かってつまみ出されている。 手法上：マツツ。	淡褐色	胎土：0.5～2mm位の長石、石英 その他の砂粒を多く含む。 焼成：やや軟質	n

土器 器 類	349	口径：12.7cm 手法上：マメリツ。	山縁部に「アゴ」をもち外反して端部はつまみ出したようにおさめる。 手法上：マメリツ。	淡乳褐色	胎土：微細～2mmの砂粒を多く含む。 焼成：やや軟質	S D004 第2屏
*	350	口径：14.2cm 手法上：ヨコナヂ。	体部より屈曲外反し、ゆるく「アゴ」を形成し口縁が立ち上がる。 端部は丸くおさめる。 手法上：ヨコナヂ。	乳褐色	胎土：0.2～1mm位の長石、石英 黒色砂粒を含む。 焼成：やや硬質	*
*	351	口径：13.6cm 手法上：ヨコナヂ。	口縁部は屈曲外反し、少し尖り氣味のアゴを形成し、斜め上方に伸び び端部は上に平面をもってほんの少しつまみ出されている。 端部はほぼ垂直な上面をもつ。 手法上：ヨコナヂ。	淡褐色	胎土：0.5～1.5mm位の長石、石英 英その他の砂粒を多く含む。 焼成：硬質	*
*	352	口径：12.8cm 手法上：マメリツ。	口縁は彎部で屈曲外反し、軽くアゴをもち上方につまみ出す。 端部は彎部で平面をもつ。 手法上：マメリツ。	淡白灰色	胎土：砂粒を多く含む。 焼成：やや硬質	*
*	353	口径：12.8cm 手法上：ヨコナヂ。	体部より屈曲外反して口縁が立ち上り、端部は内傾する面を有し、 少しつまみ出し、先は丸い。 手法上：外側底部は横ハケ。他はヨコナヂ。	乳褐色	胎土：0.5～2mm位の長石・石英 クリヤ陳・黒色砂粒等を含む。 焼成：やや硬質	*
*	354	口径：15.8cm 手法上：マメリツ。	彎部は「く」の字状に屈曲外反し、ゆるやかなアゴを形成し、斜め上方に伸びた後、端部で横につまみ出されている。 手法上：マメリツ。	淡乳褐色	胎土：0.5～1mm位の長石、石英 その他の砂粒を多く含む。 焼成：やや硬質	*
*	355	口径：15.8cm 手法上：	アゴを形成した後、外方へ屈曲し、上端に凹面を有する。 端部は丸くおさめる。	淡乳褐色	胎土：微細～3mm位の長石、白色 砂粒を含む。 焼成：やや軟質	*
*	356	口径：15.2cm 手法上：内外両共にヨコナヂ。	端部は屈曲外反し、口縁はアゴをもって斜く立ち上がり、端部は外側につまみ出されため、ほぼ水平なやや凹んだ面を有し丸くおさめる。 手法上：内外両共にヨコナヂ。	淡乳褐色	胎土：1～2mm位の石英、長石、 砂粒を多く含む。 焼成：やや軟質	*
*	357	口径：16.2cm 手法上：ヨコナヂ。	口縁は彎部で屈曲外反し、アゴをもって少し外に立ち上がり、端部は内傾する面をもち、外につまみ出す。 手法上：ヨコナヂ。	淡灰色	胎土：砂粒を多く含む。 焼成：硬質	*

土器 器 類 ・ 型	口径： 高さ： cm	口縁は、アゴ部で少し外反し、外面に肥厚、端部は外上方に短くつまみ出す。 手法上：マメツ。	淡乳灰色	粘土：砂粒を少し含む。 焼成：やや灰質	S D004 第2号
"	359 口径：11.8cm	口縁は内弯弧形に屈曲外反する。 端部は水平凹面向上面にもち、外につまみ出す。 手法上：マメツ。	淡乳灰色、一部鉄分付着のため黒褐色。	粘土：0.1～1.5mm位の長石、黑褐色粒、灰白色粒を含む。 焼成：硬質	"
"	360 口径：14.8cm	動物は丸く開き、口縁部は外反角度に立ち上がる。 手法上：マメツ。	淡乳黄色	粘土：0.5～3mm前後の石英、長石を多く含む。 焼成：やや灰質	"
"	361 口径：11.8cm	口縁が「く」字に屈曲外反して、ゆるやかに「アゴ」を形成し、端部を強く外方に引き出し、外側する面をなす。 手法上：マメツ。	淡乳白色	船上：0.5～1mm前後の長石、石英を多く含む。 焼成：やや灰質	"
"	362 口径：14.4cm	口縁部は強くS字状に屈曲外反し、端部に内傾する面をもち、外につまみ出しよくおさめる。 手法上：内面マメツ。外面ヨコナデ。	淡乳灰色	粘土：砂粒を多く含む。 焼成：軟質	"
"	363 口径：10.3cm	口縁は彎部で外反しにのり、アゴをもって上方につまみ出し、端部は外方に開きめる。 手法上：マメツ。	外面：明乳褐色 内面：灰褐色	粘土：砂粒を多く含む。 焼成：やや灰質	"
"	364 口径：16.7cm	屈曲外反し、アゴをもって外へ開き気味に立ちあがり、端部は外方へわざかにつまみ出す。 手法上：マメツ。	乳白褐色	粘土：0.5～2mm程度の砂粒を多く含む。 焼成：やや灰質	"
"	365 口径：18.0cm	口縁は彎部で強く外反し、少しアゴをもち多方に広がる立ち上がりをもつ。端部は外方に短くおさめる。 手法上：マメツ。	淡乳灰色	粘土：砂粒を多く含む。 焼成：やや灰質	"
"	366 口径：15.8cm	口縁部は屈曲外反し、「アゴ」をもち立ち上がる。端部は外方へつまみ出し、上部に水平面をもつ。 手法上：ヨコナデ。	暗灰褐色	粘土：0.5～2mmくらいの石英、長石を多く含む。2mm位の金粉母を含む。 焼成：やや軟質	"

土 器 類	367	口径：14.2cm 手法上：ヨコナード。	喉部は「く」の字状に屈曲外反し、アゴを形成し、斜め外上方に伸び喉部は外下方につまみ出される。	淡褐色	粘土：0.5～2mm位の長石、石英 その他の砂粒を多く含む。 焼成：やや硬質	S D004 第2層
	368	口径：13.9cm 手法上：マツメ。	喉部までS字に外反屈曲し、喉部は凹面をもちら外方へつまみ出す。	乳白色	粘土：0.5～1.5mmの砂粒を多く含む。 焼成：やや硬質	"
	369	口径：16.4cm 手法上：マツメ。	喉部で強く屈曲外反し、短く外側に立ち上がり、喉部は上に凹面をもち、外につまみ出す。	乳白色	粘土：砂粒を多く含む。 焼成：軟質	"
	370	口径：16.8cm 手法上：ヨコナード。	口縁は屈曲外反しながら喉部に半る。喉部にならかに内傾する面をもち丸くおきまる。	淡乳白色	粘土：砂粒を含む。 焼成：やや軟質	"
	371	口径：14.7cm 手法上：内面マツメ。	口縁は喉部で屈曲外反し、アゴを少しも外に開く。喉部はほぼ水平に外につまみ出す。	淡所褐色	粘土：0.1mm程の石英と砂粒を含む。 Ug. 焼成：やや硬質	"
	372	口径14cm 手法上：ナデ磨形。	口縁部は外弯弧形に外方にのびた後、真中あたりで水平に短かくひらき更に上方にもつ。…条の沈縫をもつ。	乳白色	粘土：1～3mmの小石粒を含む。 焼成：良	"
	373	口径：15.4cm 手法上：全面マツメ。	口縁部にアゴを形成した後、外反して外へつまみ出したようにおさめる。	淡乳白色、外面・節スス付着のため、濃黒褐色。	粘土：微細～1mm位の長石・砂粒を多く含む。 焼成：やや軟質	"
	374	口径：16.9cm 手法上：外面ヨコナード、内面マツメ。	口縁は内弯弧形に屈曲外反する。…ぐに上にむかひアゴをもつて立ち上がりは短かく、外方につまみ出す。喉部は少し内傾する凹面をもち丸くおきまる。	暗灰色	粘土：砂粒を含む。 焼成：やや硬質	"

土 筋 骨 盤	375	丸鍼を含びた平底より直後の体部が伸びる。 手法上：全面ヨコナデ。	外面：暗灰色 内面：深灰褐色	胎土：0.2～1.5mm位の長石・珪英・灰黑色砂粒等を含む。 焼成：やや硬質	S D004 第2層
	376	とがった丸い底部から体部が内弯気味に聞く。 手法上：内面：クモの巣状のハケ目。 外面：ナデ調整。	深乳褐色（内面スズ付着）	胎土：クサリ繊・微砂粒を少し含む。 焼成：軟質	"
上 筋 骨 盤	377	口径：9.2cm 内弯した体部から、口縁部はやや外反し端部を上方につまみ出し、少し尖り氣味におさめる。 手法上：マメツ。	淡乳褐色	胎土：0.5～1mm位の長石・黑色砂粒など多くの砂粒を含む。 焼成：やや軟質	"
	378	口径：11.3cm 甯部はゆるい「く」の字状に屈曲し、口縁部はやや内弯して直上し端部は丸味をおびた内傾する面を有する。 手法上：内外面共にヨコナデ。	乳褐色	胎土：0.5～1mm位の石英・長石を少し含む。 焼成：軟質	"
下 筋 骨 盤	379	口径：13cm 口縁部はやや内弯気味に外に向いて伸び、端部は内方向に肥厚し、やや尖り氣味におさめる。 手法上：マメツ。	淡乳褐色	胎土：0.5～1mm位の長石・石英等多くの砂粒を含む。 焼成：やや硬質	"
	380	口径：11.7cm 体部は内弯し、口縁で外反してゆるやかなアゴを形成し、端部は外方に肥厚している。 手法上：外面上：ハケ目。	乳白色 外側ススのため、まだらに黒色。	胎土：微細～2mm位の砂粒を含む。 焼成：やや軟質	"
	381	口径：10.2cm 体部から外方に屈曲した口縁はわざかに内弯し、端部は丸くおさめる。 手法上：マメツ。	淡灰白色。表面スズ付着のため淡乳褐色。	胎土：微細～1.5mm位の長石・砂粒を含む。 焼成：やや軟質	"
	382	口径：14.1cm 口縁はやや内弯気味で、口縁端部内側は肥厚しており、丸くおさめる。 手法上：内面マメツ。外面上：ヨコナデ。	内面：乳褐色 外面：スズ付着のため黒色。	胎土：0.1～2mm程度の石英・黑褐色砂粒・微細な茶褐色砂粒を含む。 焼成：やや軟質	"
	383	新錠よりまっすぐ外上方へ口縁が聞く。端部は外傾する小さな平面を有する。 手法上：ヨコナデ。	乳赤褐色	胎土：0.5～1mm位の長石・石英を含む。 焼成：やや軟質	"

土 師 器 類	384 口径：16.2cm 身部は「く」字状に屈曲し、口縫は外上方に開き、端部は水平な面。明黄色 を有する。内方向は肥厚。 手法上：マメツ。	内面：暗灰褐色 外面：褐色 手法上：マメツ。	粘土：1mm前後の長石・石英多く含む。 焼成：やや軟質。	S D004 第2層
	385 口径：13.7cm ゆるやかに内唇する口縫をもつ。 手法上：マメツ。	内面：暗灰褐色 外面：褐色 手法上：マメツ。	粘土：0.5～2mm程度の長石・灰 色砂粒・黑色鉱物を含む。 焼成：やや軟質。	*
土 師 器 類	386 口径：11.6cm 口縫部は斜め外上方にまっすぐ伸びる。端部はやや尖り當時に丸く おさめる。 手法上：マメツ。	内面：黑灰褐色 外面：一部：明赤茶色 手法上：マメツ。	粘土：1mm位の長石・石英その他の 多くの砂粒を含む。 焼成：軟質。	*
	387 小さい底部より、内唇気味に体部が狭く厚みはうすいようである。 底面外面はやや凹む。 手法上：マメツ。	内面：黑灰褐色 外面：一部：明赤茶色 手法上：マメツ。	粘土：0.5～1mm位の長石・石英 ときり輝などと含む。 焼成：軟質。	*
土 師 器 類	388 底部は丸みをおびており、内唇當時に体部が狭く。 手法上：マメツ。	内面：淡乳灰色 手法上：マメツ。	粘土：0.5～2mm位の長石・石英 その他の砂粒を含む。 焼成：やや軟質。	*
	389 口径：16.4cm 口縫部はゆるやかに外反し、口縫端部は内側にわずかに肥厚する。 手法上：マメツ。	内面：乳白色 手法上：マメツ。	粘土：0.5～2mm程度の長石・灰 色砂粒・0.5mm程度の黒色砂 粒を含む。焼成：やや軟質。	*
土 師 器 類	390 底径：5.5cm 平幅で厚めの窓部より体部が上方へ聞く。 手法上：マメツ。	内面：淡乳灰色（外面スヌ付着） 手法上：マメツ。	粘土：0.5～1.5mm位の長石・石 英鉱物その他の砂粒を多く含む。 焼成：やや硬質。	*
	391 底径：6.5cm は涅相全底部より、斜め上方にやや開いて伸びる。 手法上：内面 ハナヨ。 外面 マメツ。	内面：淡褐色 手法上：内面 ハナヨ。 外面 マメツ。	粘土：0.5～1mm位の長石・石英、 鉄鉱石その他の砂粒を含む。 焼成：硬質。	*
直 口 師 器 類	392 口径：21.8cm 口縫は外に開き、ゆるく屈折した後さらに外反して、外上方に伸びておさめる。 手法上：マメツ。	内面：淡乳褐色 手法上：マメツ。	粘土：0.5～2mm位の長石・石英など多くの砂粒を含む。 焼成：やや硬質。	*

	363	口径18.2cm ★ナテ調整	杯部は浅い瘤を有する。 外面 内面 薄い橙色 褐色	胎土：良 焼成：良	S D004 第2層
土器 脚器 ・瓶 甕	364	口径：12cm 手法上：マツメ。	口脚部は斜め外上方にまっすぐ伸びる。端部はやや尖り気味におさげ黃茶褐色 手法上：マツメ。	胎土：稍良。 焼成：やや軟質。	"
黒 土 十 脚 器 甕	365	高台径 8.3cm	ほぼ平頂な底部から内凹して体部が伸びる。底部外側に断面台形の 灰褐色 高台が内側を接地してふんばり貼付している。 手法：内面ヘラミガキ外面（1種）ヨコナデ（底部）未調査	胎土：0.2 ~ 1mmの石英、長石その他の砂粒を少し含む。 焼成：やや軟質。	S D002 第3層
"	366	口径：10.7cm 手法上：内外面ともにナテ調整。	口兼端部はとがっている。体部はやや内窪している。 漆褐色	胎土：良。 焼成：良。	S D004 第2層
"	367	口径：6.4cm 手法上：内外面ともナテ調整される。	漆褐色	胎土：良。 焼成：良。	"
底 甕	368	高台径： 6.7 cm	ほぼ平頂な底部外方に断面台形の高台が外端部を接地してはりついでいる。 手法上：外面底部に回転糸切り模、他はヨコナデ。	胎土：微細な石英・長石を少し含む。 焼成：硬質。	"
土器 脚器 ・甕	369	底径：10.4cm 手法上：マツメ。	胎部は大きく外へ広がり端部はやや尖り。 漆褐色	胎土：1mm位の長石・石英を含む。 焼成：やや硬質。	"
"	400	底径：10.9cm 手法上：マツメ。	胎部はラッパ状に開き、端部はなくおさめる。 乳白色	胎土：微細な砂粒を含む。 焼成：やや軟質。	"

土 高 音 高 杯	401	底径 8.7cm 脚部のみ残存、脚部は「八」字状に開き、端部は、つまり出している。	漆褐色	胎土：微細な長石、石英その他の砂粒を含む 焼成：硬質	S D004 第2号
	402	底径10.0cm 脚部は外に大きくラッハ状に開く、端部は丸くおさめる 柄部と脚部の境目に小さな段を持つ。	淡茶褐色	胎土：微細な長石、くり巻など を少し含む 焼成：硬質	"
土 留 器 小 型 台 上 盤	403	底径10.3cm 脚部は大きく外方へ広がり脚部は丸く収める	明赤褐色	胎土：微細な石を含む 焼成：軟質	"
	404	底径 11.1cm 脚部中央部分は肥厚し、端部は丸くおさめる	浅赤褐色	胎土：微細～2mmの大砂粒、長石等を多く含む 焼成：やや軟質	"
土 留 器 高 杯	405	底径 13.6cm 外下方に「ハ」字状に広がり脚部はとがっている 手法上：ナデ調整	橙色	胎土：1～2mmの小石粒を含む 焼成：良	"
	406	脚部は背の低いつづ根から大きく「ハ」字状に開き三方にスカシ孔 を穿つ 手法上：内外面共マメリ	赤褐色	胎土：0.5mm位の石英、長石、クサリ塵を少し含む 焼成：軟質	"
土 留 器 小 型 台 上 盤	407	脚張りのする片輪形 性能がある。2ヶ所、使用歴かと思われる欠損がある 鉢付着	明灰色	胎土：微細な長石を含む 焼成：硬質	"
	408	底径 11.5cm 脚柱部はいびつに肥厚しており、脚部は、ほぼ直線的に外方にのび ている。脚部は、やや尖り気味。 手法上：輪郭外側のみヨコナデ、他はマメリ	脚柱部：茶褐色 脚部：淡茶褐色	胎土：良好 焼成：やや軟質	"
土 留 器 高 杯	409	脚部は下方に向かって少し開き気味に伸びる。脚部は大きくなっ ていて、脚部は丸く、	茶褐色	胎土：微細な長石、その他砂粒を 少しあむ 焼成：やや硬質	"

410	脚柱部中央にふくらみをもつ 手法上：脚部内側及び杯底部分内側、未調整、外山マツツ装し。 色。	淡灰褐色 鉄分沈着のため全体まばらに赤褐色。	粘土：微細～1mmの大粒砂粒を含む。	S D004 第2層
411 口径：10.2cm 上 器 高 高 杯	外面、強いヘラクスリにより面とり、他ナデ調整脚部	淡粉色	粘土：良好 焼成：良好	"
412 口径：16.5cm " 小型 器 高 高 杯	内部：肩はやや張り、瓶部は「く」の字状に折曲する。 口部は外上方へ漸進的に傾く。端部はやや肥厚する。 下法：ヨコナデ調整	暗灰色（全山）灰素吸着	粘土：微細～1mmの長形黒色砂粒を含む。 等を含む。 焼成：やや軟質	S D002 第3層
413 " "	高台は下外方になだらかに下り、端部は丸くおさり、その頂点で接 接着している。	乳白色	粘土：精良 焼成：やや軟質	"
414 口径：12.6cm 器 高 高 高 杯	器部は薄い、底部外端に断面：舟形で低い高台が貼り付く。口縁端 部内面に一条の沈線をめぐらす内面は密なヘラミガキ、外山口縁端 部は未調整性 部：ヨコナデ。他是未調整性	内面黑色（灰素吸着） 外山口縁端部灰黑色 体部底面部茶褐色	粘土：精良 焼成：硬質	S D002 第3層
415 口径：12cm 器 高 高 高 杯	1段は内窓し、端部に向ってやや脚厚気味になる。 手法上：内面体部は密なヘラミガキだが、底部に向ってやや粗くな る。	内面黑色 外山口縁端部灰黑色 口縁、底外部体部脚部赤褐色	粘土：0.5～1mmの石英、灰白色 粒を多く含む 焼成：やや軟質	"
416 口径：15.5cm " "	端部周辺はヨコナデで、外面部体部は未調整で指状が残る 口縁は内窓し、端部内面下で一条の沈線をめぐらす深窓。 手法上：内面は船底なヘラミガキ、外山口縁端部にもヘラミガキがみ られる。 外面部は黒色がわざが現り、だから右へのヨコナデのあとがみ られる。	内面と外面部の口縁周辺は黒色 外面部体部は乳白色で部分的に黒 色化が残る 手法上：内面は船底なヘラミガキ、外山口縁端部にもヘラミガキがみ られる。	粘土：0.5～1mm位の石英、その 他の粒を数種含む 焼成：硬質	"

黒色 上器・桿	-417	口径：14cm 長さ：14cm	体部、口縫部はゆるやかに内弯し、外上方へ伸びる。端部内外面下で 段をとる。端部はくおさめる。 手法上：内面は強いミガキを施す。 外面は口縫部はヨコナデで爪跡があられ、体部は未調整。	内面黒色 外面口縫部暗灰色 体部乳白色	胎土：微砂粒をわずかに含む 焼成：やや硬質	S D002 第3巻
"	418	口径：13.8cm 長さ：13.8cm	口縫は内弯して外上方へ伸びる。端部はくおさめる。 外面体部中ほどに強いヨコナデの為に浅い明面をつくる。 手法上：全面ヨコナデ、一部ヘラガキ残る。留托着しき。	内面は濃灰色、外面上縫付近は暗灰色 体部乳白色	胎土：微砂粒を少し含む 焼成：やや軟質	"
"	419	口径：14.2cm 長さ：14.2cm	体部1縫は内弯し、端部内外面下に一条の沈縫を施し、端部はくおさめる。 手法上：内面は密なヘラミガキ、外面口縫部はヨコナデ、口縫は 未調整で指圧痕が残る。外側底部近くに高台をとりつけた 跡らしいものがみられる。	内面黒色 外面口縫付近は暗灰色 その他灰黑色	胎土：0.5~1mmの微砂粒を多く含む 3■の状石を1個含む。 焼成：やや軟質	"
"	420	口径：10.4cm 長さ：10.4cm	やや小さめの瓶で、口縫は内弯し、端部内外面下に一条の沈縫をめぐらす。端部はくおさめる。 手法上：内面は密なヘラミガキ、端部周辺はヨコナデ、 外面は細かいヘラミガキで指圧痕が残る。	黒色(内外面に炭素吸着)	胎土：精良 焼成：やや硬質	"
"	421	口径11.3cm 長さ：11.3cm	全体に傳下で小ぶりの瓶、1縫は内弯し、端部内外面下に一條の沈縫をめぐらす。端部近くでやや外反ぎみになり端部はく取れる。 手法上：内面は密なヘラミガキ、外面は「口縫部周辺はヨコナデ、 口縫外側は未調整、指圧痕を残す。	内面と外面口縫部は黒色 外面口縫部は乳白色	胎土：微砂粒を多く含む 焼成：やや硬質	"
"	422	口径：11cm 長さ：11cm	形態： 口縫は内弯し、口縫はごくわずかに外反ぎみになる。 端部内外面下に一条の沈縫を施す。 端部はく取れる。 手法： 内面は密なヘラミガキ、端部周辺はヨコナデ 「口縫はナデ調整、指圧痕が残る」	内面、黒色 外面口縫部 暗灰色 外面体部 乳白色	胎土：微砂粒を多く含む 焼成：やや硬質	"
"	423	口径：11.6cm 長さ：11.6cm	形態： 口体は内弯し、端部は外上方に伸びる。 端部内外面下に一条の沈縫をめぐらせ先端はく取れる 手法： 内面は密なヘラミガキ、端部周辺はヨコナデ 外面口縫は未調整	内面 黒色 外面口縫部 暗灰色 外面口縫 乳白色	胎土：微砂粒を多く含む 焼成：やや硬質	"

424	口径：13cm 墨色 土器 柄	形態　口縁はごくわずかに内弯きみで外上方で外方に伸び、端部は丸く収 まる。 手法　口縁内面に口糸状暗文を施す 外面はヨコナナデで体部中央に強いヨコナナデの後にナナメのヘ ラもしくは爪でつけたあとが残る。 外面体部に指圧痕	内面　黒色 外縁上1/3は黒色、口縁下部は乳白色	粘土：ほば精良 焼成：硬質	SD002 第3房
425	口径：12.9cm “”	形態　口縁は内弯し、端部内面下に一条の沈線をもたらす。 手法　内面は密なヘラミガキで、やや粗いヘラミガキを端部周辺に施す。 外面山根部体部は未調整	内面　黒色 外縁先部　暗灰色 体部　乳赤褐色	粘土：0.5mmの行英1層と 灰色砂粒を多く含む 焼成：やや軟質	“”
426	山溝：15cm “”	形態　口縁は内弯し、端部内面下に一条の沈線をもたらす。 手法　内面は密なヘラミガキで、端部周辺はヨコナナデ 外縁口縁はナナメ調整	内面　黒褐色 外縁先部　黑色 体部　乳赤褐色	粘土：精良 焼成：硬質	“”
427	口径：14.9cm “”	形態　口縁は浅く内弯し、1/3は外上方に伸びる。 輪部内面下に一条の沈線をめぐらせ端部は丸くおさめる。 手法上・内面はマツツサしい口縁部には、わずかにヘラミガキが施 されているのが残る。外面山根はヨコナナデ。	内面　黒赤褐色（鉄分付着の為） 外縁　乳白色	粘土：1mmの不均数層と鐵分を含む 多く含む 焼成：やや軟質	“”
428	口径：15.8cm “”	形態　口縁部は内弯し、輪部内面下に段を有する深側 輪部付近でごくわずかに外反し、輪部は丸くおさめる。 手法上：内面は鉄分付着、外面輪部付近はヨコナナデ、他は未調整 体部外面に指圧痕	内面黒褐色（鉄分付着の為） 外縁輪部付近は暗灰色 「輪」、体部は乳褐色	粘土：灰色砂粒を少し含む 焼成：やや硬質	“”
429	口径：16.2cm “”	形態　口縁は浅く内弯し、端部は強ナナデの為に 強い後をとる。 輪部内面下に一条の沈線をめぐらせる。 手法上：内面ヘラミガキ口縁周辺ヨコナナデ、他はナナメ調整 指圧痕あり	内面黒褐色（鉄分と鐵粉性、金属 由が厚く付着） 外縁口縁部黒褐色、1/3は乳白色 色	粘土：0.5~1mmの石英、長石、 灰色砂粒を多く含む。 焼成：硬質	“”

触 触 触 触	430 高台径 8.5cm 黒色 上 器 桶	形態：底部はほぼ平折である。高台断面は長方形をなし、後地面 は凹面である。底部内面に二条のクロロ副脈による通縫を有 する。底部内面に三叉トナンの跡がある。割れ目に粘土をつ けて、海綿し焼成した跡がある。	胎土：良好 焼成：やや硬質	S D02 第3刷
		1口径：14.1cm 器高：4.8cm 高台径 7.1cm	形態：丸味を持つ底部より、全体は内等気味に広がり、端部内面に 一一条の次筋が施される。高台断面は三角形。 手法：内面ヘラミガキ。口縁端部外側、高台部にヨコナデが残るが、 他是消耗して調整不明	
触 触 触 触	431 高台径 8.0cm " " "	形態：底部は少し丸味をおびているがほとんど平直で内等気味に 口縁部が緩。底部外周に断面台形の高台がやふんぱり 気味にはりつく。 手法：内面ヘラミガキ。外側高台以上はヨコナデ、他 マツ	胎土：良好 焼成：やや硬質	" "
		432 高台径 8.0cm " " "	形態：底部は少し丸味をおびているがほとんど平直で内等気味に 口縁部が緩。底部外周に断面台形の高台がやふんぱり 気味にはりつく。 手法：内面ヘラミガキ。外側高台以上はヨコナデ、他 マツ	
触 触 触 触	433 高台径 7.0cm " " "	形態：底部内面に断面三角形の高台が先端で貼り付く 手法：底部内面剃毛刀、外側木調整。口縁内面ヘラミガキ外側ナ デ 調整	胎土：微砂粒を多く含む 焼成：やや硬質	" "
		434 高台径 6.6cm " " "	形態：ほぼ半円柱部の外端に断面半円柱の形の底台が先端で 接着してはりつ。体部はゆるやかに内等する。 手法：内面、巾の広いヘラミガキ、外側高台付近にヨコナデ 底部、ナデ調整	
触 触 触 触	435 高台径7.5cm " " "	形態：底部は丸みをもち、そのまま内等気味の体部へ続く。 高台は三角形をなし、底部は中央ほど厚くなる。 手法：内面ヘラミガキ、外側ヨコナデ、底部は木調整。	胎土：良好 焼成：やや硬質	" "
		436 壺：8.8cm " " "	形態上：平坦底部より内等気味の高台が下方へ貼り着いて いる。 手法：内面ヘラミガキ、外側ヨコナデ。	
触 触 触 触	437 高台径 7.5cm " " "	形態上：底部はほぼ平丸で外周に高い高台が やふんぱりした形ではりつく。 手法：はりつけ高台はヨコナデ、他 マツ	胎土：0.5mm位の砂粒を少し含む 焼成：やや軟質	" "
		" " "	胎土：微細～1mm位の長石黒色砂 粒等を含む。	

438	高台径8.6cm 黑色土器 直筒形	形態：平坦な底盤の外周、外側に断面△円形で背の高い高台が先端を接着してやや外ふんばげにはりつく。体部は内弯する。 手法：内面は密なヘラミガキ。外側、底部は未調整の上に粗いヘラミガキ。高台ははりつい。体部は密なヘラミガキ。	内外面共黒色	胎土：微細粒を多く含む 焼成：硬質	SD002 第3層
"	439 高台径 6.5cm 黑色土器・輪幅	形態：底盤側邊に高台が「ハ」の字状にふんばって貼付く。 手法：口縁及び底部はヘラミガキ、高台ヨコナデツマツツ	内面 黒色 外面 黄白色	胎土：良好 焼成：少し含む 焼成：やや軟質	"
"	440 高台径 6.6cm 黑色土器・輪幅	形態：底盤側邊に高台が平坦である。底部外周に断面△角形の高台がはりつく。 手法：内面ヘラミガキ、高台ヨコナデ、他マツツ	内面 黑色 外面 黄白色	胎土：0.5~1mm位の長石、石英 を少し含む 焼成：やや軟質	"
"	441 口径13.8cm 黑色土器・輪幅	形態：口縁は内弯氣味で輪幅中面に一条の沈線が施される。 手法：体部内面及び口縁部外面にヘラミガキが残り端部ヨコナデ他はマツツ	内面及び口縁端部、邊灰色	胎土：微細な長石をわずかに含む 焼成：やや硬質	"
"	442 口径14.6cm 黑色土器・輪幅	形態：口縁は外上方に伸びる輪幅内面下に、一条の沈線をめぐらす。 端部は丸く收める。 手法：体部内面ヘラミガキを施す。	内外面共黒色	胎土：ほぼ精良 焼成：硬質	"
"	443 口径16.5cm 黑色土器・輪幅	形態：口縁は外上方に伸びる輪幅内面下に一条の沈線をめぐらす。端 内外面共黒色 部は丸く收める。 手法：内面ヘラミガキ	内面 黑色 外面 乳褐色	胎土：ほぼ精良 焼成：硬質	"
"	444 口径14cm 黑色土器・輪幅	形態上：口縁は内弯しながら外に開きのげる。端内部内面に條をもちらくおさめる。 手法上：内面と外側端部あたりヘラミガキ、外側マツツ	黑色	胎土：0.1~0.2mm位の長石と1mm位砂粒を含む。 焼成：やや軟質	"
"	445 口径15cm 黑色土器・輪幅	形態上：口縁は内弯氣味に外上方へ伸びる。 端部で少し外反しがくおさめる。 手法上：全面ヘラミガキであるがほとんどマツツ。	黑色	胎土：微細な長石など砂粒を少し含む。 焼成：やや硬質	"

黒色土器 碗	446 口径14.2cm	形態上：口縁部は斜め外上方に伸びて内面端部に一束の沈線をもつ 手法上：外面端部はヨコナデ、他ナデ觸撃。 内面へラミガキであるがマメツしているため詳細不明	内面及び口縁端部は黒色 他外面 漆褐色	胎土：微細な砂粒を含む 焼成：硬質	S D002 第3層
	447 口径13.6cm	形態上：口縁部は内弯気味に外上方に伸びて内面端部に一束の回帯を持つ。端部は丸くおきめれる。 手法上：内外面共にヘラミガキであるが外表面はほとんどマメツ	黒色	胎土：微細な砂粒をほんの少し含む 焼成：やや軟質	
	448 口径13.8cm	形態：全体、口縁は外上方へ伸る。側面部内面下に不明瞭な沈線が段々とあって、端部は丸くおさめる。 手法：内面は俗なヘラミガキ 外面は鉢分付着の為不明瞭なヘラミガキと思われる。 端部周辺はヨコナデ。	内面黒色 外表面黒色 (大部分は鉢分付着の為黒褐色)	胎土：微砂粒及D90.5~0.2mm程度 焼成：硬質 の金糸母を多く含む	
	449 径12.2cm	形態上：口縁のみ残存、口縁は内弯気味に外上方へ伸びる。 口縁端部の内側に一束の沈線をめぐらせる。先是丸くおさめる。 手法上：全面へラミガキ	黒色	胎土：良好 焼成：やや硬質	
	450 口径：14.4cm	形態：直輪的に口縁が伸び、端部は丸くおさめる。 手法上：全面へラミガキ	漆灰赤褐色	胎土：良好 (褐色砂粒等を少し含む) 焼成：やや硬質	
	451 高台径 7.8cm	形態：平坦な底盤から、内弯気味に口縁が伸びる。高台断面は三角形。 手法上：内面へラミガキ、外面部純	内面暗灰色。外面部赤褐色	胎土：白色微砂粒を少し含む。 焼成：やや硬質	
452 高台径 6.8cm	形態上：少し中央部が凹んだ底盤から内弯しながら体幅が狭くなる。底部外周に斷面三角形の高台がややふんぼり氣味にはりつく 手法上：高台はつけ脚付近はヨコナデ他マメツ	内面 黒色 外面部 乳淡赤褐色	胎土：0.5mm位の大きさの砂などを少しあむ。ほとんどの精良 焼成：やや硬質	a	
453 高台径 8.6cm	形態：体部は底盤よりなめらかに内弯気味につづく。高台は断面、台形で外反気味についており、内側部で接着する。 手法：全面へラミガキ	内面、濃灰色、外面部淡茶褐色 外面部も鉢分付着のためまだらに漆赤褐色	胎土：微弱~2mmの大の長石、石英 焼成：やや軟質	a	

黒色土器皿	454	口径10.0cm 器高 2.0cm 底径 5.8cm	形態：平坦な底盤より内突気味に口縁が伸びる端部は丸くおさめる。 手法：磨耗着しい	浅灰褐色	胎土：良好(黑色砂粒等を少し含む) 焼成：やや硬質 寸法：第3層	S D002
	*	口径10.9cm 器高 1.6cm	形態上：ほとんど平坦な底盤より内突気味に体部が起き、外上方に黑色 少し伸びた後端部はやや外反して丸くおさめる。 下法上：底外部未調整他ヨコナデ（磨耗着しい）		胎土：微細な長石を少しだけ含む ほとんど精良 焼成：硬質	“
土器質皿	456	口径13.8cm 器高 2.1cm	形態：ほとんど平坦な、底盤より内突気味に口縁が起き、口縁端部 で、やや外反した後上方につまみ上げられる。 手法：磨耗着しく不明	淡茶褐色	胎土：精良 色調：淡茶褐色	S D002 第4層
	*	口径25.3cm	形態：口縁は直線的に外方へ伸びる。端部は外傾する面をもつ。 手法：内面の一部に擦毛目が残る。口縁端部ヨコナデ外面下ハケ	淡黄褐色	胎土：砂粒を多く含む 焼成：硬質	S D003 第4層

第2章 杉江東遺跡

1. はじめに

本報告は、守山市における県営ほ場整備事業守山南部地区一般かんがい排水路工事に伴い、昭和60年度に実施された、杉江東遺跡の発掘調査結果をまとめたものである。

調査は、滋賀県教育委員会文化財保護課を調査主体者とし、現地調査は財団法人滋賀県文化財保護協会調査三係長・大橋信弥、同調査員稻垣正宏が担当した。調査期間は昭和61年1月8日より昭和61年2月5日までである。

調査員として、河野武、久修一郎、久野実、佐野峰生、政岡伸洋、呉川透、横谷裕人の参加があった。また作業員として、前田穂次、川村末吉、金崎勘治、大友朝子、木村静子、北村みつ江、川畠真美、中田ゆき、山本さよみが協力した。

本書は、稻垣がこれを編集執筆した。

2. 位置と環境

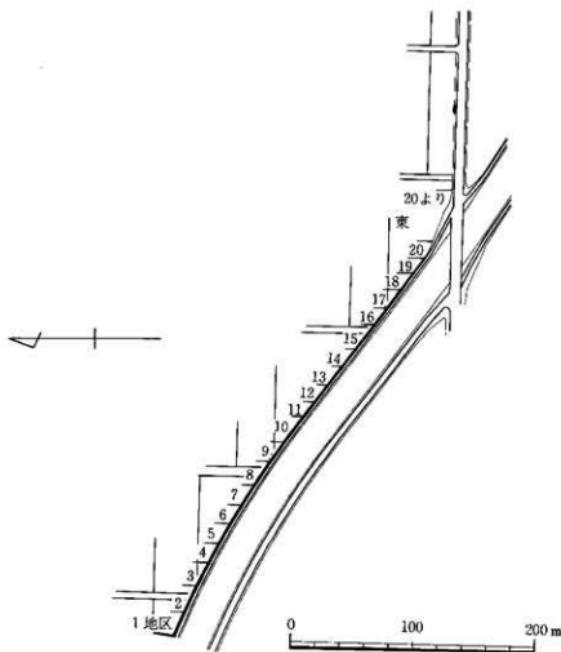
杉江東は、野洲川の現在の北流及び南流と旧阿道の境川と江西川の合流を中心形成された沖積平野上の微高地である自然堤防上と一部低地である黒褐色粘土の堆積層上にわたって立地する。当遺跡は、守山市、欲賀の集落の北側、杉江町の南側に位置する現況はほぼ平坦で現地表はほぼ $l_e = 88.0\text{ m}$ を測る。遺構面は現地表マイナス50cm~55cmをはかり、層位は地表から15cmは表土、15cm~50cmは灰色粘土50cm以下は上面は遺構面で包含層でもある黒褐色粘土層である。黒褐色土層は、約1.5mの厚さを持ち、その下に無遺物の基盤層である青灰色粘土層がある。黒褐色粘土層の上面からマイナス15cmのところまで土器を包含している。

3. 遺構

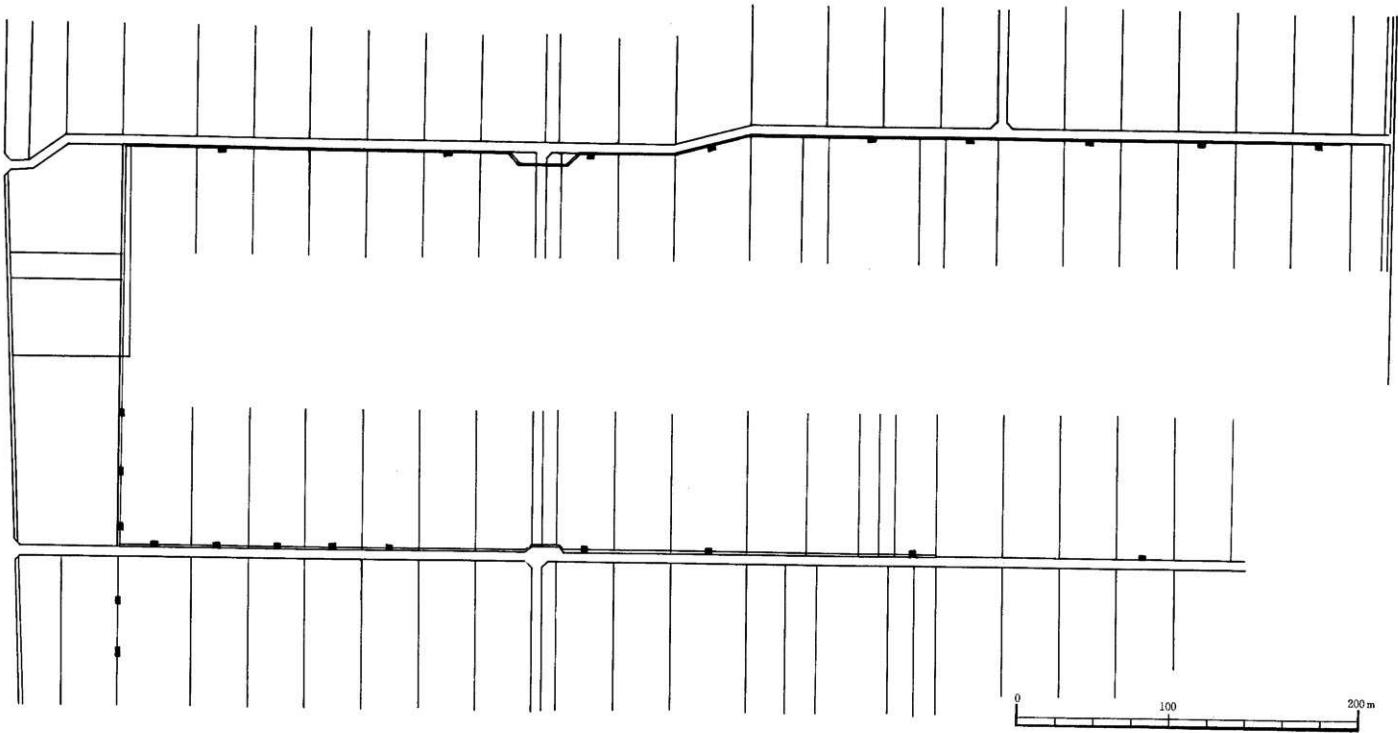
トレーナーが幅80cmほどの細長いものであったため、遺構の全体を把握することは非常に難かしいが、遺構としては、耕作時の畔跡と、ピットがあげられる。なおこれらの遺構がきざまれた基盤層から土器が多く出土している。遺物包含層は、この基盤層（黒褐色土層）であるといえるのである。

4. 遺物

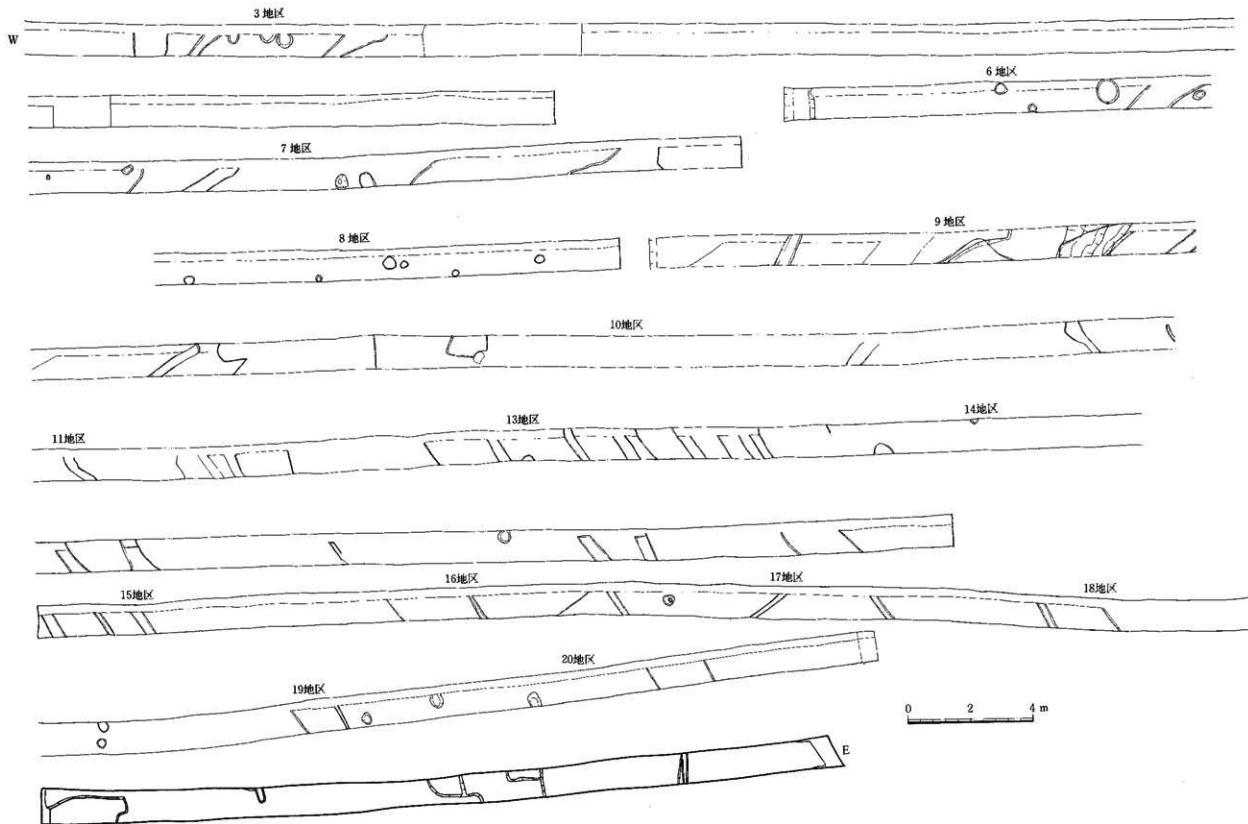
遺物については、遺物包含層からは、中世の遺物が多く出土している。それらは黒色土器と瓦質土器、土師質小皿などである。黒色土器は高台付橈で鎌倉時代のものである。くわしい観察は土器観察表にゆだねるが、いずれも細片であり、年代判定の資料とはなりにくいものである。



第1図 杉江東トレンチ全体図



第2図 試掘トレンチ全体図（近代擾乱のため、遺構、包含層なし）



第3図 杉江東欽賀造跡遺構平面図

杉江東遺跡出土遺物観察表

種類	図版	法 量	形態・技法の特徴	色	調 査	胎 土	焼 成	備 考
須高 脚踏 器	1	底径10.8cm	脚部は短く、脚短部は上下に肥厚し、狭い凹面をなす。 ロクロ成形。回版ナデ調整。	灰白色 墨す。	脚部内外面の一端黒色を 呈す。	白色砂粒を少量含む。密焼成良好。		
須口 脚踏 器	2	口径15.0cm	直線的に外方に伸びる。端部は丸くおさめる。 ロクロ成形。回版ナデ調整。	淡灰色 白色		0.3mm以下の白色砂粒を少量含む。		
土 脚 質 小 皿	3	口径12.2cm	直部はやや丸く、口縁は強いヨコナデにより外反する。 内面及び口縁外面はナデ調整。	淡褐色		0.3mm以下の白色砂粒を含む。		
土 脚 質 小 皿	4	口径8.4cm	山根端部は外方につまみあげられている。 内面及び、口縁端部のみナデ調整される。 唇托着しない。	にぶい黄色		0.3mm以下の白色砂粒を含む。		
土 脚 質 小 皿	5	口径10.0cm	浅い小皿で、口縁は内窓しつつ上方へ伸びる。腹部はやや尖ってい る。 所持着しく、調修不明。	灰褐色		1mm以下の白色砂粒を含む。		
土 脚 質 小 皿	6	底径6.3cm	脚台付皿の脚台と思われるものである。 端部は丸くおさめる。 全体にナデ調整される。	灰褐色		精良 焼成良好。		
土 脚 質 脚 台	7	底径4.0cm	高台は貼付けである。やや外方にふんばつており、しっかりしてい る。 内面にのみ炭素が吸着しているが、磨耗により薄くなっている。 全体に解手膏しい。	内面一灰褐色 外側一黄褐色		精良 焼成良好。		
黑色 土 質 脚 台	8	底径5.6cm	高台は貼付けである。外方にふんばつてある。 内面にのみ炭素が吸着しているが、磨耗により薄くなっている。 全体に解手膏しい。	内面一灰褐色 外側一淡褐色		精良 焼成不良。		
須口 脚踏 器	9	底径7.0cm	高台は貼付けである。低い方が外方にふんばつてある。 全体に解手膏しく調整不詳。	淡灰色		黑色性を含む。劣化。		

土器 器高 杯	10	脚部の場合は分離成形手法による。	褐色	1 mm以下の白色砂粒、クサリキ、 微細なウンモを含む。
須惠器 杯 身	11	底径4.0cm 高台のない杯Aの底部である。 杯底の可能性もある。	灰色	1 mm以下の白色砂粒、微細な黑色 粒を含む。 焼成良好。
白 縦 杯	12	口径15.0cm 口縁はやや噛反っている。 全面に施釉される。	素地一淡灰褐色 釉一薄綠色	微細な黑色粒を多く含む。 焼成良好。
十 師 質 小 皿	13	口径8.8cm 口縁は、ゆるやかに内寄しつつ上方方に伸びる。端部は丸くおさめる。 内面及び口縁	淡灰褐色	
十小 師 質 皿	14	口径11.7cm 口縁はゆるやかに内寄し、端部は丸く畳める。	淡白灰褐色泥じり	微細な長石を多く含む。 やや軟質
黒 色 土 器 碗	15	口径11.2cm 口縁部はやや内寄気味にのびる。端部は短くまみ出され、やや尖り氣味に取まる。 全面及び内側部端部指ナデ部には炭素吸着している。	淡灰褐色 断面淡黄色	1 mm前後の長石、0.5mmぐらいの行 英を含む。 やや軟質
黒 色 土 器 口 縁	16	口径12.6cm 底部は丸く、体部は内寄する。端部はわずかに外方に引き出し、丸く削める。 内面及び内側部内面に沈縫を有する。	内面は暗灰色、外面はにぶい黄褐色	1～2 mmの長石、石英を含む。
黒 色 土 器 口 縁	17	底径5.2cm 底部外間に断面四角形の高台が少しふんばり気味にはりつき、内側で接地。口縁は少し内寄気味に上にのびる。 内面のみ炭素吸着しているが、断続的のかね薄くなっている。	内面は黄褐色、外面は黄褐色	良好 やや軟質
高 杯 縦 部	18	底径16.6cm 縦筋直線的に外下方に伸び端部はやや突っている。	にぶい黄褐色	0.1～2 mmの長石、石英、0.1～1 mm程度の黒色、灰色砂粒を含む。
高 杯 縦 部	19	口径11.6cm たちあがりは4頭した後直立するが、細く縦筋は鋭い。受部は上部灰白色	1 mm以下の白色砂粒、黒色砂粒を 含む。	

須 要 器 材	器 身	標高2.7cm 方に延び、たちあがりとU字状を成し、端部は鋭い。たちあがりは受部よりやや上方にまで伸びるが底部にはへり張りがある。底体部は深く底部は先端をもつ。	多く含む。 良好
須 要 器 材	器 身	20 口径11.8cm 口縁は内寄で奥部上外方に伸びる。立ち上がりは内傾し灰色 漏船上方へまみ上げてある。	0.5~2mm程度の長石、微細な黒色 砂粒を含む。 硬質
土 器 具	小 皿	21 口径7.8cm ゆるやかに内寄し、口縁端部は丸くおさめる。	0.5~2mm程度の長石、石英。0.5mm程度のくさり砂を含む。 軟質
土 器 具	中 皿	22 口径12.9cm 底部はほぼ平和で、口縁部は少し外反し、端部は丸くおさめる。 内面及び、口縁外面はナデ繪装。底部外面未調整。	0.5~1mm程度の長石、微細な黒色 砂粒を含む。 やや硬質
土 器 具	小 皿	23 茶褐色 ほぼ平和な底部から内寄で奥部に口縁部が伸びる。底部端辺に断山三角 台形の高台が、ややふんわり氣味にはりつく。 内面のみ染素が附着しているが、盤軸のためほとんど剥落している。 全体に磨耗著しい。	1mm前後の長石、石英を含む。 やや軟質
土 器 具	中 皿	24 口径14.4cm 器高3.0cm 底部よりゆるやかに内寄、11巻は一部残るのみ。底部の厚さは変化 高台は断山三角形で貼付けられる。 全体に剥落多く盤軸は不鮮である。	1mm以下の白色砂粒カシリキを (残る) 含む。 不規
土 器 具	中 皿	25 11巻16.8cm 体部は内寄でのび、口縁部は少し外反して端部は丸く取れる。 ロクロ成形。内外面とも施釉頗る灰釉と思われる。	長白色 硬質
羽	26 鳥大皿	直線的に聞く体部であり、羽は横に伸びる。内外面ともナデ調整 27.0cm	黄茶色、断面暗灰色 砂粒、黒色砂粒を含む。 硬質
茶 器 具	茶 托	27 口径10.6cm 器高1.1cm 糸切り底のある底部よりゆるく屈曲し、外上方へまっすぐ伸びる。 口縁端部は丸くやや肥厚する。 口縁端部内外面に施釉される。	灰褐色透明色、素地明るい灰黃 精良 良好

須要 口 端 部 部 品	28	口径13.2cm 類部より前曲、直立て上方にのびる。端部の断面は丸い。	内面灰白色、外面部灰色 微細な砂粒を含む。 良好
須要 口 端 部 部 品	29	口径30.7cm やや内弯丸味に少し外に開く。11種端部はほぼ水平な凹面をもつ。 内外面とも端部アーチ形である。	外側は既分付着のため茶褐色、 3mm角の灰白色小石、0.5~1.5mmの 黑色砂粒、長石、1~2mmの茶褐色 色砂粒を含む。 優質
須要 口 端 部 部 品	30	口径9.4cm 11種は内弯丸味に外上方へのび、端部は斜め上に少しつまみ出して いる。端部はやや尖っている。	灰色 2mm前後の長石を含む。
須要 口 端 部 部 品	31	口径9.8cm 山縫部はゆるやかに内弯し、端部を外方にわずかに引き出し丸くね じる。 全体に磨耗著しく調整不詳。	乳白色 やや軟質 精良 やや軟質
上 部 質 量 小 皿	32	口径10.6cm やや内弯氣味に立ち上がり、端部は端外折し、そして上方につまみ 上げられる。前面に幾状のものをつくる。 磨耗著しく調査不詳。	0.5~0.3mm程度の灰石、1mm前後 の石英を含む。 やや軟質
土 質 質 皿	33	口径13.8cm 口縫部はやや内弯氣味にのびる。端部は丸く收める。 磨耗著しく調査不詳。	乳白色 1mm前後の石英、2mm前後の長石 を含む。 やや軟質
土 質 質 皿	34	口径13.9cm 体部から11種部に分けてゆるやかに内弯し、口縫端部はやや外側に つまみ出されている。 磨耗著しく調査不詳。	うすい黃褐色 0.5~0.2mm程度の長石、灰褐色 を含む。 やや軟質
土 質 質 皿	35	口径14.2cm 口縫部は外反しつつゆるやかに外方に伸び、端部は丸くおさめる。 断面灰褐色	0.5~0.2mm程度の長石、灰褐色 を含む。 やや軟質
土 質 質 皿	36	口径11.0cm 口縫部は内弯氣味にのび、端部内面に段を有する。 11種端部アーチ形である。	褐色 微細な長石を含む。 軟質
土 質 質 皿	37	口径17.5cm 端部から口縫部にかけてゆるやかに内弯する。端部はやや尖つてい る。	1~2mm程度の石英、長石を含む。 良好

		内外面とも磨耗著しく調査不詳。
上部質 底 付 立	38 口径22.0cm 11径15.0cm 大井部はゆるやかに内寄し、縁辺と下方に屈曲し、外面上に鋸歯状部はよくおさめる。 須恵器の焼成不良品の可能性あり。	黄灰色 断面にぶい粒色 無質
上部質 底 付 立	39 11径22.0cm 11径15.0cm 大井部はゆるやかに内寄し、縁辺と下方に屈曲し、外面上に鋸歯状部はよくおさめる。 全面に白色釉がかかる。回転ナデ調整。	外側暗灰色、内側灰白色 0.5~1mm程度の灰色、黒色鉛物を 多含む。やや粗い。 無質
褐色 土器底 部	40 11径7.8cm 底部から底部にかけてゆるく内寄する。端部は丸くおさめる。 内面のみ灰素が吸着している。 内外面ともヨコナデ調整される。	1~2mmの長石、1mm前後の石英 を含む。 やや粗質
上小頭 質 質	41 11径7.8cm 底部にかけてゆるく内寄する。端部は丸くおさめる。 留木	淡黄色 1~4mm位までの砂粒を含む。 やや粗質
上部質 底 付 立	42 11径10.3cm 平底の底部より内寄してのびる。11輪部は外反し、端部は丸くお さめる。 口沿端部外端及び内面がナデ調整される。	灰褐色 0.5~2mm前後の長石を多く含む。 やや粗い。 やや粗質
上部質 底 付 立	43 口径10.1cm 半ねじ底部より内寄し、11輪がつづく。端部は短く外反してやや尖 り気味におさめる。	淡黄色 0.5~1mm位の長石、3mmの石英を 含む。 やや粗質
上部質 底 付 立	44 口径14.4cm 11輪部はゆるやかに内寄してのび、端部を丸くおさめる。 口沿端部外端及び内面はナデ調整される。	乳白色 1~2mmの石英、1mm前後の長石 を多く含む。 やや粗質
須 惠 器 底	45 最大径 17.3cm 大径をもつ方に右した後、内寄して内下方へ下る。底部は高台を有 し、11.4cm 輪孔 構造として内部は折ナデで、底端より全体部まででは難い。 は比較的「深」にナデている。外面は底部高台の内側は未調査。高台 は中心側内部は折ナデ、最下部より外部部高台までは1次にナデが施	口輪部は残っていないので不明。質は外下方へ張り出し、全体最も 底部は高台を有する。外而自然輪増綠色その他の灰褐色 良好

		きれている。体上部からは自然角のため判別は不可能である。
46	黒色土器 口縁 底部	ほぼ半円柱形から内側に1枚がのびる。底部外端部に断面三 角形の高台が外下方にふんぱり気味に貼りついている。内面にのみ 炭素が吸着している。 内面は堅膜。口縁外面はヨコナで指圧あり、底部は木調査。
47	黒色土器 口縁 皿	口径16.3cm 内面及び口縁端部外面に炭素が吸着している。 内面に吹き出し孔が残る。
48	土 鉢 皿	口径14.4cm 口縁はゆるやかに内弯し、1段中位で一段上方に屈曲した様端部 で小さく外反する。 口縁端部外面及び内面のみナナ調整
49	黑色土器 口 器	口縁はゆるやかに内弯し、端部内面に1枚の炭素が施す。 「口縁端部外面及び内面に炭素が吸着している。」
50	須 萬 器 杯 蓋	口径14cm 天井部は低く平らで外下方に向るやかに内弯する。天井部縁辺は下 方に折りまげられている。
51	黑色土器 口 器	口径15.0cm 口縁は外側にひらき、端部内面に1枚の炭素を有する。 内面のみ炭素が吸着するが、磨耗のため薄くなっている。
52	黑色土器 口 器	底径6.2cm 底部は上げ窓でやや内弯して1枚がのびる。高台は底部外端部に外 下方にふんぱり気味に貼りつく。高台は幅が広く大きい。 内面のみ炭素が吸着する。
53	黑色土器 器	口径11.8cm 体部はゆるやかに内弯し、口縁部は丸くおさめる。 内面にのみ炭素が吸着するが、磨耗のため薄くなっている。
54	土 鉢 皿	口径15.2cm 口縁端はくの字状に上方にのび、小さい縛を作り、端部はやや外反 気味に上にのびる。 外端部の少し上に退化した列点文をもつ
		0.5~2mm前後の石英と長石を含む やや硬質
		内面、外縁口縁部は黒色、外面体 0.5mm程度の長石 黒色がれ、1mm 程度の灰色砂粒を含む。 やや硬質
		内面及び外山は暗灰色、外面 淡黄色 断面一瞬灰色 2mm前後の長石、1mm前後の石英 を含む。 やや軟質
		内面及び外山は暗灰色、外面 は淡黄色。 2mm前後の長石、1mm前後の石英 を多く含む。 やや硬質
		1mm程度の白色砂粒を多く含む。 良好 やや粗質
		内側端黄灰色、外面乳白色 砂粒を含む。 軟質
		内側端黄灰色、外面乳白色 砂粒を含む。 やや硬質
		内側端は暗灰色、外山高台内は暗灰 色、他は、薄い黄色。 断面暗灰色 1mm程度の灰色砂粒を含む。 やや硬質
		内側端は暗灰色、外面白色 1mm前後の長石、石英を含む。 やや軟質

黒褐色 ±3	口径35	口径16cm	内面及び口縁端部外面に黄葉が吸着している。	ゆるやかに内寄する。端部は丸くおさめる。	外面はヘラケズリ状の板ナゲがされる。
-----------	------	--------	-----------------------	----------------------	--------------------

内面黒っぽい黄灰赤色、外而黃白色	構造 良好
------------------	----------

第3章 赤野井浜遺跡

1、はじめに

本報告は、守山市における県営ほ場整備事業守山南部地区第1号幹線排水路工事に伴い昭和60年に実施された、赤野井浜遺跡の発掘結果をまとめたものである。

調査は、滋賀県教育委員会文化財保護課を調査主体者とし、現地調査は財団法人滋賀県文化財保護協会調査係長・大橋信弥、同調査員稻垣正宏が担当した。調査期間は昭和61年1月28日、2月3日におこなわれた。調査員として河野武、横谷裕人の参加があった。

本書は、稻垣がこれを編集執筆した。

2、位置と環境

赤野井浜は、野洲川の現在の北流及び南流と旧河道の境川と江西川の四本を中心に形成された沖積平野上に立地する遺跡である。当遺跡は、湖岸の入江の最深部の汀線から内陸に向うトレンチ（幹線排水路予定地）内で遺構が検出され得るであろうということで、遺構検出作業に着手した。現状は、赤野井町（浜地区）の集落の西南の田地になっている。

3、遺構

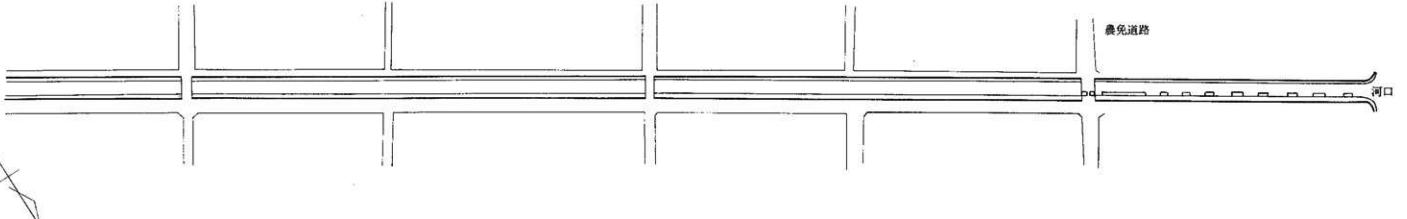
調査は、4×4mの試掘調査トレンチ10箇所設定し、各トレンチで遺構面を追求し、遺物を検索したが、工事施行内での遺構面及び、遺物は検出し得なかった。層位については、地表面よりマイナス60cm前後までは、灰色粘土が堆積しており、その下層には、基盤層と推定される青灰色粘土が現れる。

4、遺物

遺物はまったく出土しなかった。

5、おわりに

当該地の、東側に隣接して、弥生、古墳時代の土器が出土した赤野井浜遺跡があるが、当遺跡の範囲は入江の最深部の汀線までには及んでいなかったことが今回の調査によって確認された。



第1図 トレンチ全体図

第4章 山賀・杉江遺跡

1 はじめに

本調査報告は、県営ほ場整備事業守山南部地区・用水路埋設に伴い、昭和60年度に実施した山賀・杉江遺跡の発掘調査結果をまとめたものである。工区が山賀遺跡と杉江遺跡にまたがっているため、ここでは区別せず、一連のものとして記述することにする。

調査は、財団法人滋賀県文化財保護協会調査三係長大橋信弥を担当者とし、財団法人滋賀県文化財保護協会鷹井氏丸隆弘を現地主任に得て実施した。調査期間は昭和60年12月4日から昭和61年1月20日までである。

尚、調査にあたっては、草津県事務所土地改良課・守山川間連遺跡調査事務所をはじめ、関係諸機関ならびに地元の方々に御協力・御理解をいただいた。また、現地調査及び整理作業にあたっては、井浦由美（調査員）、福井真理子（追手門学院大学）、梅村智弘（京都産業大学）、今西俊人、成宮久恵（仏教大学）、大平方里（光華女子大学）、足立由起、馬杉富美、寿福滋（遺物写真）の諸氏の協力を得た。記して厚くお礼申し上げたい。

（大橋・氏丸）

2 位置と環境

山賀遺跡・杉江遺跡は、守山市の中部、琵琶湖湖岸近くに立地する山賀町と杉江町の集落にはば重複する様に位置する。当遺跡の立地は、野洲川および山守山川の形成した微高地に存在する。

周辺の遺跡をみると、東方に弥生時代～平安時代の大集落である赤野井遺跡、杉江東遺跡があり、北方には平安時代～中世の遺構が確認されている杉江北遺跡^{注1}、西方には鎌倉時代の集落跡である山賀西遺跡^{注2}が存在する。
また、南方には古墳時代～平安時代の集落跡である森川原遺跡^{注3}がある。杉江集落の北端には式内小津神社^{注4}が存在する。

（氏丸）

3 調査の経過

現地調査は、遺構・遺物の有無を確認することを目的とし、用水路埋設予定地点にトレント（各幅1m×長さ3m）を計46ヶ所設定した。

調査は層序に配慮しながら遺物・遺構の調査につとめ、工事レベル深度の1mまで掘削することを原則とした。トレントの配置間隔については20m毎に設定し、遺構の存在が確認されたトレントについては拡張することにした。掘削後は、断面及び平面において観察・実測・写真撮影を行なった。

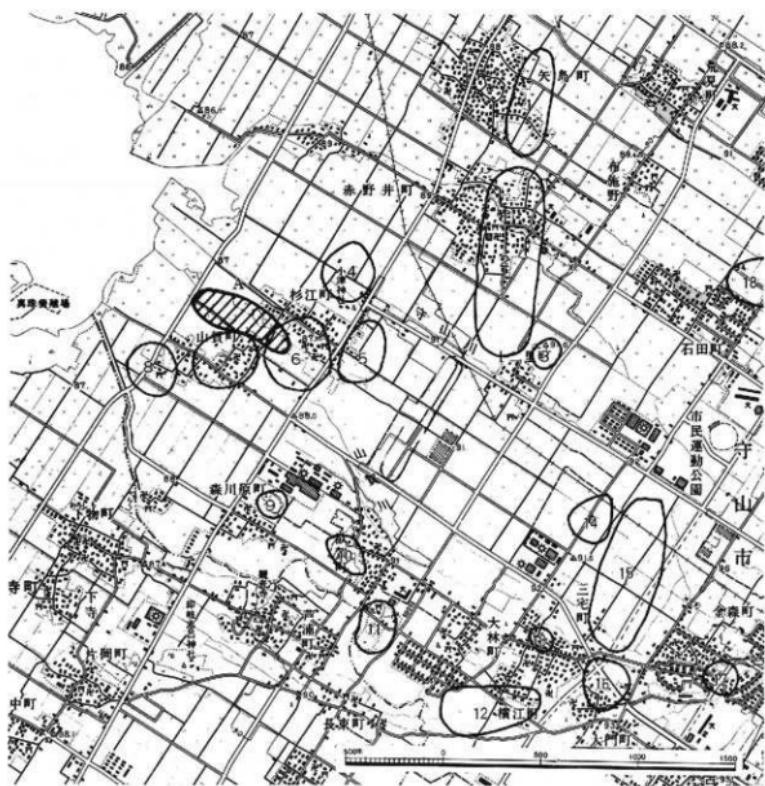
（氏丸）

4 調査の結果

遺構が確認されたトレントは、5本である。各トレントとも幅1m×長さ5m以上の細長いトレントのため、遺構間の関係等については明確にし得なかった。

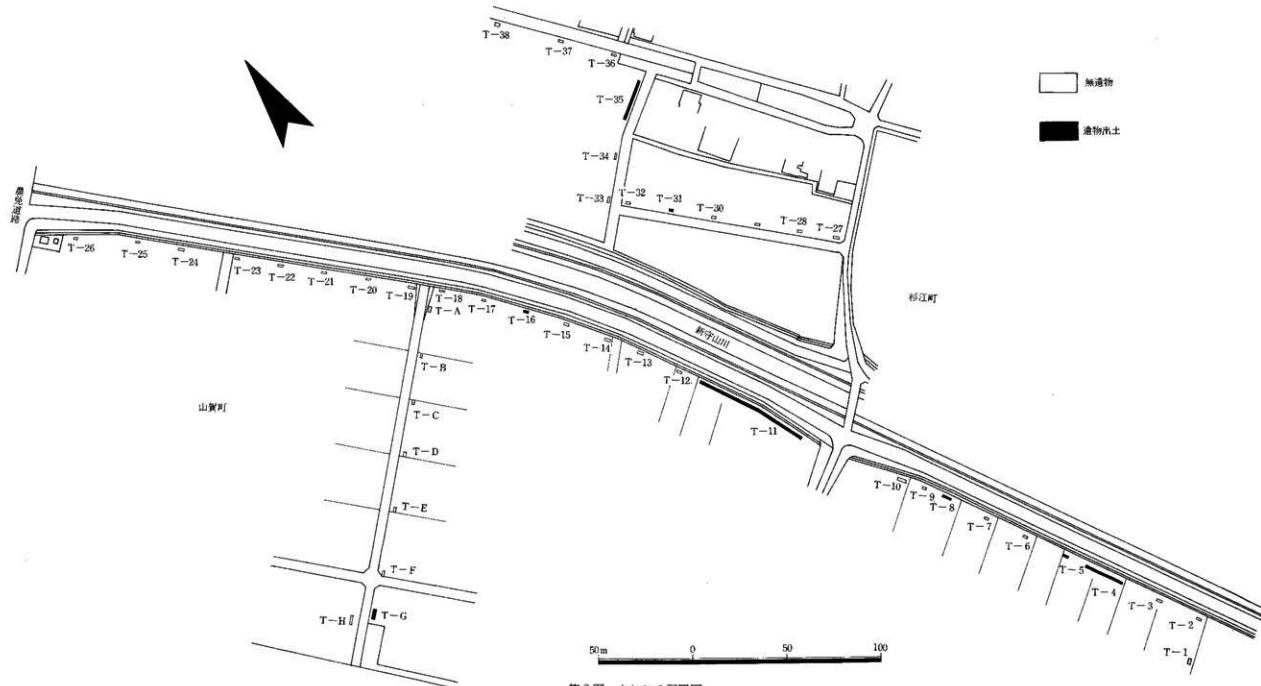
尚、トレントの名称は第2図の通りである。以下、各トレントごとの概略を記す。

（4トレント）

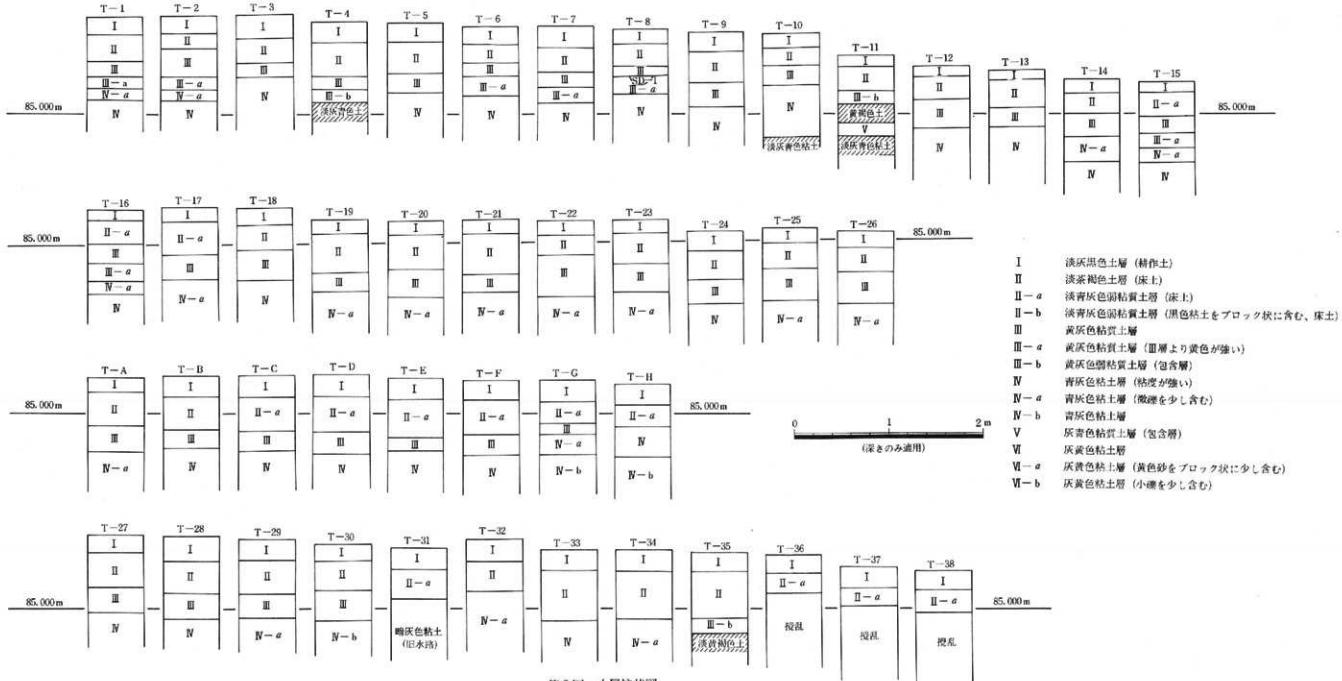


1. 寺中遺跡 6. 杉江遺跡 11. 欲曾遺跡 16. 大門遺跡
 2. 赤野井遺跡 7. 山賀遺跡 12. 橫江遺跡 17. 金森遺跡
 3. 狐塚遺跡 8. 山賀西遺跡 13. 薬師堂遺跡 18. 石田遺跡
 4. 杉江北遺跡 9. 神川原遺跡 14. 三宅北遺跡 A. 山賀・杉江遺跡
 5. 杉江東遺跡 10. 欲曾南遺跡 15. 金森西遺跡 (今回の調査区)

第1図 遺跡位置図



第2図 トレンチ配置図



第3図 土層柱状図

1m×22mのトレンチを設定した。検出した遺構は、溝3条、土壙3基、ピット2基である。

S D-1

トレンチの南端に位置し、トレンチに直交し、北東—南西に延びる溝である。埋土は、灰褐色粘質土。深さ約10cmを測る。溝内より、須恵器の杯身・杯蓋が出土している。

（8トレンチ）

1m×5mのトレンチを設定した。検出した遺構は、溝1条である。

S D-1

トレンチ中央部に位置し、トレンチに直交し、北東—南西に延びる溝である。埋土は、淡黒色粘土。深さ約15cm。溝内より布留式土器の高杯の脚部が出土している。

（10トレンチ）

1m×5mのトレンチを設定した。検出した遺構は、溝1条である。

S D-1

トレンチ南端に位置し、トレンチに直交し、北東—南西に延びる溝である。掘削深度が約1mであったので未掲。埋土は淡黒色粘土。

（11トレンチ）

1m×62mのトレンチを設定した。遺構面が2時期あり、第一次遺構面の遺構密度は非常に高い。

（第一次遺構面）

検出した遺構は、溝9条、土壙9基と多数のピットである。埋土は、すべて灰褐色土。

S D-1

トレンチ南端に位置し、トレンチに直交し、北東—南西に延びる溝である。深さ約20cmを測る。溝内より土師器の大皿が出土している。

S D-2～5

トレンチのほぼ中央部に位置する。溝は、トレンチに直交して北東—南西に延び、深さ約15cmを測る。溝内より土師器片が出土している。

S D-6～8

トレンチの中央部に位置し、トレンチに直交し、北東—南西に延びる溝である。深さ約15～20cmを測る。溝内より土師器片が出土している。

S K-4

S D-6の東側に隣接し、全形状は把握できないが、検出状況では径約1mの半円形を呈する。深さ約15cmを測る。土壙内より灰釉陶器片が出土している。

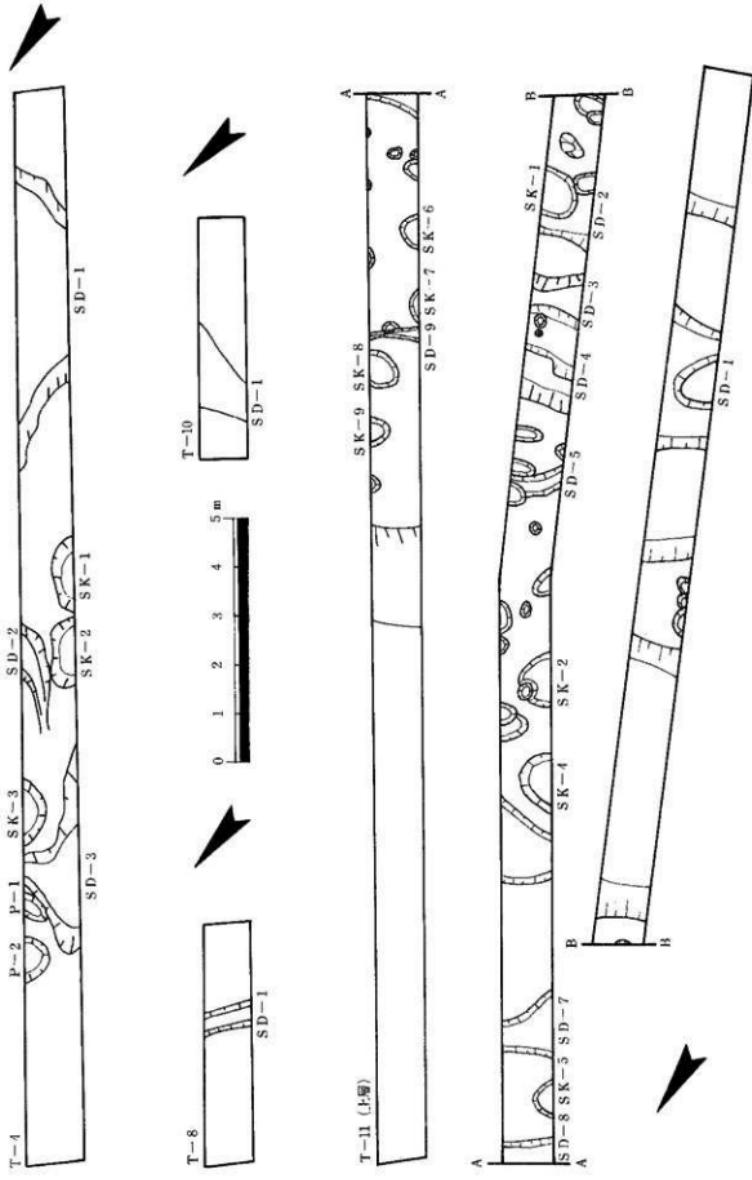
S K-5

S D-7とS D-8の間に位置する。全形状は把握できないが、検出状況では径約80cmの半円形を呈する。深さ約15cm。土壙内より須恵質の鉢が出土している。

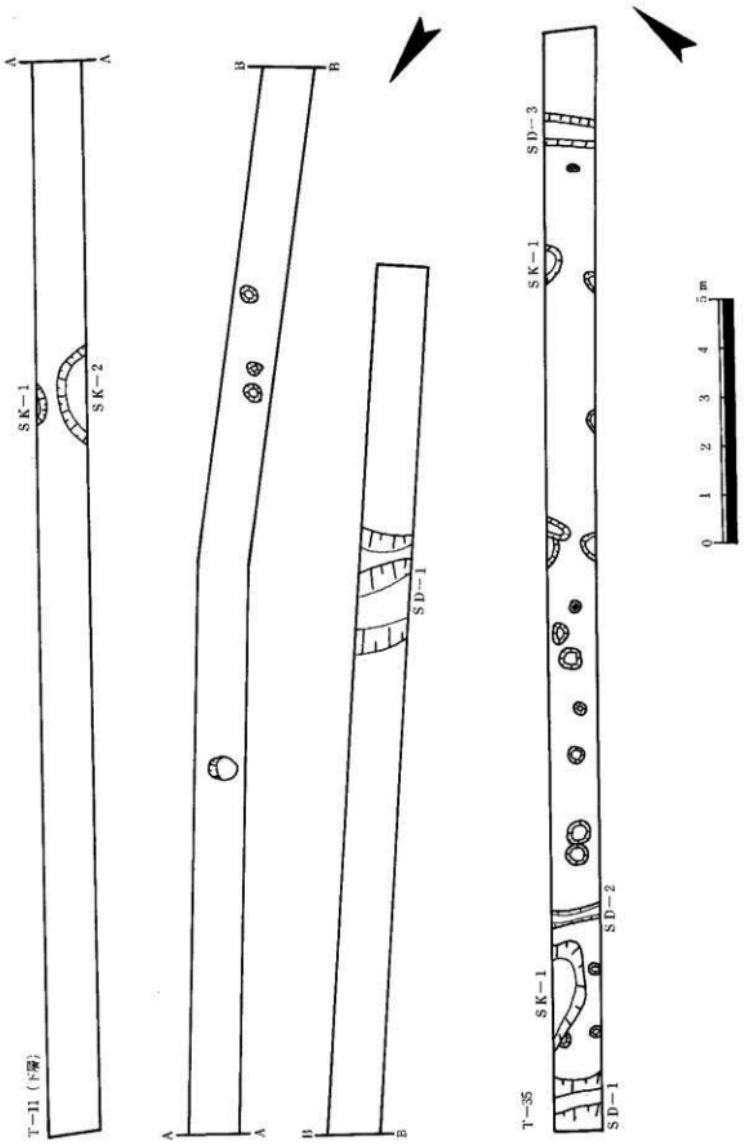
P-1

S K-1の東側に隣接し、径約50cm、深さ約10cmの楕円形を呈す。柱穴内より灰釉陶器片が出土している。
（第二次遺構面）

検出した遺構は、溝1条、土壙2基、ピット4基である。埋土は、すべて灰褐色粘質土。



第4図 4・8・10・11(上層) トレンチ造構平面図



第5図 11(下層)・35トレンチ進捗平面図

S D - 1

トレンチ南端に位置し、トレンチに直交して北東—南西に延びる溝である。深さ約10~20cmを測る。溝内より須恵器の杯身が出土している。

(35トレンチ)

1m×22.5mのトレンチを設定した。検出した遺構は、溝3条、土壙1基、ピット16基である。

S K - 1

S D - 1 と S D - 2 の間に位置する。全形状は把握できないが、検出状況では長辺約2m×短辺約0.8mの隅丸長方形である。埋土は、淡黒色粘質土。深さ約15cmを測る。出土遺物は、古式土師器が大半を占める。その他碧玉製の管玉、土鍤、土玉が出土している。

(氏丸)

5 遺 物

(a) 新守山川左岸

(4トレンチ)

S D - 1 (1・3)は、須恵器の杯身である。底部は平底で、高台は貼り付けている。(3)はやや肉厚。(2)は、須恵器の杯蓋である。復元口径約8.5cmを測る。口縁端部は、下方へ短く屈曲し、端部内面はわずかにふく注⁵れる。陶邑編年では、IV-3~IV-4の範囲におさまるものである。

(8トレンチ)

S D - 1 (4)は、布留式上器の高杯の裾部である。脚柱部から明瞭に屈曲し、大きく外反するタイプである。断面及び内面に粘土の継ぎ目が観察できる。

(11トレンチ)

(第一次遺構面)

S D - 1 (6)は、土師器の大皿である。口径約15cmを測る。口縁端部を丸くおさめ、端部内面に沈線をもつ。底部外面に指頭圧痕が観察できる。

S D - 2 (5)は、復元口径約9cmを測る土師器の皿である。口縁部は、段のナデにより引き起こされ外上方にのびる。端部は丸くおさめる。

S D - 6 (7)は、土師器の皿である。復元口径約10.5cmを測る。口縁部は、段のナデにより引き起こされ外上方にのびる。底部外面に指頭圧痕が観察でき、成形は雑である。

P - 7 (9)は、灰釉陶器の椀の口縁部である。復元口径約13.8cmを測る。口縁部は、小さく外反する。内外面ともナデ調整後、施釉。おそらく漬け掛けであろう。

S K - 2 (8)は、灰釉陶器の椀の底部である。高台は貼り付けで、底部外面に糸切り痕を残す。

S K - 5 (10)は、須恵器の鉢である。復元口径約27cmを測る。口縁部は外方向へのび、端部は下方へ肥厚し、外面は浅い凹面である。

(第二次遺構面)

S D - 1 (11)は、須恵器の杯身である。高台は、ハの字形に聞く短いものを貼付する。陶邑編年では、IV-2段階のものである。

(氏丸・福井)

(b) 新守山川右岸

（35トレンチ）

（1）土器

S K-1 からは、布留式土器が若干出土した。器種は、甕・壺・高环・器台があり、以下器種ごとに、出土土器の説明を加えたい。

甕 総数10点出土しており、最も出土量の多い器形である。しかし、口縁部のみの残存であり、磨滅も著しい為、「口縁部の形態により、大きく2つに分ける。

甕A 無文の受口状口縁を呈する甕で、口縁部の形態によりA-1からA-4に細分する。

A-1 口縁部が直立気味に立ち上がるもの。(12)端部は外方へつまみ出し、水平な面を成す。内外面共横ナデを施す。

A-2 口縁部は上外方へ開き、端部は外方へつまみ出す。(13・14・15)は上端面に水平な面を成し、(16)は上端面に浅い凹面を成す。また(17)は内傾する面を成す。調整は、ほとんど内外面共横ナデを施すが、(13)は体部外面共ハケ調整そして、内面に指圧痕が認められる。

A-3 口縁部が短く外反して立ち上がるもの。(18)端部はわずかに上外方へつまみ出し、端面は内傾する面を成す。

A-4 中位に段を成し、外反して立ち上がり、その度合は弱いもの。(19)口縁端部はつまみ出し、上端面は水平な面を成す。調整は内外面共に横ナデを施す。

甕B 口縁部が「く」字状に外反してのびる甕で、「口縁端部の形態により2種類に分ける。

B-1 口縁端部を丸く納めるもの(20)で、外面ハケ調整、内面ヘラ削り後、ハケ調整を施す。

B-2 口縁部を内側に肥厚させるもの(21)で、内外面共横ナデを施す。

壺 総数6点出土しているが、甕同様、磨滅も著しく、残存部分もさまざまなので、口縁部及び体部の形態で分類した。

小型丸底壺A 小型丸底壺とも称されるもので、口径が腹径をしのぐもの(22)である。口縁部は直線的に上外方へ開き、端部は丸く納める。体部は扁球状をなし、底部は丸底を成すと思われる。口縁部は内外面共横ナデを施し、体部内面にヘラ削りがわずかに認められる。

(23)は同類の底部である。扁球状の体部で丸底を成す。外面は横ナデを施すが、内面は調整不明である。

小型丸底壺B 口縁部が「く」字状に外反するもの(24)で、球状の体部を有すると思われる。体部内面はヘラ削りを施す。

(26)は扁球状の体部を有するもので、外面横ナデ、内面ヘラ削りを施す。

小型丸底壺C 口縁部がほぼ垂直に立ち上がるもの(25)である。口縁端部は尖り気味で、調整は内外面共横ナデを施す。

二重口縁壺 口縁2段目がほぼ垂直に立ち上がるもの(27)で、端部は外側につまみ出され、上端面は水平な面を成す。また、口縁部1段目と2段目の境界が断面三角形の稜を成す。調整は内外面共横ナデを施す。

高杯A 口縁部が直線的に内湾気味にのびるもの(28・29)は、口縁部と杯部の境界が明瞭な稜によって分け

られるものである。2点とも端部は丸く納め、外面は横ナデを施すが、内面は(28)が口縁部と杯部の境界付近のみヘラミガキで、(29)は全面ヘラミガキを施す。

(30)は口縁部と杯部の境界が甘く、丸味を有するもので、端部は丸く納める。内外面共横ナデを施すものである。

高杯B 半球状の杯部でゆるやかに内弯する口縁部をもつもの(31)である。調整は内面横ナデ、外面はヘラミガキを施す。

(32)は脚部で、屈曲して外方へ開く脚部をもち、端部は丸く納める。外面は横ナデを施し、内面には指圧痕が認められる。

器台 1点のみ完形に近い形で出土している。(33)口縁部は上外方へ直線的にび、端部はわずかに外方へつまみ出す。脚部は「ハ」字状に開き、端部は丸く納める。調整は、口縁部内外面共横ナデを施し、脚部は内面にしづり目が認められ、外面はヘラ削り後、横ナデを施したと思われる。

(2) 玉類

管玉 SK-1から1点のみ出土している。(36)碧玉製の管玉で濃緑色を呈している。丁寧なミガキを加えており、ほぼ中央に0.15cm程の円孔を穿つ。

(3) 土製品

土玉 SK-1から1点のみ出土している。(34)上下がややくぼみ、扁球状を成す。手づくね成形され、上下に指圧痕が認められる。用途は不明である。

土錘 SK-1とP-3から1点づつ出土している。(35)は継長のソロバン正状を成し、ほぼ中央に0.5cm程の円孔を穿つ。手づくねにより成形される。

(37)は、中ぶくらみのする円柱状を成し、ほぼ中央に0.3cm程の円孔を穿つ。手づくねにより成形される。

(4) 土器の年代観

今回出土した甕は、「近江系」と称される受口状口縁をもつもの(A類)と、口縁部が「く」字状に外反するものの(B類)に大別できる。

甕A類については、近年その研究が著しい進展をみせ、系譜及び編年的細分についてもさまざまな検討がなされている。そして、弥生時代後期の受口状口縁については、形態及び調査、施文等により、大きくわけて南部と北部で地城色がみられ、庄内式併行期に至って北部が南部の土器変化の歩みの中に入つて行き、今まであった地城色はこの段階でみられなくなる。そして、布留式併行期に至つては、施文が形態化するという変化をたどる。^{注6}

以上のように受口状口縁の甕は、布留式併行期に至るまで弥生時代の伝統を強く残した土器といえよう。

今回は甕A類が8点と少量しか出土していないので、この段階では時期差を求めるることは難しいが、口縁部がほぼ直立するA-1(12)は、庄内式併行期とされる高田遺跡第4層出土の受口状口縁の甕と類似していることから、若干古い様相を示すものと思われる。^{注7}

また、金ヶ森西遺跡A-10に類似するA-4(19)は、口縁部の立ち上がりも甘くなり鈍い段をなすなど、若干新しい様相を示すものと思われる。

注6

注7

甕B-2は、端部も内側に肥厚させる布留式に通有なもので(21)、金ヶ森西造跡、野洲町下緑字造跡^{注9}、鴨田^{注10}造跡等で出土している。

「布留式」と呼ばれる土器群の甕口縁部の特徴は、「内寄する口縁部で端部を内側へ折り曲げて、肥厚さす」ものである。「布留式」に類似する甕を見るなら、①「内寄する口縁部で端部を内側へ折り曲げて肥厚さすもの」②「内寄する口縁部で、端部は上方よりナデて内側へ肥厚さすもの」③「ナデをより強く施す為、肥厚部が端部より下方に位置するもの」④「内寄気味に伸びる口縁部で、端部は面を形成して終るもの」の4つに大別される。①は基本的に「布留式」に一致するものであり、この4類型の内で最古に位置づけられる。②は口縁部の肥厚という意味では①と同値であるが、技法的に本来の肥厚の意味は尖い、①に後出するものと言える。③は②の傾向が、より一層進化したもので、肥厚の意味を失ったものであり、①・②よりも後出的である。④は、さらに③を経て肥厚を失ったものであり、4類型の中で最も新しく位置付ける事が可能である。すなわち、①から④へ^{注11}の変化が認められる。

また、「布留式」甕を縦の時間的変化で把握すると、発志院遺跡神楽III S D-50下層からは、「庄内式」甕と共に出土している。これは、内厚も崩壊的で小さな肥厚状態を示すものである。^{注12}

S D-50中層からは、口縁端部の内厚が非常に顕著であり、その断面が丸く納められる甕が多く出土しておりそれが約75%にもなる。

S D-50上層になると、内厚の度合もS D-50中層出土のものより顕著でなくなり、端部内面に段を有するようになって小さく内厚する。そして出土も50%と少なくなる。

S D-50最下層では「布留式」甕は消滅して、存在しなくなる。

つまり、「布留式」甕は、布留I式で発生して布留II式(古)で主流となり、布留III式で消滅したと言える。

以上のことから、(21)はS D-50中層の甕の特徴を示しており、布留II式(古)と思われる。

二重口縁甕は1点出土しているが、(27)発志院遺跡神楽田S D-50層下出土の甕B₁に類似している。

簡単ではあるが、以上の考察より、SK-1出土の上器は、布留II式(古)段階を中心時期として、その前後布留I式から布留II式の時期に年代観を求めることができる。

(井浦)

6 まとめ

各トレンチの遺構の時期は、8トレンチ・35トレンチは庄内～布留併行期、4トレンチ・11トレンチ第二次遺構面は7～8世紀、11トレンチ第一次遺構面は、11～12世紀に求められる。

調査の結果当該地に古墳時代～平安時代にかけての複合遺跡が存在することが確認できた。35トレンチの土壤より出土する古式土師器の一部資料は当該地周辺のまとまりある資料といえる。

用水路埋設レベルのアップによって、遺構の破壊の可能性ができるかぎり免れる措置がとられた。今後の本格的な調査に期待したい。

(氏丸)

注

- 1 山崎秀二 「守山市赤野井遺跡」 (『は場整備関係遺跡発掘調査報告書』 IV-1) 滋賀県教育委員会、財滋賀県文化財保護協会 1977年)

- 山崎秀二・谷口徹 「守山市赤野井遺跡」 (『は場整備関係遺跡発掘調査報告書』 V 滋賀県教育委員会、財滋賀県文化財保護協会 1978年)
- 2 小竹森萬子 「守山市杉江北遺跡」 (『県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書』 II-4 滋賀県教育委員会、財滋賀県文化財保護協会 1985年)
- 3 山崎秀二 「守山市山賀西遺跡」 (『は場整備関係遺跡発掘調査報告書』 V 滋賀県教育委員会、財滋賀県文化財保護協会 1978年)
- 4 木戸雅寿 「守山市森川原遺跡」 (『県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書』 II-4 滋賀県教育委員会、財滋賀県文化財保護協会 1985年)
- 5 中村浩 「陶邑 I ~ V』 (大阪府教育委員会 1976~83年)
- 6 中西常雄 「近江における變形土器の動向—庄内期を中心として—』 (考古学研究125 1985年)
- 7 宮成良佐 「高田遺跡調査報告書』 (長浜市教育委員会 1980年)
- 8 大橋信弥ほか 「余ヶ森西遺跡発掘調査報告書』 (滋賀県教育委員会、財滋賀県文化財保護協会 1980年)
- 9 大橋信弥・別所健二・谷口徹 「野洲川下線子遺跡 E・S地区』 (『は場整備関係遺跡発掘調査報告書』 IV-1, 滋賀県教育委員会、財滋賀県文化財保護協会 1977年)
- 10 中谷雅治ほか 「鶴田遺跡』 (『国道8号線長浜バイパス開通遺跡調査報告書』 III 滋賀県教育委員会、財滋賀県文化財保護協会 1973年)
- 11 吉水真彦 「滋賀里・六太地区遺跡群発掘調査報告書』 III (『大津市埋蔵文化財調査報告書(10)』 大津市教育委員会 1985年)
- 12 藤井利幸ほか 「発院遺跡』 (『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告書』 第41号 奈良県立橿原考古学研究所 1980年)

遺物 番号	器種	出土地点	法量	口縁部	体部	底部	色調	胎土
実測 図版	型式	出土層位	(単位cm)	(杯部)		(脚部)		
写真 図版			復元値					
No12	壺	SK-1	※口径12.7	●受口 立て端部は つまみ出し 水平な 面を成す ○内外面共横ナデ			淡茶褐色	細砂多量 含有
	A-1							
No13	壺	SK-1	※口径13.5	●受口 上外方へ開く 端部はつまみ出し 水平な面を成す ○内外面共横ナデ	○外面ハケ調整 ○内面指痕		淡茶褐色	細砂多量 含有
	A-2-a							
No14	壺	SK-1	※口径15.8	●受口 上外方へ開く 端部はつまみ出し 水平な面を成す ○内外面共横ナデ			淡茶褐色	細砂多量 含有
	A-2-a							
No15	壺	SK-1	※口径13.4	●受口 上外方へ開く 端部はつまみ出し 水平な面を成す ○内外面共横ナデ			淡茶褐色	細砂多量 含有
	A-2-a							
No16	壺	SK-1	※口径13.7	●受口 上外方へ開く 端部はつまみ化し 浅い凹面を成す ○内外面共横ナデ			淡茶褐色	細砂多量 含有
	A-2-b							
No17	壺	SK-1	※口径13.4	●受口 上外方へ開く 端部はつまみ出し 内傾する面を成す ○内外面共横ナデ			淡茶褐色	細砂多量 含有
	A-2-c							
No18	壺	SK-1	※口径10.9	●受口 短く外反端 部はつまみ出し内 傾する面を成す ○内外面共横ナデ			淡茶褐色	細砂多量 含有
	A-3							

遺物番号 実測版 写真 図版	器種 型式	出土地点 出土層位 （単位cm）	法量 ※復元値	口縁部 (杯部)	体部	底部 (脚部)	色調	胎土
No19	甕	A-4	口径12.4	●「く」字状に外反 端部は丸く納める ○外面指圧痕	●受口 中位に段を成 し外反 端部はつま み出し 水平な面を 成す ○内外面共横ナデ		淡茶褐色	細砂多量 含有
No20	甕	B-1	口径10.3	●「く」字状に外反 端部は丸く納める ○内外面共横ナデ	●「く」字状に外反 端部は丸く納める ○内外面共横ナデ	○外面ハケ調整 ○内面ヘラ削り後ハケ 調整	淡茶褐色	細砂多量 含有
No21	甕	B-2	口径13.9	●「く」字状に外反 端部は内側に肥厚 ○内外面共横ナデ	●「く」字状に外反 端部は内側に肥厚 ○内外面共横ナデ		赤褐色	細砂多量 含有
No22	小型丸 底蓋A	SK-1	口径13.0	●直線的に上外方へ開 く 端部は丸く納め る ○内外面共横ナデ	●直線的に上外方へ開 く 端部は丸く納め る ○内外面共横ナデ	●扁球状 ○内面ヘラ削り	淡茶褐色	細砂多量 含有
No23	小型丸 底蓋 底部	SK-1	腹径16.7 底径 1.6	●「く」字状に外反 ●直立 端部は尖らせ	●「く」字状に外反 ●直立 端部は尖らせ	●扁球状 ○外面横ナデ ○内外面共横ナデ	赤褐色	良好
No24	小型丸 底蓋B	SK-1		●直立 端部は尖らせ ○内外面共横ナデ	●球状 ○内面ヘラ削り		淡茶褐色	細砂多量 含有
No25	小型丸 底蓋C	SK-1	口径 6.0	●直立 端部は尖らせ ○内外面共横ナデ	●直立 端部は尖らせ ○内外面共横ナデ		淡茶褐色	細砂少量 含有
No26	小型丸 底蓋 体部	SK-1	腹径10.5		●扁球状 ○外面横ナデ ○内面ヘラ削り		茶褐色	細砂少量 含有

遺物番号 大測定図版写真図版	器種	出土地点	法量 (単位cm) ※復元値	口縁部 (杯部)	体部	底部 (脚部)	色調	胎土
No.27 二重口	SK-1	東	口径19.8	●2段口が直立 端部 はつまみ出し 水平 な面を成す ○内外面共横ナデ			灰褐色	細砂少量 含有
No.28 高杯	SK-1	東	口径18.0	●直線的に内湾 端部 は丸く納める ○外面横ナデ ○内面ヘラミガキ			内面灰褐色 色 外面淡茶 褐色	良好
No.29 高杯	SK-1	東	口径14.0	●直線的に内湾 端部 は丸く納める ○外面横ナデ ○内面ヘラミガキ			淡赤褐色	良好
No.30 高杯	SK-1	東	口径16.8	●丸味を有する 端部 は丸く納める ○内外面共横ナデ			淡茶褐色	細砂少量 含有 内面土質 付着
No.31 高杯B	SK-1			●半球状でゆるやかに 内湾 ○外面ヘラミガキ ○内面横ナデ			赤褐色	良好
No.32 高杯	SK-1	東 (脚部)	脚径13.4		●肩曲して外方へ開く 端部は丸く納める ○外面横ナデ ○内面指压痕		外面赤褐色 色 内面淡赤 褐色	良好
No.33 器台	SK-1	東	口径 9.6 脚径 11.0 器高 7.3	●直線的に上外方への びる 端部はわずか につまみ出す ○内外面共横ナデ		●「ハ」字状に開く 端部は丸く納める ○外面ヘラ割り後横ナ デ		

遺物 番号 実測 図版 写真 番号	器種 型式	出土地点 出土層位	法量 (単位cm)	口縁部	体 部	底 部	色 調 胎 土
				(杯 部)	(脚 部)	(内面)内面しほり日	

遺物 番号 実測 図版 写真 番号	器種 型式	出土地点 出土層位	法量 (単位cm)	形 態		成 形		色 調 胎 土
				○扁球状を成す	○手づくね 上下に指圧痕	○手づくね	○ミガキ	
No34	土玉	SK-1	径 2.2 器高 2.8	○扁球状を成す 中央部に 0.5cm 程の円孔を穿 つ				灰褐色 細砂少量 含有
No35	土錠	SK-1	径 1.6 器高 2.8	○綫長のソロバン玉状を成す 中央部に 0.5cm 程の円孔を穿 つ	○手づくね			淡灰色 細砂少量 含有
No36	管玉	SK-1	径 0.4 器高 1.6	○円柱状を成す 中央部に 0.1 5mm 程の円孔を穿つ		○ミガキ		墨緑色 碧玉製
No37	土錠	P-3	径 0.9 器高 2.9	○中ぶくらみする円柱状を成す 中央部に 0.3cm 程の円孔を穿 つ	○手づくね			赤褐色 良好

(井浦)

第5章 木部遺跡

1. はじめに

本報告は、野洲都中主町で施行される県営ほ場整備中主地区比留田工区の暗渠排水事業に伴って昭和60年度に実施した、試掘調査の結果をまとめたものである。

木部遺跡は、中主町木部・比留田一帯に広がる大集落跡で、昭和49年秋、ほ場整備事業が実施された際発見され、その後湖南中部流域下水道工事に伴って、天神前地点の調査が実施されたほか、昭和58・59年度に、暗渠排水事業に伴う調査が実施され、その範囲・性格が明らかになった。本年度は工事が比留田工区に移ったが、木部遺跡の北端がのがびているとみられるため、事前に試掘調査を実施することになった。

調査は、財団法人滋賀県文化財保護協会埋蔵文化財調査三係長大橋信弥を担当者として、昭和60年7月8日から7月19日、10月14日から11月22日までの二次にわたって現地調査を実施し、昭和61年3月31日まで整理調査を実施した。

現地調査にあたっては、草津県事務所土地改良課、中主町土地改良区、地元比留田の方々の協力を得たほか、川立技司、佐藤久美子、窪野聖治、北野英輔、中島照幸、小林辰弥、西村友博、清水多恵子、安岡扶紀、伊藤恭子の諸君が参加した。記して謝意を表したい。

2 調査の方法

昨年度の調査が、長期化し工事と並行することになったため、本年度は、7月に設計変更のための予備調査を実施し、10・11月に変更計画にもとづき試掘調査を実施することとした。予備調査は、工事対象地の9ヶ所に試掘坑をあけ、遺構の存否・深さを検討し、試掘調査では、暗渠埋設予定地の72ヶ所に、幅1m、長さ2mの試掘坑を設定して、設計変更の検証を行った。

3 調査の結果

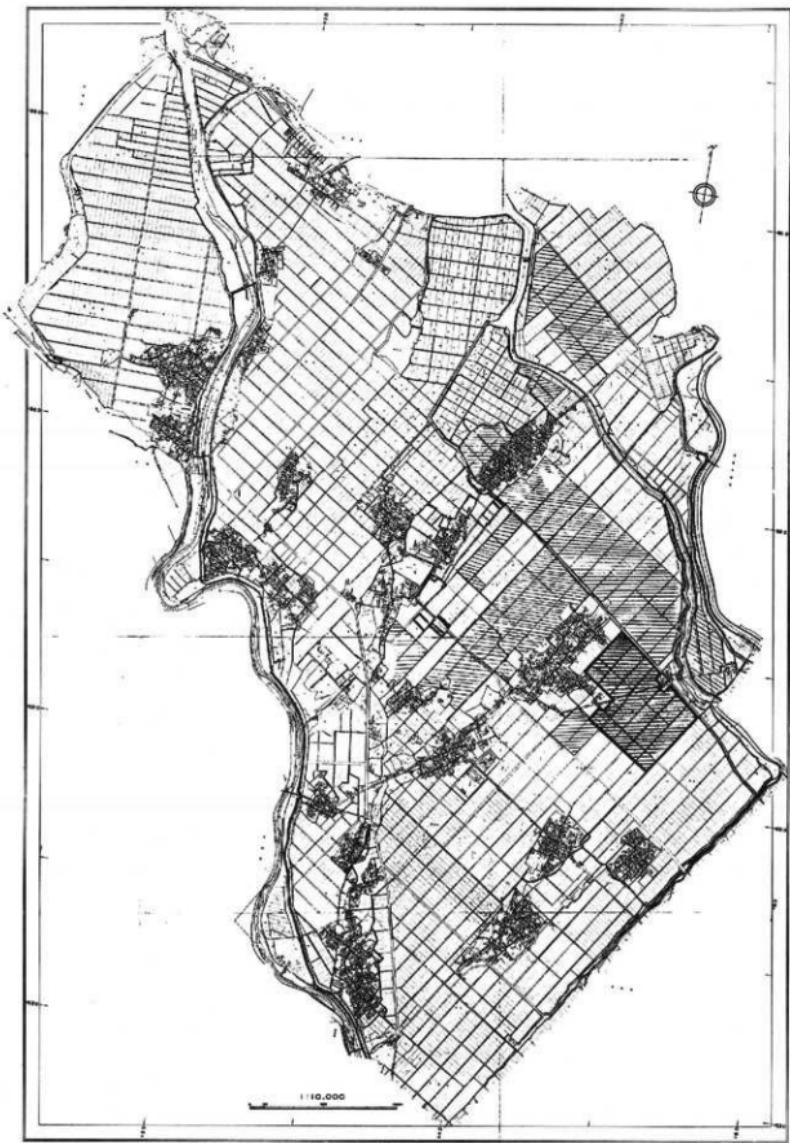
予備調査によって、現地表下50cm前後に遺物包含層・遺構面のあることが判明したため、この地区については、設計変更のうえ、深さ40cmで工事施行が確定した。そこで実際にかかる変更により、遺構保存に支障あるかなしかを検証すべく、試掘調査を実施した。次に、明瞭に包含層・遺構面の確認できた試掘坑について、概要を述べることにしたい。

T-2

耕土は12~18cm、その下に灰青色粘土が6~14cm、その下に灰青褐色粘土が16~19cm堆積し、その下の茶褐色(黄灰色)粘質土に、須恵器破片がかなり含有されていた。したがって、ここではA地点で地表下43cm、C地点で地表下42cmで、遺物包含層に達することが判明した。

T-13

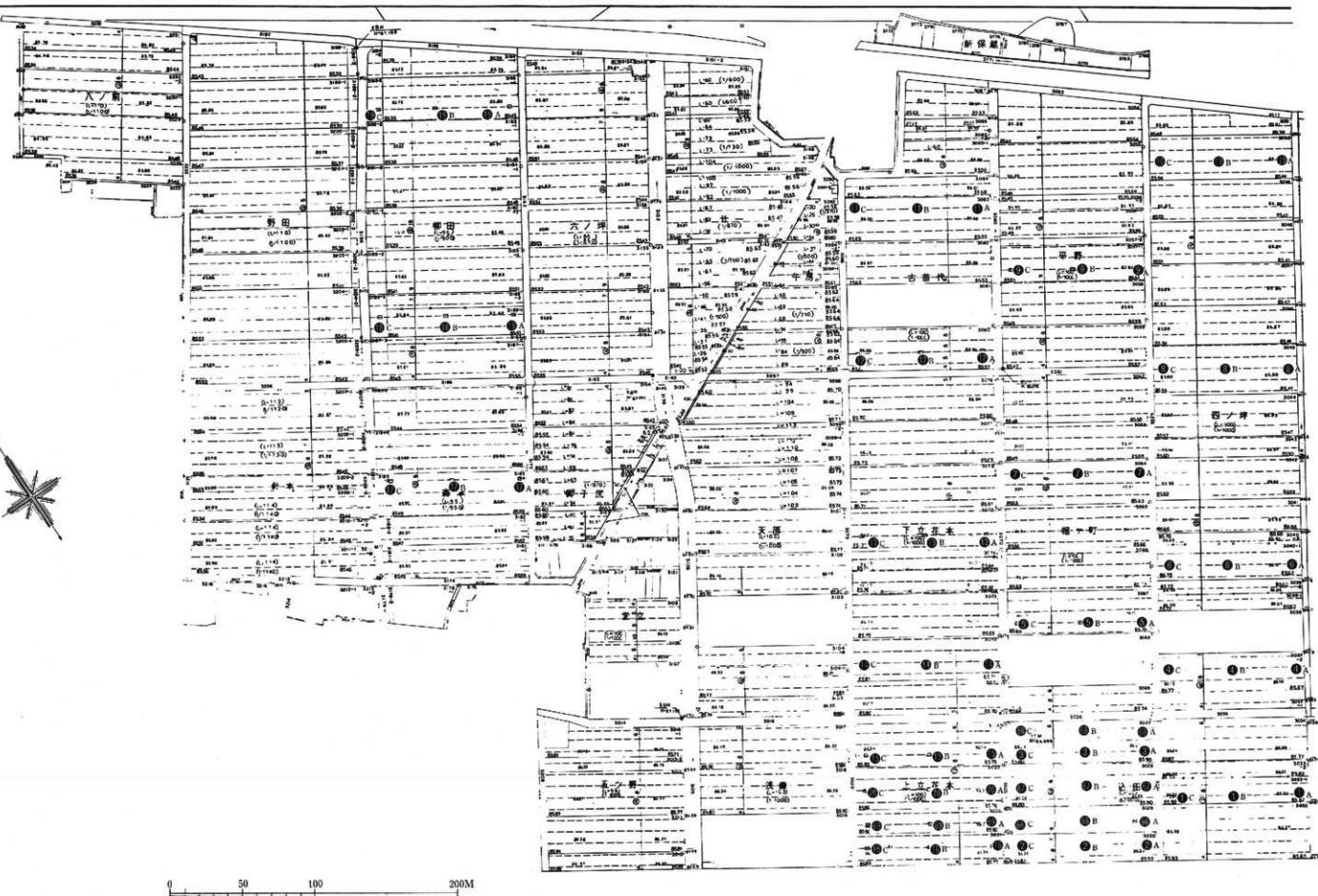
耕土は11~21cm、青灰褐色粘土が10~11cm、暗青灰褐色粘土が12cm、A地点ではその下の青灰色粘土には、須



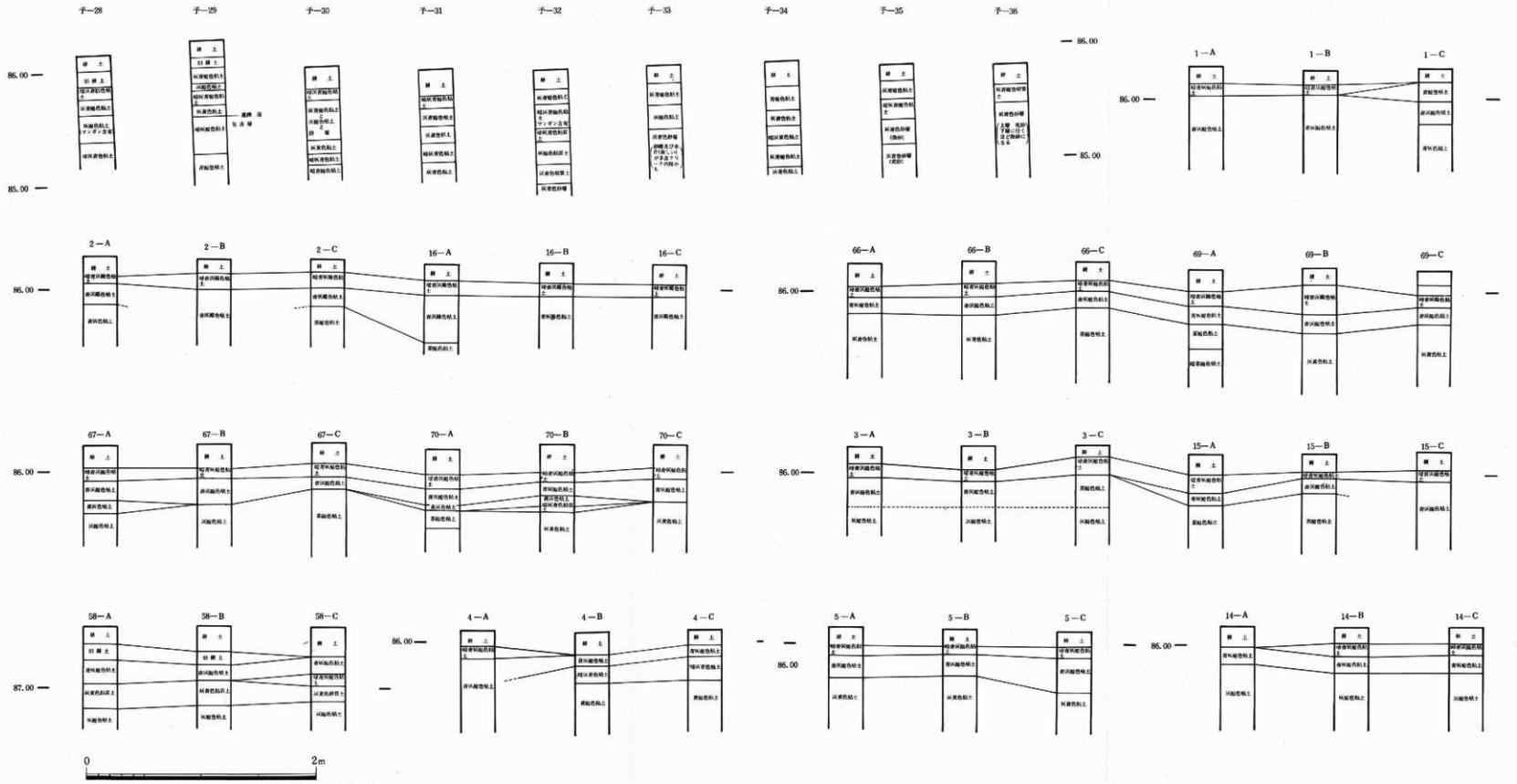
第1図 位 計 図



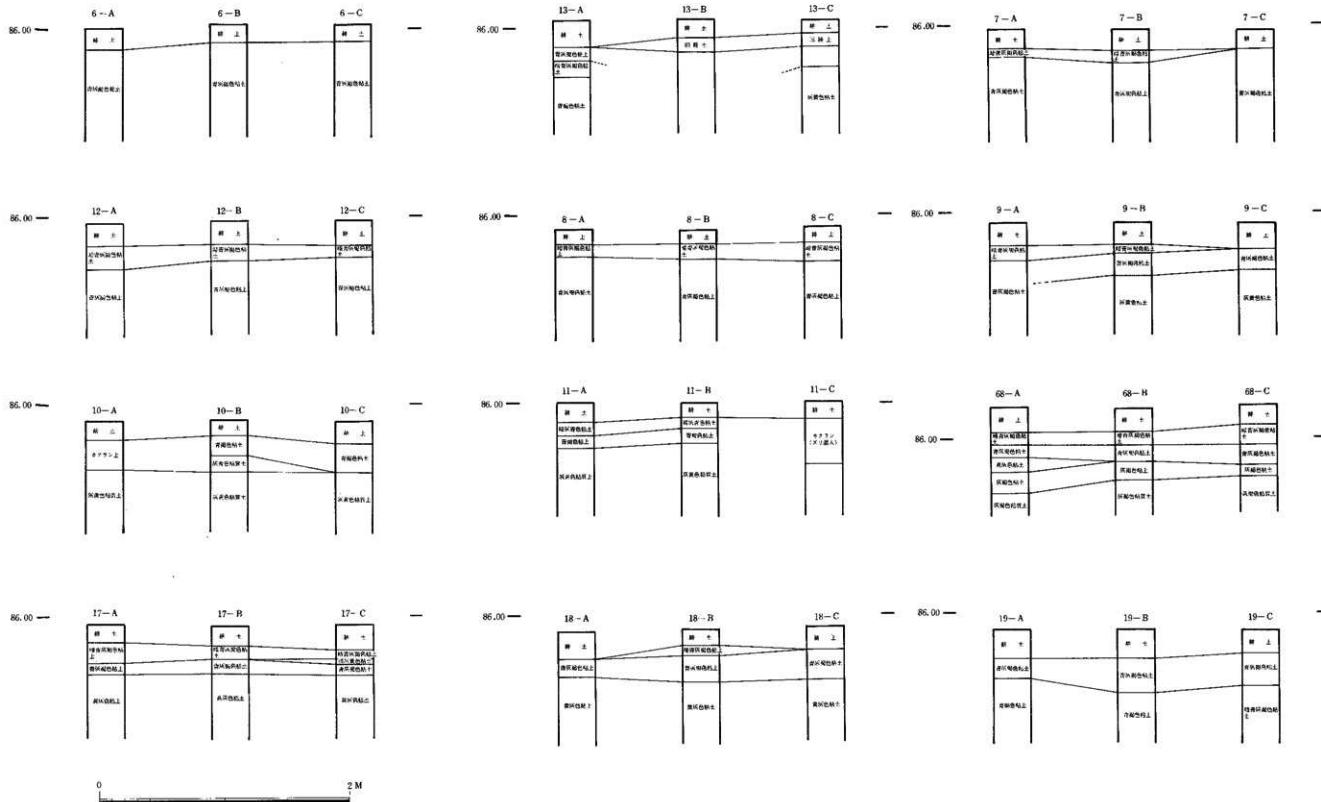
第2図 予備調査試掘坑設定図



第3図 木部道路試掘坑設定図



第4図 試掘坑柱状断面図(1)



第5図 試験坑柱状断面図(2)

須恵器・土師器小破片が含まれていた。遺物包含層というより、沼沢地状のものか。

T-15

耕土は16~18cm、暗青灰褐色粘土が6~16cm、青灰褐色粘土が11~13cm堆積し、その下の茶灰褐色粘質土（地表下45cm）に、須恵器・土師器が多く含まれていた。

T-16

A~C地点とも、耕土が15~18cm、暗青灰色粘質土が、10~13cmあり、その下40cm前後に青灰褐色粘土が厚く堆積、その下（地表下76cm）から遺物包含層が検出された。

T-68

耕土は16~20cm、暗青灰褐色粘土が8~11cm、青灰褐色粘土が13~22cm堆積し、A地点では、その直下に遺物包含層が、B・C地点では、さらに9~15cmの灰褐色粘土をはさみその下に遺物包含層がみられた。包含層は、灰褐色粘質土で、須恵器・土師器を多数含んでいた。

T-69

耕土は12~19cm、暗青灰褐色粘土が13~20cm、青灰褐色粘土が16~17cm堆積し、A地点ではその直下21cmの暗茶褐色粘土に遺物が多く含まれ、その下が安定した造構面とみられる。明確な造構面は、今回の調査では、この地点が唯一であった。

T-70

耕土が20~25cm、暗青灰褐色粘土が8~13cm、青灰褐色粘土が5~10cm、暗灰青色粘土が6~10cm、黄褐色粘土（暗灰青色粘土）が5~9cm、それぞれ堆積し、その直下（地表下50~55cm）から遺物包含層が堆積している。造構面は、そのさらに下層の茶灰色粘土（地表下70cm）とみられる。

以上のように、前年度、造構を比較的浅く検出した地区の延長上の、比留田集落東部において、地表下40~45cmで遺物包含層、地表下60~70cmで造構面が検出され、これに合せて設計変更がなされたため、他の地点では、次年度以降の耕作への支障を考慮し、地表下50~60cm前後で掘り下げを止めため、造構面がさらに深い可能性は残るもの、その追求は断念した、ただ、調査区の東部家棟川に近くなるにつれ、砂質土が卓越し、造構はさらに深くなるが、削平を受けている可能性が強い。

4 出土遺物

出土土器は、大半が須恵器と土師器で、包含層・造構面からの出土品である。小破片が多く、図示し得たのは、3点で、Y_t-1、Y_t-3は須恵器、Y_t-2は黒色土器である。

Y_t-1は、壺蓋で、口径13.5、口縁部は内湾して、端部は内側に凹面をもつ。天井部との境界は、かろうじて認められる。外面ともナデ、天井部外面にケズリが認められる。陶色の形式で、II-6段階のものと考えられ

る。Y_e-3は壺の口縁部で、口径11.6cmをはかり、やや外湾しつつ立ち上がる口頭部は、口縁端部を上方につまみ上げる。内外面ともナデ、一部に自然釉がみられる。陶色の形式でⅢ-2段階とみられる。Y_e-2は、内外面とも磨滅が著しく、調整は不明であるが、黒色土器輪とみられ、口径12.6cmをはかる。おそらく平安時代後期のものであろう。

5 ま と め

今回の調査によって、中主町内の摸点的集落の一つである木部遺跡の北端を確認することができた。ただ、きわめて限定された試掘調査のため、不十分な点も多く、今後の調査研究によって、詳細が明らかにされねばならない。

第6章 比留田遺跡

1 はじめに

本報告は、野洲郡中主町で施行される県営ほ場整備事業、中主地区比留田工区の暗渠排水事業に伴って、昭和60年度に実施した、試掘調査の結果をまとめたものである。

この地域には、從来、遺跡の存在は知られていなかったが、中主町教育委員会による分布調査によって、比留田集落の北に、古墳後期から中世に到る集落跡・野畠遺跡が北西一帯に、同じく古墳時代後期から中世の集落跡とみられる、焼失遺跡の存在が明らかになっているが、その実態はほとんど判明していない。本年度の暗渠工事計画は、両遺跡を含めた広範囲にわたるために、一応比留田遺跡と仮称して、事前に試掘調査を実施することとした。

調査は、財団法人滋賀県文化財保護協会埋蔵文化財調査三係長大橋信弥を担当者として、昭和60年7月8日から7月19日まで、10月14日から11月22日までの二次にわたりて現地調査を実施し、昭和61年3月31日まで整理調査を実施した。

現地調査にあたっては、草津県事務所土地改良課、中主町土地改良区、地元比留田の方々の協力を得たほか、川立長司、内池芳枝、北野英輔、中島照幸、西村友博、角出裕資、高野聖治、小林辰彦、清水多恵子、林成吉、の諸君が参加した。記して謝意を表したい。

2 調査の方法

昨年度の調査のあり方を反省して、本年度は、まず7月に設計以前の予備調査を実施して、10・11月に、設計に基づく試掘調査を実施することで、協議がまとまった。

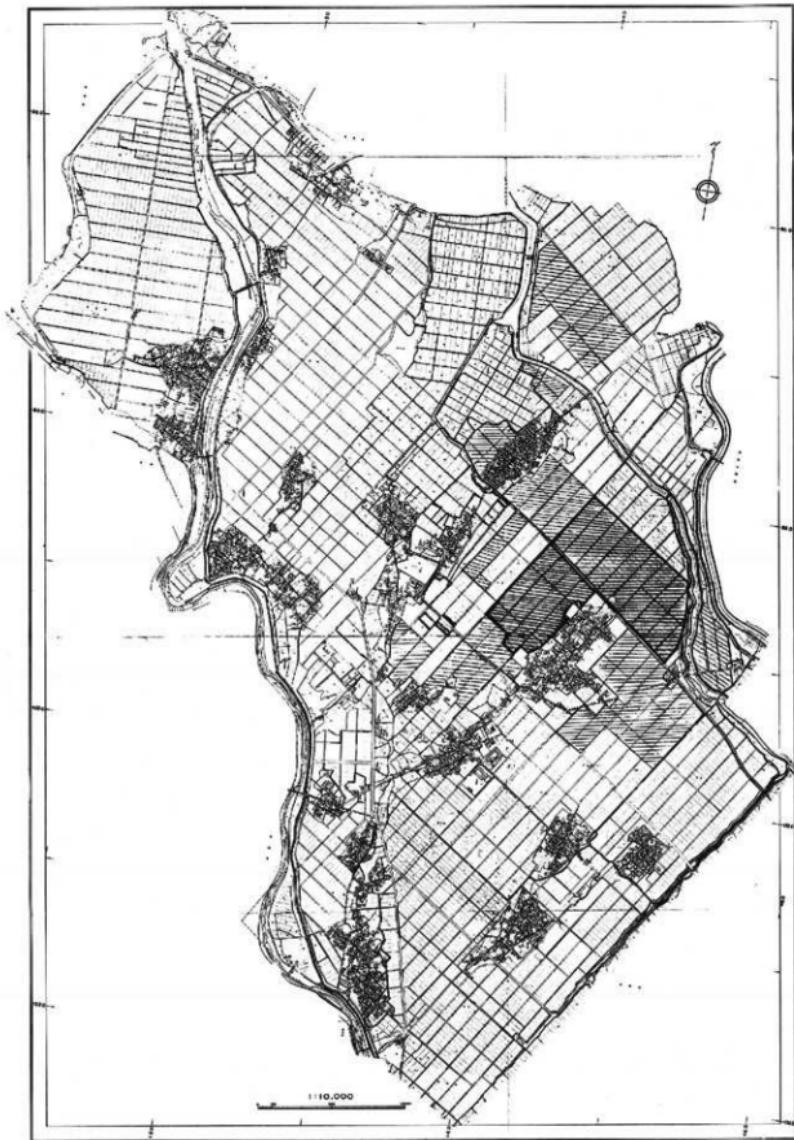
予備調査は、工事対象地に16ヶ所の試掘坑を設け、造構の存否、造構面の深さをさぐることとし、試掘調査では、暗渠埋設予定地に、幅1m、長さ2mの試掘坑を60ヶ所設けて検証することとした。

3 調査の結果

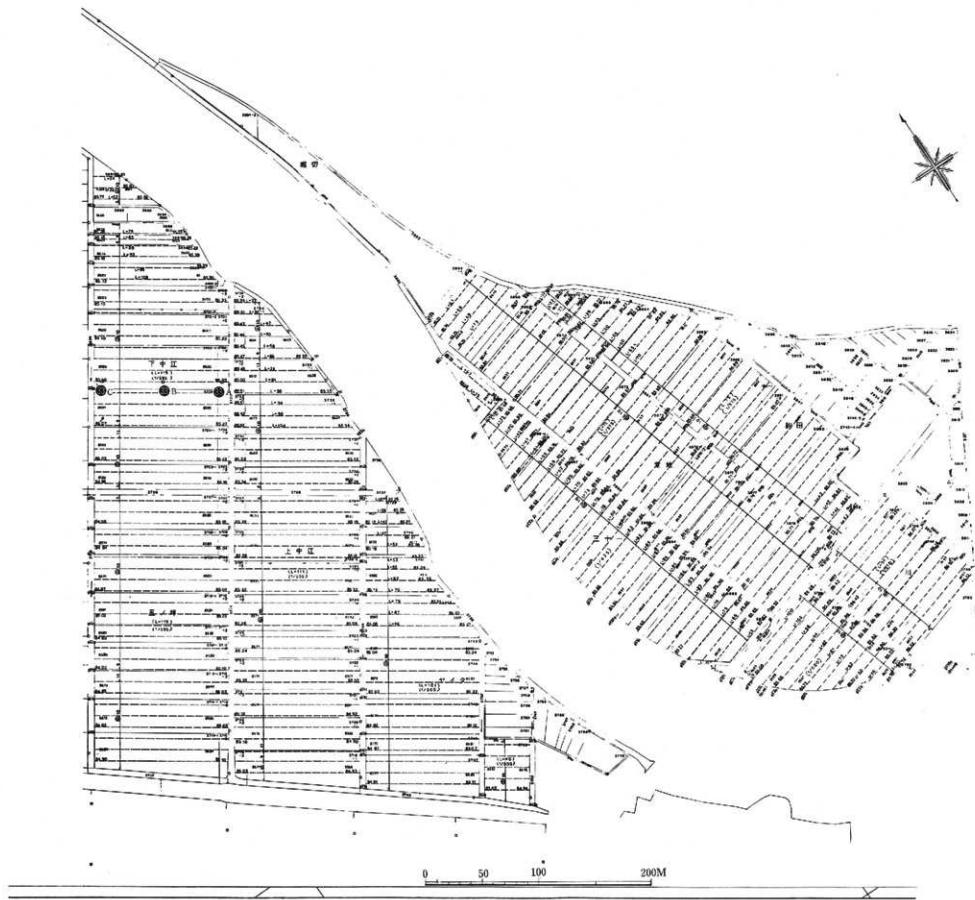
予備調査によって、現地表下90~100cm以内には、造構が存しない可能性が強くなったので、工事計画は、当初通り90cmとして、試掘調査を実施した。その結果、当該地区は、野洲川・家棟川の沖積が著しく、厚く砂質土の堆積がみられ、造構そのものは、かなり深い部分に存在する可能性が大きくなつた。このため、次年度以降の耕作を考慮して、1m以下の掘り下げは断念し、調査を完了した。

4 出土遺物

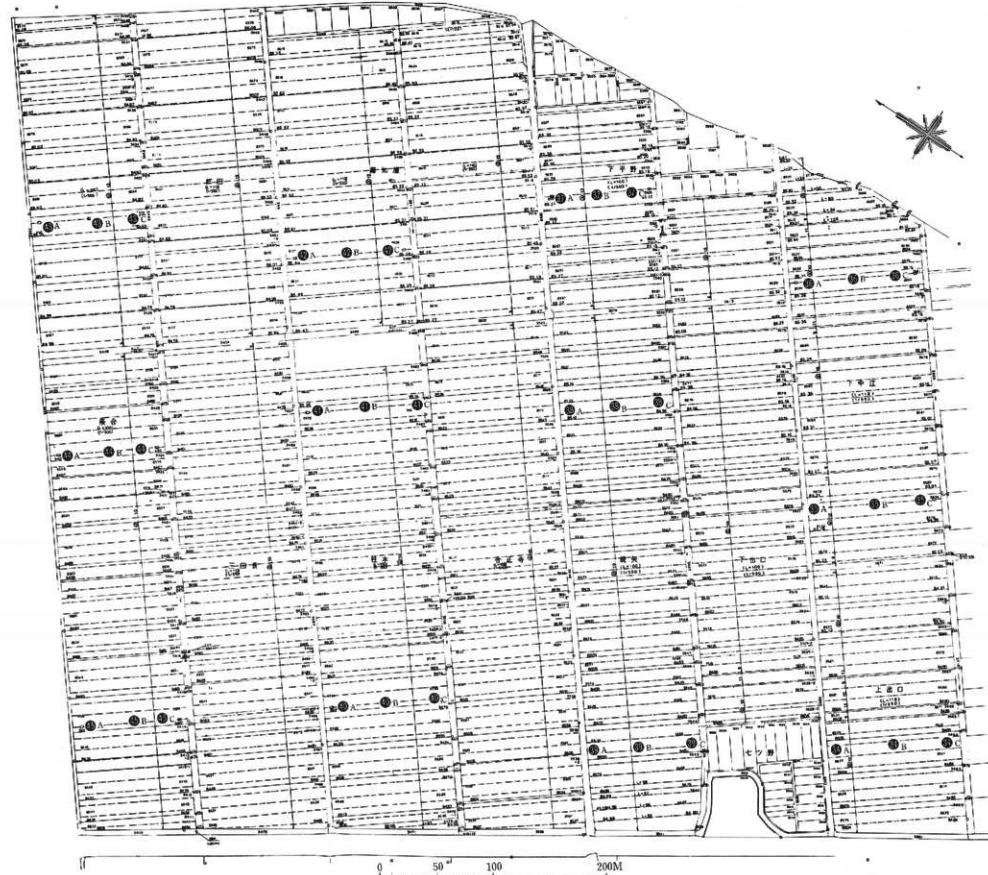
今回の調査で出土した遺物は、いずれも埋土中のもので造構に伴うものなるいが、大半が、近世陶磁片であった。Yc-6は、徳利の底部とみられるもので、底部径12.7cm、黄白色で外面上に乳白色の釉がかかったものである。



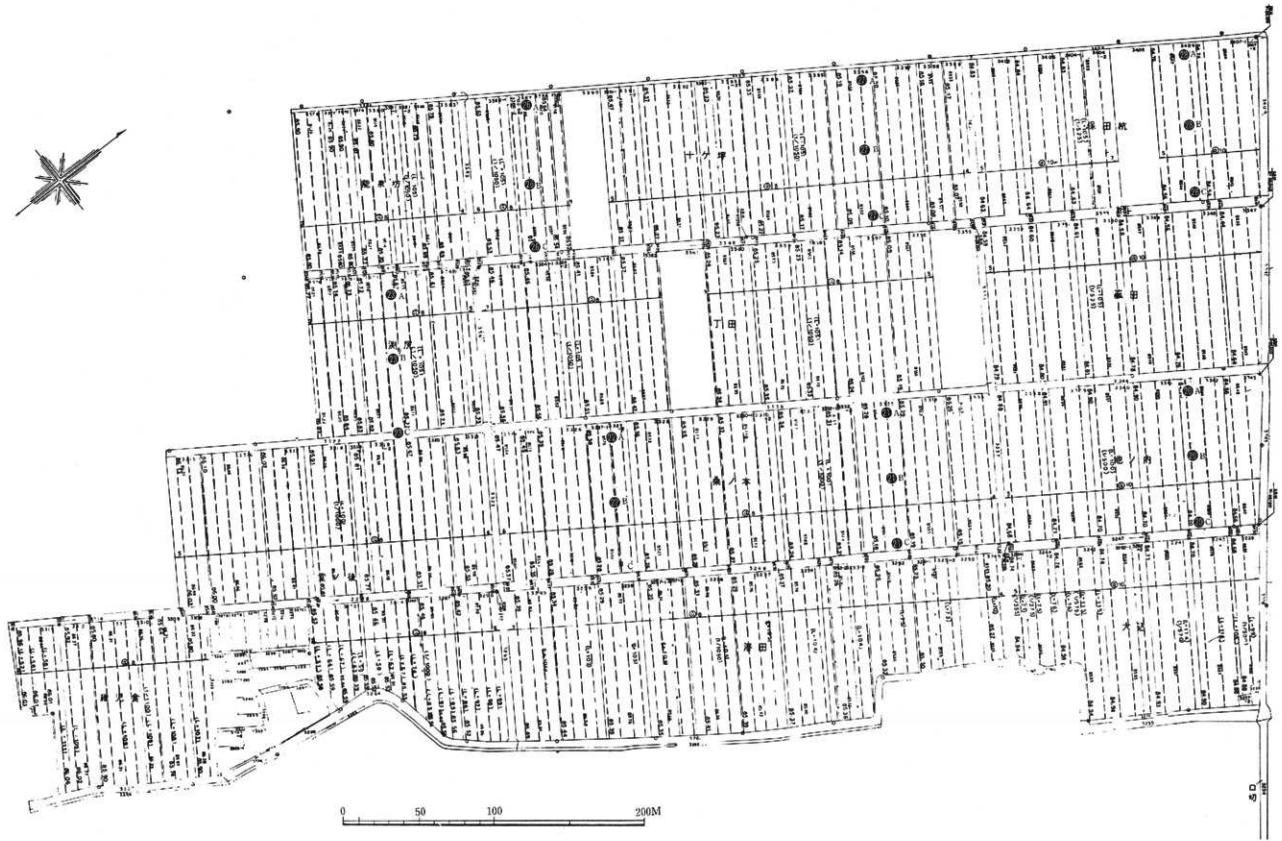
第1図 位 置 圖



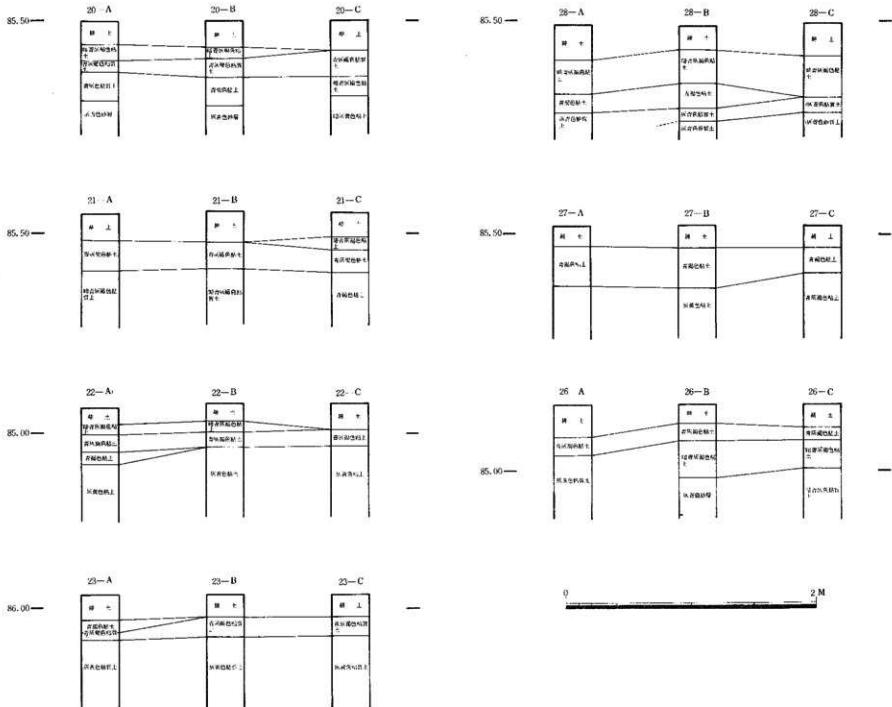
第2図 比留田遺跡試掘坑設定期(1)



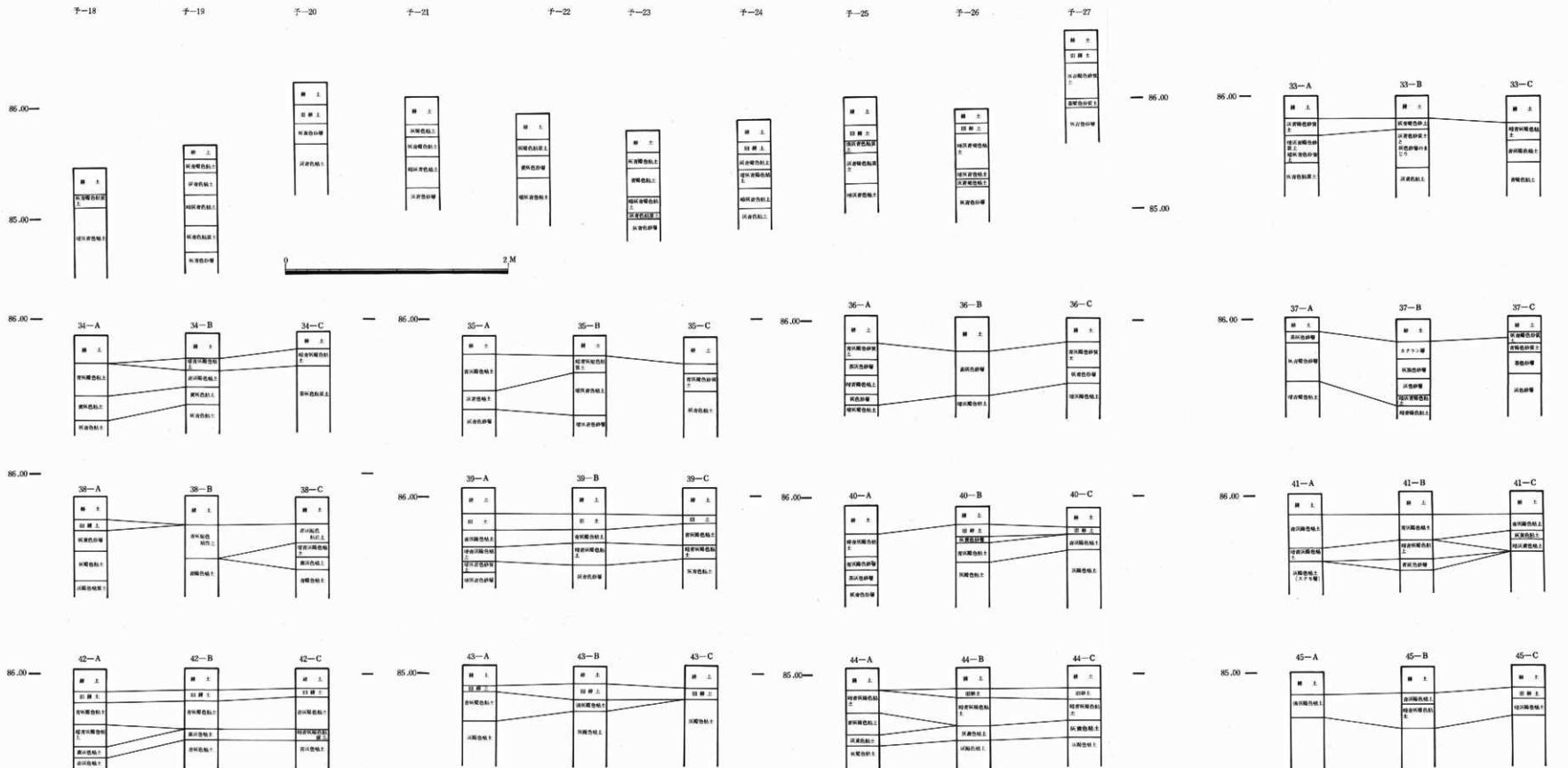
第3図 比留田遺跡試掘坑設定図(2)



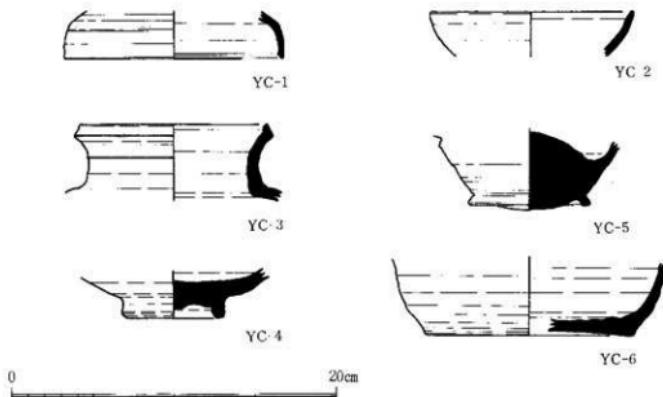
第4図 比留田遺跡試掘坑設定図(3)



第5図 試掘坑柱状断面図(1)



第6図 試掘柱状断面図(2)



第7図 出上遺物実測図 木部道跡(YC-1~3)
比留田遺跡(YC-6)
丘条遺跡(YC 4・5)

5 まとめ

今回の調査では、明瞭な造構・遺物の検出はなかったが、この地域の遺跡が、現地表下1m以下に存在することが明らかとなり、この地域の今後の調査研究に、若干の寄与をなし得たと言える。

第7章 五条遺跡

1 はじめに

本報告は野洲郡中主町で施行される県営は場整備事業中主地区五条工区の暗渠排水事業に伴って、昭和60年度に実施した試掘調査の結果をまとめたものである。

五条遺跡は、兵主大社を中心とし、吉地・六条・五条・安治・野田にまたがる大集落跡で、これまで多くの調査が実施されており、弥生時代中期から近世に到る複合遺跡であるが、その中心は古墳時代後期から奈良時代に求められる。昨年度に引きつづき、本年度は、野田よりと吉地よりの大きく2地点が工事対象地となったため、事前に試掘調査を実施することになった。

調査は、財団法人滋賀県文化財保護協会埋蔵文化財調査三係長大橋信弥を担当者として、昭和60年7月8日から7月19日までと、10月14日から11月22日までの二次にわたって現地調査を実施し、昭和61年3月31日まで整理調査を実施した。

現地調査にあたっては、草津県事務所土地改良課、中主町土地改良区、地元五条の方々の協力を得たほか、川立長司、内池芳枝、北野英輔、中島照幸、立入一道、西村友博、林成吉、佐野峰生、角出裕資、高野聖治、清水多恵子、小林辰弥の諸君が参加した。記して謝意を表したい。

2 調査の方法

昨年度調査が、予想以上に長期化したため本年度は、設計以前の7月に予備調査を実施し、その結果に基づき設計された図面に基づき、10月・11月に試掘調査を実施することとした。

予備調査は工事対象地に17ヶ所の試掘坑を設定し、遺構の存否、深さを検討し、試掘調査は、その結果に基づき、48ヶ所に幅1m、長さ2mの試掘坑を、暗渠排水管埋設予定地に設け検証することとした。

3 調査の結果

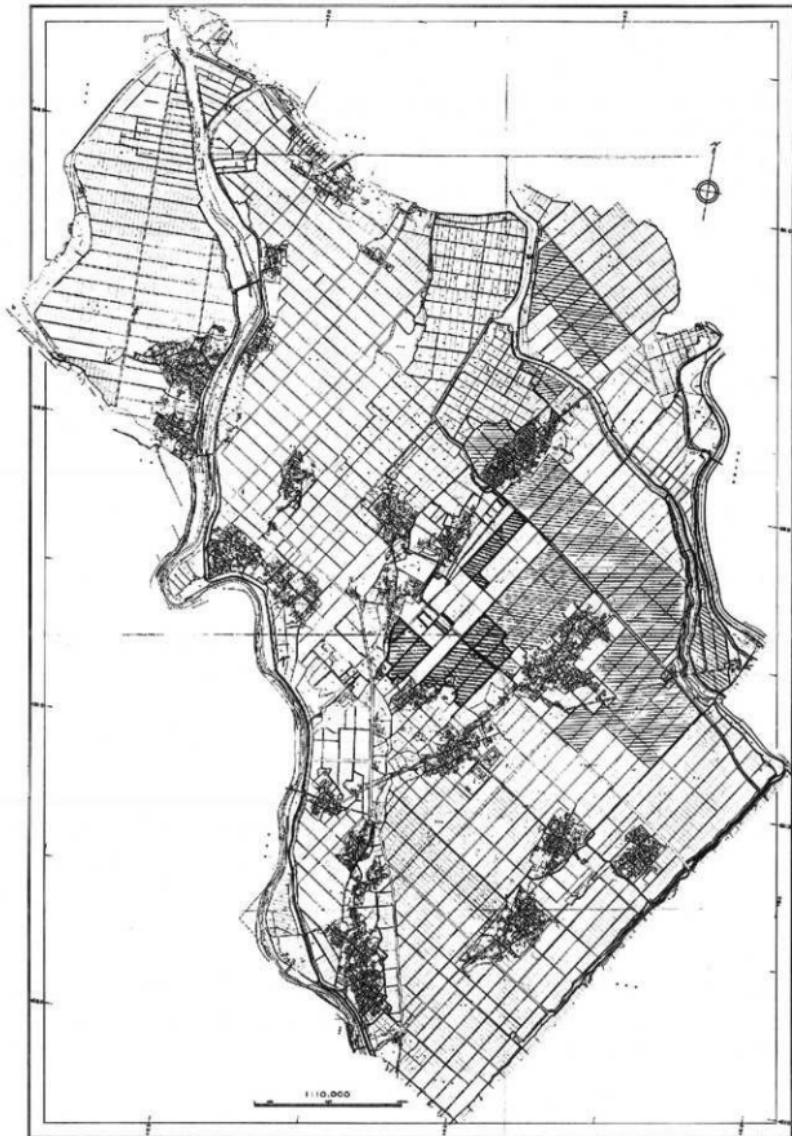
予備調査によって、吉地地区については、地表下50cm前後で遺構・遺物が検出されたため、当初予定を変更して、深さ45cmで工事計画がなされたので、地表下50cmまで、五条地区については、地表下1m前後まで遺構検出がなかったので、予定通り、深さ80cmで工事計画がなされたため、地表下1m前後まで掘り下げて試掘調査を実施した。

予-47

予備調査の47地点は、吉地地区の中央に設置した試掘坑であるが、トレンチの中央で、地表下50cmで溝状遺構を検出した。その層序は、耕土24cm、青褐色粘土20cm、灰青褐色粘土7cmが堆積し、その直下に暗灰青褐色粘土の遺構面が検出され、須恵器小破片が出土した。

T-51

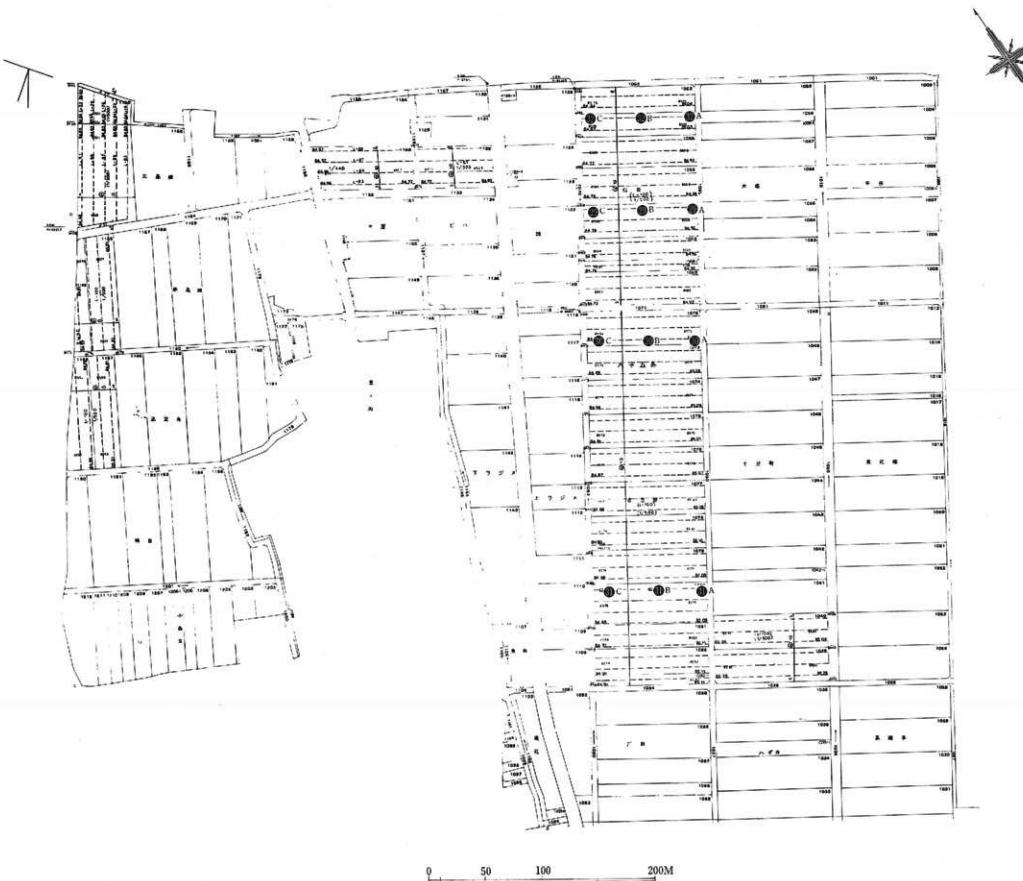
耕土が16~18cm、旧耕土が6~8cm、暗青灰色粘土が14cm堆積し、その直下の青灰褐色粘土が遺物包含層であ



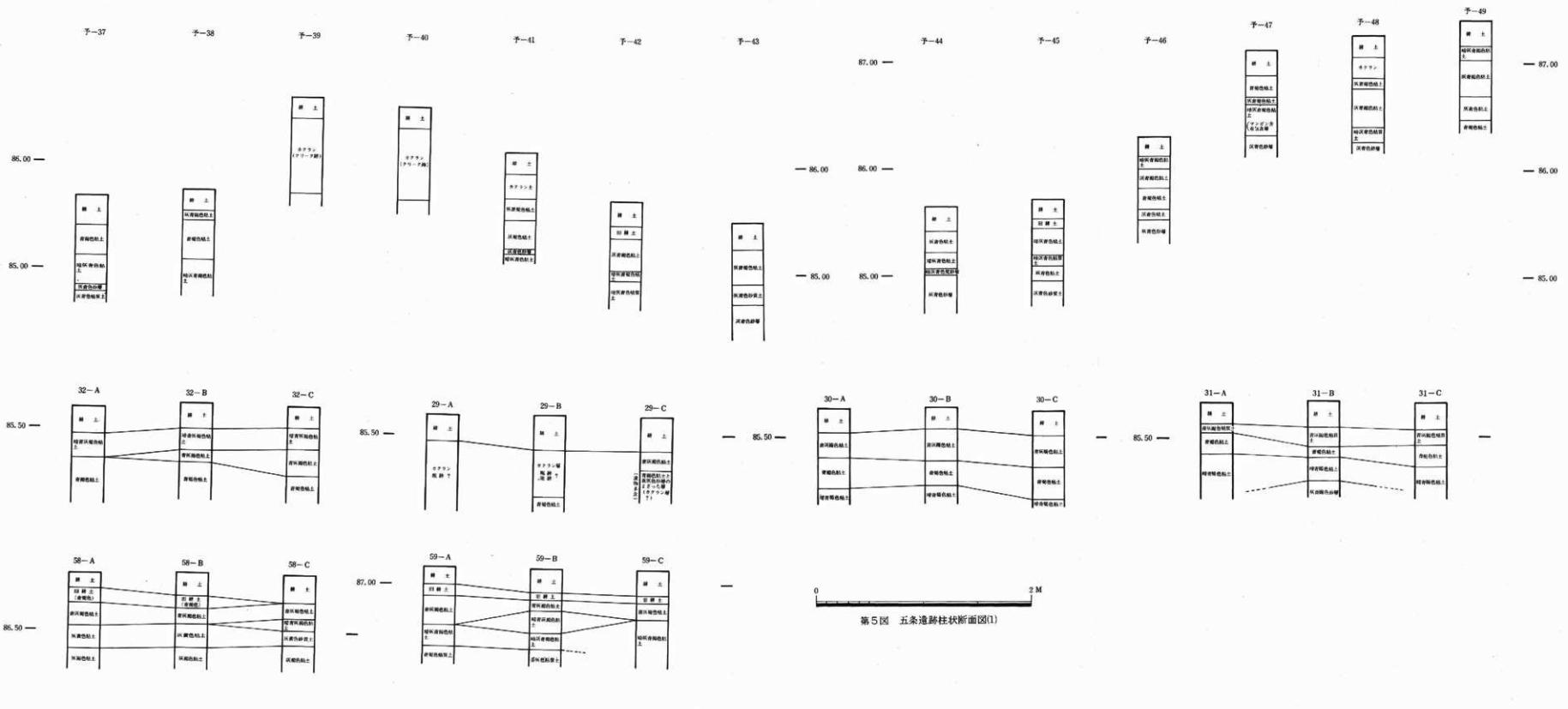
第1図 位 説 図



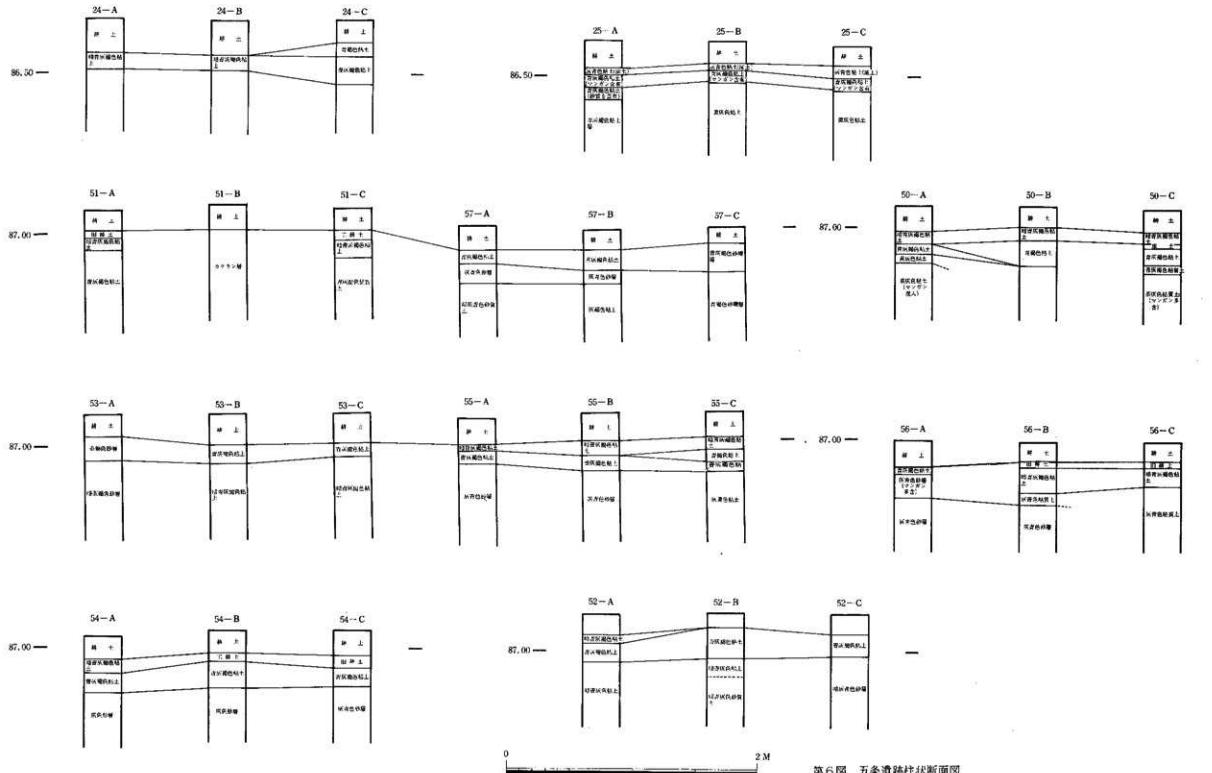
第2図 五条道路試掘坑設定図(1)



第3図 五条道路試掘坑設定図(2)



第5図 五条道路柱状断面図(1)



第6図 五条遺跡柱状断面図

った。C地点では、この包含層を切り込んだ近世とみられる溝跡が検出されている。

T-56

耕土が15~23cm、旧耕土は5cm、暗青灰褐色粘土が15~20cm、灰青色粘質土が10cm、それぞれ堆積し、その直下の灰青色砂質土が遺構面とみられる。

T-29

A・B地点は、旧クリーク跡で、カクランが深く入っていたが、C地点のクリーク埋め土に、須恵器・土師器が多数含まれていた。は場整備が実施された際に、他の地点より運ばれたものとみられる。

以上のように今回の調査では吉地地区では、ほぼ地表下50cm前後で、遺物包含層を検出し、五条地区では、地表下1m以内では、遺構の存在しないことが判明した。

4 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、小破片で、ほとんど図化できるものはなかったが、五条地区の流入した遺物とみられる中に、2点図示可能な土器があった。

Yc-4は、堀の高台部で、底径5.8cmをはかり、厚みのある底部に、やや外にむけふんばる高台のついたものである、内外面ともナデ調整で、やや黄味をおびた灰白色の色調である。東海産の灰釉塊とみられる。Yc-5は須恵器高台付壺とみられるが、焼成時のヒズミをもつもので、実際の使用に耐えるものではない。底径10.3cmをはかり、青灰色を呈する。おそらく奈良時代後期の所産とみられる。

5 まとめ

今回の調査では、予想通り、吉地地区で比較的浅く遺構の検出があり、五条地区では、野洲川の沖積もあって、遺構が深く埋設していることが確認された。五条遺跡は、中主町内でも、最も調査のすんでいる遺跡であり、今回の調査を含め、旧地形・古環境の復元が可能となろう。

第8章 野田遺跡

1 はじめに

本報告は、野洲郡中主町で施行される県営は場整備事業中主地区野田工区の暗渠排水事業に伴って、昭和60年度に実施した試掘調査の結果をまとめたものである。

この地域には、中主町教育委員会の分布調査によって、野田集落とそのまわりに、中世に時期の中心があるとみられる野田遺跡が、野田集落の北、旧野田沼の東に、古墳時代から奈良時代の遺物が散布する彼岸地遺跡が分布しており、今回の工事対象地は、この両者にまたがっていた。このため、これらを一応野田遺跡と総称して、事前に試掘調査を実施することとした。

調査は、財団法人滋賀県文化財保護協会埋蔵文化財調査三係長大橋信弥を担当者として、昭和60年7月8日から7月19日まで、10月14日から11月22日までの二次にわたって現地調査を実施し、昭和61年3月31日まで整理調査を実施した。

現地調査にあたっては、草津市事務所土地改良課、中主町土地改良区、地元野田の方々の協力を得たほか、川立長司、立入一道、小林辰弥、高野聖治、林成吉、佐野峯生、西村友博、角出裕貴、中島照幸、北野英輔の諸君が参加した。記して謝意を表したい。

2 調査の方法

昨年度調査の方法を反省して、本年度はまず7月に設計以前の予備調査を実施し、10・11月に、設計に基づく試掘調査を実施することとした。

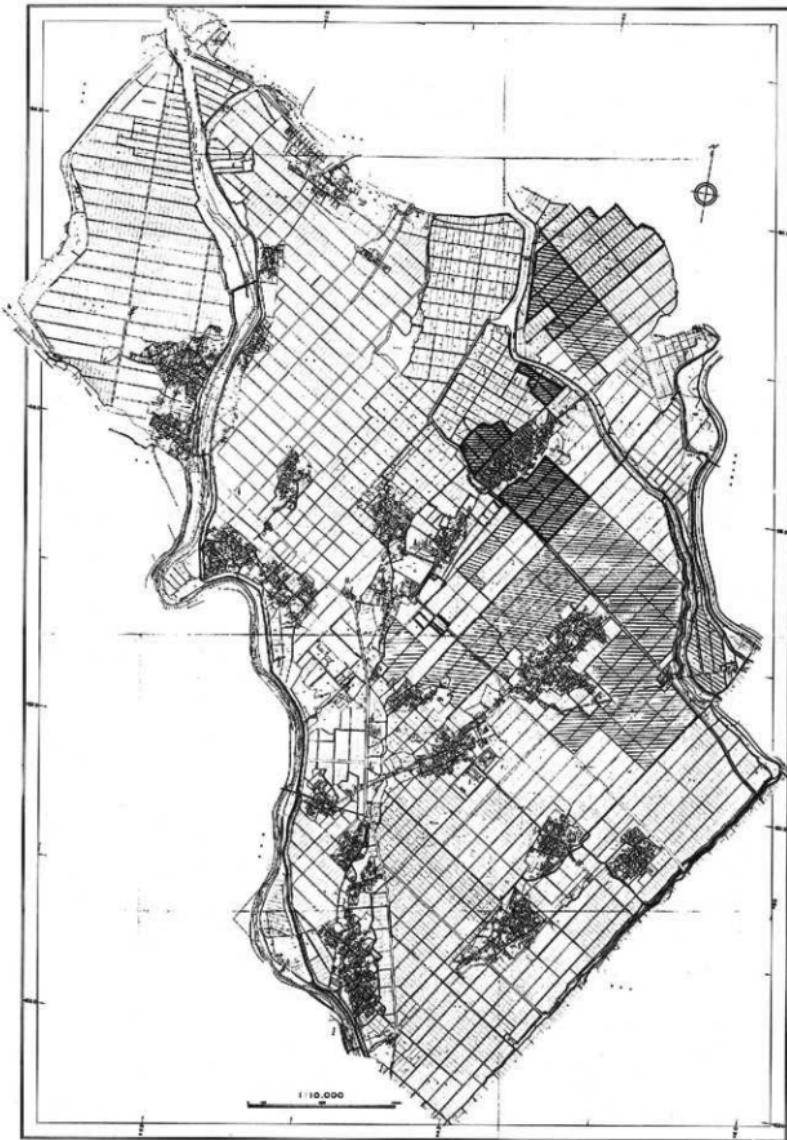
予備調査は、工事対象地に17ヶ所の試掘坑を設け、造構の存否・造構面の深さをさぐることとし、試掘調査では、暗渠埋設工事予定地に、30ヶ所、幅1m、長さ2mの試掘坑を設定して、検証することとした。

3 調査の結果

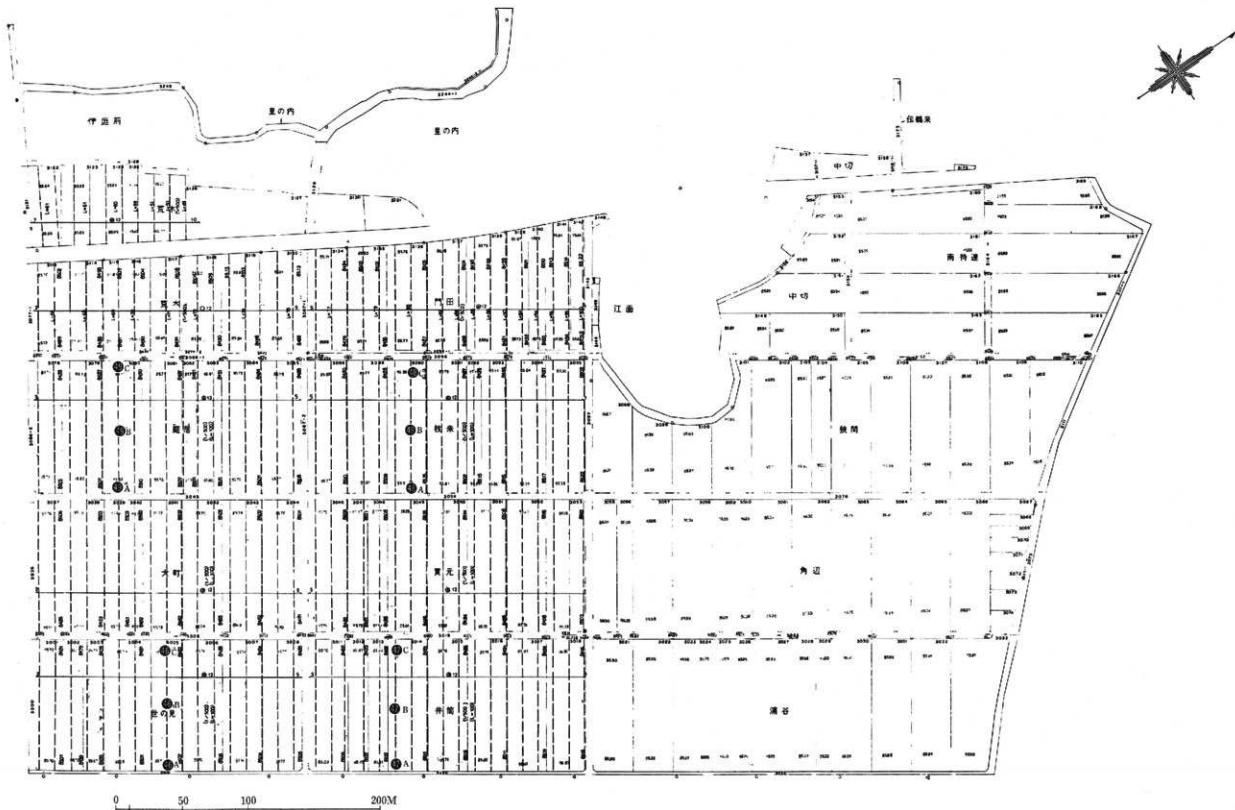
予備調査においても、試掘調査においても地表下1m以内には、造構・遺物が存しないことが判明し、工事は当初予定通り実施されることになった。いずれの箇所においても粘質土が卓越しており、約20cmの耕土の下に、暗灰青色粘土(15~20cm)、青灰褐色粘土(30~40cm)が堆積し、それ以下には青灰色粘土が厚く堆積するが、遺物はほとんどなく、地表下1m前後で、近世陶磁の出土をみる箇所もあった。したがって、この地域の埋没は厚く、近世に到るまで、かなりの沖積が存続したと考えられる。

4 まとめ

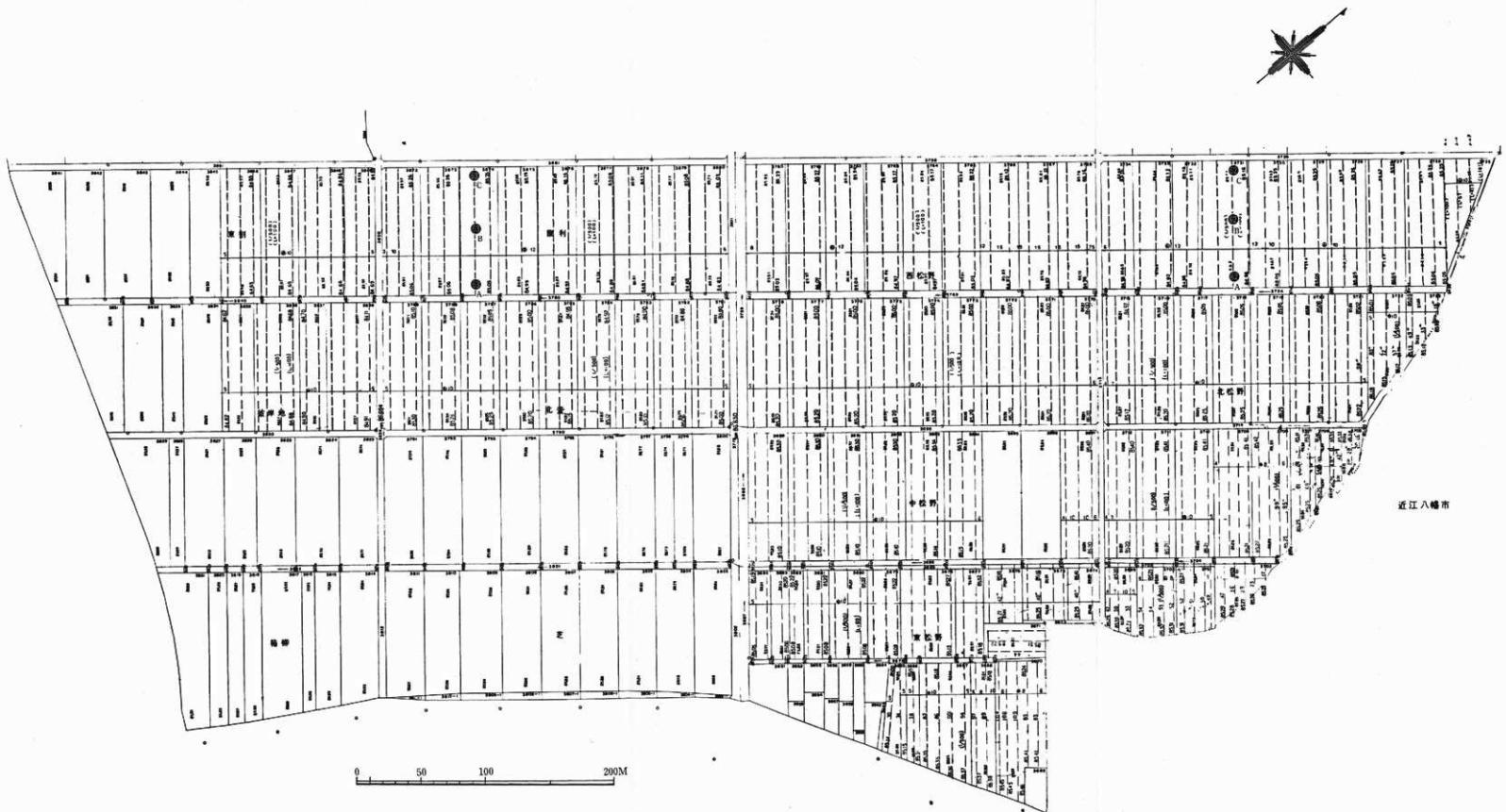
今回の調査では、工事が予定される地表下1m前後までは、造構・遺物の存在は認められず、当初予想していた遺跡は、それよりさらに下層に存在することが明らかになった。したがって、その実態究明は、今後の調査研究による他はないのである。



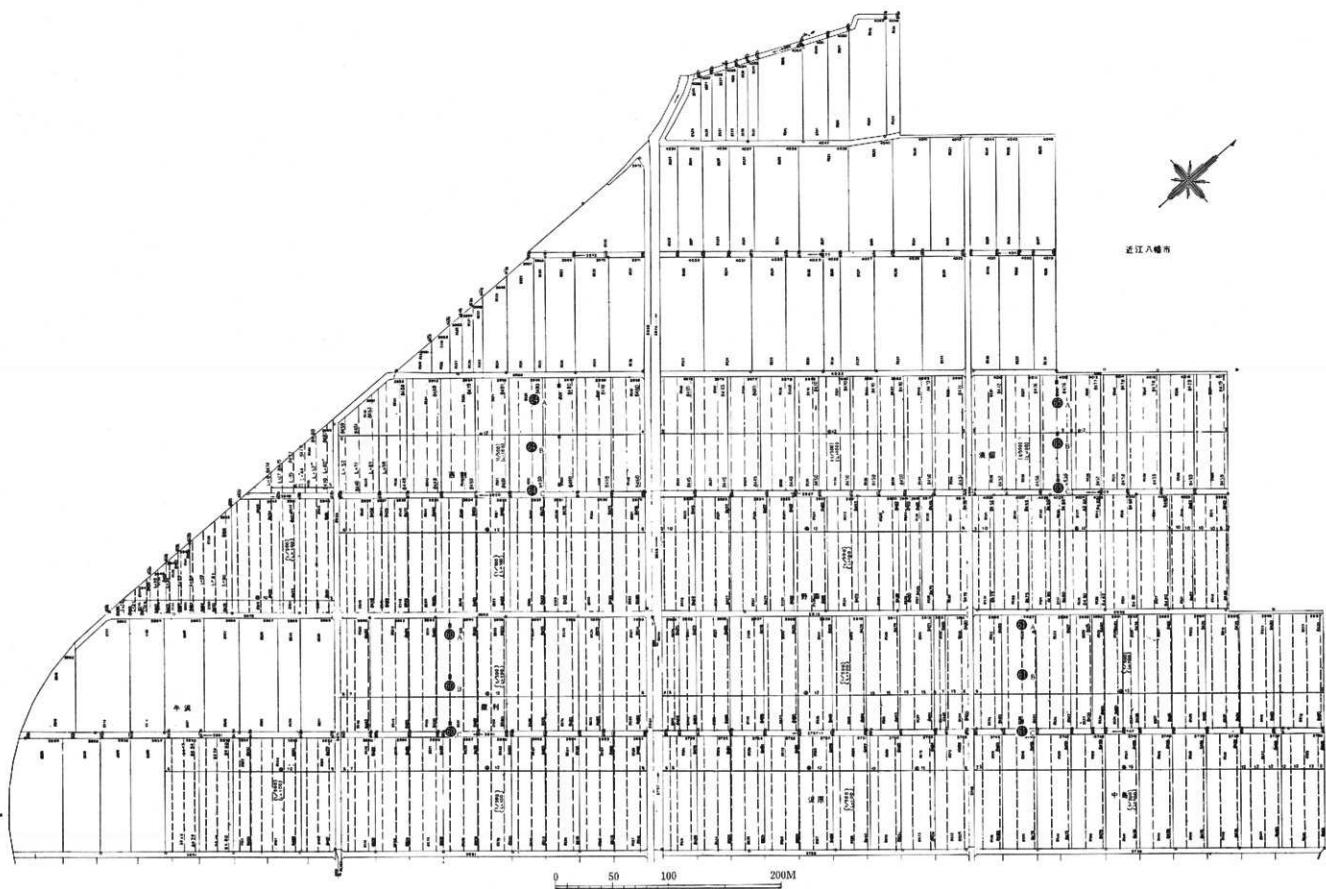
第1図 位置図



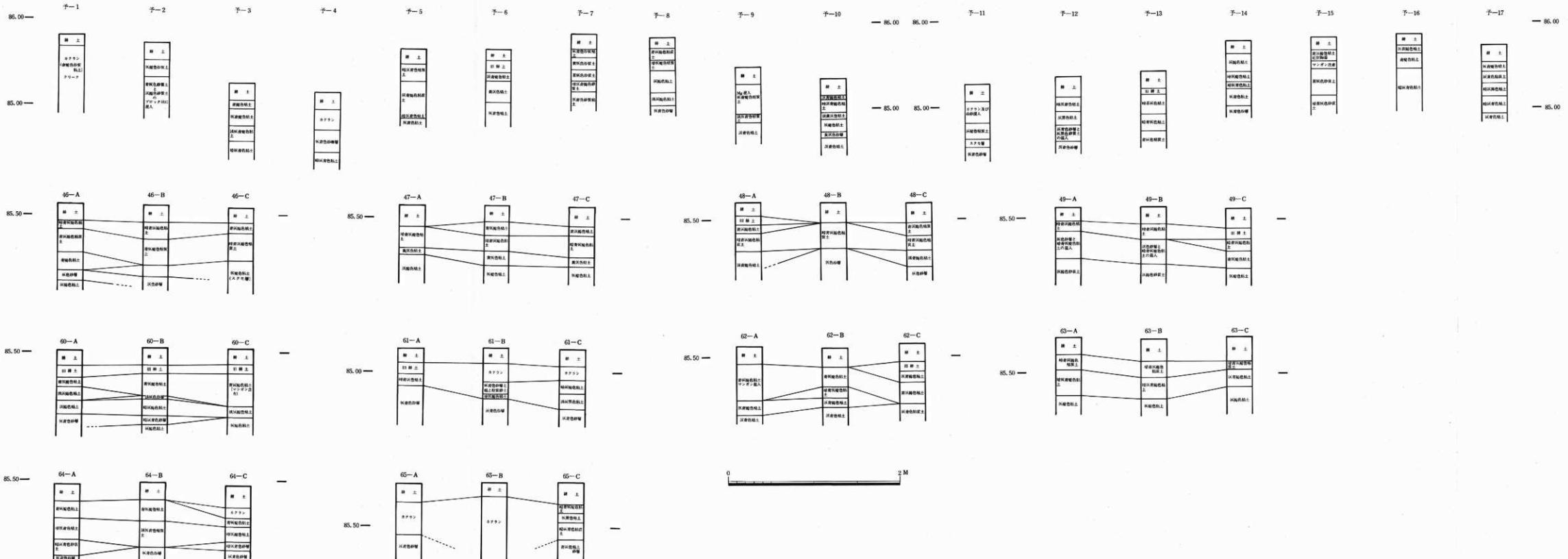
第2図 野田遺跡試掘坑設定図(1)



第3図 野田遺跡試掘坑設定図(2)



第4図 野田試掘坑設定図(3)



第5図 試掘坑柱状断面図

第9章 木部遺跡

1 はじめに

本報告は、昭和59年度県営ほ場整備事業・暗渠排水路敷設工事に伴い、野州郡中主町木部工区内に所在する木部遺跡の発掘調査成果を収めたものである。当区は、対象面積約45haに対して暗渠排水路約460本の事業規模で、区画整理済の幅約30m、長さ約100mの田圃一枚に対して排水管3本を埋設する工事密度のため、迅速な事前調査と遺跡の保存策の対応にせまられた。

調査は滋賀県教育委員会文化財保護課主査近藤滋、同技師木戸雅寿が担当し、現地調査は財団法人滋賀県文化財保護協会嘱託岩間信幸・同調査員福垣正宏があたった。調査期間は昭和59年11月から昭和60年2月までである。現地では、早川透 林田新吾 上田康之 山元孝信 好光幹雄 川見恭正の諸君らの協力があった。

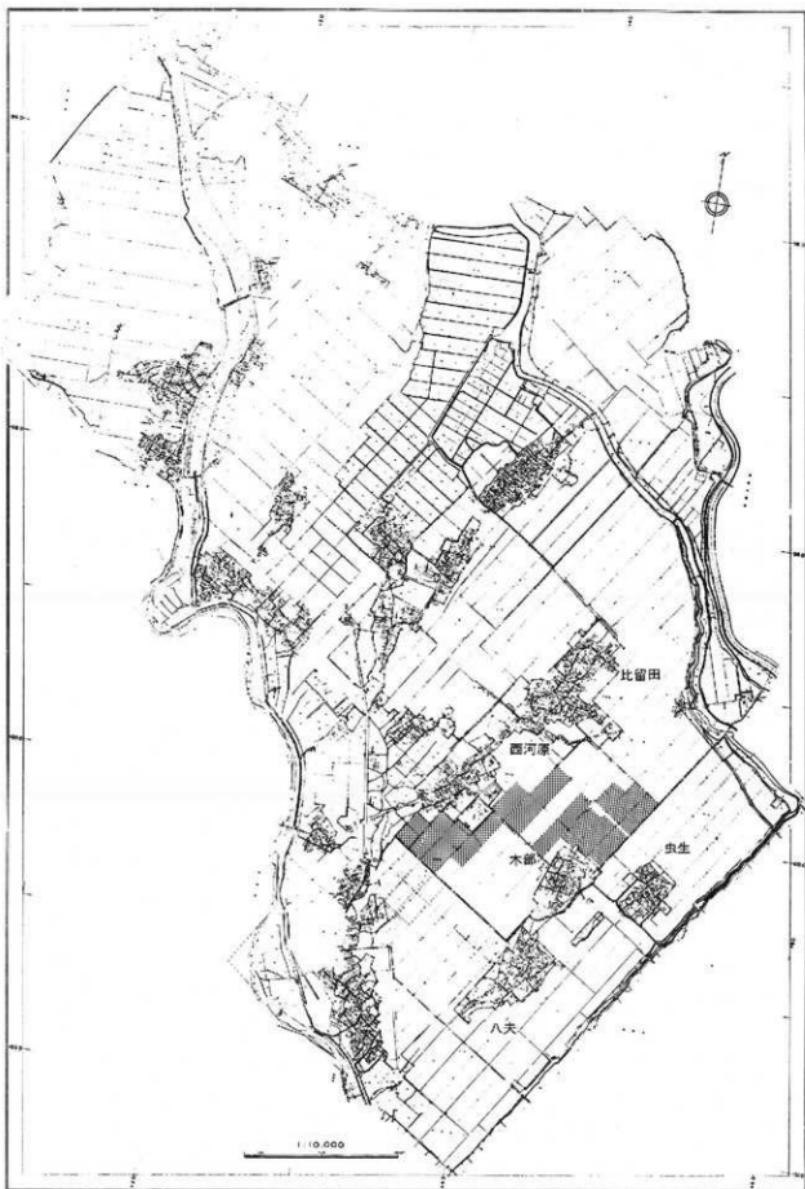
本書の作成は、財団法人滋賀県文化財保護協会調査三係長 大橋信弥を担当者として岩間・福垣があたり、それぞれの項に分担を記した。

尚、調査中は草津市事務所土地改良課及び中主町役場、同土地改良区の関係者各位に御協力をいただいたことを記して謝意を表わします。
(岩間)

1. 木部遺跡
2. 木部天神前古墳
3. 鍋嶋寺遺跡
4. 木部川ノ手遺跡
5. 比留田遺跡
6. 比留山觀音堂遺跡
7. 西河原遺跡
8. 西河原遺跡
9. 光明寺遺跡
10. 西河原森ノ内遺跡
11. 丸生遺跡
12. 丸生新遺跡
13. 八夫遺跡
14. 八夫西ノ森遺跡
15. 八夫流域



第1図 周辺道路図



第2図 調査区全体位置図

2 位置と環境

木部遺跡は、野洲川と日野川によって形成された肥沃な冲積地の下流域に所在する中主町の南東端に位置し、周辺の比留田、西河原、虫生、八夫とともに現集落をとり囲んで分布する弥生時代から近世に至る集落遺跡である。

今回の木部工区内北方には、円墳または帆立貝式古墳と考えられている木部古墳があり、南方の現集落を含めて木部遺跡の分布の中心をなす。集落内には、天安牛中、延暦寺第二代座主円仁の弟子円智が最澄作と伝わる毘沙門天王の招来により開基した大安堂が錦織寺として現存する錦織寺遺跡があり、奈良時代に遡る造物の出土がある。同集落西端には中世館跡の木部川ノ手遺跡がある。

近隣の四集落の遺跡分布においても、中世館や古寺跡の存在を例証する遺跡があり、当地周辺の集落成立の古きをうかがわせる。本遺跡北方の比留田遺跡では、分布内西端に重要文化財十一面觀音像を蔵する觀音堂の現存する比留田觀音堂遺跡が奈良時代に遡る。中世館としては同集落南端に鞍地城跡がある。西方の西河原遺跡では、西に光明寺遺跡があり、近年の調査で「館状遺構」が検出されている。北の西河原森ノ内遺跡では、昭和59年度区画整備事業による調査によって、天武朝中期（7世紀後半）の和文体木簡が出土しており、近年の発見として最も注目される。木部遺跡の東に接する虫生遺跡では、同集落内南方に中世に遡る虫生館遺跡があり、江戸時代初頭の銭壹の発見がある。南方に接する八夫遺跡では、同集落南部に八夫西ノ郷遺跡があり、同所から「福林寺」の墨書き器が出土しており、東の八夫遺跡では弥生時代に遡る集落遺跡がある。（岩間）

3 調査の方法と経過

前述のごとく、事業面積約45ha、排水管約460本に対応すべき調査が要請されたが、最初のトレンチ設定地となった調査区北東部にあたる木部天神前古墳北東（小字世中付近）では、耕土直下に上・下層の遺物包含層と地山を切り込む古墳時代後期中心の道構・遺物が高密度で検出された。この地点は昭和53年度調査地（木部天神前遺跡）の北方に隣接し、当初から遺跡の存在が予想されており、これで本遺跡が古墳を中心にさらに北に拡がることがあきらかとなった。そこで、調査は排水管埋設予定ラインに幅1m、長さを排水管全長の約100mとする最小規模のトレンチの設定で進められた。遺物・道構の検出密度はトレンチの南下につれてもいっこうにおとろえず、11本のトレンチが設定された時点での今後の調査の遂行が考慮され、原因者および地元との協議がなされた。その結果、これ以上のトレンチ調査は行わず、他の調査地では土層および遺物・道構の早急な確認によって本遺跡の概要をつかむため、幅1m、長さ2m程度のグリット掘削にきりかえることが決定された。グリットの配置ピッチは排水管予定ライン1本に対して両端、中央の3箇所に分け、4～6本に対して1本の間隔とした。尚調査は並行して進められ、グリット調査区については道構の出土レベルにあわせて極力工事計画レベルの変更がなされるという原因者の協力によって道構が保存されたため、調査は行われなかった。

4 遺構

最初にグリット調査区の結果をまとめておく。

今回の調査対象地は全体が北西から南東に並走する県道六条野洲線および同バイパスによって三分されるが(第

3図)、県道以西のグリット1~90では、掘削深度内で遺構が認められなかったものの、西河原集落南東に接して小字佃(8、9)、天皇前(17、20)、トケ坪(40、42、43)の地点で若干の遺物の包含が認められた。またそれらとは直接つながらない分布を示して、十二(54~57、60、63)、湯の部(89)で調査区外南方へ拡がる遺物包含層を確認した。また平出(65、66、69、71、72)で確認した包含層は県道以東の二之宮神社東周辺の小字宮ノ東(100、106~108)の遺物包含層につながる。

次に二之宮神社および西河原集落東の遺物分布域に接する小字越之町、烏立(109~144)では遺構・遺物が皆無で、さらに東の本部遺跡の濃厚な分布域の西限を示すものと思われる。

今回の調査区内および工事掘削深度内での調査結果では、小字増田・万吹(174・149・52・15・158・161・165・168・170・172・175・179・182)までが本部遺跡の西限と判断された。

次に工事規模に応じた必要最小限度の幅1mのトレーナー調査区T1~T11の結果をまとめておきたい。検出した遺構は狭小なトレーナーのため、その性格がつかめにくいが、柱穴(P)、溝(SD)、土塙(SK)に分類することができ、その他はSXとした。SXについては竪穴住居の可能性が高いと考えられる平底の幅広い落ちこみ層が含まれる。

T 1

ピット2、溝1が検出された。P1は掘形30cmを測る正円形で、P2はP1とほぼ同形ながらやや不定形である。SD1はトレーナーを横断する幅80~90cmの溝で、鋭いV字状に近い断面形状を呈する。埋土より須恵器①~④が出土する。

T 2

ピット23、溝5、土塙2が検出された。ピットは直径30cm以内を測るほぼ正円形の掘形のものが多く、P6~14までがトレーナー中央に密集して検出され、掘立柱建物が立つものと思われる。溝は幅1m前後のもの(SD3~6)と30cm前後のもの(SD2)がある。SD5は北東へ1.3mから2mへとやや拡がりをみせ、底にピット状のくぼみ(P5)をもつ。ほかにSX1・2があり、SX1は溝としては半たく、竪穴住居としては小さい感があり、SX2は包含層の可能性がある。P3より⑩、P5より⑫の出土がある。

T 3

溝2のみの検出である。SD7・8はともにトレーナーを横断する溝で、SD7が幅1m SD8が2mを測る。

T 4

ピット12、溝7、土塙3、不明3の検出である。ピットは直20cm以内のものが中央および南西部に集中する。とくにP33~36までがトレーナー方向に沿って一列に並ぶ。溝は幅20cm以内のもの(SD13・14・15)と80cmのもの(SD12)があり、さらに大幅なものはSD10の1.5mがある。そのほかに溝としたものにSD9・11があるが、SD9はトレーナー北東端へと拡がり、その全容はつかめないが沼沢地状に拡がっていくものかと思われ、SD11は幅4mの大溝で断面がV字状に鋭い。ほかの不明SX3・4・5のうち、SX3・4が竪穴住居の可能がある。SX3より⑪。

T 5

ピット9、溝4、土塙3の検出である。ピットはすべて直径20cm以内である。溝は幅2mをこえるものがほとんどで、SD17のみ1.5m前後である。SD21が幅5mと最も大きく、竪穴住居の可能性も考えられる。SX6は竪穴住居の可能性が最も高いと思われる。

5 遺物

遺物は、各トレンチから出土しているが、遺物の出土量には差がある。出土層序は、第1 包含層（中世）、第2 包含層（奈良末～平安初期）、遺構埋土（5・6世紀）に分けられる各トレンチとも、3層序から3時代の土器が出土している。以下各トレンチごとに出土土器の概説をおこなってみたい。

T 1 トレンチ（1～15）

須恵器、土師器が出土している。須恵器（1～4）は杯身は回転ヘラケズリが残り、陶色編年Ⅱ型式^{註1}1、2段階のもの。高杯はI型式5段階のものである。土師器の杯（5～15）は、口径が12.6cmから14.2cm、器高が2.8cmから3.8cmのものである。15のみが口径15.1cmとやや大きい。平城京編年Ⅳ期のもので手法はf 手法である。^{註2}

T 2 トレンチ（16～36）

T 2 トレンチからは、須恵器杯蓋、杯身、高杯3、須恵器杯蓋（8世紀）、杯B、灰釉底部、土師器皿、杯、須恵器器台、黒色土器碗が出土している。

須恵器については17がⅡ型式の4、5段階のものであり、高杯（19～21）は、I型式5段階～Ⅱ型式I段階のものである。22は、口縁端部内面にかえりを有するものでⅢ型式のものである。灰釉のうち24、25は底部外面に回転糸切痕を有する。31はI型式のものである。黒色土器36はⅢ段階—1（13世紀中葉）と考えられる。^{註3}

T 3 トレンチ（37～68）

T 3 トレンチからは、須恵器杯蓋、須恵器杯身、杯蓋（8世紀）、須恵器甕、甌、杯B、長頸壺。灰釉、土師器皿が出土している。

須恵器杯蓋、杯身はⅡ型式の前半のものである。

灰釉（48～52、54～56、63）には、重ね焼のため、高台が密着しているもの（56、63）がある。63は、底部外面に墨書きがある。

須恵器甌は7世紀後半のもので器種としては消滅直前のものであるといえる。

T 4 トレンチ（69～178）

T 4 トレンチからは、須恵器杯蓋、杯身、杯蓋（8世紀）、杯B、杯A、高杯、甕、甌、灰釉、土師器杯、土師器皿、土師器甕白磁、須恵器つづみ型器台が出土している。須恵器杯蓋については、I型式3段階からⅡ型式3段階までのものが出土している。

杯身についてはI型式3段階からⅡ型式4段階までのものが出土している。

8～9世紀の杯蓋も21点出土している。須恵器杯身は杯Aが3点、杯Bが4点出土している。

高杯は3点出土している。

甕（116）は、I型式に類例のある古式のものである。灰釉（120）綠釉（121、123、124）のうち123以外は削出し高台である。120は10世紀～11世紀のものである。

土師器の甌、皿は35点も出土している。いずれもe 手法により調整されており9世紀代のものである。134については、II縁部に外方から穿孔がある。

つづみ型器台は、古式のものであり I 型式の前半にのみ存在（以後消滅）するものである。

169 は中国製白磁碗である。

T 5 トレンチ (179~ 228)

T 5 トレンチからは須恵器杯蓋、杯身、高杯、壺、匙、杯蓋（8、9世紀）、杯B、土師器皿、土師器甕が出土している。

須恵器杯は、I型式3段階から、II型式5段階に至るものが出土している。土師器皿についてはe手法、f手法による調整を行うものである。（9世紀）

T 6 トレンチ (229~ 258)

T 6 トレンチからは、須恵器杯身、杯蓋、杯蓋（9世紀）杯A、杯B、高杯、壺、長頸壺、土師器皿が出土している。

須恵器杯身のうち 229についてはI型式の前半の古式のものであり他は II型式のものである。

高杯は、I型式5段階のものある。土師器皿は、e、f手法により調整される。

このトレンチの出土遺物は少ない。

T 7 トレンチ (259~ 280)

T 7 トレンチからは、須恵器杯蓋、杯身、杯蓋（7世紀、8、9世紀）高杯、杯A、綠釉（土師質）灰釉、土師器皿、黒色土器碗、唐津椀が出土している。

須恵器杯については、I型式の後半からII型式の後半へ至る時期のものである。杯蓋のうち、口縁端部内面にかえりを有する7世紀の例（271）があるが、不良品であり、全体に偏平で波うっている。

中世の遺物については、ロクロに成形による土師質小皿（276）、近世の遺物として唐津椀（270）などが含まれている。T 7 トレンチの遺物も少ない。

T 8 トレンチ (281~ 395)

T 8 トレンチからは須恵器杯蓋、杯身、高杯、壺、甕、杯（8・9世紀）灰釉碗、黒色土器碗、土師器碗皿が出土しているが、その須恵器杯の出土数は非常に多く各トレンチ中最高である。

須恵器杯蓋については、48個体が出土している。陶邑編年I型式3段階からII型式の後半までのもので、杯身についても、同様の編年の中に入る。

他の須恵器では、壺（384）がI型式の前半のもので古く、銅鏡を模した土師器（395）は7世紀のものと考えられる。

T 9 トレンチ (396~ 444)

T 9 トレンチからは、須恵器杯蓋、杯身、杯（8・9世紀）、高杯、壺、甕、灰釉、綠釉白磁、黒色土器碗、土師器皿、弥生土器蓋が出土している。このトレンチの特徴的なことは、中世の土器が多く出土していることである。

「て」の字状口縁の土器小皿、コースター状の小皿などがみられる。

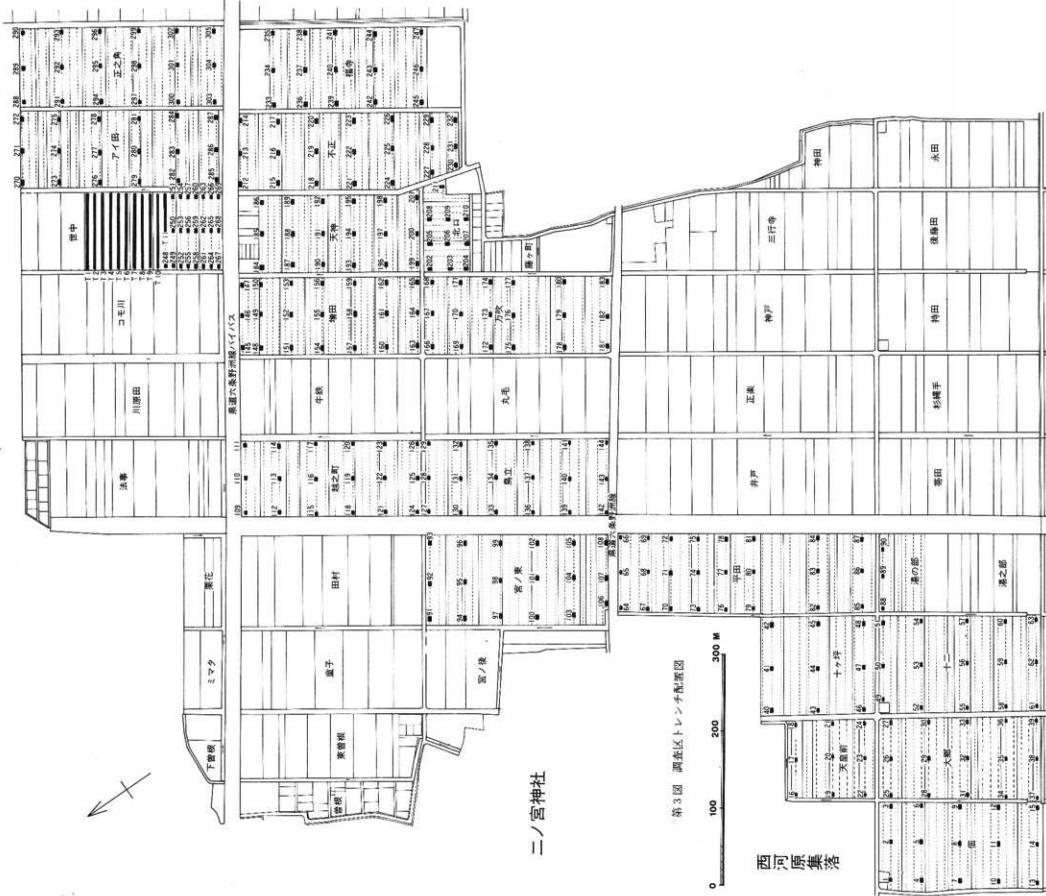
T 10 トレンチ (445~ 481)

T 10 トレンチからは、須恵器杯蓋、杯身、高杯、杯（8・9世紀）、長頸甕、甕、灰釉、土師器小皿、土師器脚付小皿が出土している。

このトレンチは、8、9世紀の遺物が多く出土している。

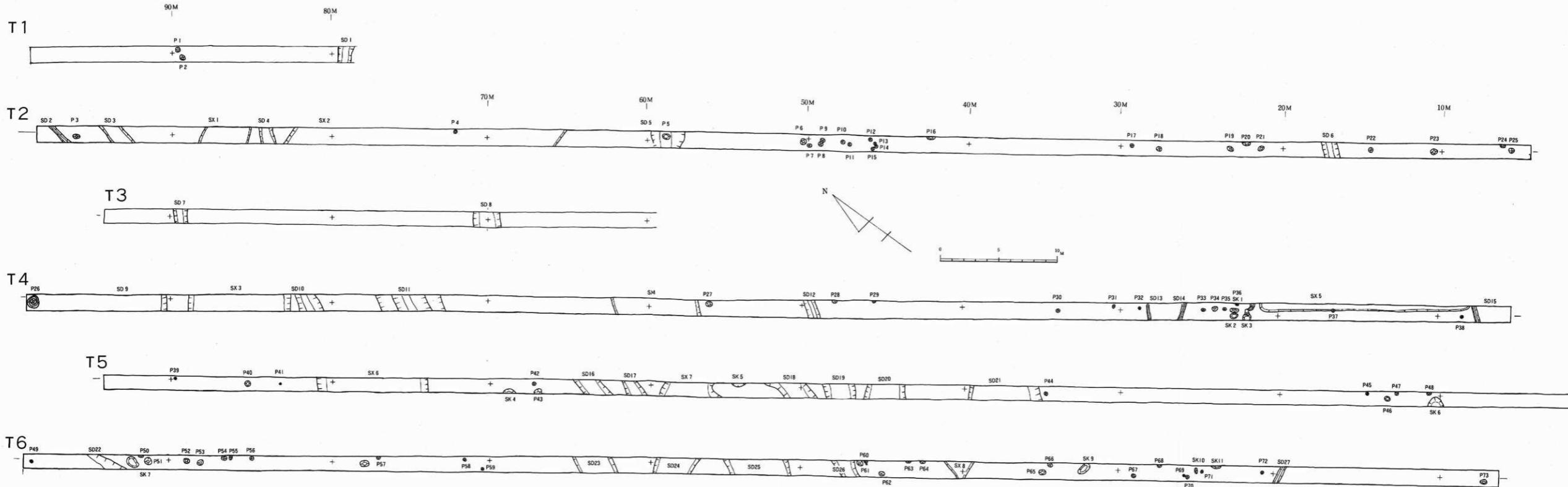
T 11 トレンチ (482~ 501)

T 11 トレンチからは、須恵器杯蓋、杯身、高杯、壺、杯（8・9世紀）、白磁杯、綠釉、土師器小皿、黒色土器碗、が出土している。

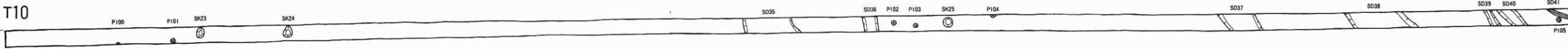
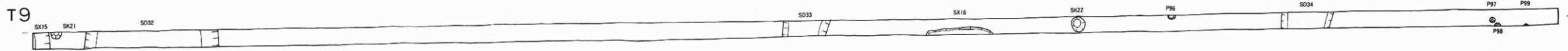
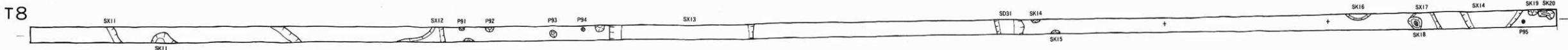
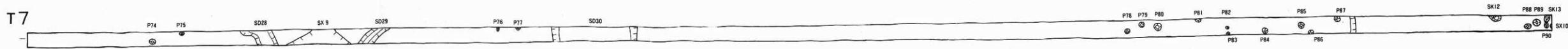


第3図 調査区トレント配置図

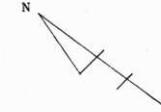
西河原集落



第4図 造構平面図(1)



0 5 M



T11



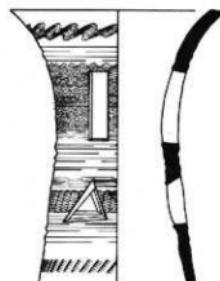
第5図 遺構平面図(2)

須恵器杯は、I型式2段階からII型式の前半までのものである。

灰釉の底部501は外面に施釉されており瓶である。

挿図6はT8トレンチ出土の須恵器器台である。

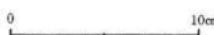
I型式のものと考えられる。 (鶴垣)



須恵器台(T5トレンチ)



第6図 出土遺物(T7トレンチ)



註1 中村浩「陶邑Ⅲ」(大阪府文化財調査報告書第三〇輯・昭和五十三年三月・大阪府教育委員会)。本報告の5、6世紀の須恵器の編年は上書によっている。

註2 「平城京発掘調査報告Ⅶ」(奈良国立文化財研究所)

本報告の奈良、平安時代の土師器、須恵器の編年、分類調整、手法は、上書によっている。

註3 森隆「滋賀県における10~14世紀の土器(湖南地域を中心とした)」

(第4回中世土器研究集会—10、11世紀の土器、陶磁器を中心にして—1985年12月)

第一表 遊物観察表

種類 番号	法 則	形態・技法の特徴		色	調 理	船士・焼成	備考
		横孔	口徑 12.4cm ヨコナデ				
須孔 直孔	1	口徑 12.4cm ヨコナデ		灰色			T 1 S D 1
須孔 直孔 管身 管端	2	口徑 10.9cm 外底面多くは回版壓削り、他はヨコナデ調整		暗灰色 (断面赤み褐色)			T 1 S D 1
須 管 管身 管端	3	11径 10.0cm 環部底と換えるところから肥厚部分の少し上まで長方形のスカシ 孔が二方向に穿孔されている 环部外底面に萬削り(右側面)、脚部外面のスカシ孔の範囲内にカ キ目が施される。他はヨコナデ、外側の受け部以下に自然施付着 (まばらに) 受け部と立ち上がりの境に重ね焼きの際に自然釉をかぶって融着し た状態 (と思われる) の跡がみえる		暗灰色			T 1 S D 1
須 管 管身 管端	4	11径 19.7cm ヨコナデ調節、内面体部に向心叩き		暗灰色			T 1 S D 1
須 管 管身 管端	5	11径 14.0cm 内外面輪ナデ調整		褐色		クサリレキ合む焼良 外而剥落著しい	T 1 第1層 (上層包 含層)
土 管 管身 管端	6	口徑 13.7cm 器高 3.8cm		内面及び上部外面輪ナデ窯外未調整		微削なクサリレキ 砂粒を含む	T 1 第1層
土 管 管身 管端	7	口徑 14.2cm 器高 2.8cm		内面及び上部外面輪ナデ窯外未調整 底部に成形時の指圧痕残る		精良 良好	T 1 第1層

土 師 質 皿	8	口径 14.0cm 器高 3.35cm	内面及び口縁内面横ナデ底部外面未調整成形時の指圧痕残る。 外面凹凸横溝なし	褐色	T 1 第1層
土 師 質 皿	9	口径 13.6cm 器高 3.35cm	内面及び口縁外縁横ナデ底部外面未調整成形時の指圧痕残る	褐色	T 1 第1層
土 師 質 皿	10	口径 12.6cm	内面、外面横ナデ調整	橙色	T 1 第1層
土 師 質 皿	11	口径 12.7cm	内外横ナデ調整	橙色	T 1 第1層
土 師 質 皿	12	口径 13.5cm	内面及び口縁外縁横ナデ 底部外面未調整成形時の指圧痕残る	橙色	T 1 第1層
土 師 質 皿	13	口径 13.3cm 器高 3.5cm		にぶい黄色	T 1
土 師 質 皿	14	口径 13.8cm 器高 3.0cm	内面及び口縁外縁横ナデ 外面は粗いナデのため凹凸ができる	橙色	T 1 第1層
土 師 質 皿	15	口径 15.1cm 器高 3.6cm	内面及び口縁外縁横ナデ 底部外面未調整 成形時の指圧痕残る	にぶい黄色	T 1 第1層
鉢 器 皿	16	口径 14.5cm	天井部 ^{1/2} は向左削り（右側） 他は右向左のヨコナデ 調整（天地逆にして後は左向左）	外周底灰褐色 内面淡青灰色	T 2 P 5

17	山径	9.1cm	内面と外面受部までヨコナナデ調整 外面口付端誠自然明細物	暗灰色 外面まばらに暗緑色	焼成…硬質	T 2
18	口径	12.7cm	ヨコナナデ調整	淡灰色 断面…端赤褐色 外部受部以下は暗灰色	焼成…堅板	T 2 P 3
19	1.1径	13.5cm	环底部外面 薄削り ヨコナナデ調整 外面自然輪付着	灰色	焼成…や硬質	T 2
20	底径	9.2cm	脚部の二方に円形カキを有する。 外面…口縁底部から脚部の脚部手前までカキメ 底部…窪削り 环部ヨコナナデ調整 内面 ヨコナナデ	暗灰色 断面 端赤褐色	焼成…硬質	T 2
21	底径	8.8cm	マキアゲ・ミズビキ底形、回転ナナデ調整 外山カキ目調整 脚部部には三方の長方形のスカシ孔がある	暗灰色	硬質	T 2 下層包含 層
22	山径	13.5cm	天井部外面を以上窪削り その他ヨコナナデ調整	灰色	硬質	T 2
23	「1径	14.3cm 器高 4.0cm	少しふんぱりぎみにはりつき、基面で接地する。 高台底面に浅い凹をもつ 高台はりつけ部まで、内外面ヨコナナデ調整、底外部未調整	暗灰色	硬質	T 2 上層包含 層
24	高台径	7.0cm	平らな底部の外脚端に断面台形の低い高台が内側を被せて貼り付く 底部外面回転糸切り底 他はヨコナナデ調整	暗灰色	やや硬質	T 2

灰 箱 塊	25	高台径 7.2cm 台がはりつく	平坦な底部の外周に断面V-内側で接着するどっしづした高 台がはりつく	白灰色	硬質	T 2
灰 箱 塊	26	高台径 7.4cm ・外周底部に回転糸切痕	細長い高台がはりついている ・外周一部に窓削り その他ヨコナデ	灰白色	硬質	T 2
須 環 器具 部	27	高台径 8.8cm	断面長方形の外方にややふんばった高台がはりついている ・ヨコナデ調整	淡灰色	硬質	T 2
灰 箱 ・ 卷	28	高台径10.1cm 脚高 2.8cm	端部が内外方に肥厚する ・高台が外端を接着させて、はりついている ・ヨコナデ	白灰色	硬質	T 2
土 師 器 ・ 皿	29	口径 10.5cm 脚高 2.8cm	口縁は外方にのびたのち短く外反し、端部は丸く内面に段を持 つ ・ヨコナデ調整、底部外周未調整	橙色	胎上…良好	T 2
須 器 部 身	30	口径 12.4cm 脚高 3.65cm	底・底部境は明確である ・底・底部境は明確である ・底脚全削滅、その他ヨコナデ	白灰色	硬質	T 2
須 器 部 身	31	底径 21.7cm	全面ヨコナデで中央部カキ引が施され、さらにその上から波状文が 施されている 脚部にはおそらく四方のスカシ孔が施されている。	暗灰色	焼成…硬質	T 2 上層
須 器 部 身	32	高台径12.1cm	外周から少し内側に断面台形の低い高台が平面を接させて貼りつ けられる 手法ヨコナデ調整	淡灰褐色 (口縁外側)	焼成…軟質	T 2 下層
須 器 部 身	33	高台径11.2cm	高台はりつけ部まで内外両面ヨコナデ調整底部外周未調整断面四角 形の高台はふんばり、はりついている高台は内角で接地 断面は乳茶色	灰色 断面上下灰地	焼成…硬質	T 2 上層

34 須 環 意 器 身	高台径 7.5cm 底盤の外観よりやや内側に断面台形で凹面を底面にもつ高台が内側 で接地してはりつく 手法 底部外面は未調整 その他はヨコナナデ調整	内面灰白色 外面淡灰色	T 2 上昇 焼成…硬質
35 床 輪 ・ 塊	高台径 7.4cm 断面三明形の高い高台が底部のやや内側よりで接地する 手法 底部外面は未調整 その他はヨコナナデ調整	内面灰白色 外側内面に海綿刷毛の軸	T 2 焼成…硬質
36 燃 色 工 器 ・ 塊	口径 15.9cm 高台はややふんぱり気味にはりつく。口縁は端部近くでわずかに 高台径 5.0cm 外反し端部は丸くおさめる。内面と外側輪郭辺はヨコナナデ調整 割高 5.3cm 内面には花弁状模様を施す。内面端部下に一束の沈藻をめぐらす 外面本体部に折正模がみられる。高台周辺はヨコナナデ調整口・付部に 粗い荒削き	内面乳頭色と墨色がまだら状 (黒色が剥げ落ちた跡) 外側乳頭色と墨色がまだら状 (黒色が剥げ落ちた跡)	T 2 焼成…やや軟質 船上…砂塵を多く含む
37 須 高 意 器 身	口径 13.9cm 底盤は内傾する両部を有する 高さ 5.1cm 天井部外面は未調整、その他はヨコナナデ調整	淡灰褐色	T 3 焼成…硬質
38 須 高 意 器 身	口径 10.9cm ヨコナナデ調整	外側受け部以下青灰色 他のは明乳頭色	T 3 上昇包含 焼成…軟質(生焼け)
39 須 環 意 器 身	口径 11.3cm 割高 4.6cm 外側底盤の尖は鬼削り、その他はヨコナナデ調整	青灰色	T 3 焼成…硬質
40 須 環 意 器 身	口径 15.9cm、ヨコナナデ調整	淡青灰色	T 3 焼成…硬質
41 染 料 意 器 身	口径 14.5cm 焼成は外面に凹面をもって盤下し丸く收める ヨコナナデ	淡灰色	T 3 硬質

須 器 要	42	1.1径 16.2cm 内外共ヨコナダ、外前体部自然軸	端部は内面を少し肥厚させる。上面にはほぼ水平な凹面をもつ ていて、外側から少し内側に断面台形の低い高台が平面を接続させてつい ている。	灰色	硬質	T 3
須 器 要	43	口径 15.4cm 器高 3.9cm	高台から少し内側に断面台形の低い高台が平面を接続させてつい ている。	灰色	硬質 良好	T 3
須 器 要	44	高台径 9.6cm 全面ヨコナダ調整	全面ヨコナダ調整	淡灰色	硬質	T 3
須 器 要	45	高台径 7.9cm 全面ヨコナダ調整	全面ヨコナダ調整	素地は灰色・輪は緑色	硬質	T 3
須 器 要	46	高台径 10.8cm 全面ヨコナダ調整	底外部前面が未調整、他ヨコナダ調整	淡灰色	硬質	T 3
須 器 要	47	高台径 6.8cm 全面ヨコナダ調整	高台はほぼ垂直に内変気味におりており端部は内傾した小さな面 をもつていて、全面に施術されている。	素地=灰色 染=うすみどり色	良好	T 3
須 器 要	48	口径 15.2cm 全面ヨコナダ調整		淡灰色	硬質	T 3
須 器 要	49	高台径 7.0cm 外底面可逆糸切り質、他はヨコナダ調整	高台は断面台形を呈し平面で接続する 内、外口輪に施術	素地明灰色 輪緑褐色	硬質	T 3
須 器 要	50	高台径 6.0cm ヨコナダ残存部は無輪	断面台形の高台が内側で接続して貼りつく	白灰色	硬質	T 3

灰 箱 地	51	高台径 5.7cm	底部は圓台、体部に施鈎、はりつけ高台 かさね焼き	表地一灰色 糊 うす味	良好	T 3
灰 箱 地	52	高台径 7.0cm	断面三尖形の高台は、少しふんばりぎみに貼りつき、高台の外側 は少し肥厚している	淡灰色	硬質	T 3
須 糊 器 身	53	高台径 9.1cm	底部の外端に断面台形で外ふんばりの高台がはりつき接地面は川 形の内はじ 内外面共ヨコナデ調整	淡灰色	硬質	T 3
灰 箱 地	54	高台径 7.4cm	断面四角形の高台は内部の角で接地している 内面全体と貼りつけ部までヨコナデ 底部外面に回詰糸切り	明灰色	硬質	T 3
灰 箱 地	55	高台径 10.3cm	低底外側から少し内に断面四角形の高台が底邊で接地し、貼りつ いている 内外面共ヨコナデ調整 底台付部の内側の方に爪形痕がある	淡灰色	硬質	T 3
灰 箱 皿	56	高台径 7.8cm	断面四角形の高台ははぼまっすぐにしており、接地している 内外面共ヨコナデ糊内外面施糊 内面底部に裏ねじきのあとがある	淡灰色（一部施糊のため底糊凹）	硬質	T 3
須 糊 器 身	57	口徑 7.4cm	直縫～底部にかけて部分的に自然糊付着 ヨコナデ調整	青灰色 (自然糊付着部分は淡灰色)	硬質	T 3
須 糊 器 蓋	58	口径 10.6cm	平らな天井部のはぼまっすぐなつまみがけく ヨコナデ調整	淡灰色	硬質	T 3
須 糊 器 蓋	59	口径 9.8cm	ヨコナデ調整	青灰色、糊面は赤褐色	硬質	T 3

須高 器杯	60	底径 11.8cm	全面ヨコナテ調整	青灰色	内外面共墨灰青色 施面部着色	硬質	優質、良好	T 3
須高 器蓋・ 立	61	底径 8.0cm	ヨコナテ調整			硬質		T 3
須高 器蓋	62		全面ヨコナテ調整 つまみは扁平な複数の柱形である	淡灰色		やや硬質		T 3
灰 精	63	高台径 7.0cm	口縁内面に施釉　内面口縁部と底部との境に重ね焼きの跡あり 外底面に墨書き（「精」か？）あり 平らな底部の外周に断面凸形の高台が内端を掩地させて貼り付く	淡灰色 釉は淡青褐色	硬質			T 3
須 器	64		ヨコナテ調整 やや扁平な球形を呈し底は丸い。最大径は肩部（沈縮）にある。頸 部は広がりつつ上へのびる 肩部沈縮上に一孔を穿つ（孔の下半部分を盛り上げて注口状にして いる）ヨコナテ調整外部は柔軟の洗縮を透らせる	以下青灰色	硬質			T 3
須 器 ・ 匙	65	底径 8.5cm	内外面共ヨコナテ調整外部は特に強いヨコナテが見られる	白灰色		やや硬質		T 3
須 器 ・ 匙	66	底径 8.6cm	底部外側は回転糸切跡 その他はヨコナテが見られる	灰		硬質		T 3
須 器 ・ 匙	67	底径 11.1cm	内面、底部外側未調整	淡灰色		硬質		T 3
土 器 ・ 匙	68	口径 17.0cm	内面と口縁外面下部 口縁外面上はヨコナテ調整	外面部褐色 内面部茶褐色		やや硬質		T 3

須 環 基 器 蓋	69	口径 13.4cm 器高 4.3cm	内面及び口縁部はヨコナナデ調整 外面大井部は5以上磨削り あとは内外面共 ヨコナナデ調整	淡灰色	硬質	T 4
須 環 基 器 蓋	70	口径 12.3cm	外面大井部は5以上磨削り あとは内外面共 ヨコナナデ調整	淡乳灰色	硬質	T 4
須 環 基 器 蓋	71	口径 12.4cm	ヨコナナデ調整	灰色	硬質	T 4 S×3
須 環 基 器 蓋	72	口径 13.4cm	ヨコナナデ調整	淡灰色	硬質	T 4
須 環 基 器 蓋	73	口径 12.3cm	内外面共 ヨコナナデ調整	淡灰色	硬質	T 4
須 環 基 器 蓋	74	口径 12cm	腹部内側には内傾する凹面をもつ 内外面ともヨコナナデ削り 外面は自然角 内面は灰色 外面は自然物の為黒色	淡灰色	硬質	T 4
須 環 基 器 蓋	75	口径 15.0cm	外側大井部は磨削り (5以下) その他 内外面共ヨコナナデ	淡灰色	やや硬質	T 4
須 環 基 器 蓋	76	口径 14.7cm	全体に強いナナデのため凹凸を生じる。 内外面ともヨコナナデ調整、外面大井部のみ削減	輪灰色	硬質	T 4
須 環 基 器 蓋	77	口径 9.6cm	外側底部磨削り5以上 あとは内外面共ヨコナナデ	淡青灰色	硬質	T 4

78 器具 身	口径 10.6cm 内外面共ヨコナデ調整	淡灰色	硬質	T 4
79 器具 身	口径 10.5cm ヨコナデ調整、体部外面に自然輪付着	灰色	硬質	T 4
80 器具 身	口径12.7cm 内外面共 ヨコナデ調整	半灰色	硬質	T 4
81 器具 身	口径 11.5cm 内外面共ヨコナデ調整	内面と口縁外端は灰色 外面体部底部は淡灰色	硬質	T 4
82 器具 身	口径 12.0cm 器高 5.0cm 外面底部に不定方向のナデがみられる	青灰色	やや硬質	T 4
83 器具 身	口径 11.6cm 内外面共ヨコナデ調整	内面と受け部外面は青灰色。 外面自然輪付着の淡白灰色。	硬質	T 4
84 器具 身	口径 12.2cm 外面底部丸削り その他はヨコナデ調整	内面淡灰色 外面灰色	やや硬質	T 4
85 器具 身	口径 10.8cm	時灰色	硬質	T 4
86 器具 身	口径 12.9cm ヨコナデ調整	灰色	硬質	T 4

87 須 器具 蓋	口径 12.6cm	内外面ヨコナデ調整	青灰色	硬質	T 4
88 須 器具 蓋	口径 12.4cm	ヨコナデ調整 重ね焼きで端部は自然輪が施されている	淡灰色	硬質	T 4
89 須 器具 蓋	口径 14.0cm				T 4
90 須 器具 蓋	径 15.9cm	全面ヨコナデ調整	外側淡灰色 内側淡灰色	硬質	T 4
須 器具 蓋	口径 17.6cm	外面大井部未調整 (1/4以下) その他はヨコナデ調整	白灰色	やや硬質	T 4
須 器具 蓋	口径 16.6cm	全面ヨコナデ調整	淡灰色	硬質	T 4
須 器具 蓋	口径 15.6cm	全面ヨコナデ調整 つまみは扁平な皿金具形である。	白灰色	やや硬質	T 4
須 器具 蓋	口径 15.4cm	大井部は内外面共未調整 (1/4以下) その他はヨコナデ調整	口縁外面に自然輪付着 その他は淡灰色	硬質	T 4
須 器具 蓋	径 15.8cm	全面ヨコナデ調整 端部外側に自然輪	淡灰色	硬質	T 4

須6 須环 惠器蓋	96 須环 惠器蓋	口径 12.9cm 口径 14.4cm	内外面共ヨコナデ調整 全面ヨコナデ調整	淡灰色 青灰色	硬質	T 4
須环 惠器蓋	97 須环 惠器蓋		中央に扁平な擬宝珠様のつまみをもつ。 内外面共ヨコナデ調整 外面自然袖	灰色 (外面自然袖のため暗緑色)	硬質	T 4
須环 惠器蓋	98 須环 惠器蓋	口径 13.3cm 器高 2.3cm	つまみは扁平な擬宝珠形である 全面ヨコナデ調整	青灰色	やや軟質	T 4
須环 惠器蓋	99 須环 惠器蓋	口径 15.6cm 器高 2.3cm	外面天井部 尾刺り (各以下) あとは外面共ヨコナデ調整	灰色	硬質	T 4
須环 惠器蓋	100 須环 惠器蓋	口径 13.9cm 器高 2.3cm	内外面共ヨコナデ調整	青灰色	硬質	T 4
須环 惠器蓋	101 須环 惠器蓋	口径 12.0cm 器高 2.3cm	内外面共にヨコナデ調整 全体に焼きひずみでゆがみが生じている	青灰色	硬質	T 4
須环 惠器蓋	102 須环 惠器蓋	口径 14.6cm 器高 2.3cm	全面ヨコナデで外側はねである	淡灰色	硬質	T 4
須环 惠器蓋	103 須环 惠器蓋	口径 16.8cm 器高 2.3cm	全面ヨコナデ調整 外面天井部に自然袖付着	暗灰色	硬質	T 4

須・ 須 環 器 身	105	口径 16.8cm	全面ヨコナデ調整	暗灰色 断面・断水褐色	硬質	T 4
須・ 須 環 器 身	106		天井中央に退化した複室様つまみを有する 外面と口縫陽辺はヨコナデ調整 下井内面は未調整	青灰色	硬質	T 4
須・ 須 環 器 身	107	11種 岩高 4.2cm 高台径 8.6cm	底部の外端内側に断面台形の高台が貼りつく 内側面が接触する 内外両共ヨコナデ調整 異常に爪熱傷が残る	内面 青灰色 外面 灰紫色	硬質	T 4
須・ 須 環 器 身	108	高台径 8.6cm	断面台形の高台は内角で接触し浅い凹面をもつ 外端底部各筋 内外面共ヨコナデ調整 内面高台はりつけ部に爪形 痕	白色	やや軟質	T 4
須・ 須 環 器 身	109	底径 7.6cm	底部と体部の境が明確である 外面底部1/4点調整 内面ヨコナデ 外面底部削除 口縫外側自然輪付管	内側 灰色 外側 灰灰色	硬質	T 4
須・ 須 環 器 身	110	11種 岩高 4.7cm 高台径 8.3cm	ほぼ平坦で厚さの底部の外端よりやや内側に断面台形で やや外側で接触する高台が貼りつく 底部外側中央部は未調整 その他ヨコナデ調整	青灰色	硬質	T 4
須・ 須 環 器 身	111	口径 11.8cm 岩高 4.0cm	全面遮蔽のため不明	内面 乳褐色 外面 青灰色 (ス付着の為)	軟質	T 4
須・ 須 環 器 身	112	高台径 10.4cm	外面の底部中央付近は腫脹 後りヨコナデ調整	淡灰色	硬質	T 4
須・ 須 環 器 身	113	11種 岩高 4.6cm 底径 10.0cm	内外面ともにヨコナデ。底部の内外面共未調整 外面底部と体部の間の一部が未調整	乳灰色	やや軟質	T 4

須 要 部 品 環 境	114	口径 底径 器高 底径	12.8cm 8.5cm 7.3cm	マキアゲ ミスピキ成形 回転ナナ調整	内外面共 暗灰色	硬質	T 4
須 要 部 品 環 境	115	口径 器高 底径	12.8cm 8.1cm 10.0cm	マキアゲ ミスピキ成形 回転ナナ調整	内面(环部)白灰色 その他 灰色	やや硬質	T 4
須 要 部 品 環 境	116	口径 器高 底径	8.3cm 5.9cm 9.2cm	外面部により下にカギ日 (他はヨコナナ)	暗灰色	硬質	T 4
須 要 部 品 環 境	117	口径 器高 底径	7.1cm 4.1cm 5.9cm	体部上部1段大径孔をもつ マキアゲ ミスピキ手法で全体に回転ナナを用いた外面部下部 遮断が施されている。	暗灰色 断面は赤灰色 内面に黒褐色の自然輪付着	硬質	T 4
須 要 部 品 環 境	118	—	—	体部の上部1段の所にハケ面体による創穴点文 その上下に回転文を施しその他はヨコナナ調整	—	—	T 4
須 要 部 品 環 境	119	口径 器高 底径	12.1cm 4.1cm 9.2cm	全面ヨコナナ調整 口縫外面に自然輪付着	内側 外側 暗灰色 暗灰色	硬質	T 4
須 要 部 品 環 境	120	口径 高台径 器高 底径	12.6cm 6.6cm 2.3cm 9.2cm	平坦な底部の外縁に断面台形の短い高台がはりつく 外面底部に同配糸切痕 貼りつけ高台 口縫端部外面に施輪	内外面共白灰色	硬質	T 4
構 成 環	121	底径	4.5cm	ヨコナナ調整 外底部は回転糸切り痕	漆火色。施輪部分は漆緑色	硬質	T 4
構 成 環	122	口径	9.6cm	ロクロ成形、施輪	にぶい緑色	良好	T 4

灰 袖 塊	123	底径 7.4cm 断面がほぼ台形の高台がありついている 内面袖樽 全面ヨコナナテ調整	乳灰色	硬質、良好	T 4
粉 袖 塊	124	高台径 6.2cm 全面袖樽 (-一部は削離) 削り出し高台	茶地 黄白色 うす緑 軸	良好	T 4
土 肺 器 塊	125	口径 12.6cm 器高 3.6cm 口樽外面は比較的ていねいに仕上げられている	赤褐色	良好	T 4
土 肺 器 塊	126	口径 13.6cm 器高 4.2cm 1) 横端部内部には段を作りする 2) 横端部下半には指压痕がみられる (未調整)	外面はやや暗い赤褐色 内面は白っぽい赤褐色	良好	T 4
土 肺 器 塊	127	口径 13.2cm 器高 3.9cm 内面及び口樽端部外面ナナテ調整 その他未調整	赤褐色 (内面やや白っぽい)	良好	T 4
土 肺 器 塊	128	口径 13.8cm 器高 3.8cm 内面及び口樽端部外面ナナテ調整 他未調整	赤褐色	良好	T 4
土 肺 器 塊	129	口径 11.6cm 器高 3.8cm 内面及び口樽端部外面はナナテ調整 その他未調整	赤褐色	良好	T 4
土 肺 器 塊	130	口径 12.9cm 器高 3.8cm 1) 横端部外面には内側する段がある 2) 内面及び口樽端部外面ナナテ調整 他は未調整	赤褐色 (内面の体調はやや白 っぽい)	良好	T 4
土 肺 器 塊	131	口径 12.8cm 器高 3.8cm 内面及び口樽端部外面ナナテ調整 他は未調整	赤褐色 (内面、新規色)	良好	T 4

上 飾 器 ・ 塊	132	口径 11.9cm 器高 4.8cm	内面は口附近まで 赤褐色(外面は黄褐色)	良好	T 4
土 飾 器 ・ 塊	133	口径 6.7cm 器高 3.8cm 口端部外面に段を有す	内面の一部にうまい 黄白色の部分有り)	良好	T 4
土 飾 器 ・ 塊	134	口径 13.6cm 器高 4.1cm 口端部内部には段がある 内面より外面よりも思われる 崩壊を有す	赤褐色 黄白色	良好	T 4
土 飾 器 ・ 塊	135	口径 12.8cm 器高 4.1cm 内面及び口端部外面はナデ調整 他は未調整	棕褐色	不良	T 4
土 飾 器 ・ 塊	136	口径 13.2cm 器高 4.1cm 内面及び口端部外面ナデ調整 他は未調整 口端部はやや外反し内面には内傾するくぼんだ状い面がある	赤褐色	良好	T 4
土 飾 器 ・ 塊	137	口径 13cm 器高 4.2cm 口端部内面には内傾するくぼんだせまい面がある	赤褐色	良好	T 4
土 飾 器 ・ 塊	138	口径 12.6cm 器高 3.6cm 内面及び口端部外面ナデ調整 他は未調整	赤褐色	良好	T 4
土 飾 器 ・ 塊	139	口径 13.4cm 器高 3.4cm 内面及び口端部外面はナデ調整 他は未調整	棕褐色	良好	T 4

土 師 器 ・ 壺	140	口径 高 さ	12.6cm 3.8cm	内面には段を有する 他は未調整	内面及び1種端部外面ナデ調整	内面、棕褐色（一部黒褐色の小さ い部分アリ） 上面の一部棕褐色	良好	T 4
土 師 器 ・ 壺	141	口径 高 さ	13.6cm 4.0cm	内面及び1種端部外面ナデ調整 他は未調整	赤褐色	良好	良好	T 4
土 師 器 ・ 壺	142	口径 高 さ	12.8cm 4.0cm	口端端部内面には内側した段がある 内面は全体的に	赤褐色（底部外面は黒）	良好	良好	T 4
土 師 器 ・ 壺	143	口径 高 さ	11.1cm 3.9cm 4.0cm（施定）	管 底部の周辺に指圧痕と想われるへこみが数箇所みられる	赤褐色	良好	良好	T 4
土 師 器 ・ 壺	144	口径 高 さ	10.6cm 3.5cm	11種端部はやや外反し、内面には沈縫が施されている 内面及び1種端部外面ナデ調整 他は未調整	赤褐色（内面は白っぽい）	良好	良好	T 4
土 師 器 ・ 壺	145	口径 高 さ	15.6cm 4.3cm	調査不明	赤褐色 (内面に黄白色が一部残る)	良好	良好	T 4
土 師 器 ・ 壺	146	口径 高 さ	14.8cm 2.0cm	内面及び1種端部外面ナデ調整	棕褐色	良好	良好	T 4
土 師 器 ・ 壺	147	口径 高 さ	15.4cm 2.4cm	端部内面には沈縫が認められる 内面及び1種端部外面ナデ調整 他は未調整	内面 上面 棕褐色	良好	良好	T 4
土 師 器 ・ 壺	148	口径 高 さ	18.2cm 2.4cm	内面及び1種端部外面ナデ調整 他は未調整 11種端部内面に凹面を行す。	棕褐色	良好	良好	T 4

土 拂 器 ・ 皿	149	口径 器高 2.15cm	16.7cm 口縁端部内面には凹面を有す	赤褐色 (底部の一部と内面の一部は黄 白色)	良好	T 4
土 拂 器 ・ 皿	150	口径 器高 3.8cm	16.4cm 内面及び口縁端部外面には段がある	黄褐色 (外面の一部は赤褐色)	良好	T 4
土 拂 器 ・ 皿	151	口径 器高 2.25cm	11径 16cm 平底から屈曲「く」字や外反	黄褐色 (外面の一部は赤褐色)	良好	T 4
土 拂 器 ・ 皿	152	口径 器高 2.9cm	16cm 内面及び口縁端部外面ナデ調整 口縁端部内面には沙漏を有する	橙褐色	良好	T 4
土 拂 器 ・ 皿	153	口径 器高 2.4cm	11径 16.8cm 内面及び口縁端部外面ナデ調整 底部外面に指圧感がみられる(未調整)	赤褐色	良好	T 4
土 拂 器 ・ 皿	154	口径 器高 3.0cm	15.2cm 内面及び口縁端部外面ナデ調整 底部内面には沙漏を有する	橙褐色	良好	T 4
土 拂 器 ・ 皿	155	口径 器高 2.3cm	14.8cm 端部内面には上からの肥厚のため沙漏がある 内面及び口縁端部外面ナデ調整、他は未調整	橙褐色	良好	T 4
土 拂 器 ・ 皿	156	口径 器高 2.4cm	16cm 口縁端部内面に沙漏を有する 底部は未調整 その他は表面削離のため不明(ヨコナダカ?)	橙灰白色	良好	T 4
土 拂 器 ・ 皿	157	口径 器高 2.8cm	13cm 内面及び口縁端部外面上にヨコナデ調整が見られる	橙色	良好 焼成 良好	T 4

土器 器 皿	158	口径 13.4cm 器高 2.9cm	体温は上方に飛び出る部分をやせまい面をもち丸い 内面及び外面部ナナ彫彫	黄褐色 (内面はまだら)	良好	T 4
須 器 皿	159	口径 15.0cm 器高 6.1cm	体温の外周の外輪の外輪に断面台形の高台が底部を接してはりつく 底部外面は未調整 感△点と高台上面に高台をはりつけた時のナナ彫彫	白灰色	やや硬質	T 4
須 器 皿	160	口径 11.7cm 高台径 8.0cm 高さ 7.4cm	体温内部はマキアゲのためヨコナナ彫彫 内面底部はマキアゲのためヨコナナ彫彫	暗灰色	硬質	T 4
須 器 皿	161		体温中位 (漢人俗付近) による割突列虫文、その上下に 回形文を施す 外面部に自然輪付着、その他ヨコナナ彫彫	外面肩部、深灰褐色 (自然輪付着) 断面 暗赤灰色	硬質	T 4
須 器 皿	162		体温中央よりや上方 (体温最大径) にクシ原体による割突列虫文 を施し、その上下に回形文をもつ、その他ヨコナナ彫彫	外面肩部乳頭灰色、その他暗赤灰色 断面 暗赤灰色	硬質	T 4
須 器 皿	163		脚柱下部は内弯気味の丸みをもち、その上方のくびれ部分に相羽的 突線がある。 上部はやや外傾し、その上方に再び相羽的突線が施された後、 に屈曲し、台部へつながると思われる。三方に、長方形のスカッシュ 孔がある。 ヨコナナ彫彫	外面部 暗灰色 内面 淡灰色	自然輪のため 硬質	T 4
土器 器 皿	164	口径 14cm 器高 3.7cm	内面及び口縁端部ナナ彫彫、他は未調整 口縁端部外面には凸凹を有す (未調査)	うすい赤褐色		T 4

墨・色 色 土 器	165	高台径 7.8cm		赤褐色	良好	T 4
墨・ 色 土 器	166	高台径 8.5cm	高台貼り付け	淡赤褐色 一部赤褐色	良好	T 4
土 器 部 品 類	167	口径 13.8cm	土師器 横口縫 外内縫繩、ハケに嵌る輪郭線が残る	赤褐色	良好	T 4
土 器 部 品 類	168	外面口径 14.5cm	口縫部ナデ原縫	淡褐色	良好	T 4
白 磁 ・ 灰	169	口径 17.6cm	体部にハケ日發る 口縫端部外面に沈縫をきまと 外面11枚以下、つけ輪	白色	優質 胎 I=黒色砂粒を少しあむ	T 4
土 器 部 品 類	170	口径 19.2cm	上部裏 口縫、ヨコナデ 端部外面に輪な沈縫をめぐらす 体部内外面ともハケ日	褐色	良好 胎 I=良好	T 4
土 器 部 品 類	171	口径 11.3cm	口縫ナデ輪縫 体部ハケ口 裏部に成形時の拘束痕残る	外面 淡赤褐色 内面 淡赤褐色	良好	T 4
土 器 部 品 類	172	口径 24.8cm	口縫内面ナデ調縫 口縫外面ハケ後ナデ調整 体部ハケ日調整	淡褐色	良好	T 4
土 器 部 品 類	173	口径 10.4cm	口縫周辺はヨコナデ調整 外面体部はダチのハケメ 内面体部はナナメのハケメを施す (スス付合のため)	内面 乳白色 外面 乳灰褐色	やや軟質 胎 I=良好	T 4

174	11往 土器 器 ・ 鑿	13.5cm 口径 口縁ヨコナデ	体内外面にハケメ 体部内外ハケによる調整	淡褐色 淡茶褐色	良好 良好	T 4 T 4
175	11往 土器 器 ・ 鑿	13.9cm 口径 口縁内外ナデ調整	口縁外面ハケ後ナデ調整	淡茶褐色 淡茶褐色	良好 良好	T 4 T 4
176	11往 土器 器 ・ 鑿	15.7cm 口径 体部ハケ日	11往ハケ後ナデ調整 体部下斗部解き	淡赤褐色 淡赤褐色	良好 やや軟質	T 4 T 4
177	11往 土器 器 ・ 鑿	25.3cm 口径 体部ハケ日	凹面を有する内傾した端面をもち端部は丸く收める。口縁端部外面 はヨコナデ調整 口縁外面、体部の内外面はナーメのハケ日を施す 内面磨滅著しい。	乳褐色 乳褐色	良好 良好	T 4 T 4
178	11往 土器 器 ・ 鑿	20.2cm 口径 口縁はナデ調整	全体に磨滅著しい体部内面にハケ付残る。 口縁はナデ調整	淡褐色 淡褐色	良好 良好	T 4 T 4
179	11往 須 心 器 器 ・ 鑿	12.1cm 高さ 4.2cm	外山天井崩壊り(定位不明) 内外面共ヨコナデ調整	内面全体は暗灰色 天井部は暗赤褐色 中は灰白色	硬質 硬質	T 5 T 5
180	11往 須 心 器 器 ・ 鑿	13.4cm 口径 天井崩壊崩壊	ヨコナデ調整 天井崩壊崩壊	外側 暗灰色 内側 淡灰色 断面 咬赤褐色	硬質	T 5
181	11往 須 心 器 器 ・ 鑿	12.2cm 口径 内外面共ヨコナデ調整	内外面共ヨコナデ調整	内面 淡灰色 外側 赤灰色	良好 良好	T 5 T 5
182	11往 須 心 器 器 ・ 鑿	13.7cm 全面ヨコナデ調整	全面ヨコナデ調整	淡灰色 淡灰色	硬好 硬好	T 5 T 5

須 心不 器蓋	183	口径 13.7cm	内外面共ヨコナデ調整	青灰色	硬質	T 5
須・ 心不 器蓋	184	口径 14.5cm	外側天井部窓削り 残りヨコナデ調整	外側 暗灰色 内側 淡灰色 断面 暗赤褐色	硬質	T 5
須・ 心不 器蓋	185	口径 12.3cm	ヨコナデ調整 外面の天井部 $\frac{1}{4}$ 窓削り	淡灰色	硬質	T 5
須・ 心不 器蓋	186	口径 13.7cm	端部は少し肥厚して内傾する平面を有する。 ヨコナデ調整	青灰色 (断面暗赤褐色)	堅板	T 5
須・ 心不 器蓋	187	口径 13.3cm	天井部外側窓削り 内面及び上縁部ヨコナデ調整 ヘラケズリの方向は左回り	淡灰色	硬質	T 5
須・ 心不 器蓋	188	口径 13.0cm	外面天井部は窓削り 他はヨコナデ調整	内面 淡灰色 外面 暗灰色	硬質	T 5
須・ 心不 器蓋	189		底盤外面全面窓削り 他はヨコナデ調整	青灰色	硬質	T 5
須・ 心不 器身	190	口径 12.3cm	外底面窓削り 他はヨコナデ調整	青灰色 (断面暗赤褐色)	硬質	T 5
須・ 心不 器身	191	口径 12cm 筒高 5.5cm	内面と外面の接線上までヨコナデ 外面口縁下から底部にかけて窓削り 外面受部下から底部全面自然輪	暗灰色	硬質	T 5

須・ 頸・ 胸不 器身	192	口径 11.4cm 筋高 4.8cm	内面と外面近等との境くらいままでヨコナデ 外面底部削り	淡乳白色	硬質	T 5
須・ 頸・ 胸不 器身	193	口径 13.4cm	内外面共ヨコナデ調整	灰色	硬質	T 5
須・ 頸・ 胸不 器身	194	口径 13.0cm	内面、外面多位ヨコナデ調整 底部は底削り	内面と外面の端部から受け部にかけて白色 外面底部は灰色	やや硬質	T 5
須・ 頸・ 胸不 器身	195	口径 17.8cm	ヨコナデ調整	暗灰色 板面端赤褐色	硬質	T 5
須・ 頸・ 胸不 器身	196	口径 14.6cm	外面底部付近削り 残りヨコナデ	淡灰色	硬質	T 5
須・ 頸・ 胸不 器身	197	口径 9.8cm	内外面共ヨコナデ調整	淡灰色	硬質 良好	T 5
須・ 頸・ 胸不 器身	198	口径 11.1cm	全面ヨコナデ調整	青灰色	内面口端部は白色が多い	T 5
須・ 頸・ 胸不 器身	199	口径 8.9cm	体側内面は未調整 その他はヨコナデ調整	淡灰色	内面が白色	T 5
須・ 頸・ 胸不 器身	200		内外面共ヨコナデ調整	青灰色	硬質	T 5

須 惠 器 械 不 良 品	201	口径 13.5cm 全面ヨコナデ調整 体部外面（受部も含む）に自然物付着	暗灰色	硬質	T 5
須 恵 器 械 不 良 品	202	口径 12.2cm つまみは扁平な楕円形状をし、中心から少しづれたところにつけられ ていている。 ヨコナデ調整	淡灰色 鉄分沈着のため内面まばらに乳白色。	硬質	T 5
須 恵 器 械 不 良 品	203	平らな下半部の中央に断面立柱形の低いつまみがつく ヨコナデ調整	青灰色	硬質	T 5
須 恵 器 械 不 良 品	204	口径 13.3cm 内外面共ヨコナデ調整	青灰色	硬質	T 5
須 恵 器 械 不 良 品	205	口径 12.1cm 内外面共ヨコナデ調整外面に自然物付着 重ね焼きの跡がみられる	淡灰色端部外面はわずかに灰褐色が 濃い	良好	T 5
灰 鉛 錠 塊	206	高台径 4.0cm 高台及び底盤は黒鉛	素地に灰色輪郭がかった白色	良好	T 5
須 恵 器 械 不 良 品	207	口径 14.4cm 内外面共にヨコナデ調整	口縁周辺は灰色 口縁下半部は淡灰色	良好	T 5
灰 鉛 錠 塊	208	高台径 9.2cm 背の高い長方形の高台を有する 内外面共ヨコナデ調整外面は高台上方により口縫にかけ内面は底盤 中央部に輪状にそれぞれ施されている	白灰色（輪は淡灰色で輪が厚く付 着している所は淡いコバルトル	良好	T 5
須 恵 器 械 不 良 品	209	高台径 9.9cm 断面形の低い高台が平面を接触させて貼り付けられる ヨコナデ調整外底面（高台中央部）は未調整	淡灰色（口縫外端は青灰色）	やや軟質	T 5

須 惠 器・壺	210	高台径 8.4cm 底部のはば外端に断面台形のどつりした高台が平面を接触させつ く 全面にヨコナデ調整	灰色 (自然物は緑灰色)	良好	T 5
須 惠 器・壺	211	高台径 9.8cm 高台は断面台形で平面を接触させて貼り付く 内面底部に一部自然輪付着 底部外面高台には回転糸切りの後粗くナデされている	肩部以下墨灰色部分以上は自然輪 付着の為行っぽい。内面墨灰色	硬質	T 5
須 惠 器・壺	212	高台径 9.7cm 肩部に一条の丸縫を運らせる ヨコナデ調整	淡灰色	やや軟質	T 5
須 惠 器・壺	213	高台径 9.7cm 断面長方形の低い高台が内端を接触させて貼り付く ヨコナデ調整	淡灰色	やや軟質	T 5
須 惠 器・壺	214	底径 5.3cm 底面に糸切り痕あり ロクロ作り	浅灰色	生焼け	T 5
土 台 滅 霧 器・壺	215	高台径 6.4cm 背の高い高台がはりつく 底部外面に回転糸切り痕がみられる 縁と底部に施釉のあととある (底部内面に蛇ノ目状露胎有り)	白灰色	硬質	T 5
灰 粉 瓶	216	口径 11.8cm ヨコナデ調整	青灰色	硬質	T 5
須 惠 器・壺	217	口径 19.0cm 内外共ヨコナデ調整	淡灰色	硬質	T 5
須 惠 器・壺	218	口径 12.5cm 器高 3.05cm 1機外側及び内面鏡ナデ他は未調整	淡粉色	砂粒 クサリレキ含む	T 5

上 部 飾 器 ・ 皿	219	口径 器高 2.2cm	9.4cm 内面及び口縁外面指ナデ他は未調整	桜色 (口縁部うすい褐色) 良好	T 5
土 師 器 ・ 皿	220	口径 器高 1.05cm	10.1cm 外面口縁部は塗いナデ 内面はナデ調整 底部外面は未調整	非常に薄い桜色 (白っぽい)	T 5
土 師 器 ・ 皿	221	口径 器高 1.5cm	10.2cm 内面及び口縁外面ナデ調整他未調整	黄味白色 良好	T 5
黒・ 色・ 小・ 土・ 器	222	口径 器高 2.95cm	10.9cm 内面及び口縁外面ナデ調整他未調整	黒 (素地・底色) 良好	T 5
土 師 器 ・ 皿	223	口径 器高 2.2cm	9.0cm 底部尖端 内面外面口縁ナデ調整	桜色 内面底は褐色 良好	T 5
土 師 器 ・ 皿	224	口径 器高 2.4cm	14.6cm 口縁 2.4cm	うすい桜色 底部内面の一部黒色 外面の一部黒色 良好	T 5
土 師 器 ・ 皿	225	口径 器高 2.7cm	20.3cm 口縁端部内面に陥り 口縁内面ハケ目面ナデ (底部分の指正依頼る)	淡赤褐色 良好	T 5
須 恵 器 ・ 皿	226	口径 器高 2.1cm	21.2cm 外面肥厚部以下カキ目他はヨコナデ調整	青灰色 やや暗紅 良好	T 5
須 恵 器 ・ 皿	227	高台径 12.8cm	高台径12.8cm 平坦な底部の外端に断面台形の高台が外ふんぱり貼りついている 内外面共にヨコナデ調整	淡灰色 平滑	T 5

須惠器・壺 須・ 懸 器 身	228	口径 18cm 内面端部は凹部を有する 全面ヨコナデ調整	乳白色 前面は背灰色	硬質 硬質	T 5 T 6
須 器 身	229	口径 11.2cm 内外面ヨコナデ調整 内外受部から底部前まで自然施。 立ち上りは内相しつ外反するが先は欠けている ヨコナデ調整	灰色 (内面と立あがり内外面) 暗茶色 (外面受部以下と断面)	硬質 硬質	T 6 T 6
須 器 身	230	口径 12.2cm 内外面ヨコナデ調整 底部外面施削り 底部外面削減	灰色 前面は暗茶褐色	硬質 硬質	T 6 T 6
須 器 身	231	口径 13.0cm 全面ヨコナデ調整	灰色	硬質 硬質	T 6 T 6
須 器 身	232	口径 12.2cm 内外面ヨコナデ調整 体部、外面、受部に自然施付着。	内面白灰色 外面底部濃灰色	硬質 硬質	T 6 T 6
須 器 身	233	口径 12.2cm 内外面ヨコナデ調整 内外ともヨコナデ調整外面受部より下部は自然施	内面白灰色、外面は受部より下は白 然施の為淡乳赤褐色	硬質 硬質	T 6 T 6
須 器 身	234	口径 10.0cm 立ち上がりは内傾つつ端部は内面に段をもつ 内外ともヨコナデ調整外面受部より下部は自然施	内外面白色 外面受部より下は自然施の為黒色	硬質 硬質	T 6 T 6
須 器 身	235	口径 10.2cm 高さ 3.8cm 内外面ヨコナデ調整 外面受部より下は自然施	白灰色	やや硬質 硬質	T 6 T 6
須 器 身	236	口径 10.1cm 内外面ヨコナデ調整			

須 惠 器 器 臺	237	口径 14.4cm 全面ヨコナナデ調整 天井部外面中央部分は裏切り 未調整か?	青灰色 (断面中央は暗赤褐色)	硬質	T 6
須 恵 器 器 身	238	口径 12.0cm 器高 3.3cm 外面芯部は未調整 その他はヨコナナデ調整	内面と外面底部は白灰色 外面口部は灰色	硬質	T 6
須 恵 器 器 身	239	口径 14.2cm 器高 3.4cm	淡灰色 端部へ近づくにつれて黒 灰色に近づく	硬質	T 6
須 恵 器 器 身	240	口径 12.6cm 内外面共 ヨコナナデ調整	灰色	硬質	T 6
須 恵 器 器 身	241	口径 13.2cm ヨコナナデ調整	内面淡灰色	硬質	T 6
須 恵 器 器 臺	242	口径 11.5cm 内外共ヨコナナデ調整	灰色	硬質	T 6
須 恵 器 器 臺	243	口径 9.1cm 内外共ヨコナナデ調整	淡灰色	やや硬質	T 6
須 恵 器 器 臺	244	底径 8.4cm 身体側に三方向の長方形のスカシ孔をもつ 計内部外面は回転ナナデ調整	内面灰色 外部底部内面銀灰色 脚部外面白色	硬質	T 6
須 恵 器 器 台	245	口径 10.3cm 高台径 6.6cm 器高 4.1cm 内外共ヨコナナデ 調整付 器 身 高	新面台形の高台が少し外にふんばり貼りついている 灰色	硬質	T 6

須・ 懸 器 身	246	口径 10.2cm 脚高 4.1cm 底径 7.1cm	内外面ヨコナデ調整 底部外面未調整	暗灰色	硬質	T 6
土 器 皿	247	口径 12.0cm 脚高 3.1cm	底部内部と口縁外面はナデ調整 底部外面は未調整	薄い銀色	良好	T 6
土 器 皿	248	口径 10.2cm 脚高 1.50cm	底部内部と口縁外面はナデ調整である。	外面はにぶい白味銀色 内面は白味銀色	良好	T 6
須・ 懸 器 皿	249	口径 10.8cm	外面底部近くに毫削り その他はヨコナデ調整 口縁外面の真中に上下に凹線文をめぐらせた突縁がみられる。 その下に上下で開まれた底尖文の文様帶がみられる。	外面灰銀色 内面銀錫色	硬質	T 6
須・ 懸 器 皿	250	口径 15.3cm	内外面共ヨコナデ調整	灰色	硬質	T 6
須・ 懸 器 皿	251	口径 18.2cm	内外面共ヨコナデ調整 外面に端削にあつてびる指ナデのあと	灰色	硬質	T 6
須・ 懸 器 皿	252	11径 19.8cm	内外面ヨコナデ調整 内面自然輪付管	外面暗灰色 内面自然灰輪	硬質	T 6
須・ 懸 器 皿	253	口径 18.0cm	外面11様カキ目 その他の内外面ヨコナデ調整	淡灰色	硬質	T 6
須・ 懸 器 皿	254	高台径 9.8cm	断面比方錐の高台が大きく外へふんばり内側を接地 底部は内外面共未調整 その他のヨコナデ調整だが体部外前にタキ日を施す	外面濃灰色 内面灰紫色 (内面底部多くくらに) 白味銀色の自然輪付管	硬質	T 6

街 器 臺	255	高台径11.2cm	T 6
土 槽 器 皿	256	口径 20.5cm 器高 2.2cm	褐色 最好
深 器 皿 盤	257	口径 22.4cm 内外面共ヨコナデ調整 内面と頸部に自然輪	内面白灰色 外面暗灰色 断面乳白色
深 器 皿 盤	258	口径 22.2cm 内外面共ヨコナデ調整 頸部と端部分に自然輪	暗灰色
須 ・ 器 皿	259	口径 14.2cm 内外面共ヨコナデ調整 口縁内側に内傾する端面をもち端部はやや外側へつまみ出す	内面白灰色外面是灰色
須 ・ 器 皿	260	口径 14.2cm 輪ナダ外面弓位磨削り	外面黑色 内面白色
須 ・ 器 皿	261	口径 10.2cm 全面ヨコナデ外面天井部丸く尖削す。 器高 3.6cm	淡灰色
須 ・ 器 皿	262	口径 11.6cm 器高 3.1cm	淡灰色
須 ・ 器 皿	263	口径 11.8cm 外面底部下方は磨削り その他ヨコナデ調整 器身	青灰色
			T 7

須・ 須 器 身	264	11種 高 5.1cm	11.0cm 全面ヨコナデ調整	硬質 硬灰色	T 7
須・ 須 器 蓋	265	11種 高 4.6cm	13.7cm 全面ヨコナデ調整	硬質 外側深灰色一帯灰色 内側立ち上がり及び底面は淡黒褐色	T 7
須・ 須 器 蓋 高 器 身	266	口径 底径 8.4cm	10.4cm 口縁ドリにカキ目 その他はヨコナデ調整 口縫途中に甘い味をとり下ろにカキ目を施す	硬質 内側白灰色 (自然物付着) 外側深灰色 底面赤紫灰色	T 7
須・ 須 器 身 (脚 器 高)	267	底径 9.2cm	全面ヨコナデ調整 外面に自然物付着	硬質 内側淡灰色外脚部灰色	T 7
須・ 須 器 身 高 器 身	268	底径 10.0cm	全面ヨコナデ 脊部外側のみ暗灰色他淡灰色	硬質 外側墨灰色 内側深灰色	T 7
須・ 須 器 身 (脚 器 高)	269	11種 7.2cm	全面ヨコナデ 深部は漆狀 内山底部に砂目 口縫端部、内面端部+削 り出外面底部は漆狀 高台が低く、水平な平面を残す	硬質 外脚部…漆綠 断面…灰色 底面…にぶい橙色	T 7
薄 津 三	270	口径 13.0cm	全面ヨコナデ調整 天井部に自然物付着	硬質 淡灰色	T 7
須・ 須 器 蓋 上 伸縮 器 身	271	高台径 6.0cm		暗灰綠色	T 7
	272			良好	

黒糊 色土器 ・	273	口径 14.2cm 内面と外面部縁部周辺はヨコナナデ調整 外面口縁端部以下は未調整	外面乳白色 内面及び端部周辺スス付着の為乳 灰色	やや軟質	T 7
黒糊 色土器 ・	274	口径 13.3cm 口縁端部外面に筋がある。 内面及び口縁端部内面ナナデ調整 外面口縁端部以下未調整	者は乳色で口縫はススが付着 裏は全体にススが付着して黒い	軟質	T 7
灰 糊 器	275	口径 11.1cm 長方形の高い高台はやや外へふんばつてはりついている ヨコナナデ	無柄 淡灰色	硬質	T 7
上付 器皿 小皿 かわ	276	口径 9.5cm 底面に糸切模が見られる(ロクロ作り) 器高 1.3cm ナナデ調整	黄味白色	軟質	T 7
縫 構 構 件	277	口径 10.0cm 横ナナデ調整で施袖	非常に薄い橙色	良好	T 7
縫 合 付 かわ	278	口径 11.4cm 器高 3.50cm 内外面共にナナデ調整されている 並列内面底部にハケ目あり	暗灰色(黄味がかった) 断面は暗灰色	良好	T 7
土 器 ・ 壇	279	口径 12.4cm 内面及び口縁外側ナナデ調整 器高 3.3cm 底部外面未調整	粉瘤色(外面) 桜色(内面)	良好	T 7
須 器 ・ 壇	280	高台径 9.2cm 底部は平坦で外周よりやや内側に断面台形の高台がやや内側を接して盛りつく その他ヨコナナデ調整	白灰色	やや軟質	T 7
須 器 蓋	281	口径 12.4cm 器高 4.8cm 外面天井部%以上剝りとオコシ他ナナデ調整	灰色	軟質	T 8

須恵器 環 蓋	282	口径 14.0cm 天井部外面%以上削り他ナデ調整	青灰色	良好	T 8
須恵器 環 蓋	283	口径 15.7cm 天井部外面%削りとオコシ他ナデ調整 高さ 5.15cm	灰褐色	軟質	T 8
須恵器 環 蓋	284	口径 15.0cm 高さ 4.8cm 天井部外面%以上削り他ヨコナデ調整	外側灰褐色 内側茶褐色	良好	T 8
須恵器 環 蓋	285	口径 13.0cm 天井部外面%以上削り他ナデ調整 内部内面に段がある。	青灰色	良好	T 8
須恵器 環 蓋	286	口径 12.5cm 高さ 4.7cm 天井部外面%以上削り 刺り 他ナデ調整	青灰色	良好	T 8
須恵器 環 蓋	287	口径 12.2cm 高さ 3.6cm 天井部外面%以上削り 中心部巻起し他ナデ調整	青灰色	良好	T 8
須恵器 環 蓋	288	口径 13.2cm 天井部外面%削り他ナデ調整	灰色	良好	T 8
須恵器 環 蓋	289	口径 13.0cm 天井部外面%削り他ナデ調整	青灰色	軟質	T 8
須恵器 環 蓋	290	口径 12.4cm 天井部外面%削り他ナデ調整	青灰色	良好	T 8

須・ 感不 器蓋	291	口径 15.6cm 天井部外面削り 他ヨコナデ調整	青灰色(断面レンガ色)	良好	T 8
須・ 感不 器蓋	292	口径 13.7cm 天井部外面削り 他ヨコナデ調整	(外)灰 (内)レンガ色	軟質	T 8
須・ 感不 器蓋	293	口径 15.2cm ナデ調整	青灰色	良好	T 8
須・ 感不 器蓋	294	後元 口径 14.6cm 天井部外面削り 他ヨコナデ	灰白色(外は薄青灰白色)	軟質	T 8
須・ 感不 器蓋	295	口径 11.5cm 天井部外面削りその他ナデ調整	青灰色	良好	T 8
須・ 感不 器蓋	296	口径 12.0cm 天井部外面削り他ヨコナデ調整 (内)赤色 (外)青灰色	灰色	軟質	T 8
須・ 感不 器蓋	297	口径 11.4cm 天井部外面削り他ナデ調整 外側唇底着い	灰色	良好	T 8
須・ 感不 器蓋	298	大井部外面削り(3段以上)他ナデ調整	青灰色	良好	T 8
須・ 感不 器蓋	299	口径 12.6cm 高 4.75cm 天井部外面削り 他ナデ調整	青灰色	良好	T 8

須 器 環 蓋	300	口径 13.2cm	ヨコナデ調整	青灰色	良好	良好	T 8
須 器 環 蓋	301	口径 13.7cm		外側灰色 内側灰色			T 8
須 器 環 蓋	302	直径 11.8cm	天井部外面削り 他ヨコナデ調整	青灰色	良好	良好	T 8
須 器 環 蓋	303	口径 11.8cm	天井部外面削り 他ヨコナデ調整	青灰色	良好	良好	T 8
須 器 環 蓋	304	盤元口径 13.0cm	天井部外面 1/2以上削り 他ヨコナデ調整	薄レンガ色 (外が黒い)	軟	良好	T 8
須 器 環 蓋	305	口径 14.0cm	天井部外面削り 他ヨコナデ調整	灰色	良好	良好	T 8
須 器 環 蓋	306	口径 14.4cm	天井部外面 1/2以上削り 他ヨコナデ調整	灰色	軟	良好	T 8
須 器 環 蓋	307	口径 12.8cm	天井部外面削り 他ヨコナデ調整	青灰色	良好	良好	T 8
須 器 環 蓋	308	口径 13.1cm	ヨコナデ調整	青灰色	良好	良好	T 8

			灰色	良好	T 8
須 惠 器 環 臺	309	口径12.7cm 天井部外面削り 他ヨコナデ	青灰色	軟	T 8
須 恵 器 環 臺	310	口径 13.4cm 天井部外面1cm以上削り 他ヨコナデ	青灰色	良好	T 8
須 恵 器 環 臺	311	口径 13.0cm 天井部外面1cm以上 削り他ヨコナデ調整	青灰色	良好	T 8
須 恵 器 環 臺	312	口径 14.4cm 天井部外面1cm以上削り 他ヨコナデ天井溝縁辺の繊が強化している	灰色	良好	T 8
須 恵 器 環 臺	313	器高 6.0cm 天井部外面中心部を巻起し 他ヨコナデ調整	青灰色	良好	T 8
須 恵 器 環 臺	314	口径 11.6cm ヨコナデ調整	青灰色	良好	T 8
須 恵 器 環 臺	315	口径 15.5cm 天井部外面削り 他ヨコナデ調整	青灰色	良好	T 8
須 恵 器 環 臺	316	口径 13.6cm 天井部外面縁辺の繊がない 天井部外面削りし後にナチ調整	薄青灰色	良好	T 8
須 恵 器 環 臺	317	器高19.5cm 天井部外面削り 他ヨコナデ調整 器高 4.9cm	青灰色	良好	T 8

須 患 器 环 差	318	口径 器高 4.9cm	後部口径19.9cm 火井部外側遮の構はつきりしない。天井部遮しと削り他はヨコナデ 充分に空気抜きしてはいけないがボンボンを一存んでいる 非常に強で無い作り方	暗灰色	T 8
須 患 器 环 差	319	口径 13cm	ナデ調整	少し青い灰色	T 8
須 患 器 环 身	320	口径 器高 6.3cm	12.7cm 底部外面削り 他はナデ調整 外底部に自然輪付着	青灰色 (断面レンガ色)	T 8
須 患 器 环 身	321	口径 器高 5.05cm	11.3cm 底部に丸鋸歯い 外面部底部削りと尾起し他はナデ調整	青灰色	T 8
須 患 器 环 身	322	口径 器高 5.95cm	9.6cm 底部外面削りと尾起し他ナデ調整 全体は横円形にひすむ。	青灰色	T 8
須 患 器 环 身	323	表元1径2.2cm	底部外面削り 他ヨコナデ調整	薄灰色白色	T 8
須 患 器 环 身	324	口径 器高 5.8cm	12.95cm 底部外面削り他ヨコナデ調整	灰色	T 8
須 患 器 环 身	325	口径 器高 4.65cm	11.6cm 底部外面削り、中心部削起し、他ナデ調整	青灰色	T 8
須 患 器 环 身	326	口径 器高 5.7cm	10.4cm 底部外面削り 中央部削起しの盛り 他ナデ調整	灰青色	T 8

				良好		T 8
須惠器 环身	327	口径 10.05cm 底部外面削り、他ナデ調整	青灰色	良好		T 8
須惠器 环身	328	口径 11.9cm 底部外面削り、他ナデ調整 器高 5.85cm	青灰色	良好		T 8
須惠器 环身	329	口径 11.4cm 底部外面削り他ナデ調整	灰色	良好		T 8
須惠器 环身	330	口径 9.8cm 器高 5.5cm	青灰色	良好		T 8
須惠器 环身	331	口径 10.1cm ナデ調整	灰色	良好		T 8
須惠器 环身	332	口径 10.0cm ヨコナデ調整	灰色	良好		T 8
須惠器 环身	333	口径 11.8cm ヨコナデ調整	青灰色	良好		T 8
須惠器 环身	334	口径 9.0cm 体部削り調養しい。	灰色	良好		T 8
須惠器 环身	335	口径11.2mm ヨコナデ調整	青灰色	良好		T 8

			灰色		良好	T 8
須 惠 器 環 身	336	口径 19.8cm 底部外面窓起し 他ナデ調整				
須 惠 器 环 身	337	口径 12.3cm 器高 4.9cm 底部外面窓起し底有 他ナデ調整	灰白色	灰白色	粘土良好	T 8
須 惠 器 环 身	338	口径 11.8cm 器高 5.2cm 底部外面窓起し地ヨコナナフ 底部に窓で横一文字の記片あり		褐色 羽羽色がかった黄灰色	良好	T 8
須 惠 器 环 身	339	口径 13.3cm		青灰色	良好	T 8
須 惠 器 环 身	340	口径 11.2cm ナデ調整		薄青灰色	良好	T 8
須 惠 器 环 身	341	口径 9.6cm 底部外面窓起り 他ナデ調整		古灰色	良好	T 8
須 惠 器 环 身	342	口径 13.0cm 器高 5.3cm 底部外面窓起し底有 他ヨコナナデ調整		灰白色	軟	T 8
須 惠 器 环 身	343	口径 12.0cm 器高 6.0cm 底部外面窓起し底有 他ナデ調整		灰色	良好	T 8
須 惠 器 环 身	344	口径 13.3cm 他ナデ調整		青灰色	良好	T 8

須 患 器 环 身	345 11径13.5cm 底部外面削り 他ナナ調整	灰色 赤褐色 (内はくすんでいる)	良好 軟	T 8
須 患 器 环 身	346 復元口径11.2cm 器高 5.35cm			T 8
須 患 器 环 身	347 口径 11.2cm 底部外面削り、他ナナ調整	青灰色	粘土良好	T 8
須 患 器 环 身	348 口径 11.0cm ナナ調整	青灰色	良好	T 8
須 患 器 环 身	349 11径13.5mm ナナ調整	灰色	良	T 8
須 患 器 环 身	350 口径 11.8cm 全体にひずんでいる 器高 5.6cm	青灰色	良好	T 8
須 患 器 环 身	351 口径 9.4cm 底部外面削り他ナナ調整	少し青い灰色	良好	T 8
須 患 器 环 身	352 口径 9.5cm 底部外面へラオコシ直角、他ナナ調整	青灰色 (表面黒褐色)	良好	T 8
須 患 器 环 身	353 口径 9.5cm ナナ調整	灰色	良	T 8

				青灰色(断面レギュラ)	良好		T 8
須 惠 器 仔 金	354	口径 11cm	ナデ調整	青灰色	良好		T 8
須 惠 器 环 蓋	355	口径 11.1cm	ナデ調整	青灰色	良好		T 8
須 惠 器 仔 金	356	口径 15.2cm	天井部外面削り 他ヨコナナデ調整 外側は磨滅著しく不明、一点自然軸付着	灰色	良好		T 8
須 惠 器 仔 金	357	口径 12.4cm	天井部外面削り他ナデ調整	灰色(外面自然輪)	良好		T 8
須 惠 器 环 蓋	358	復元口径14cm 器高 4.5cm	天井部外面削りと削り他はナデ調整、天井部縁辺の擦は退化して灰色 全体としてひどくゆがんでいる。	青灰色	軟		T 8
須 惠 器 环 蓋	359	口径 13.2cm 器高 4.6cm	天井部外面削り、他ヨコナナデ調整、天井部縁辺の擦は退化している	青灰色	良好		T 8
須 惠 器 环 蓋	360	口径 13.4cm	ナデ調整、天井部縁辺の擦は退化している	青灰色	良好		T 8
須 惠 器 环 蓋	361	口径 15.4cm	天井部外面削り他ヨコナデ 天井部外面縁辺の擦は消滅している	灰色	良好		T 8
須 惠 器 环 蓋	362	口径 13.8cm	ヨコナナデ調整 天井部外面縁辺の擦は消滅している	灰青色	良好		T 8

須有 器具 部 環 部 蓋	363	口径 15cm	ナデ調整 天井外部面練込の歯は退化している	青灰色	良好	T 8
須有 器具 部 環 部 蓋	364	口径 12.2cm	ナデ調整 天井外部面練込の歯は退化している	青灰色	良好	T 8
須有 器具 部 環 部 蓋	365	口径 11.3cm 高さ 5.6cm	ナデ調整 天井外部面剝り他のナデ調整	青灰色	良好	T 8
須有 器具 部 環 部 蓋	366	口径 11.4cm	ナデ調整	薄い灰青色	良好	T 8
須有 器具 部 環 部 蓋	367	口径 11.6cm	ナデ調整	薄いレンガ色(断面灰青色)	良好	T 8
須有 器具 部 環 部 蓋	368	口径 11.8cm	形がひどくゆがんでいる つまみ貼り付けナデ調整 天井外部面剝り他のナデ調整	青灰色	粘土良好	T 8
須有 器具 部 環 部 蓋	369	口径 13.8cm	つまみ貼り付けナデ調整 天井外部面剝り他のナデ調整	青灰色	良好	T 8
須有 器具 部 環 部 蓋	370	ツマミ径3.2cm	ナデ調整	明青灰色	良好	T 8
須有 器具 部 環 部 蓋	371	ツマミ径3.4cm	天井外部面剝り貼付つまみナデ調整、その他のナデ調整	灰色	良好	T 8

須 惠器 高 坏	372	底径 11.2cm	方形透したり、ナデ調整	暗灰青色	良好	T 8
須 惠器 坏 蓋	373	ツマミ径 2.1cm	つまみナデ調整 天井部外側裏削り 内面ナデ調整	赤橙色	軟	T 8
須 惠器 高 坏	374	底径 8.9cm	ナデ調整	灰白色	良好	T 8
須 惠器 高 坏	375	底径 8.1cm	方形の透しそらく二方 スカシ孔が三方に施されていると思われる。 全面ヨコナデ調整	暗灰色 断面端赤褐色	硬質	T 8
須 惠器 高 坏	376	口径 19.2cm	ナデ調整	青灰色	良好	T 8
須 惠器 群 體	377	口径 11.6cm	大井部外側裏削り 他ヨコナデ	灰色	軟	T 8
須 惠器 坏 蓋	378	底径 8.2cm	三方透し	灰色	良好	T 8
須 惠器 高 坏	379	底径 10.2cm	ナデ調整	青灰色	良好	T 8
須 惠器 高 坏	380	口径 10.0cm	内外共にヨコナデ調整 外面口縁に7本一糸で原体が施る 波形文が施される	外面透青灰色 (暗緑色の自然釉が 部分的に残る。) 内面淡灰色 ()	硬質	T 8

須恵器足	381	口径 11.0cm 高さ 11.0cm	外面凹輪間に輪引き波状文（単位10本か？） 他はヨコナデ調整	浅灰褐色色は外面暗灰褐色 内面乳白色	堅板	T 8
須恵器足	382		体部中央（清大進付近）にハケ脚部による割突列点文 その直下に凹線文	暗灰色、断面暗赤褐色 自然輪は綠褐色 (底部内面に自然輪付着)	硬質	T 8
須恵器足	383	口径 9.2cm 高さ 4.0cm 高台径 5.8cm	ナデ調整	薄青灰色	良好	T 8
須恵器壺	384		口縁は外反氣味に開き、上部で段をもつて内傾して立ち上がる。 嘴部は欠失しているが、内傾する面をもつと考えられる。 外面大綻以下に2段に分けて細かい波状文（刷毛原体か？） 他はヨコナデ	外面暗青色 内面淡灰褐色	硬質	T 8
須恵器壺	385	腹元口径15.0cm	ナデ調整	青灰色	良好	T 8
土師器壺	386	口径 13.7cm	外面突唇下に輪引き波状文 ヨコナデ調整	外面暗灰褐色 内面淡灰褐色 輪面赤褐色	堅板	T 8
須恵器壺	387	口径 22.6cm	ナデ調整	灰色	軟	T 8
灰釉壺	388	口径 16.2cm	内面に施釉 内外ともヨコナデ調整	淡灰色	硬質	T 8

須惠器坏	389	口径 12.4cm 口縁外面中位から底脚外面向かって削りとタテナデ 他ヨコナデ調整	褐色灰灰色	良好	T 8
黒色土器壺	390	口径 16.0cm 器高 6.85cm 体部は内孚氣味にのび端部は内面に沈線がある	内面黒色 外面うす褐色	良	T 8
灰灰壺	391	高台径 6.9cm 貼りつけ高台、全面ナデ調整。内面に一部削が残る	灰色	良好	T 8
灰灰壺	392	高台径 6.1cm 内面に一部難が残る貼りつけ高台	素地は灰白色 輪うす緑	良好	T 8
土師器壺	393	口縁内面ハケ目、外面ヨコナデ調整。指压痕、巻き上げ痕残る。 体部内外面ハケ口調整	淡乳赤褐色	良好	T 8
土師器壺	394	口径 16.6cm 器高 2.95cm 内面口縁部はヨコナデ調整底部にも部分的に見られる	褐色	良好	T 8
土師器壺	395	口径 14.0cm 器高 6.35cm 器部はつまみ出されている。底部外面には黒斑を有す	褐色	不良	T 8
須惠器壺	396	口径 15.4cm 全面ヨコナデ調整	青灰色	硬質 良好	T 9
須惠器壺	397	口径 14.3cm 内外面共ヨコナデ調整 (内面は特に強いナデがみられる)	内外面共青灰色断面赤紫灰色	硬質	T 9

須惠器环身	388	口径 15.7cm 器高 3.9cm	内面淡青色、外面よりやや深い 淡灰色	やや硬質	T 9
須惠器环身	389	口径 11.0cm 底部のみは簾割りその他はヨコナデ調整	内面淡青色、外面よりやや深い 淡灰色	硬質	T 9
須惠器环身	400	口径 12.6cm 内外面共ヨコナデ調整 外面下簾割り	灰色	硬質	T 9
須惠器环身	401	口径 11.9cm ヨコナデ、底部外面定位簾割り	暗灰色	硬質	T 9
須惠器环身	402	口径 13.8cm 内外面共ヨコナデ調整 底側は削減している	灰色	硬質	T 9
須惠器环身	403	口径 10.7cm 外底面のみ簾割り 他はヨコナデ調整	灰色 断面 暗赤褐色	堅紙	T 9
須惠器环身	404	口径 12.0cm 内外面共ヨコナデ調整	灰色	硬質	T 9
須惠器环身	405	高台径10.3cm ヨコナデ調整	青灰色 断面 暗赤褐色	堅紙	T 9
須惠器环身	406	高台径 9.0cm 断面形状の低い高台がほぼ平面を接地させて貼り付く 外底面に爪形压舌が2列にわたりつみられる 外底面未調整	青灰色 (断面中央赤褐色)	硬質	T 9

須恵器 杯	407		内外面共ヨコナナデ調整 火井部外面に帖たつなぎ口がみえる	灰青色	T 9
須恵器 杯	408	断面長方形の低い高台が貼り付く ヨコナナデ調整	灰色	やや硬質	T 9
土器 器・壺	409	口径 16.8cm 口縁は強めの外反、外斜する端面をもち、上につまみ出す に棒状の浮文を施す 内面体部はハク離が著しい駆逐近くは指おさ り、外面はヨコナナデ調整	外面赤褐色 内面淡赤褐色	軟質	T 9
綠 釉・耳 皿	410	高台径 5.3cm 高台は断面三脚形で内側に脚を有する。口縁は前が丸いもわせに内側 に折り込んでいる。もう一方の口縁は外にのびかるく外反端部は丸 くおさめる。高台は底部外周に少しふんばりがありついている 底部外面には水切り装置あり。あとは内外面共ヨコナナデ 底部外面に直径 5.2cmほどの二条の円形沈線を中央にもつ	淡乳灰色	やや硬質	T 9
灰 釉・耳 皿	411	高台径 7 cm 内面外面 はりつけ部までヨコナナデ内外面輪郭が見られる。 外底面に断面方形状の窪台がつく。	乳灰色	硬質	T 9
須 器 壺	412	三方に長方形スカシ孔を穿つ、スカシ孔の部分の外面にカキ日 あとはヨコナナデ調整	外面脚部暗灰色 他は灰色(新面青赤褐色)	硬質	T 9
須 器 壺	413	瓶径 10.6cm 全面ヨコナナデ調整、脚部外面上方は凹線状にへこむ	暗灰色 断面脚部暗灰色 外側青赤褐色	硬質	T 9
須 器 壺	414	底径 8.2cm 三方に長方形スカシ孔が穿たれる 全面ヨコナナデ、外底スカシの下に少しカキ目あり	青灰色	硬質	T 9

須 器 ・ 壺	415	口径 19.3cm	内外共ヨコナデ調整	内面と口縁端部周辺は淡灰色 口縁外面は暗灰色	やや軟質	T 9
須 器 ・ 壺	416			断面方形の低い高台が内端を挿地させて貼り付く ヨコナデ調整	硬質	T 9
青 (完 成 品)	417			口縁は内湾気味に外へ開き、端部は玉縁状を呈する ロクロ、ナデ全面海袖	柔軟 柔軟 柔軟	T 9
須 器 ・ 壺	418	口径 13.0cm	内外共ヨコナデ調整	白灰色	やや硬質	T 9
須 器 ・ 壺	419	口径 6.8cm	全面ヨコナデ調整	淡灰色	やや硬質	T 9
黒 土 器 ・ 壺	420	口径 15.4cm 高台径 5.7cm	箱部外面に一条の沈線をもち、丸くおさめる 断面三角形の高台が底部外面によみがり気味に貼りつく ヨコナデ調整、そのあとに内面体部は花押模様文、外面は指圧して ある 口縁端部剥離き、高台脚はヨコナデ外面底部は未調整	素地乳白色、内面一部黒色 …第二次焼成のため淡灰色	やや硬質	T 9
黒 土 器 ・ 壺	421	口径 15.0cm 器高 6.5cm 高台径 7.6cm	長方形のやや高めの高台が先端で接続して貼り付く 端部内側下に一季の沈線を残らす。 外面…底部は昆ナデ高台周辺はヨコナデ調整 内面…口縁端部外面ナデ、調整の上に施磨き	内面と外面口縫は黒色化 その他は乳白色	やや軟質	T 9
黒 土 器 ・ 壺	422	口径 14.6cm 器高 5.5cm 底台径 5.45cm	高台前面三角形で底部外縁に先端で接続する。口縁端部内面と外面 にそれぞれ一条の沈線をめぐらす。底部外面ナデ高台貼りつけ高台 その他のヨコナデ調整の上に内面底な外面は口縁端部付近は柔軟な体部 下方は斜面子状の粗い施磨きをそれぞれ施す。外面体部は指圧感が みられる。	内面と口縁外面黒色 外面 乳灰褐色	やや硬質	T 9

土 飾 器 ・ 皿	423	口径 高さ	15.2cm 3.3cm	外面部 粗ヨコナナデ1脚 外面に指圧痕ある。	端部及び内部ヨコナナデ調整	淡黄色	やや軟質	T 9
灰 鈍 規	424	口径	16.4cm	ロクロ成形		灰色	良好	T 9
土 飾 器 ・ 皿 (灰 鈍 規)	425	高台径 高さ	7.6cm 3.3cm	内面部と体部の境に注線 全面的に輪がほどこされている。高台は貼りつけによるものである。	輪…暗黄褐色 素地…黃桜鉛色	底部にヒビわれ		T 9
灰 鈍 規	426	高台径 高さ	7.0cm 3.3cm	断面四角でくわぢかの凹面をもつ外傾する端面を有する高台が貼 りつく	白灰色	硬質		T 9
灰 鈍 規	427	高台径 高さ	5.4cm 3.3cm	高台は、貼りつけ高台。その他金てヨコナナデ調整 輪の跡がくわぢかにみられる	明白灰色 (日に近い) うわぐり部分	良好		T 9
(中國 磁 器)				底部高台はヘラによる削り出しだある うわぢりのかけ方は輪である	明白白色 (ほんとん白色)	良好		
土 飾 器 ・ 皿	428	高台径 高さ	6.4cm 3.3cm	高台のついで底盤より屈曲して上方へのびる 高台内面を陰いで輪素がほどこされている。内面部には沈線があ り、高台内部はていねいに施でている	暗黄褐色	良好		T 9
土 飾 器 ・ 皿	429			ハの字型の高台をもつ端部は三角形に近い体部欠損 貼りつけ高台	素地…真珠白色 輪… こい絆	良好		T 9
土 飾 器 ・ 皿	430	口径 高さ	9.4cm 1.5cm	内面から外面口輪部1脚までがヨコナナデ調整	乳白色	やや軟質		T 9

灰 輪 塊	431	高台径 7.8cm ヨコナデ(剛毛ぬり) 驚神は内面 退化した沈縫がみられる	灰白色 ヨコナデ(剛毛ぬり) 驚神は内面	硬質 硬質	T 9 T 9
輪 轂 軸 輪 塊	432	高台径 7.1cm 断面の高台は外へやふんぱり、内端を擦地させる はりつけ高台、底外部斜切り痕 その他ヨコナデ調整	乳灰色 はりつけ高台、底外部斜切り痕	硬質 硬質	T 9 T 9
輪 轂 軸 輪 塊	433	高台径 6.5cm 高台はやや上部外面に沈縫あり、高台内面を陥き縫跡がほどこされ ている 高台は、貼り付式底外部(高台内)には糸切り板力歓る	暗黄褐色(錆跡) 茶地 黄灰色	良好 軟質	T 9 T 9
土か 輪わ 器け 口径	434	口径 8.2cm 底部外面未調整 その他ナデ調整 器高 0.6cm	黄色 黄味白色	軟質 良好	T 9 T 9
土か 輪わ 器け 口径	435	口径 7.8cm 底部はほぼ水平で端部がLへおちられている 器高 0.6cm 内面口縁外面ナデ調整と底部外面未調整	暗灰色 柳白色	良好 軟質	T 9 T 9
土か 輪わ 器け 口径	436	口径 8.3cm 底部はうすく横のびくつまみ上げられている 器高 0.65cm 底部外面未調整、内面及び口縁外面ナデ調整	柳白色 明灰色	軟質 良好	T 9 T 9
土か 輪わ 器け 口径	437	口径 9.2cm 口縁端部ナデ調整 器高 0.5cm	黄味白色 明灰色	良好 良好	T 9 T 9
土か 輪わ 器け 口径	438	口径 9.6cm ナデ調整 器高 0.55cm	黄味白色 明灰色	良好 良好	T 9 T 9
土か 輪わ 器け 口径	439	口径 10.1cm 口縁部ナデ調整と底部未調整 器高 1.3cm	明灰色 良好	良好 良好	T 9 T 9

上 部 飾 器 ・ け い	440	口径 器高 0.7cm	11cm ナデ調整	口味橙色	良好	T 9
土 節 器	441	口径 器高 1.10cm	5.3cm 内面及び口縁外面 底部外面未調整	黄味白色 口縁部墨灰色	良好	T 9
七 節 器 ・ 皿	442	口径 器高 1.80cm	10.80cm 外面底部は未調整。外面口縁部から内面はナデ調整され、外面の口縁部はヨコナデされている。	内外面共に 白味橙色	良好	T 9
土 節 器 ・ 皿	443	口径 器高 1.9cm	9.1cm ヨコナデ調整	薄褐色	良好	T 9
土 節 器 ・ 皿	444	器高 口径 9.5cm	1.55cm ナデ調整	素地一様色 明い橙色 一部にうす黒	二次焼成	T 9
須 環 器 ・ 皿	445	口径 14.6cm	天井部外面両面り 他ヨコナデ調整	青灰色	良好	T 10
須 環 器 ・ 皿	446	口径 15cm	天井部外面両り 他ヨコナデ	口味がかった青灰色	良好	T 10
須 環 器 ・ 皿	447	口径 器高 3.45cm	11.85cm 底部外面両り 他ナデ調整 形としてもかなりゆがんでいる。削り非常に焼れています。	灰色	良好	T 10
須 環 器 ・ 皿	448	口径 13.2cm	ナデ調整	青灰色	良好	T 10

須高 須環 器具蓋	449	口径 14.4cm 器高 5.5cm ツマミ径 2.8cm	つまみナナ調整 天井部外面削り 他ヨコナナ調整	青灰色	良好	T10
須高 須環 器具蓋	450	口径 12.1cm 器高 9.0cm 直径 10.8cm	环外部表面と脚部上半分にカキ目 傷はヨコナナ調整 円形のものを二方に穿つ、脚部端面に次線が一条ある	青灰色	良好	T10
須高 須環 器具蓋	451	口径 13.4cm	つまみナナ調整、天井部外面削り、他ナナ調整	青灰色	良好	T10
須高 須環 器具蓋	452	口径 12.9cm	天井部外面削り外、ナナ調整 内側に自然輪	暗灰色	良好	T10
須高 須環 器具蓋	453	ツマミ径 3.2mm		青灰色	良好	T10
須高 須環 器具蓋	454	口径 12.9cm	天井部外面削り、他ナナ調整	灰色	良好	T10
須高 須環 器具蓋	455	口径=14.4cm 器高 4.3cm 高台径 9.2cm	底部外面に角丸し銀色他ヨコナナ	青灰色	やや軟	T10
須高 須環 器具蓋	456	口径 14.6cm 器高 4.4cm 高台径 9.9cm	断面台形で背の高い高台が缺点を外側にして外ふんぱりの形ではり	白灰色	硬質	T10
須高 須環 器具蓋	457	口径 11.4cm 器高 4.05cm	底部外面削り 他ヨコナナ調整	灰色	良好	T10

須 意 器 环 身	458	口径 11.5cm	外部外面は巻起と尾削り 他のヨコナデ調整	青灰色	良好	T 10
須 意 器 环 身	459	口径 12.5cm	底部外面中心部巻起し側面部尾削り 他のヨコナデ調整	灰色	軟	T 10
須 意 器 环 身	460	口径 12.8cm	ヨコナデ調整	緑い灰	良好	T 10
須 意 器 环 身	461	口径 15.8cm	ナデ調整	青灰色	良好	T 10
須 意 器 环 身	462	口径 13.4cm	ナデ調整	白灰色	良好	T 10
須 意 器 环 身	463	口径 14cm	外側前面中心部へラオ 側面削り 他のヨコナデ調整 全体に解消され	白灰色	軟	T 10
須 意 器 环 身	464	高台径 8.3cm	ナデ調整	青灰色	良好	T 10
須 意 器 环 身	465	高台径 9.6cm	ナデ調整	暗青灰色	良好	T 10
須 意 器 环 身	466	高台径 8.2cm	ナデ調整	青灰色	良好	T 10

須 環 器 身	467	口径 19.5cm	体側内面タタキ 他ヨコナデ調整	灰色	良好	T10
須 環 器 身	468	高台径 10cm	底部外面中央窓起し 他ヨコナデ調整	青灰色	良好	T10
須 環 器 身	469	高台径 11cm	底部外面中央窓起し 他ヨコナデ調整	灰色	良好	T10
須 環 器 身	470	高台径 10.5cm	ヨコナデ調整	灰色	良好	T10
須 環 器 身	471	高台径 9cm	ナデ調整	暗青灰色	良好	T10
須 環 器 身	472	高台径 9.8cm	底部外面中心部窓起し 他ナデ調整	灰色	良好	T10
須 環 器 身	473	高台径 8.6cm	ヨコナデ調整	暗灰色	良好	T10
須 環 器 身	474	高台径 8.6cm	ヨコナデ調整	灰色	良好	T10
蓋 0.5 mm	475	底径 9.2cm	底部外面窓削り 他ヨコナデ調整	灰色	良好	T10

476	口径 15.6cm ナデ調整	黒色(断面レンガ色)	良好	T10
477	高台径 7cm ヨコナデ 貼りつけ高台 油	長方形の高い高台は外へふんばり気味にはりついている 白灰色	硬質	T10
478	肩部は丸みをなす 外面に自然輪が付着している	基部は灰白色 輪は濃い緑	良好	T10
479	高台径 8.3cm 底面部外周附近に一束の沈線がみられる。 断面:三角形の高台の外側に少し肩をもち、ふんばり気味にはりついている高台以外端部はりつけ高台外底面に爪形状があり	基部は乳赤褐色	やや軟質	T10
480	口径 10.3cm 器高 1.6cm 底部外面は未調整、口縁外側及び内面ナデ調整	黄味白色	良好	T10
481	口径 10.2cm 器高 2.9cm ナデ調整されている 貼りつけ高台	うす橙色	良好	T10
482	口径 11.7cm 器高 5.1cm 天井部外面黒色り 他ヨコナデ調整	灰色	良好	T11
483	口径 14.1cm 器高 4.9cm 天井部 扇本調整 他はヨコナデ調整	外表面灰褐色 内面淡赤褐色	軟質	T11
484	口径 14.4cm 天井部外面黒色り その他ヨコナデ調整	青灰色	硬質	T11

須環 惠 器 器	485	111kg 口径 13cm	ヨコナデ (刷毛取り)	灰色 苦地…赤灰 表面…施釉のため緑色	硬質	T11
須環 惠 器 器	486	口径 13.8cm	ヨコナデ及 施釉 (刷毛取り)	苦地…赤灰 表面…施釉のため緑色	硬質	T11
須環 惠 器 器	487	高台径13.0cm 器高 5.6cm	内面部中央に乱焼で 前面台形の高台が平面を接触させて貼り付く。 他はヨコナデ	灰色	硬質	T11
須環 惠 器 器	488	口径 13.2cm 器高 5.6cm	底部外面削り 他ナデ調整	灰色	良好	T11
須環 惠 器 器	489	口径 12.5cm 器高 5.6cm	外底部4以上磨削り 他はヨコナデ調整	背灰色 内面…赤灰 外面…立ち上がりは内面と同じ。 自然釉付着の為濁翰白灰色	硬質	T11
須環 惠 器 器	490	口径 13.3cm	ヨコナデ調整 外面部カキ目	背灰色 内面…赤灰 外面…立上がりは内面と同じ。 自然釉付着の為濁翰白灰色	硬質	T11
須環 惠 器 器	491	口径 14.0cm	底部カキ目、ヨコナデ調整 外面に自然釉付着	背灰色 内面…赤灰 外面…立上がりは内面と同じ。 自然釉付着の為濁翰白灰色	硬質	T11
須環 惠 器 器	492	口径 10.6cm	ヨコナデ調整	内面 青灰色 外面 赤灰	硬質	T11
須環 惠 器 器	493	口径 16.45cm	全面ヨコナデ調整 外面に自然釉付着	内側灰 外側暗灰色で鉄分沈着のため まばらに褐色	硬質	T11

白 磁 皿	494	口径 12.7cm 高台径 5.3cm 器高 3.1cm	U線途中で浅く段をとり 段より上は輪花状を呈する。	内面、外面口縁 淡白緑灰色 高台、斷面 淡白灰白色	胎土 精良 硬質	T11
須根 馬糞 器	495	高台径 6cm		暗綠色(胎土)	良好	T11
黒 色 土 器 蓋	496	口径 15.5cm	内面を輪部隔壁はヨコナデ 下部にみられる。外面は粗い竪筋 吸着していた器素は二次焼成によつて消滅したと思われる。	内面 乳白灰褐色 外面 乳白灰色全体にうすく ススが付着	やや軟質	T11
須 根 壺 器	497	底径 10.0cm	三方に長方形の 外面部スカシ孔と重なる部分にカキ目 全体に自然釉がかかる	外 暗灰色 内 淡灰色 断 断赤褐色	硬質	T11
黒 色 土 器 蓋	498	口径 9.4cm 器高 2.1cm	内面及び口縁外面ヨコナデ調整 底部外面未調整	うすい黒色	良好	T11
か わ ら け	499	口径 8.20cm 器高 1.85cm	全体にひびんでいる 内面と口縁外面がナデ調整 底部外面未調整	非常に薄い褐色	良好	T11
須 根 器	500	口径 8.4cm	外面部カキ目 内面は焼減している	灰色	やや軟質	T11
灰 色 土 器	501		ヨコナデ調整 外面に海苔	灰色	堅硬	T11

第1章 赤野井遺跡図版

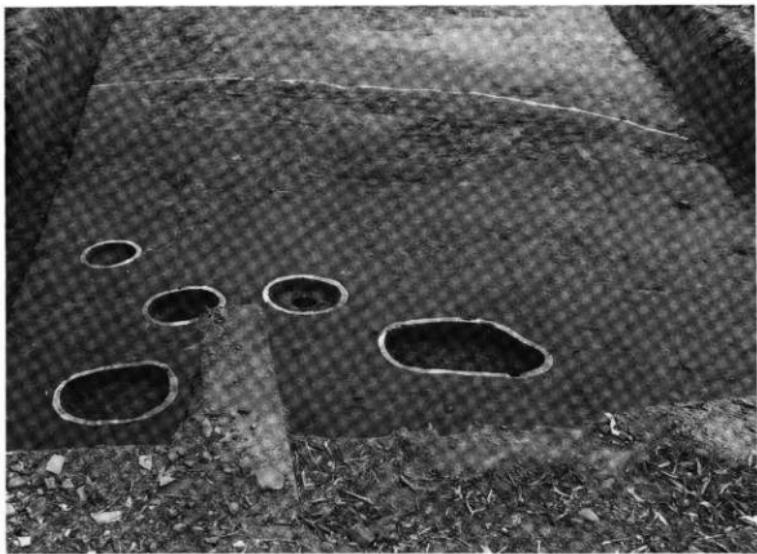


遺跡調査前全景（東より）



第1 トレンチ

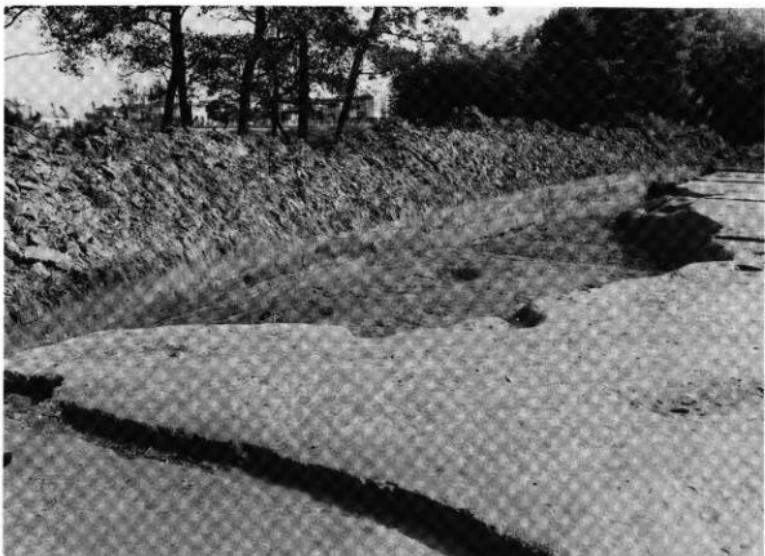
図版二 赤野井遺跡



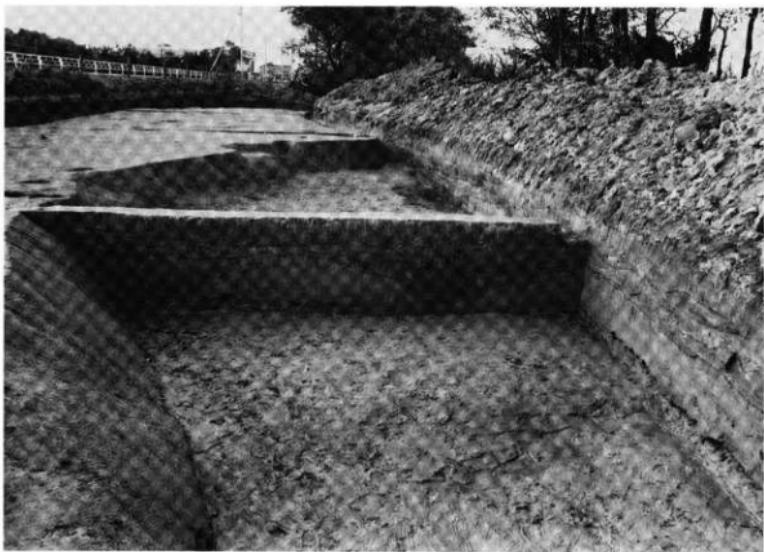
第1トレンチ S D001 掘削前



S D001 掘削後



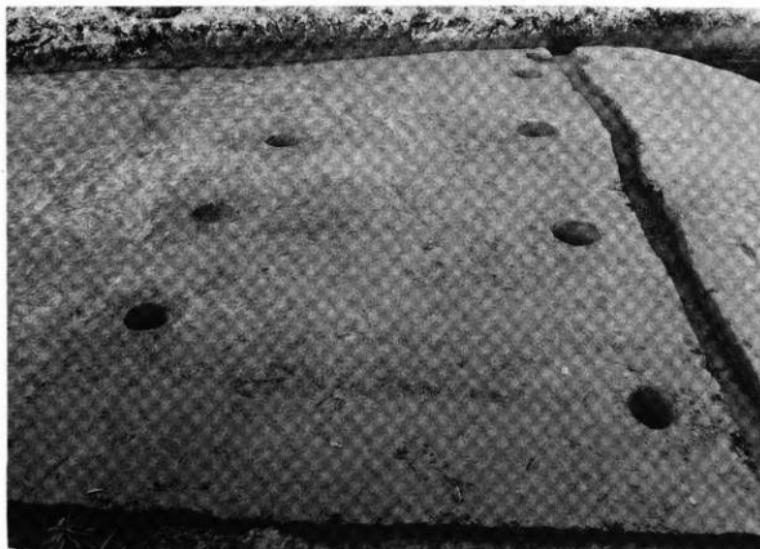
第1 トレンチ S D002 (西より)



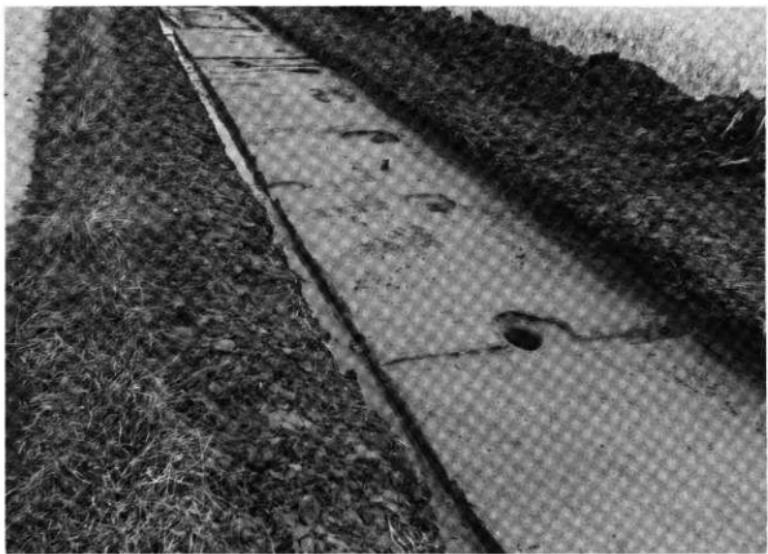
第1 S D002 中央アゼ断面 (東より)



第1 トレンチ S D001 北壁断面図



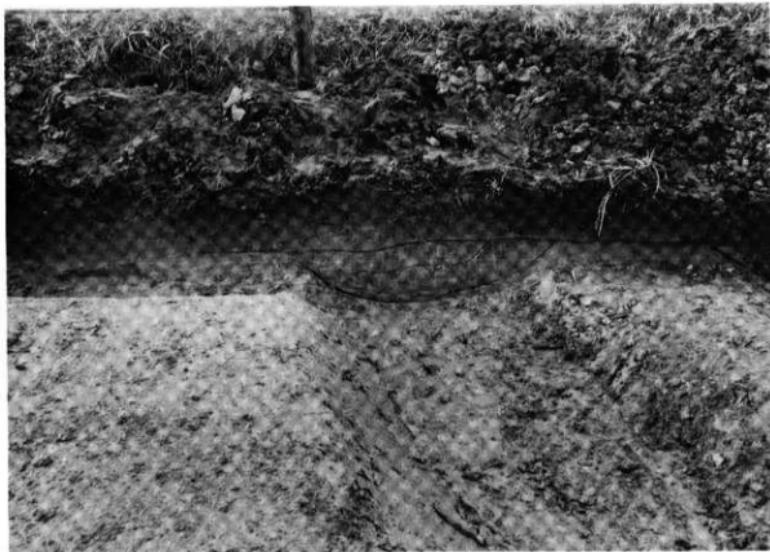
第1 トレンチ S D001



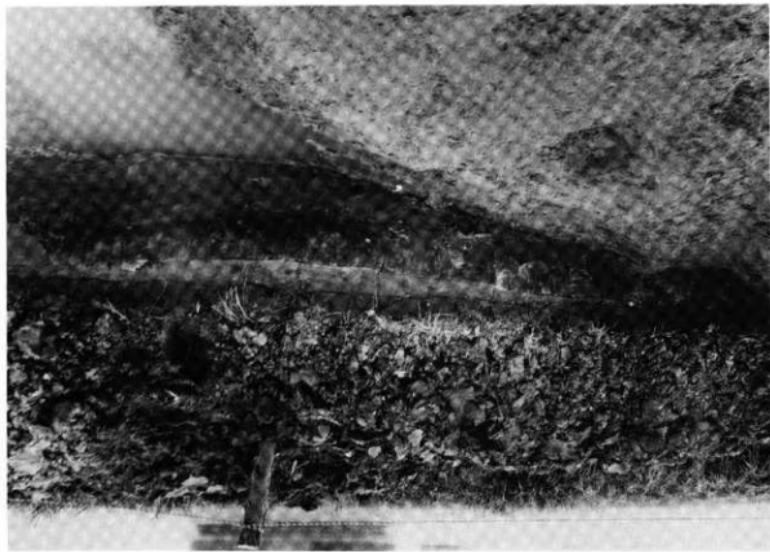
第2トレンチS B 003



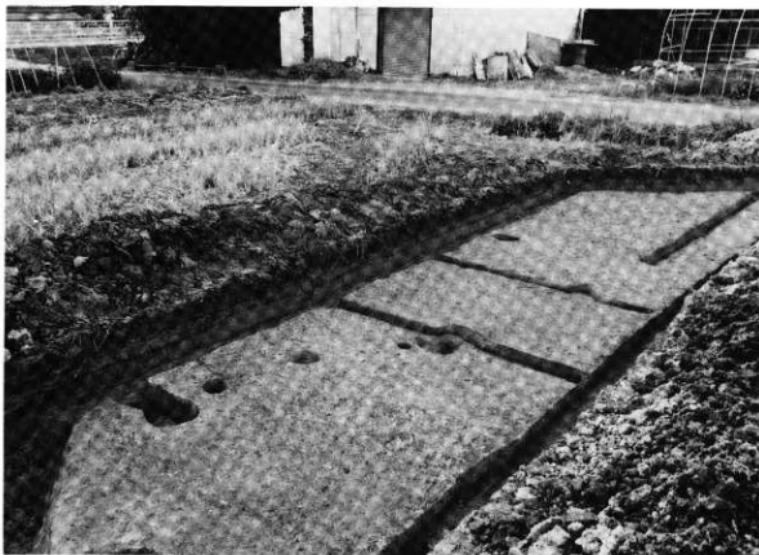
第2トレンチS D 003



第2トレンチS D003 分流土層断面図（西壁）



第2トレンチS D003 土層断面図（西壁）

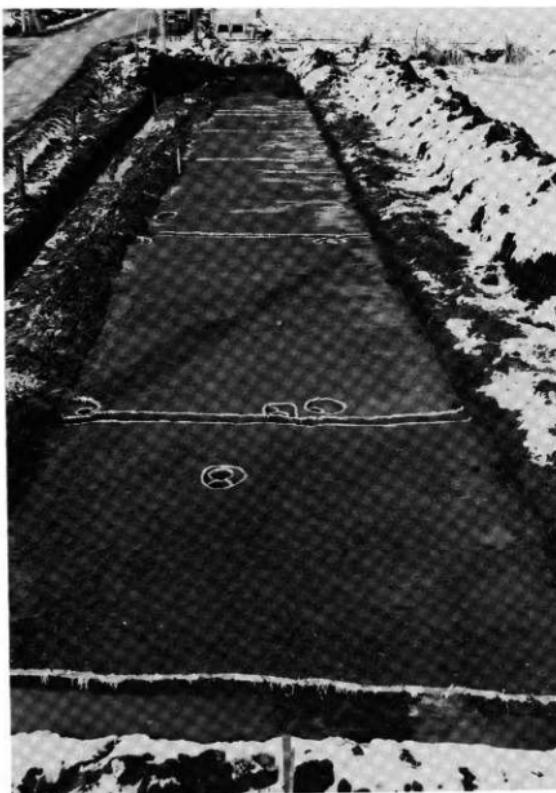


第2トレンチ北より



第2トレンチ S D004 (西より)

図版八 赤野井遺跡



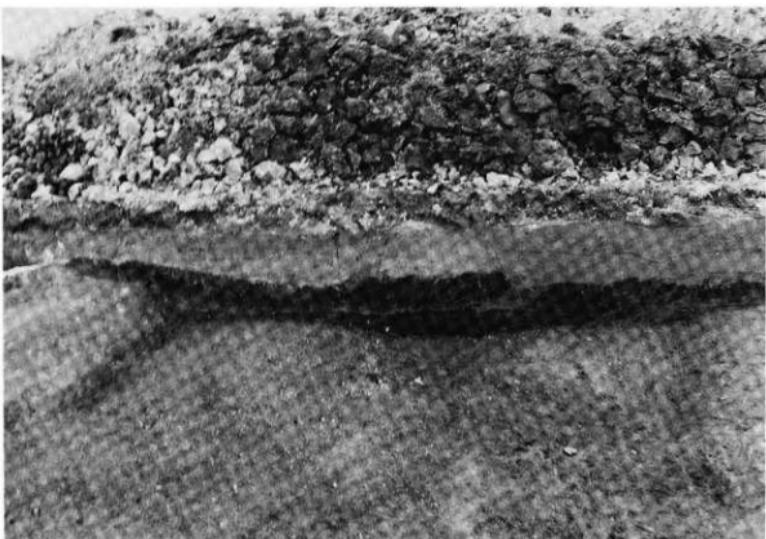
第2トレンチ南より



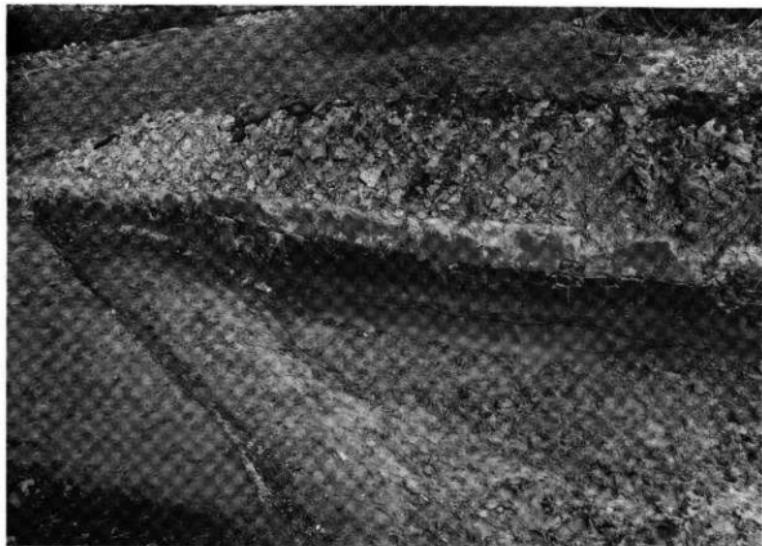
S D002灰釉出土状況



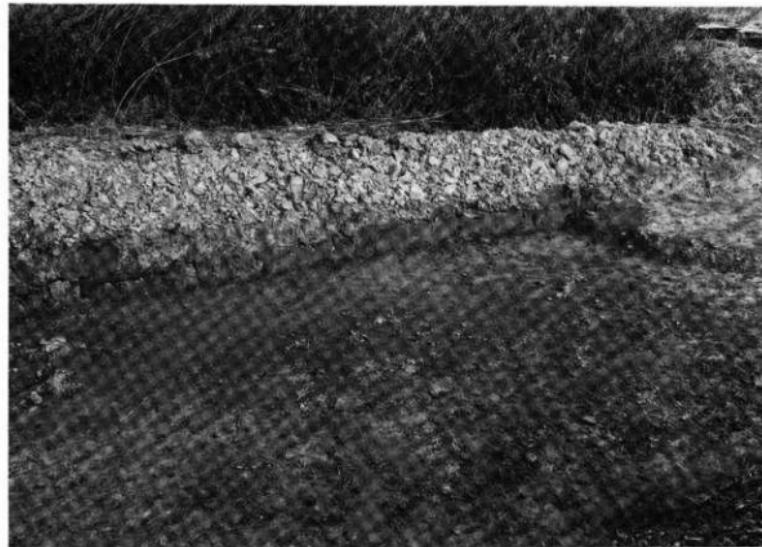
第2トレンチSD004（東より）



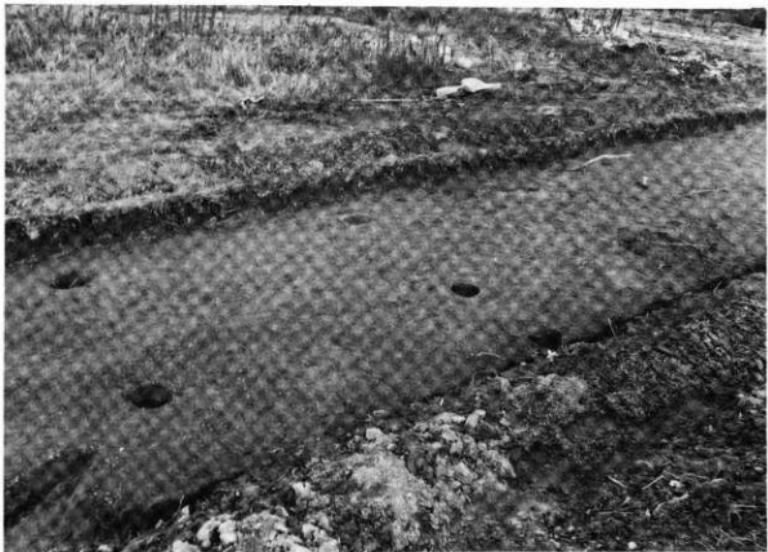
第2トレンチSD004 土層断面図（北壁）



S D005 土層断面図（北壁、西隅部分）



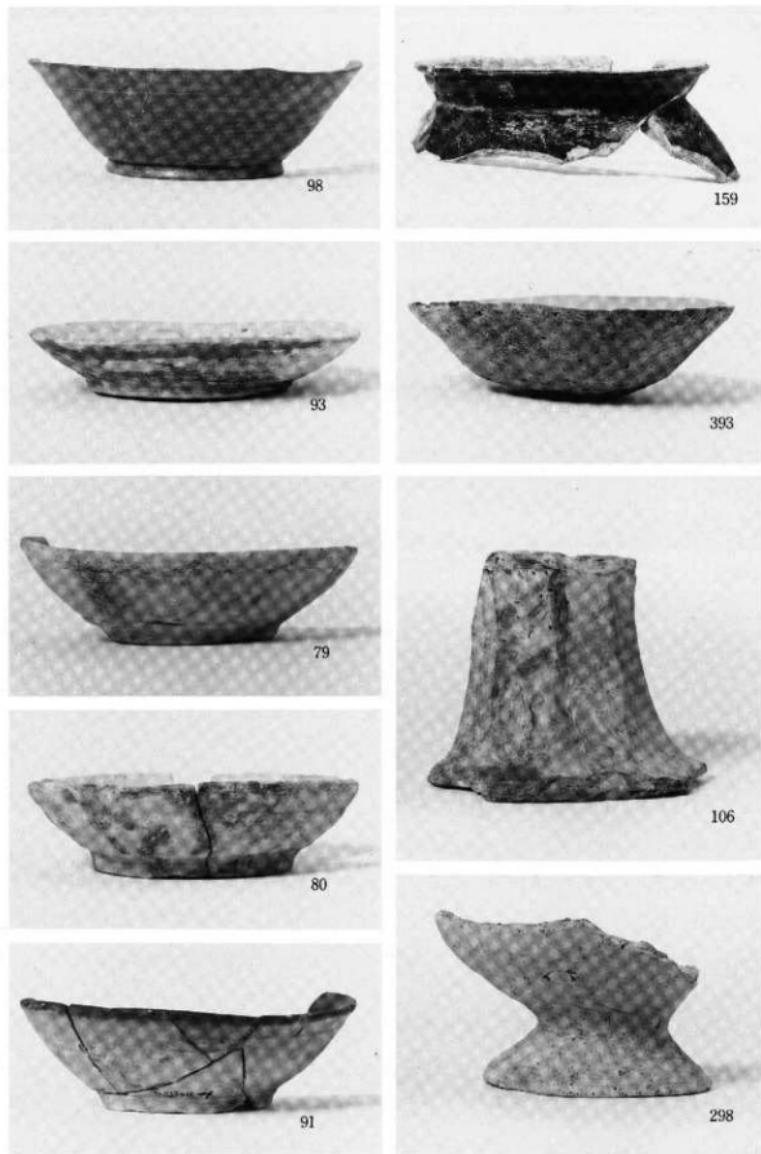
S D005 土層断面図（北壁、東隅部分）

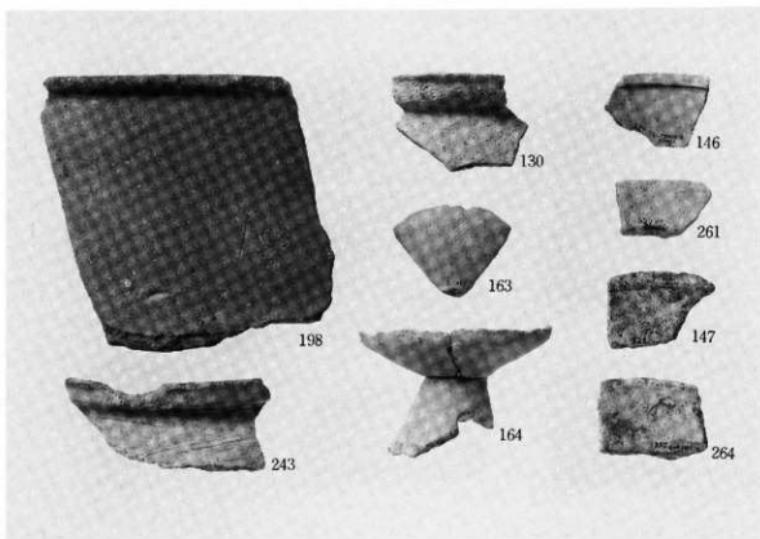
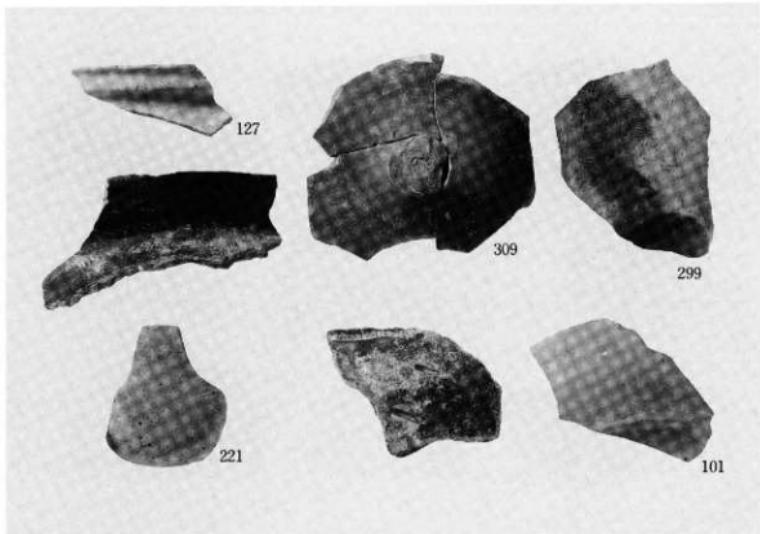


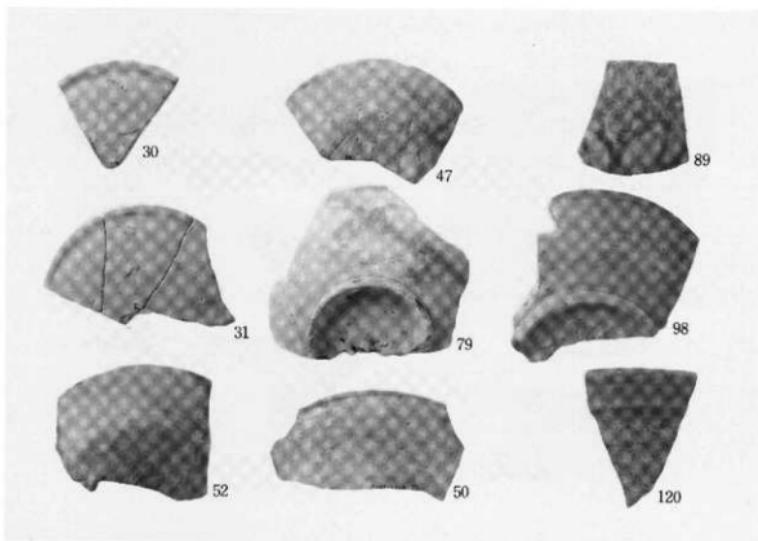
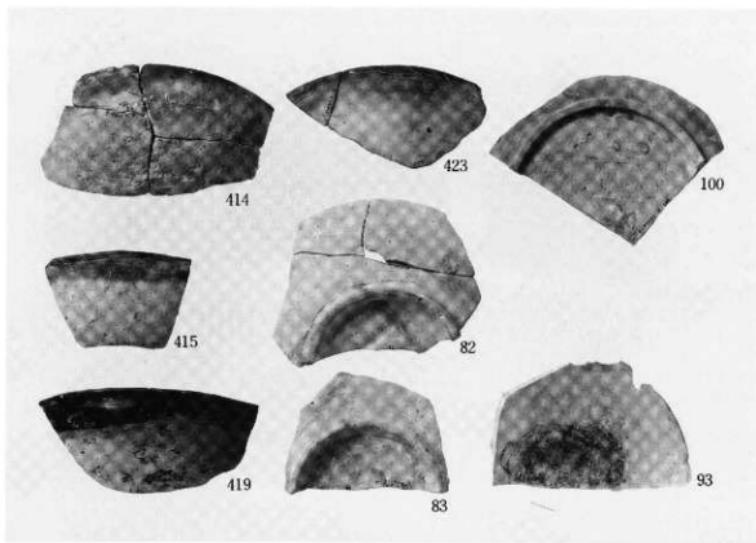
第3トレンチS B 004

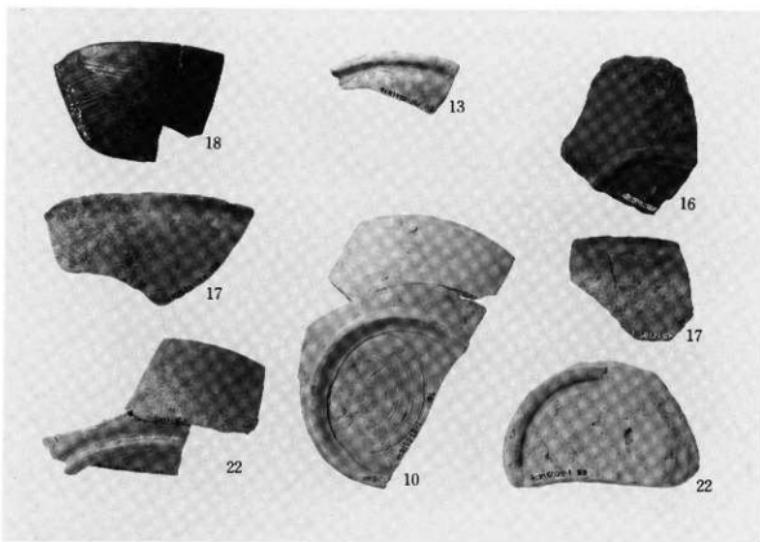
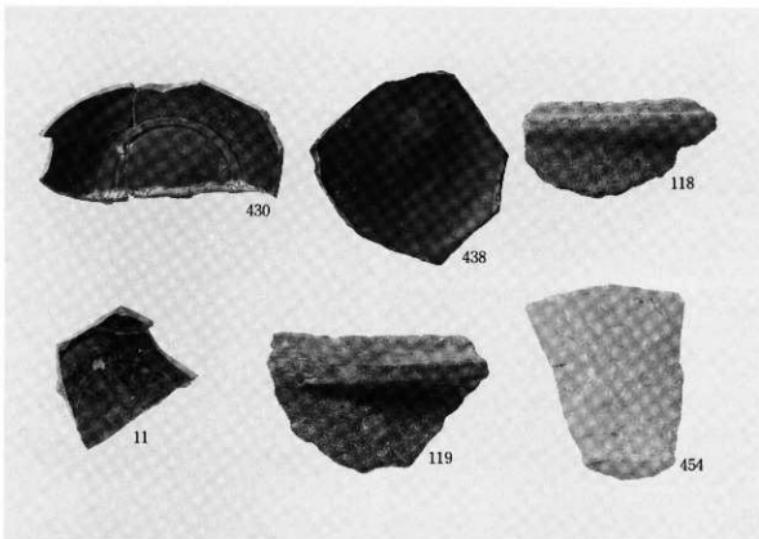


第3トレンチS D 005

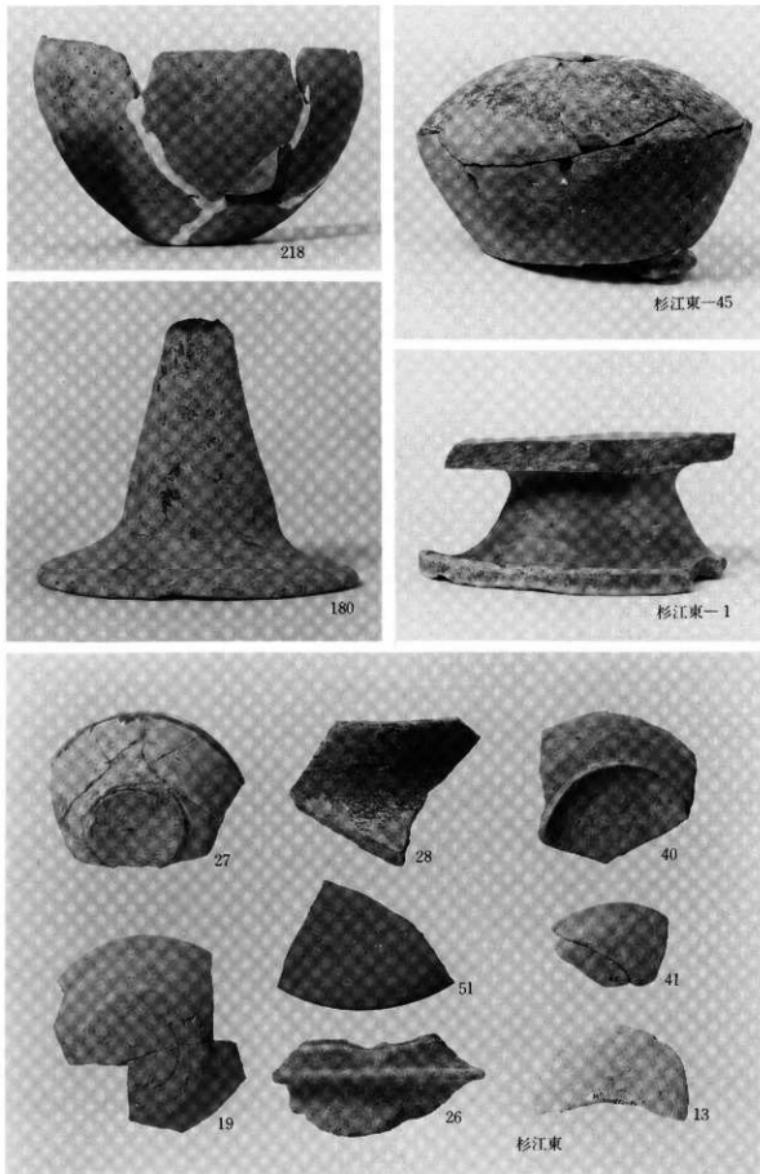


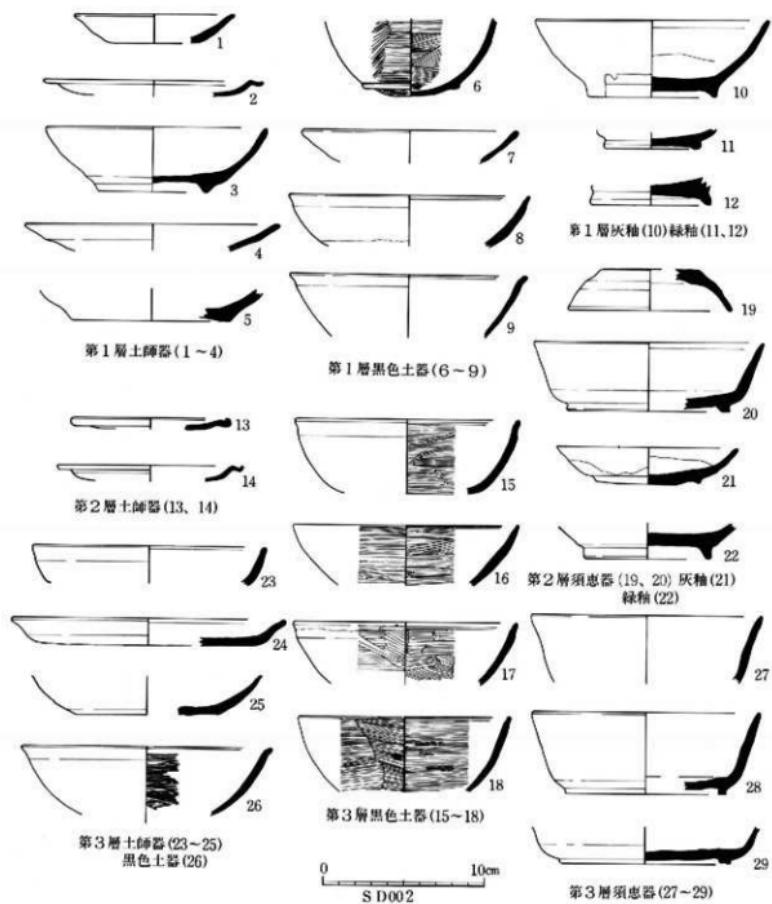




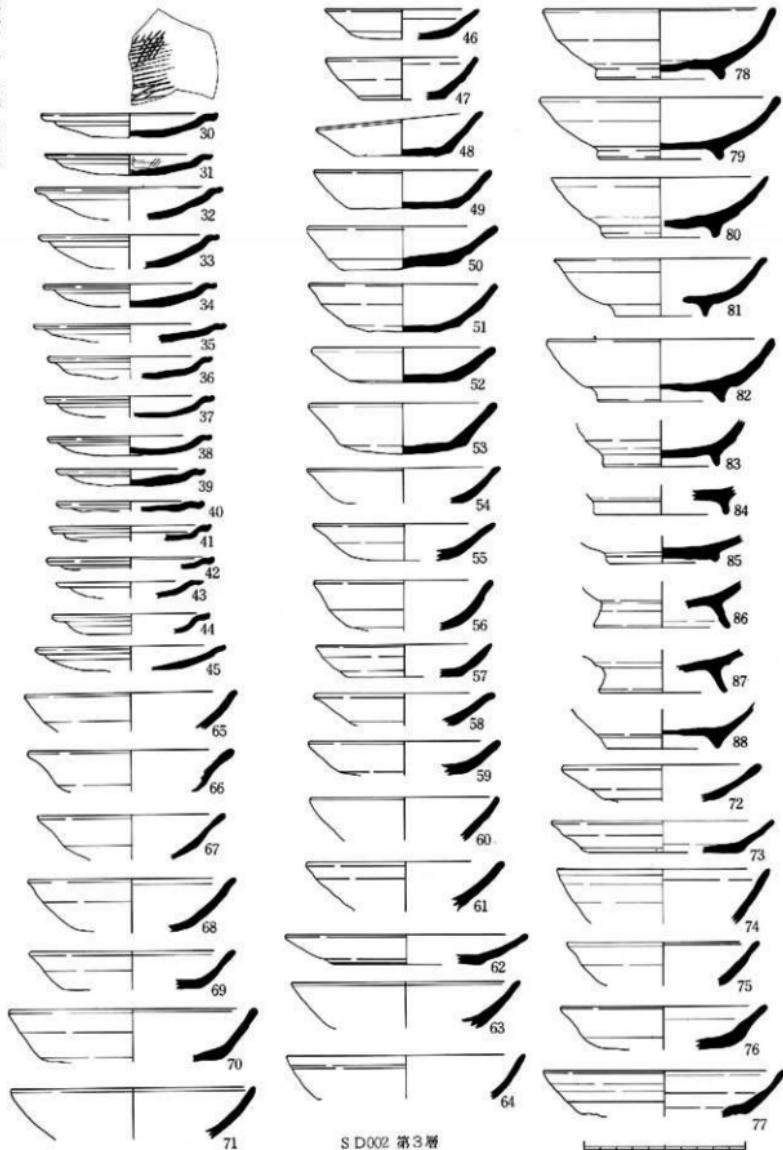


圖版十六
赤野井遺跡・杉江東遺跡

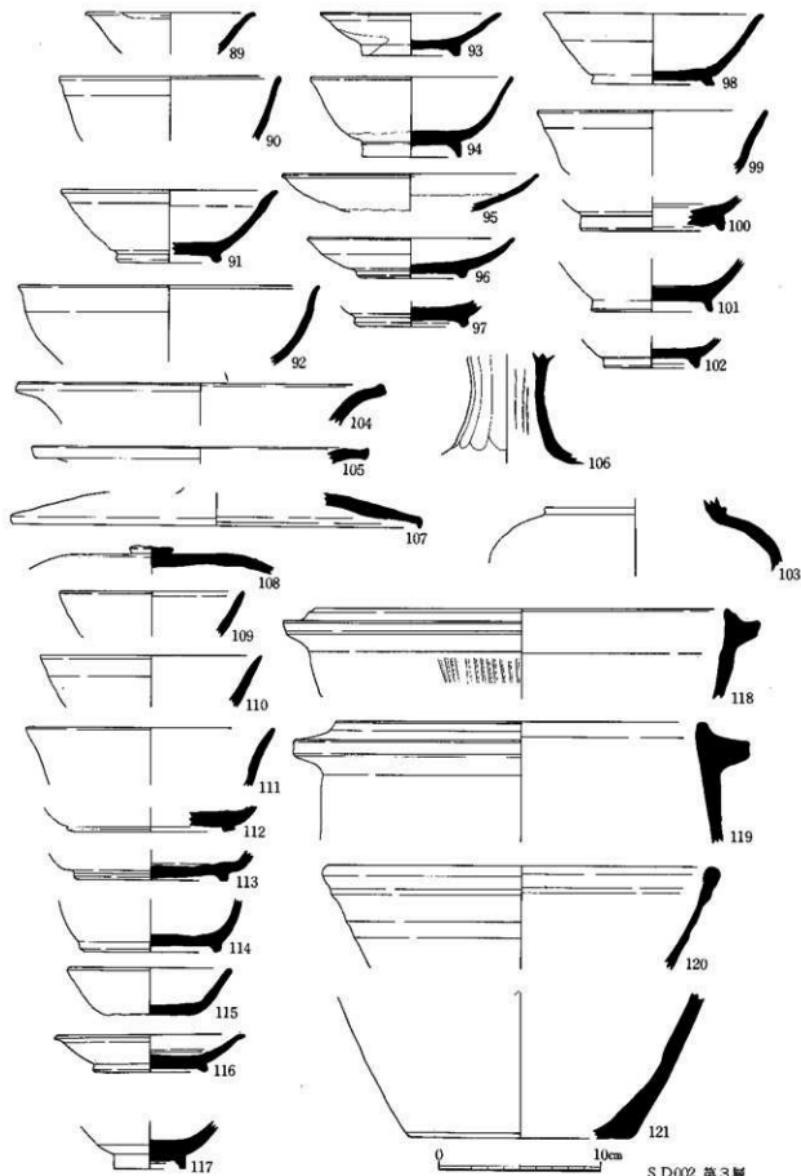




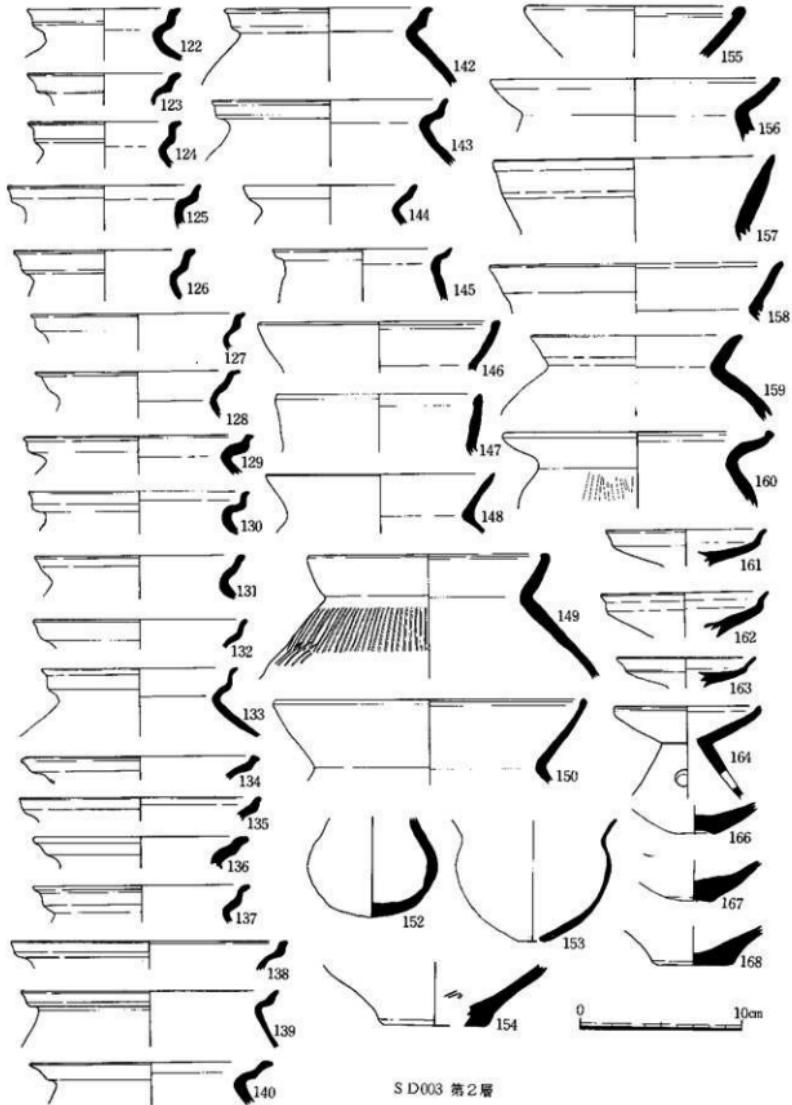
圖版十八 赤野井遺跡



圖版十九 赤野井遺跡



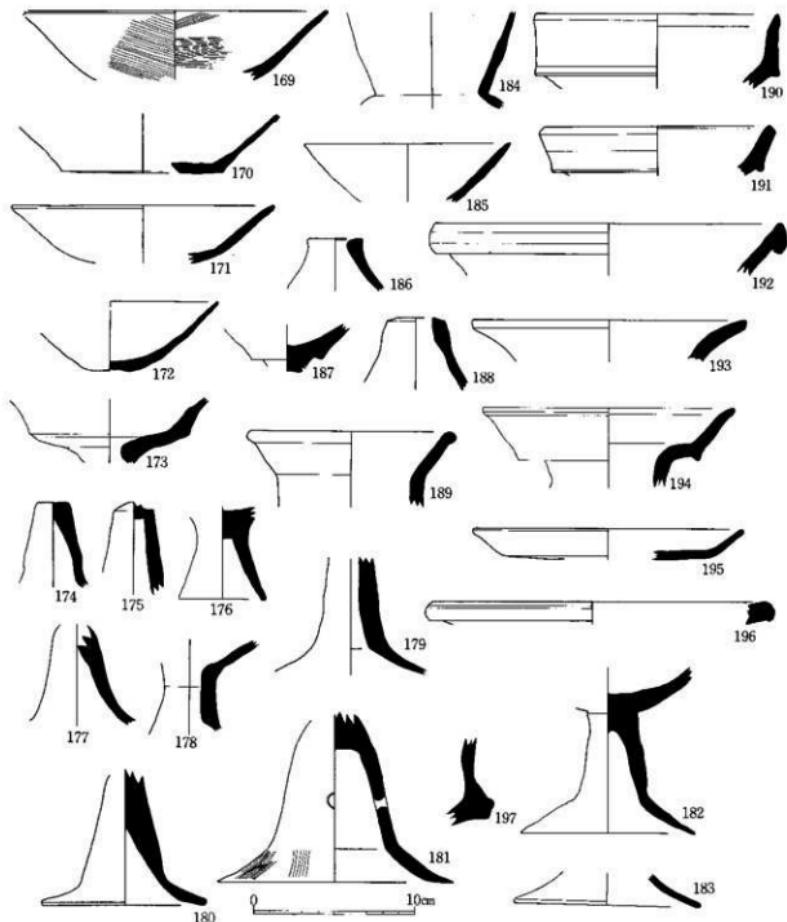
図版二十 赤野井遺跡



S D003 第2層

圖版二十一

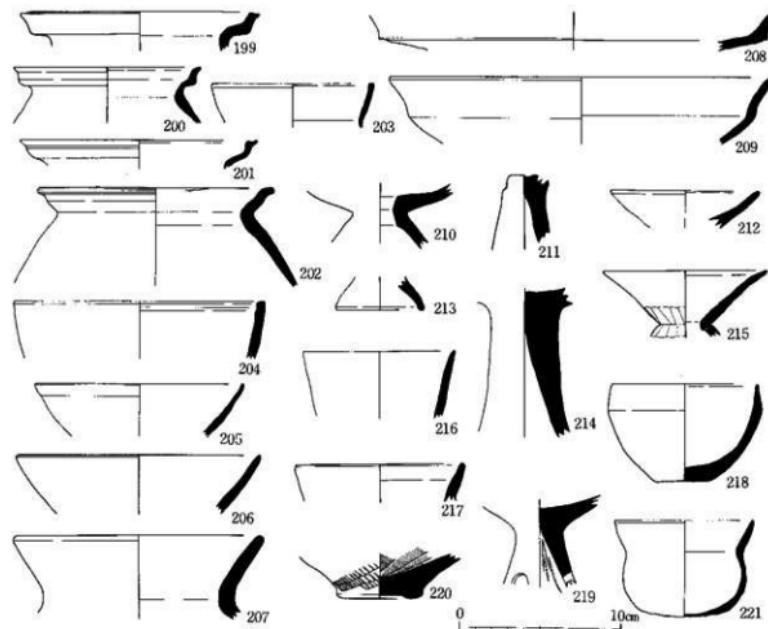
赤野井遺跡



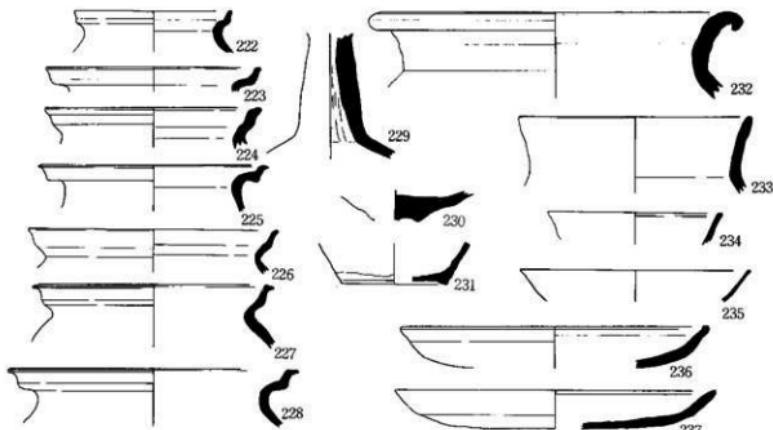
S D 003 第2層



圖版二十二 赤野井遺跡

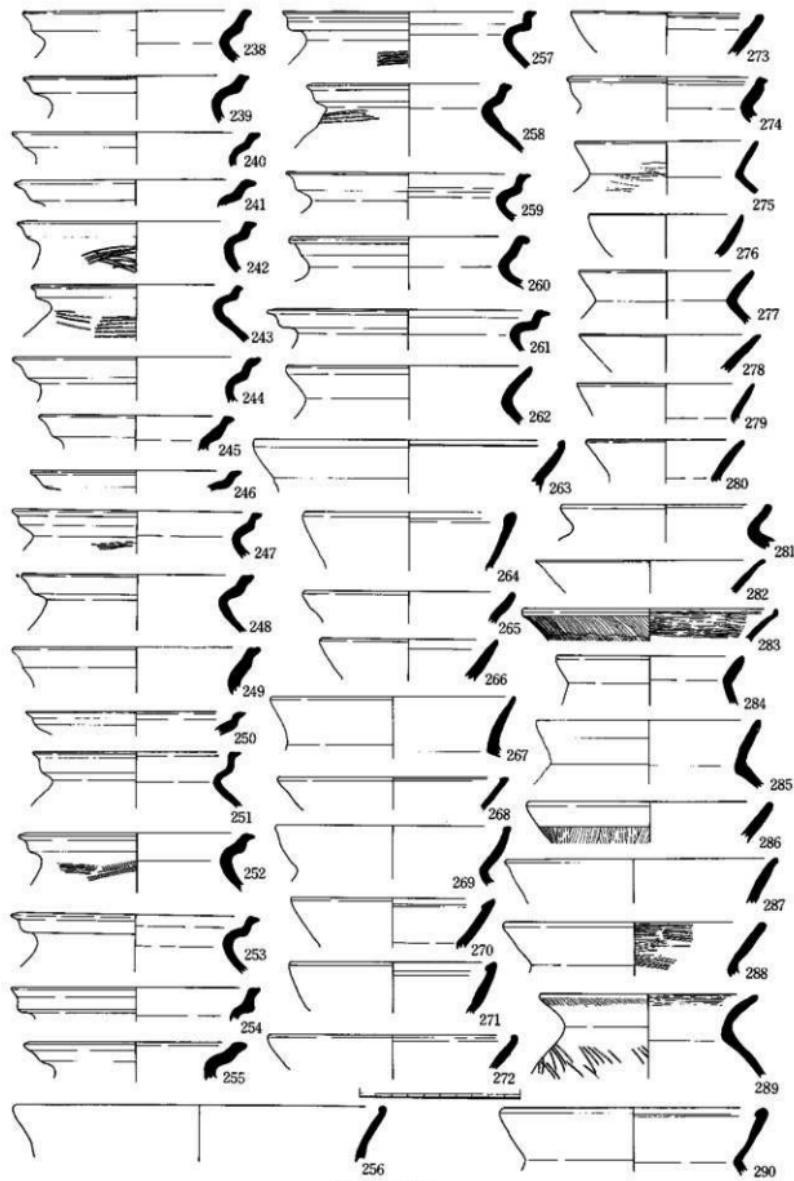


S D003 第3層

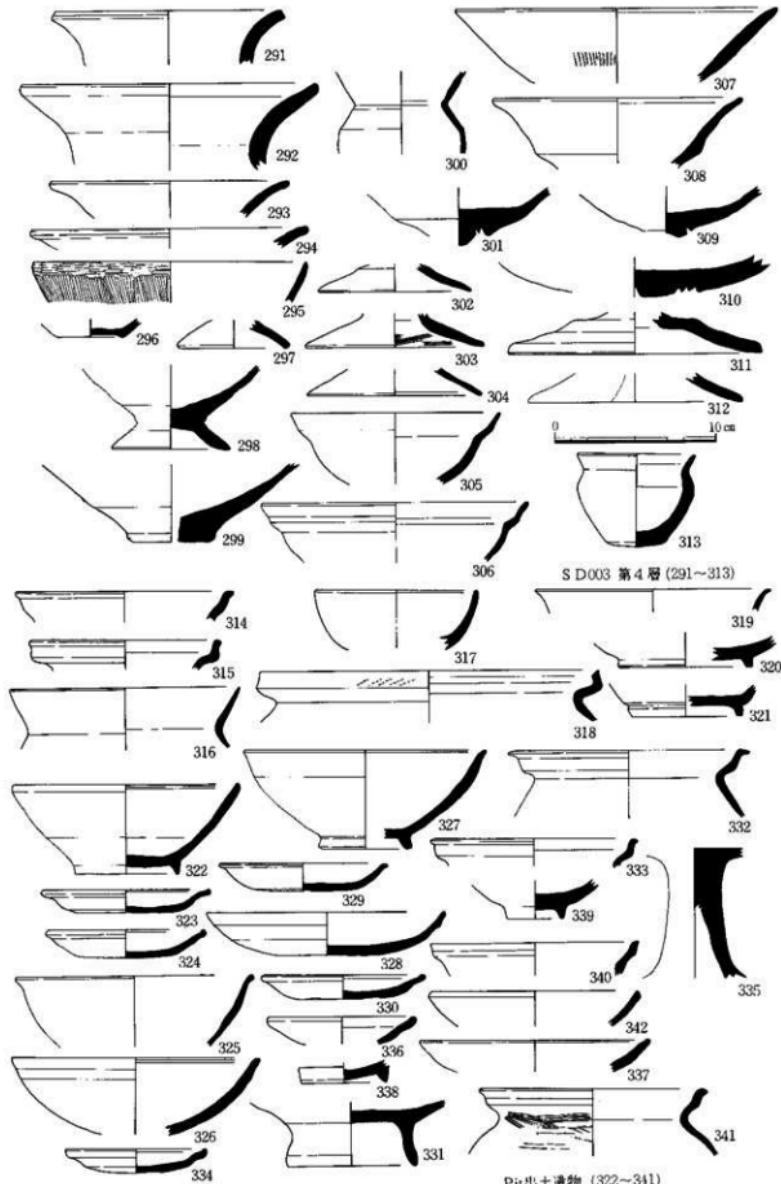


S D003 第1層

図版二十三 赤野井遺跡

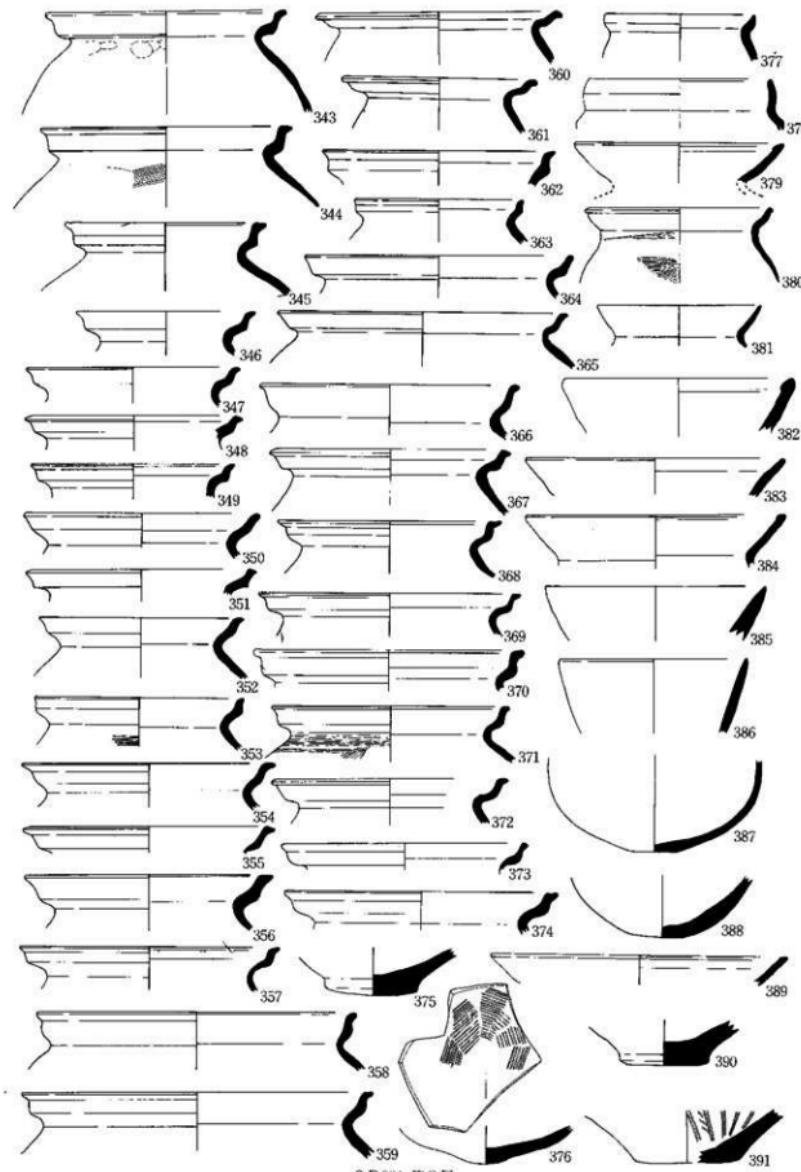


S D003 第4層

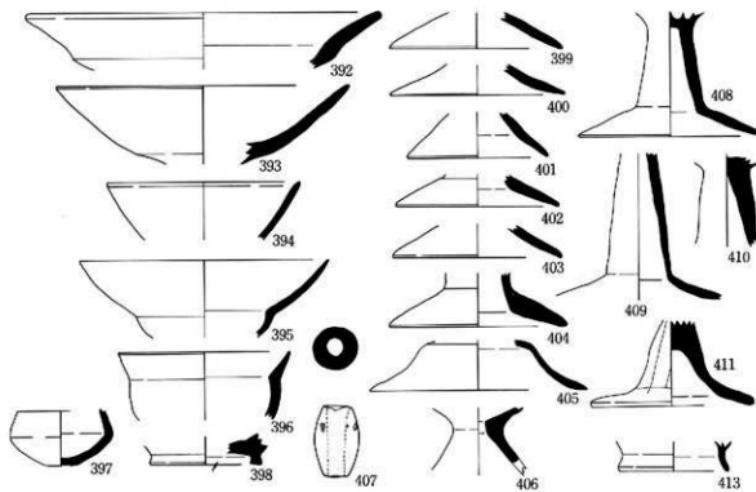


出土物 (322~341)

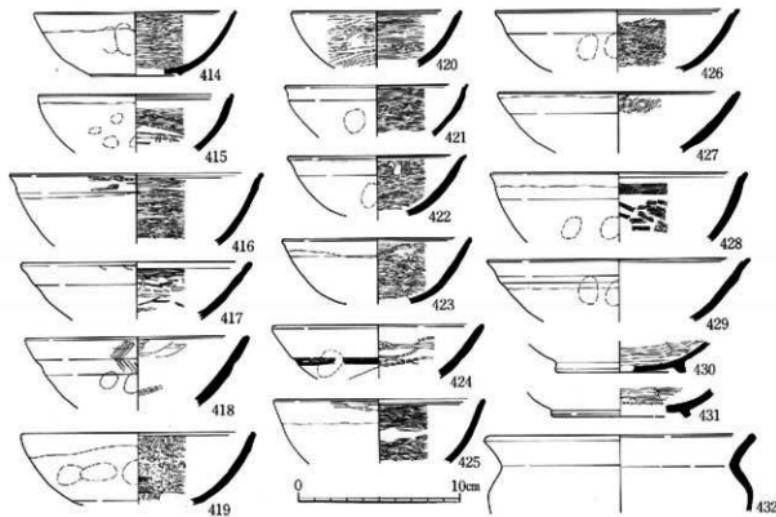
図版二十五 赤野井遺跡



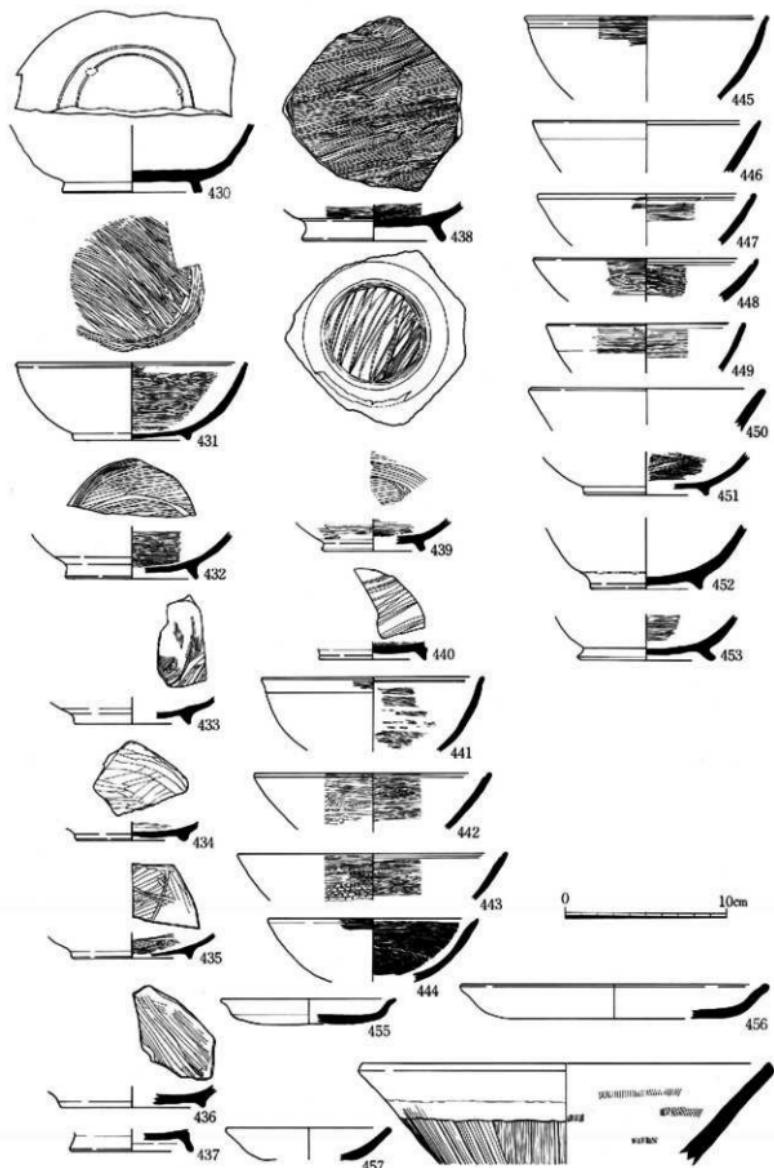
S D 004 第2層



S D004 第2層 (392~413)



S D002 第3層 (414~432)

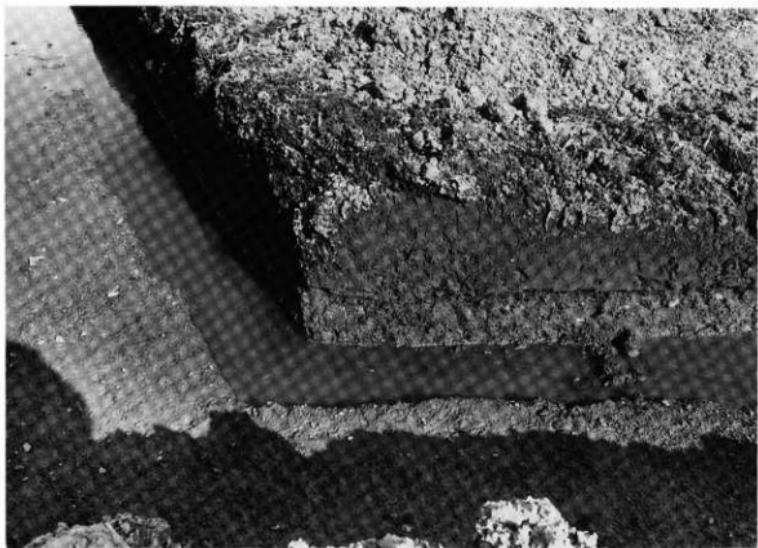


S D002 第3層

第2章 杉江東遺跡図版



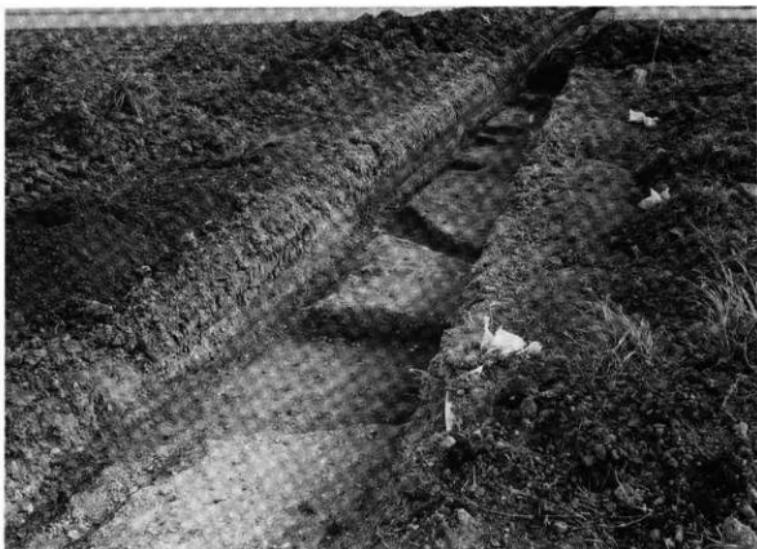
1地区



1地区北壁断面



1 地区～2 地区



2 地区～3 地区



6 地区～7 地区



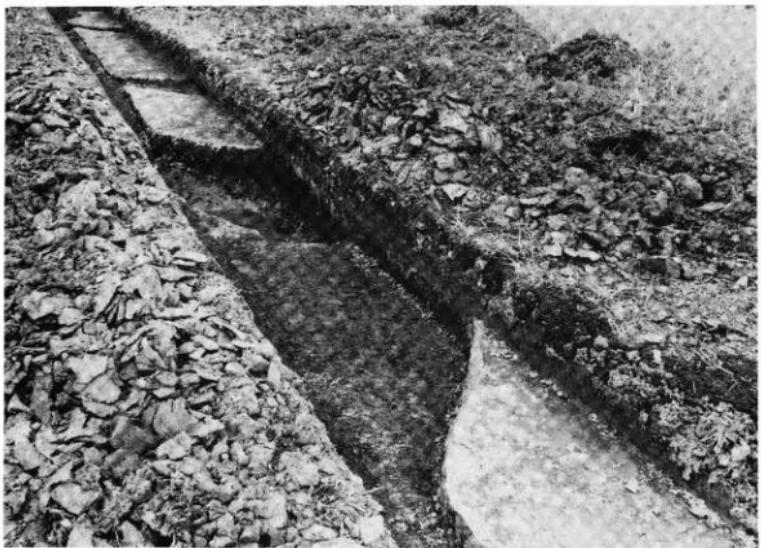
7 地区～8 地区



8 地区～9 地区



8 地区～9 地区



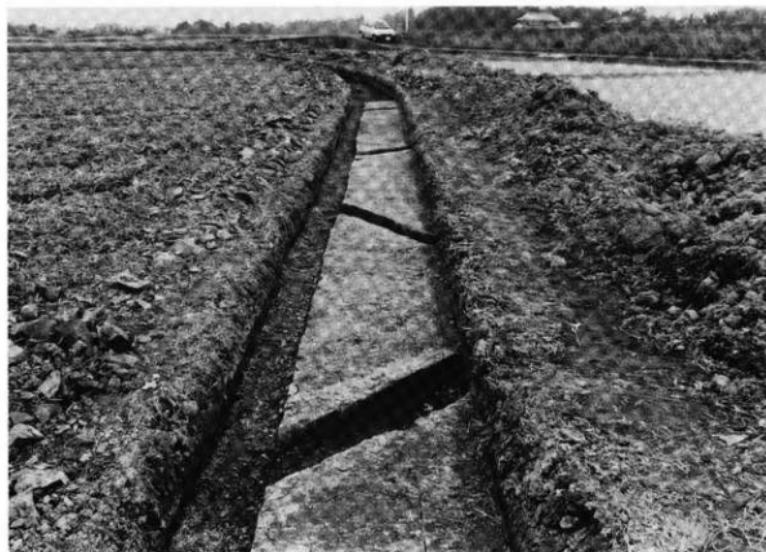
9 地区～10地区



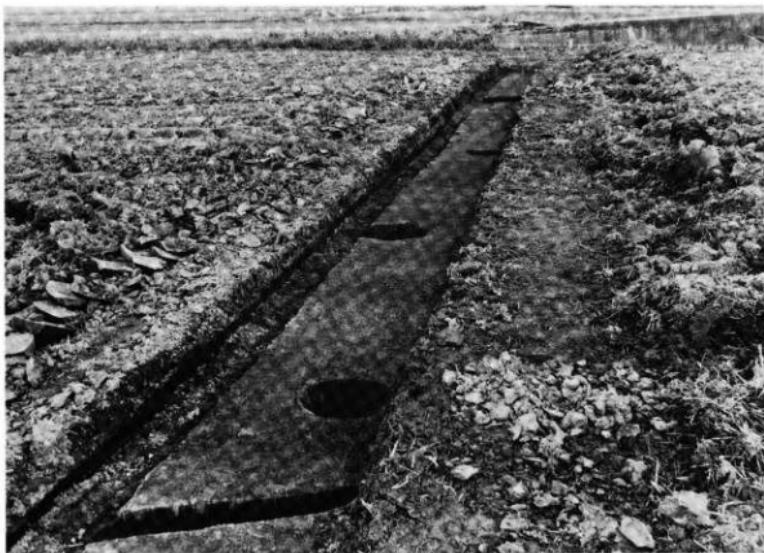
12地区～13地区



15地区～16地区



17地区～18地区

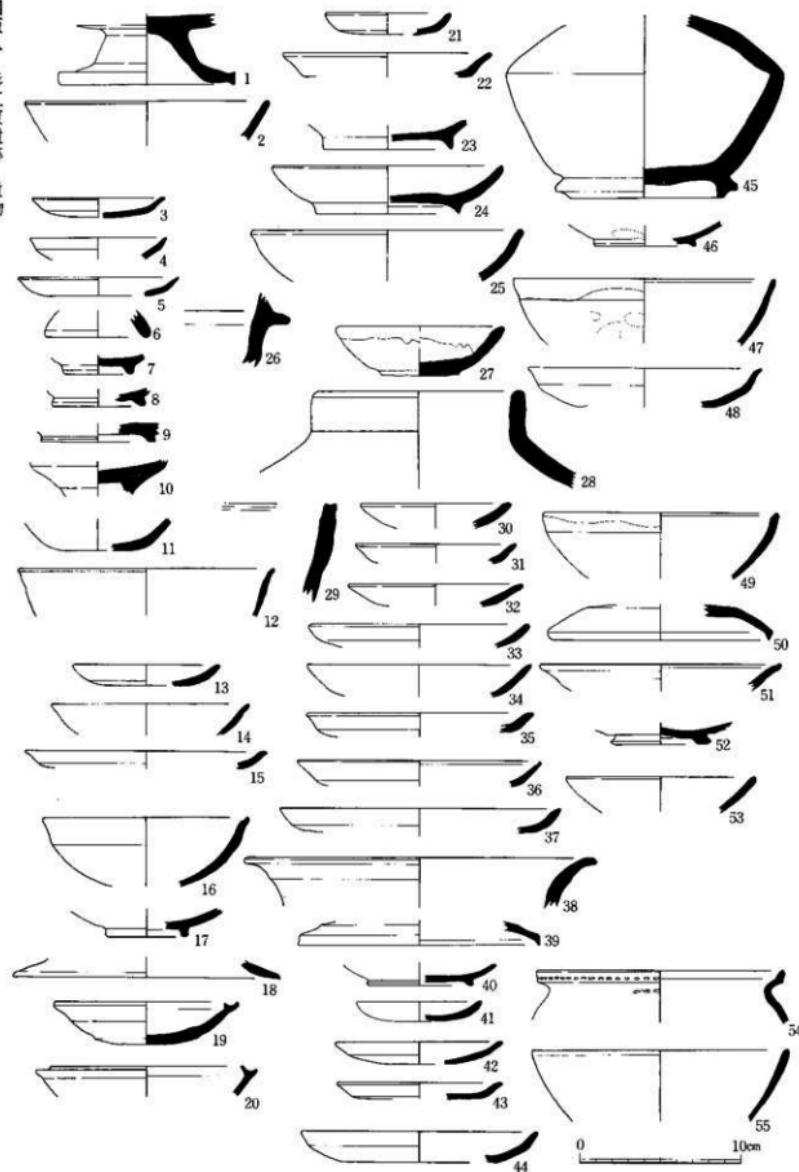


19地区～20地区



20地区以東

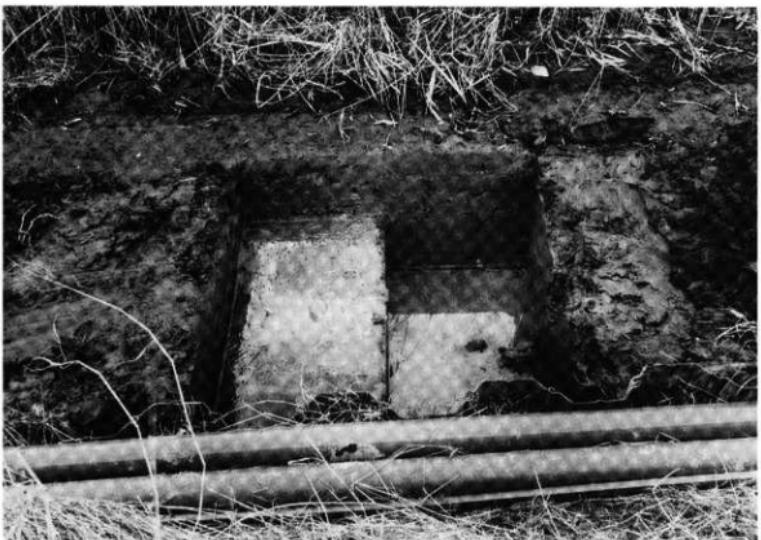
圖版八 杉江東遺跡
遺物



第3章 赤野井浜遺跡図版



調査区全景（西より）



試掘トレンチ

第4章 山賀・杉江遺跡図版



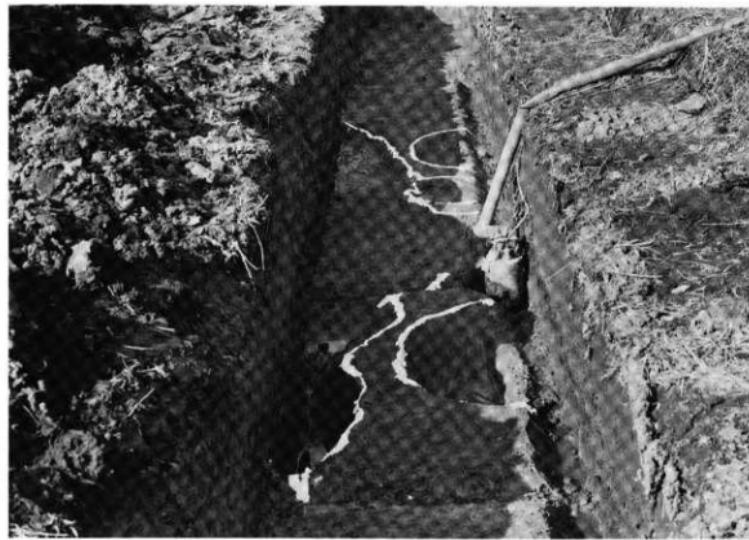
1 調査区遠景



2 調査風景

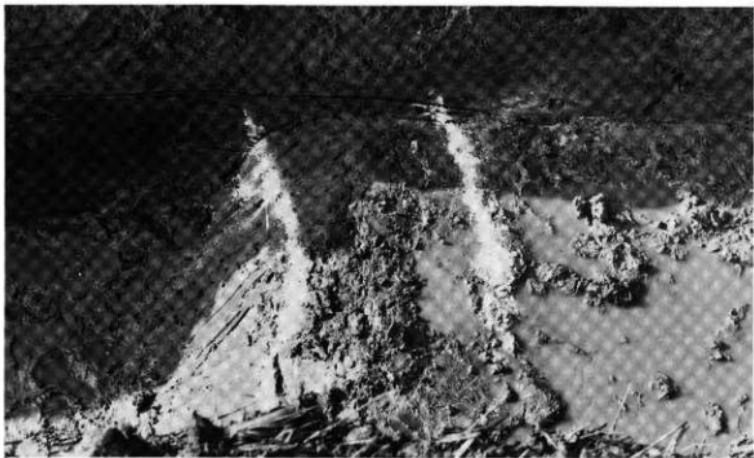


1 T-4 SD-1



2 T-4 SD-3, SK-3

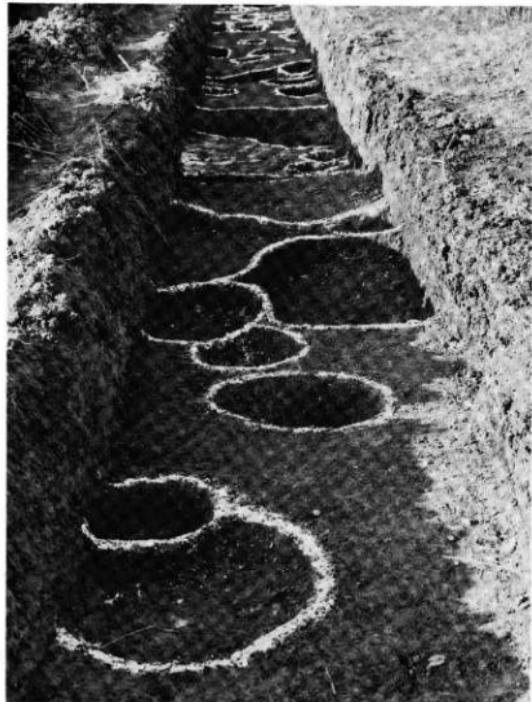
図版三 山賊・杉江遺跡



1 T-8 SD-1



2 T-10 SD-1



1 T-11 第一次造構面
SD-2~4周辺



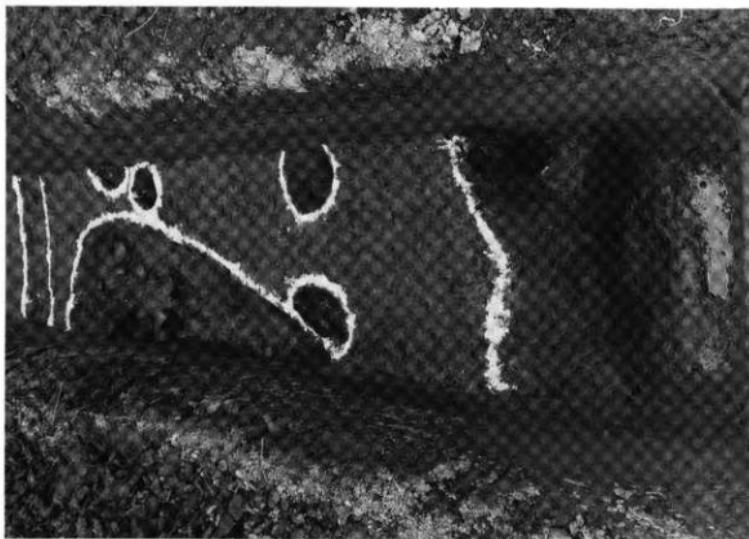
2 T-11 第二次造構面 SD-1

圖版五 山賈·杉江遺跡

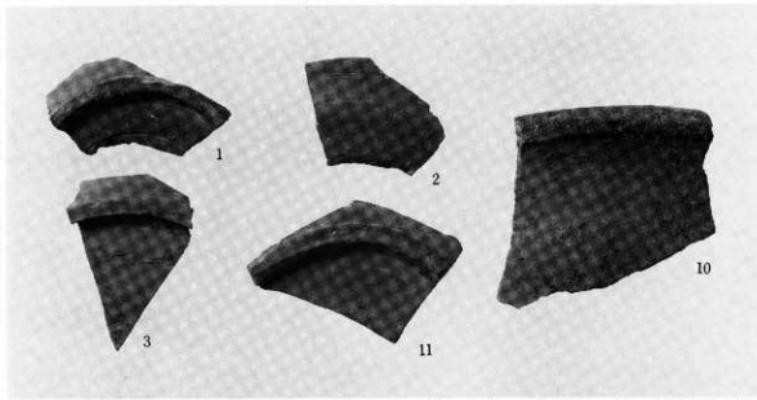
2 T-35 全景



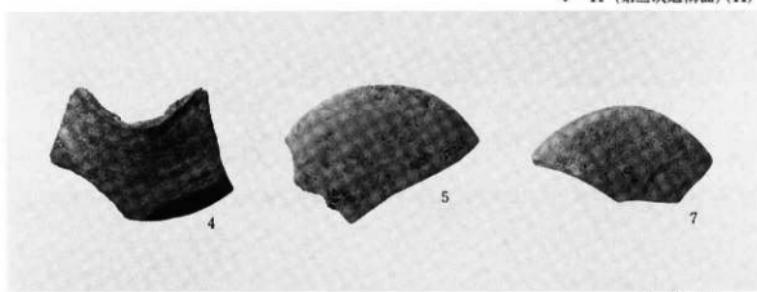
1 T-35 SD-1·2、SK-1



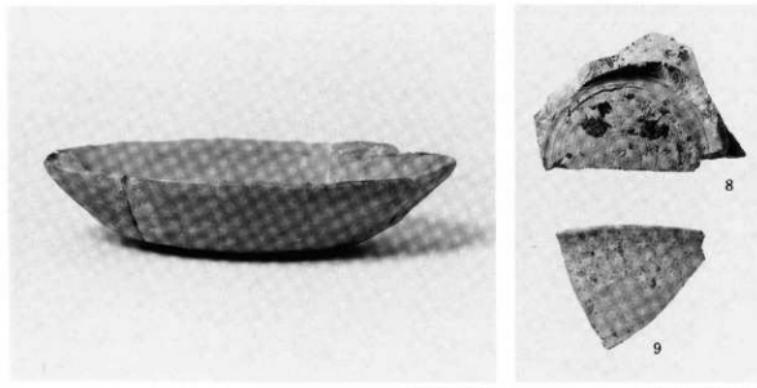
圖版六 山寶·杉江遺跡遺物寫真



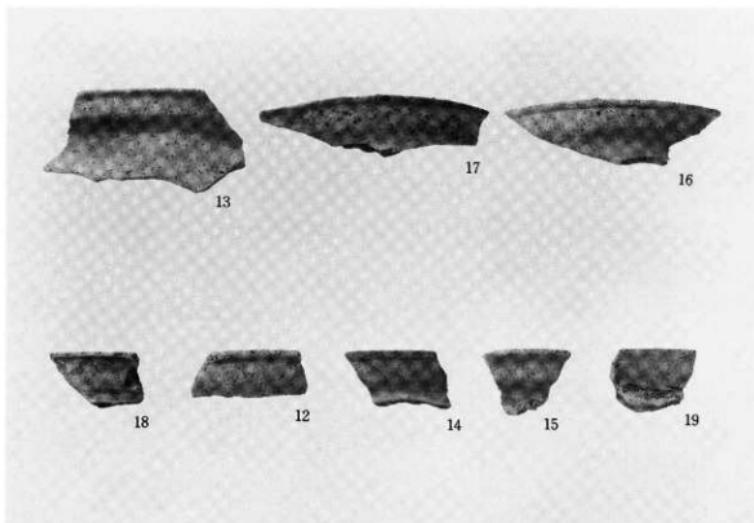
T-4 (1~3), T-11 (第一次遺構面) (10)
T-11 (第二次遺構面) (11)



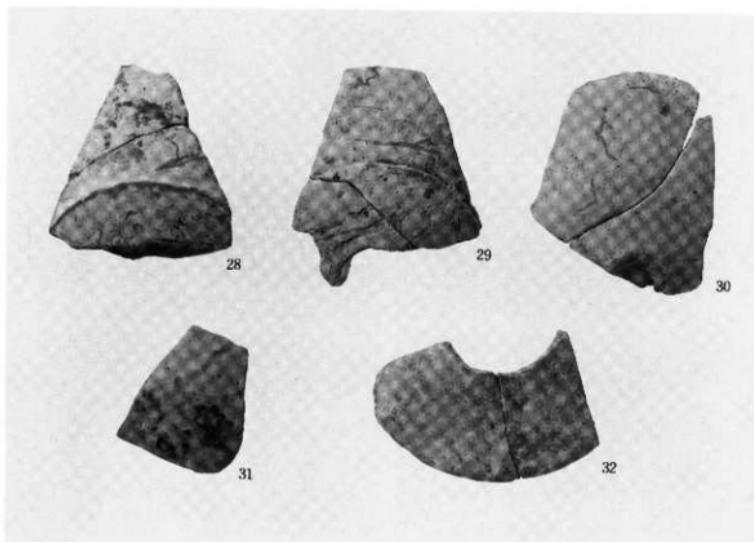
T-8 (4)
T-11 (5·7)



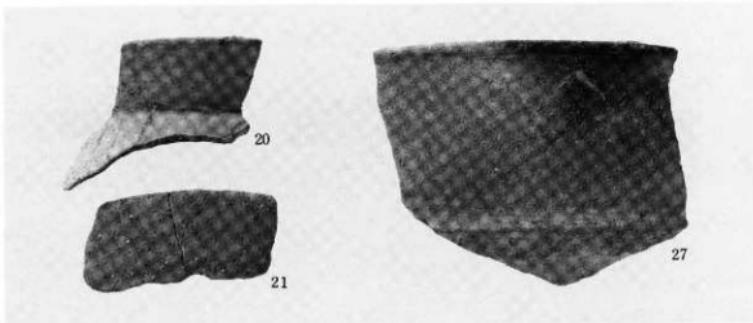
T-11 (6) T-11 (8·9)



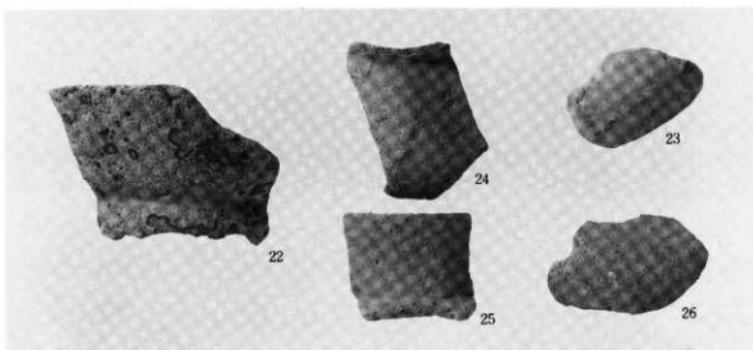
T-33 (12~19)



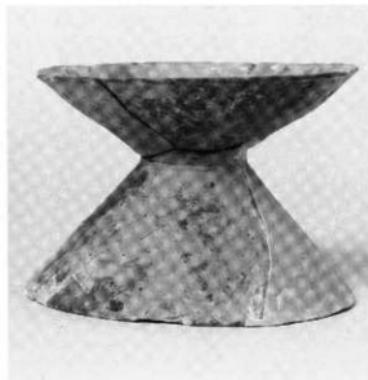
T-33 (28~32)



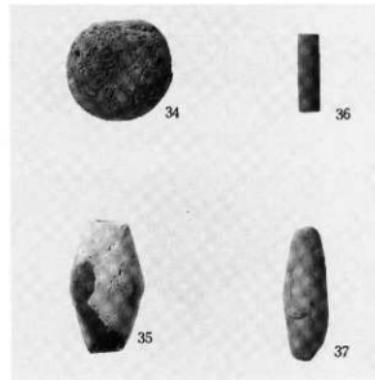
T-33 (20・21・27)



T-33 (22~26)

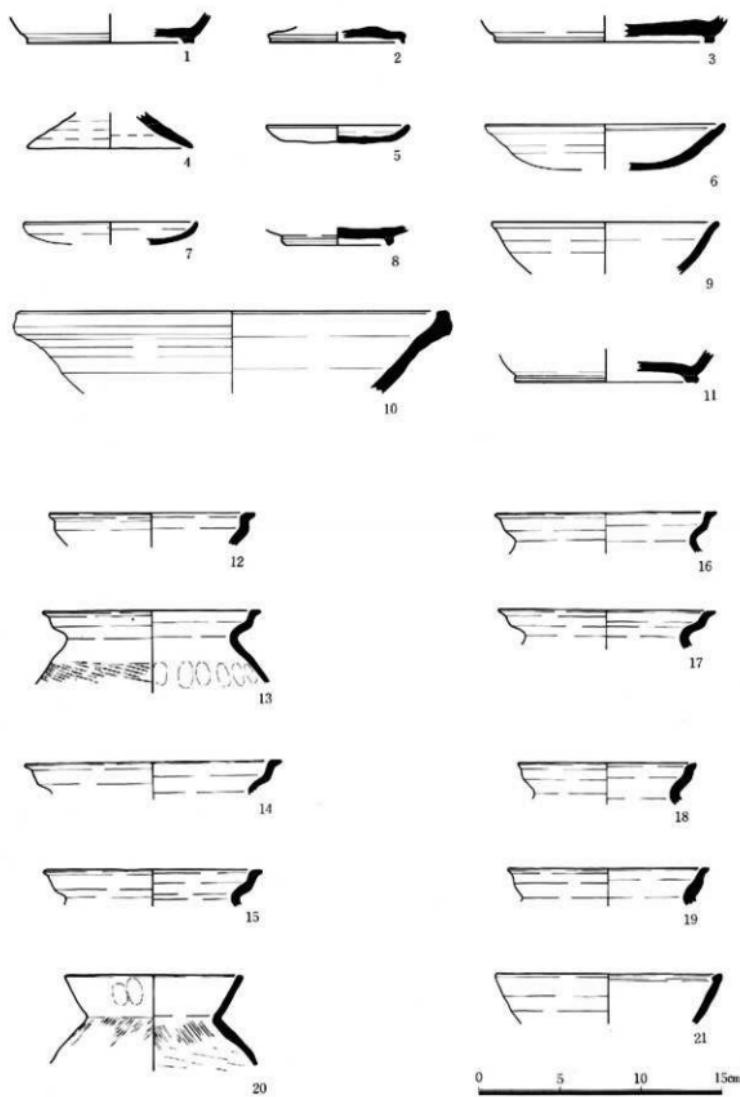


T-33 (33)

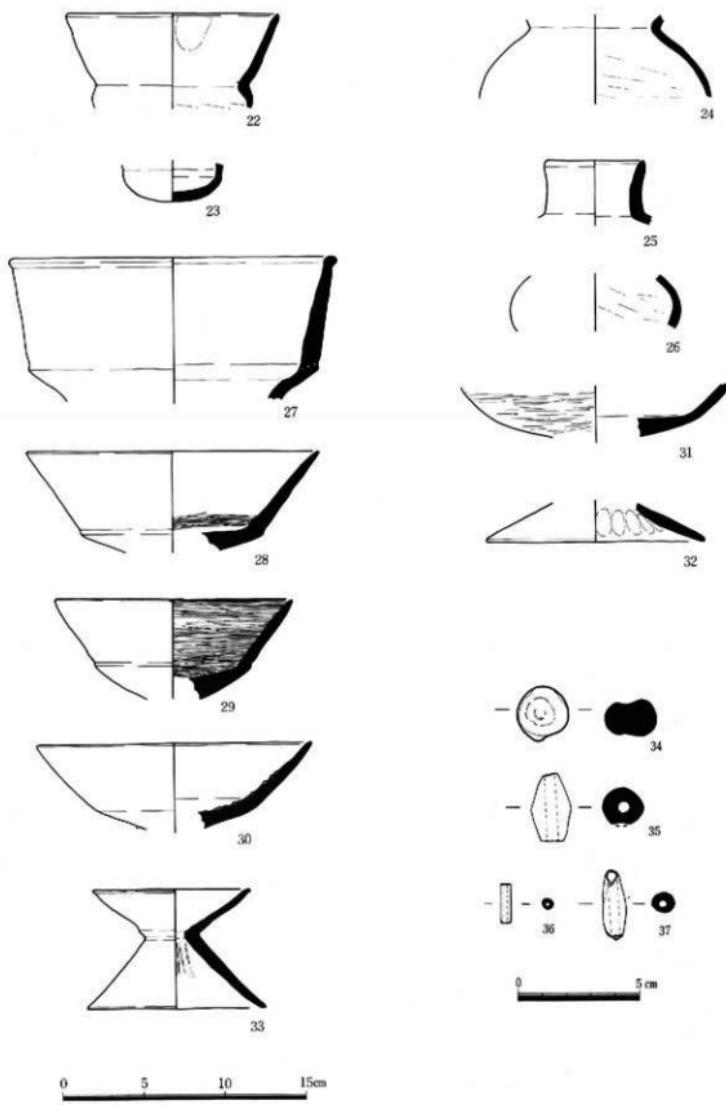


T-33 (34~37)

図版九 山賀・杉江遺跡遺物実測図



圖版十 山賀・杉江遺跡遺物実測図



第5章 木部 遺跡 図版



調査前景（北より）



調査遠景（北より）

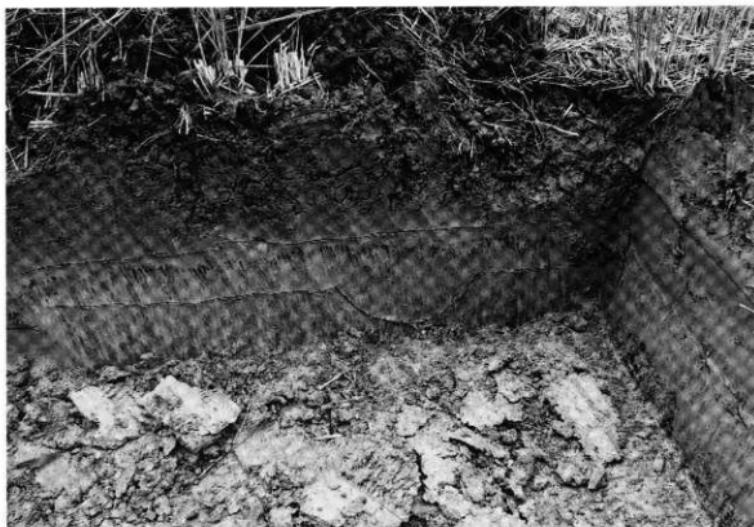


耕作土掘削状況（北より）

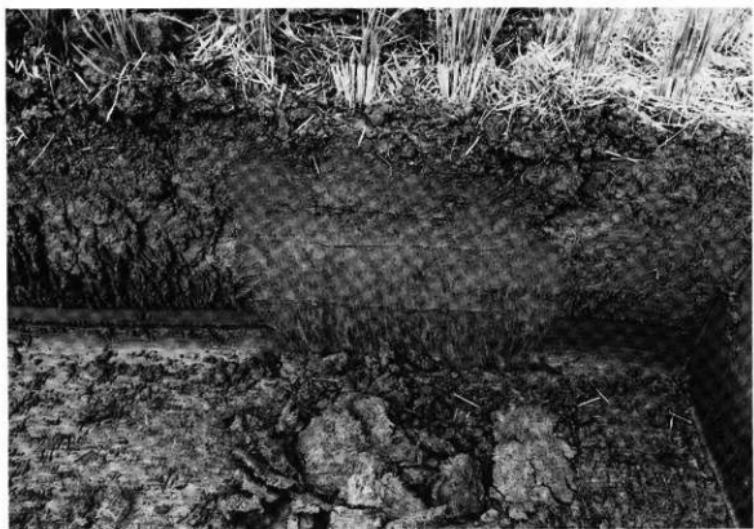


柱状圖作成状況（南より）

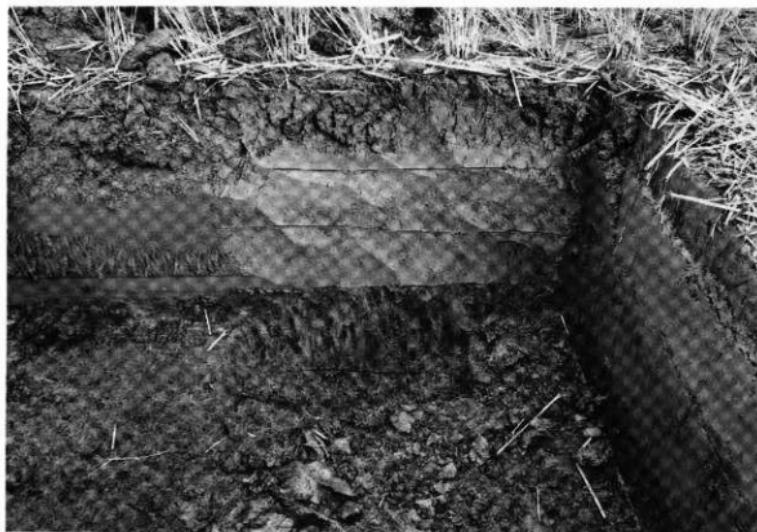
圖版三 木部遺跡



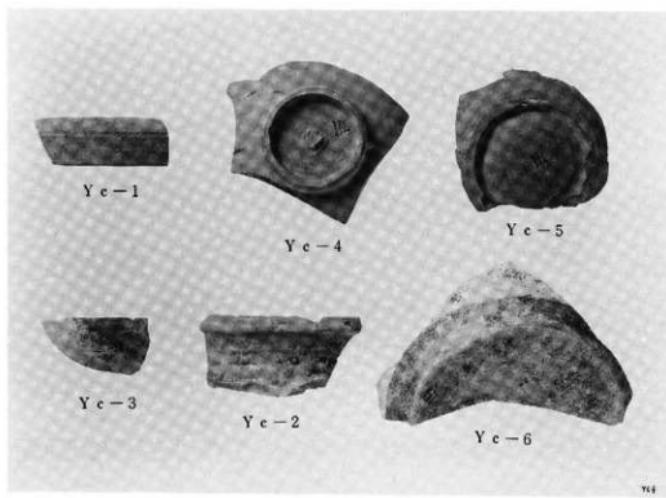
試掘坑斷面



試掘坑斷面



試掘坑断面



木部遺跡 (Yc-1~3)、五条遺跡 (Yc-4・5)、比留田遺跡 (Yc-6)

第6章 比留田遺跡図版

図版一 比留田遺跡



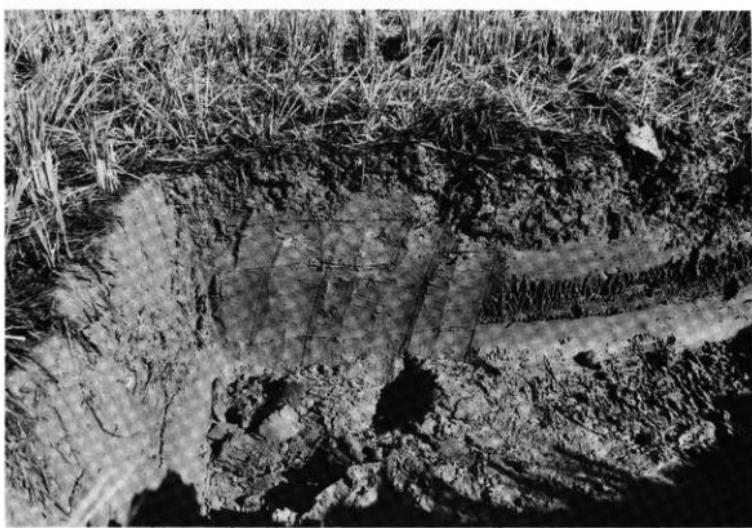
調査前景（東より）



調査状況（南より）

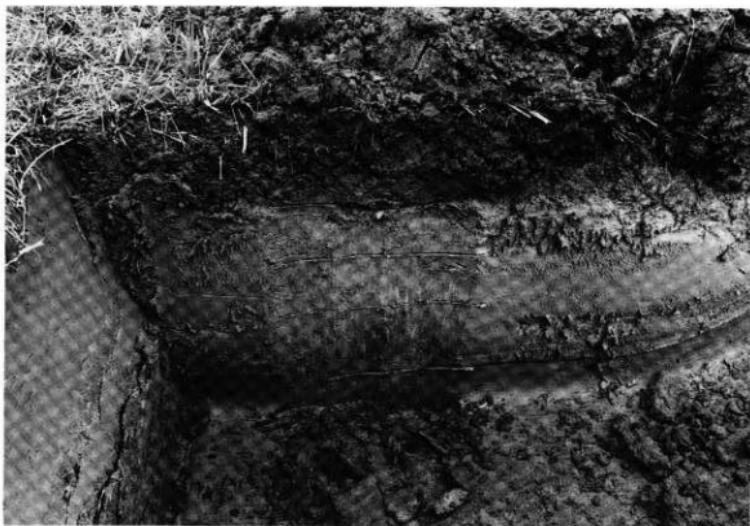


埋めもどし状況（西より）



試掘坑断面

圖版三 比留田遺跡

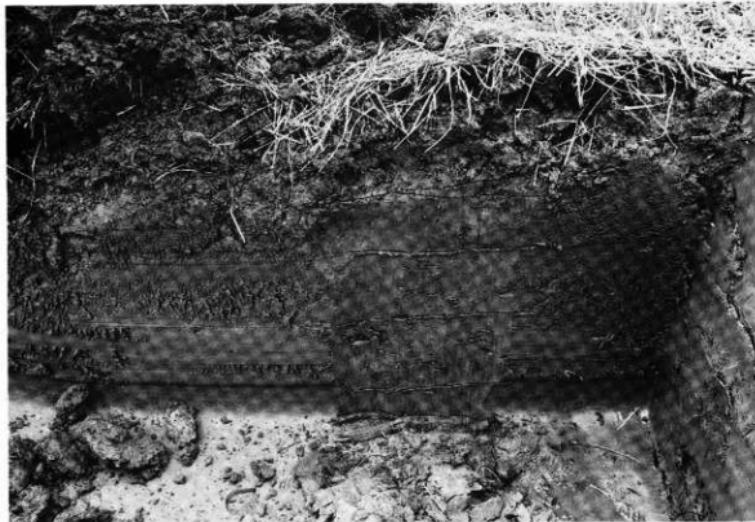


試掘坑断面

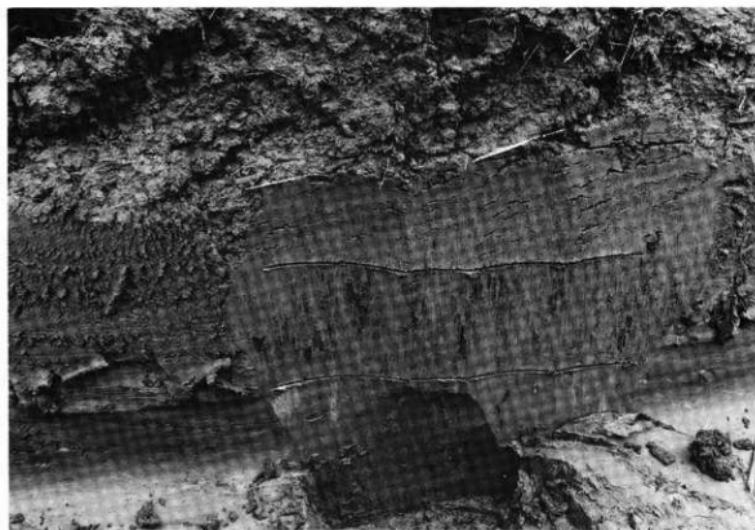


試掘坑断面

圖版四 比留田遺跡



試掘坑斷面



試掘坑斷面

第7章 五条遺跡図版



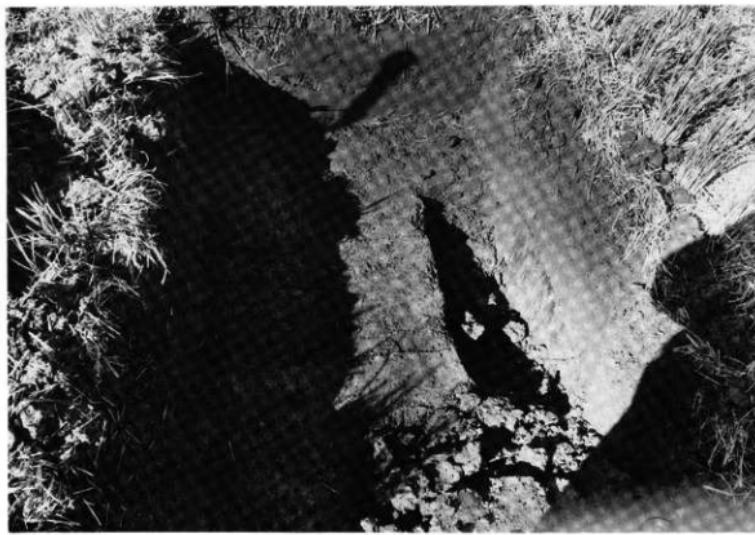
調査前景（北より）



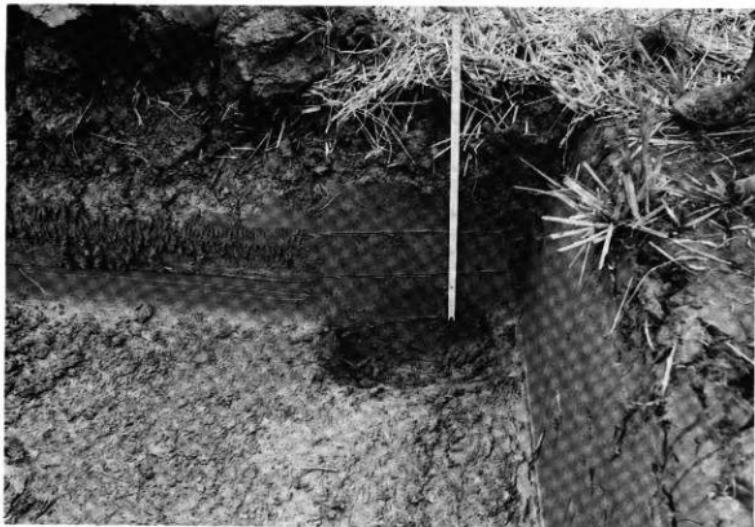
調査前景（北より）



耕作土掘削状況（東より）



試掘坑遺構検出状況



試掘坑斷面



試掘坑斷面

第8章 野田遺跡図版



調査前景（東より）

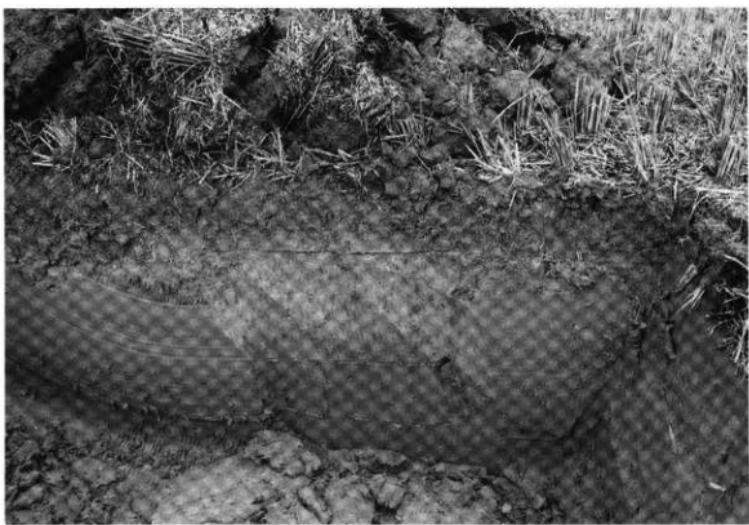


調査状況（東より）

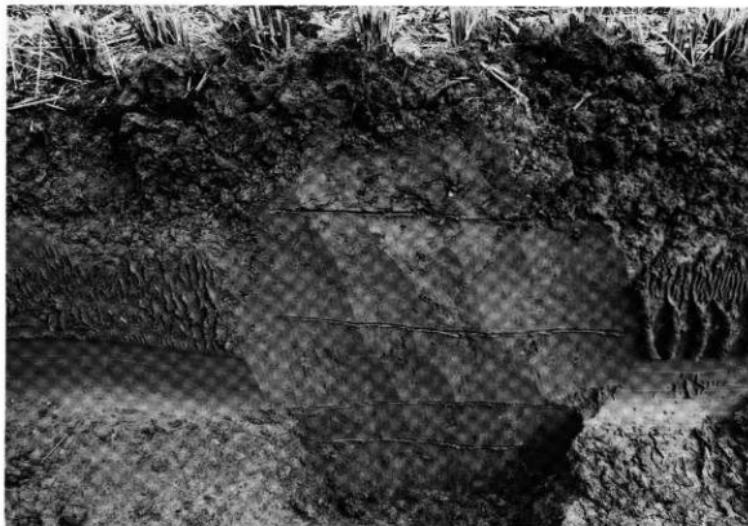
図版二
野出遺跡



柱状図作成状況（南より）



試掘坑断面

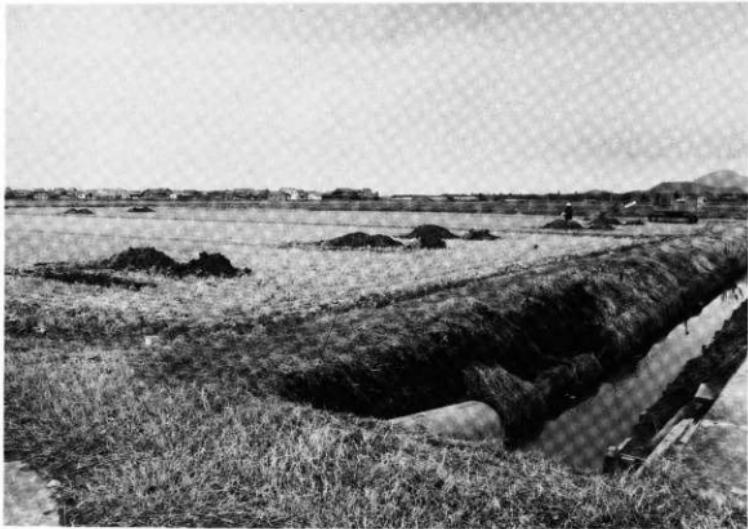


試掘坑断面



試掘坑断面

第9章 木部遺跡図版



1. 試掘トレンチ調査区遠景（南から）



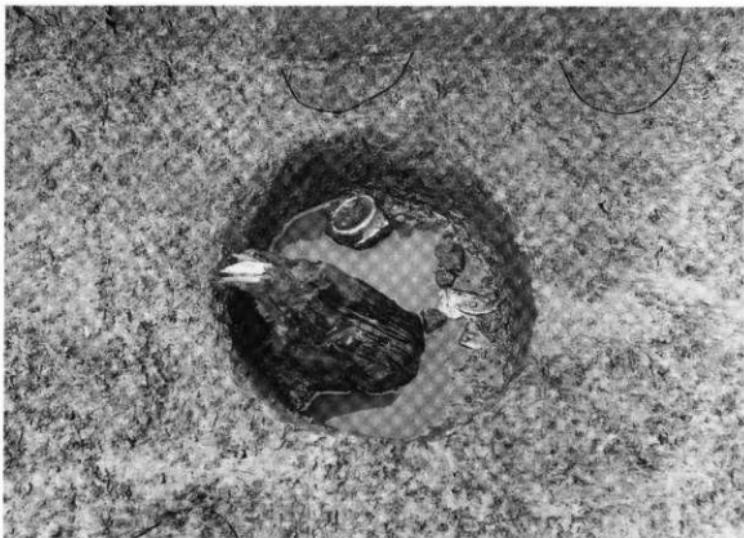
2. 試掘トレンチ調査風景（東から）左上方は本部古墳



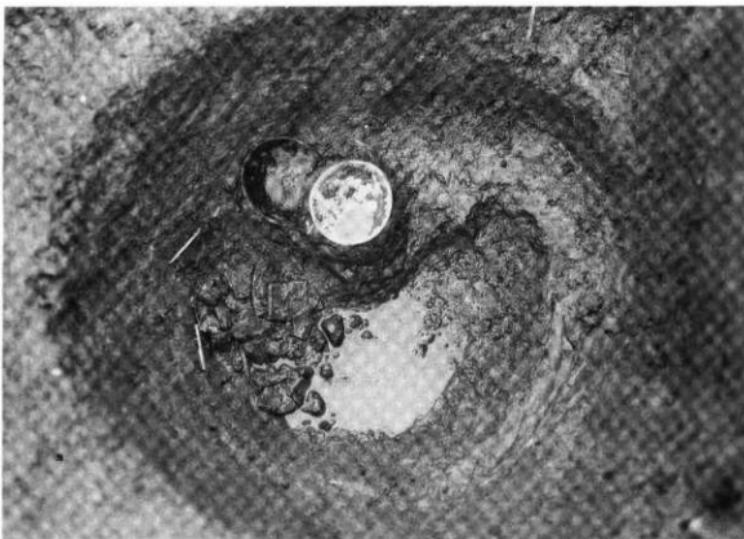
1. T3 トレンチ調査状況



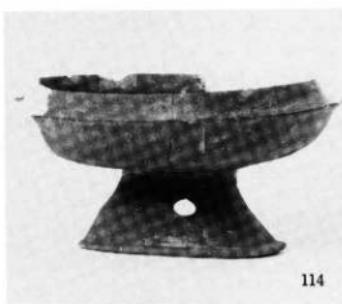
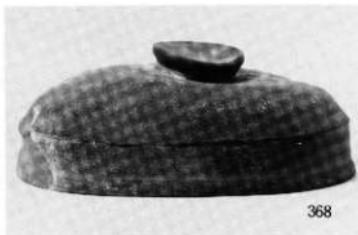
2. T4 トレンチ調査状況



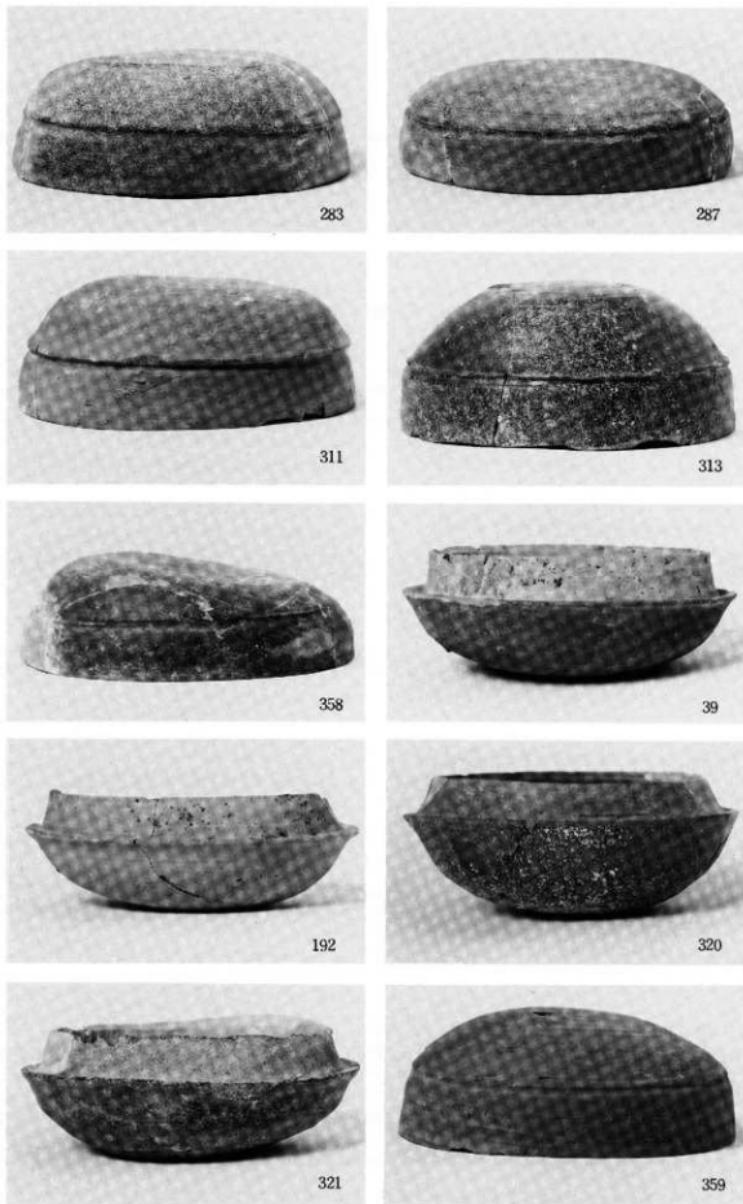
1. T7 トレンチ、P25遺物出土状況



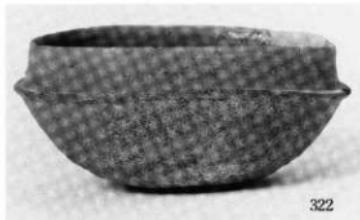
2. T11 トレンチ、P33遺物出土状況



圖版五 木部道路・遺物 須惠器 蓋杯



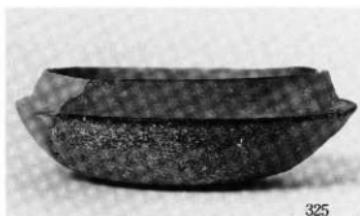
圖版六
木部遺跡・遺物
須惠器
蓋杯



322



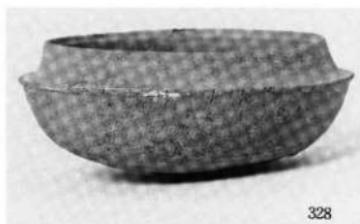
323



325



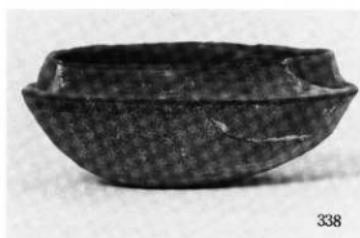
326



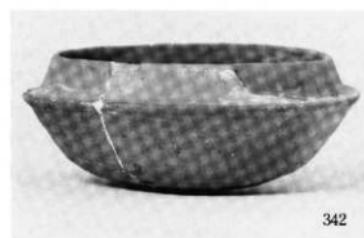
328



330



338



342

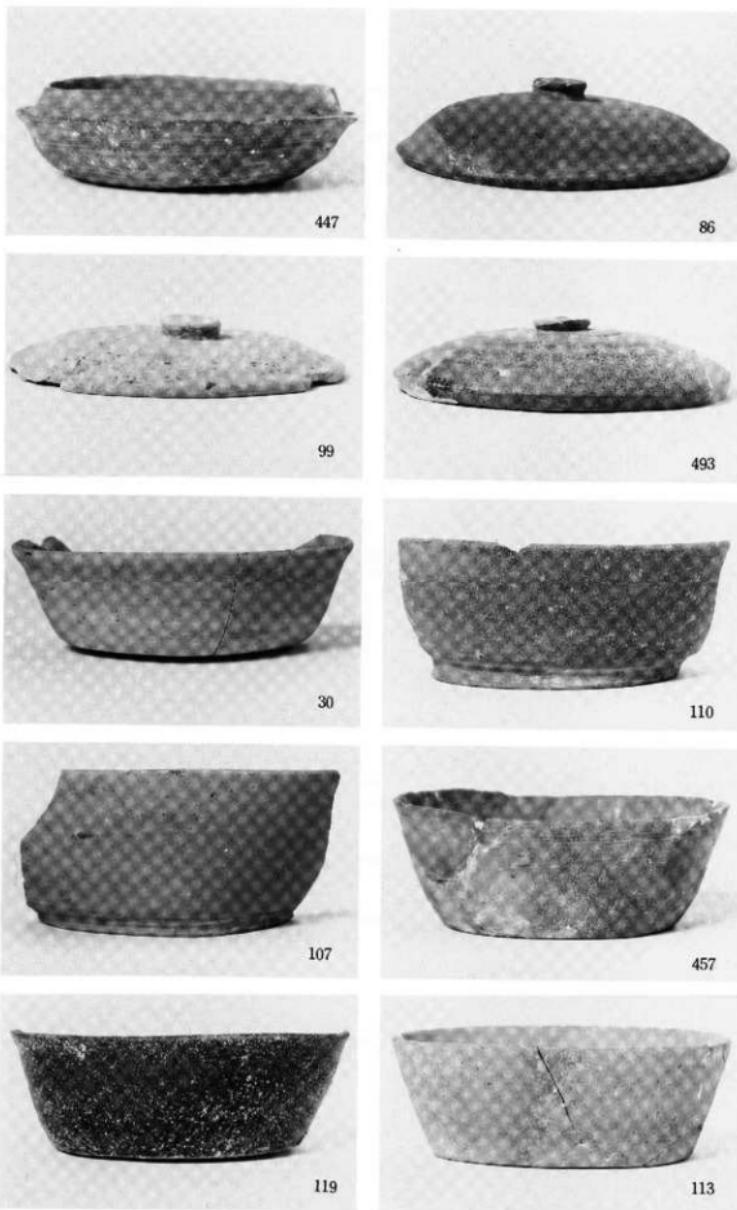


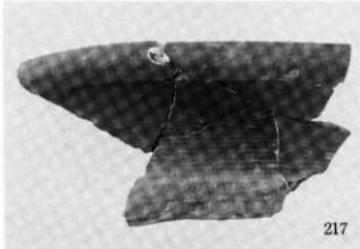
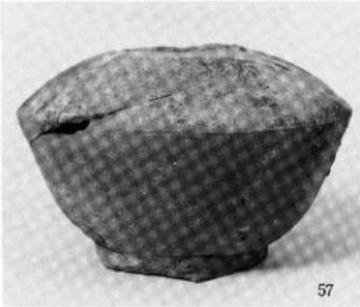
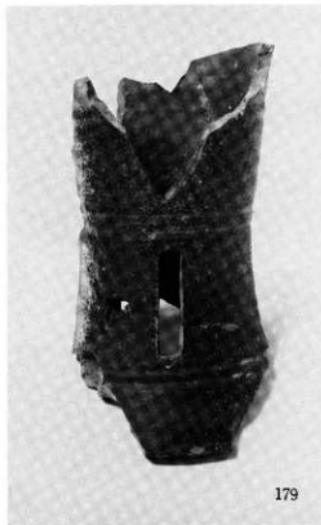
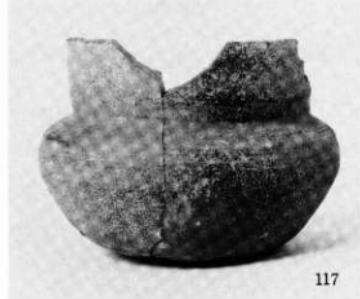
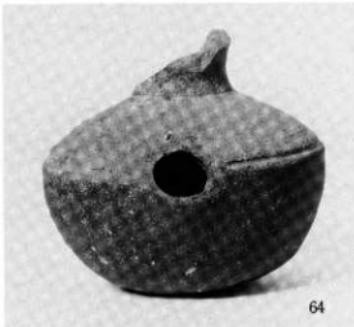
343

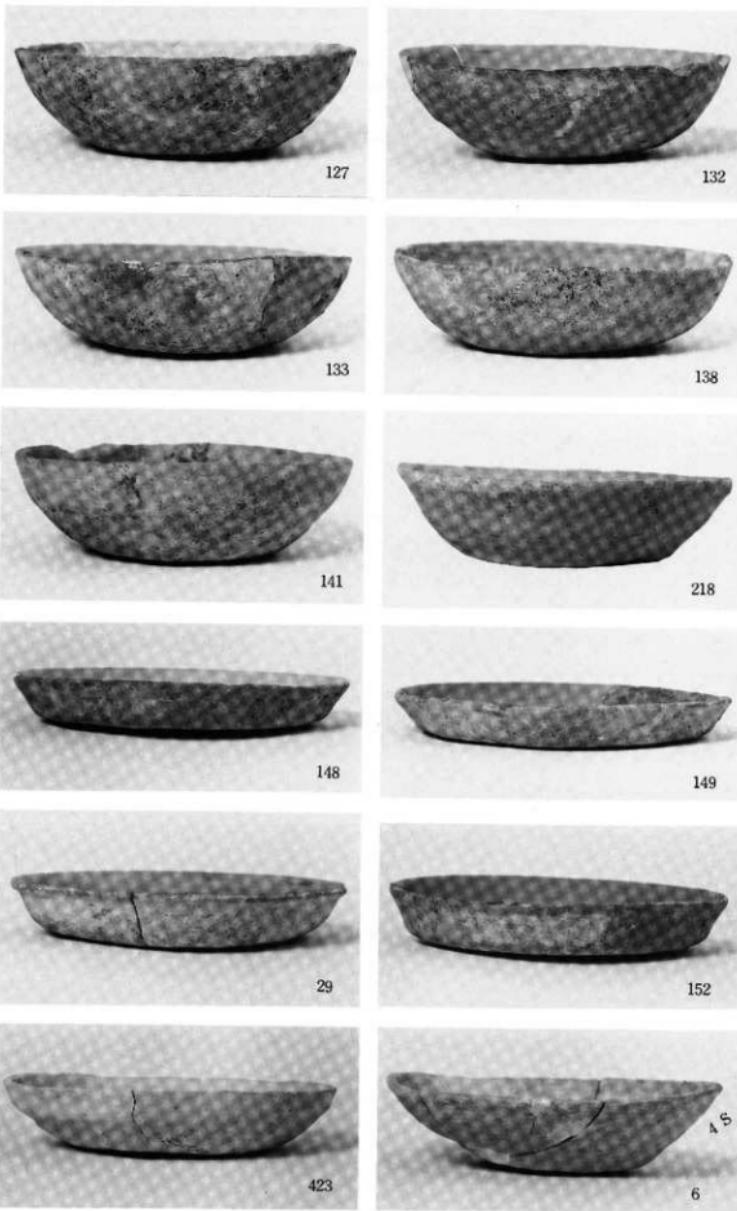


346

図版七 木部遺跡・遺物 須恵器 蓋杯

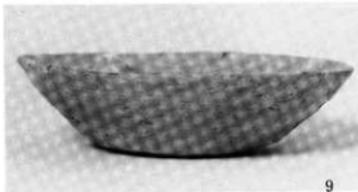




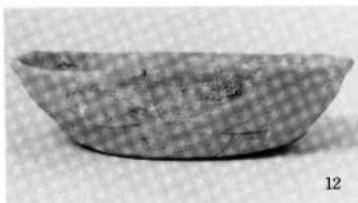




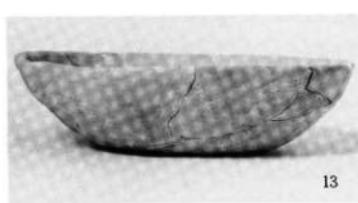
8



9



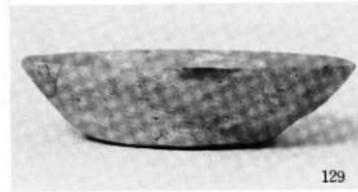
12



13



16



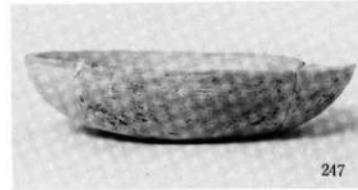
129



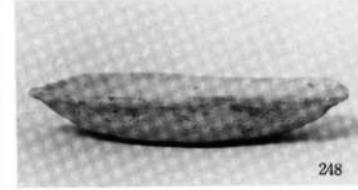
220



221



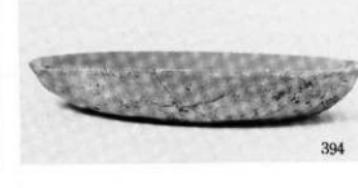
227



248

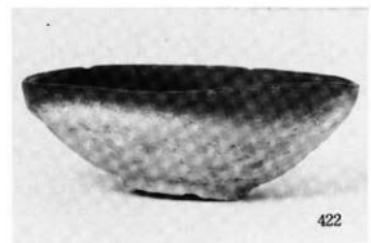
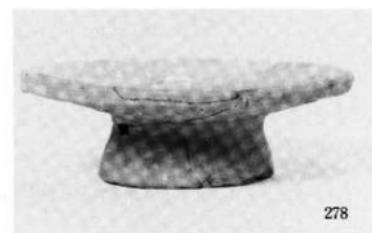
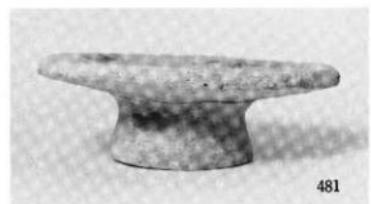
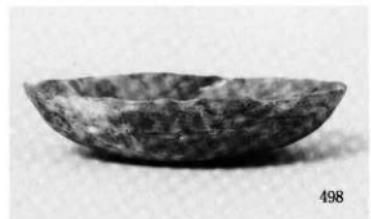
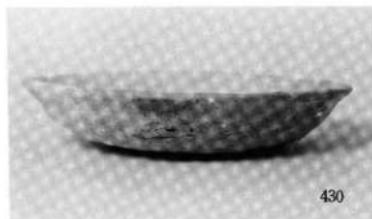


219

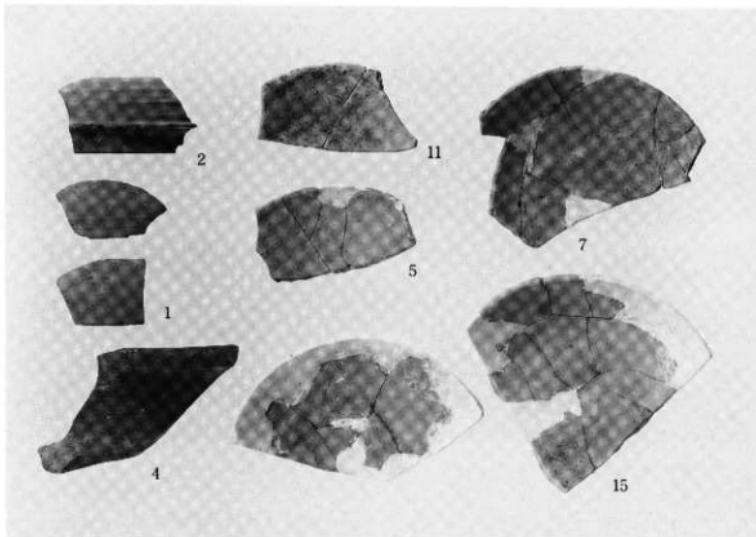


394

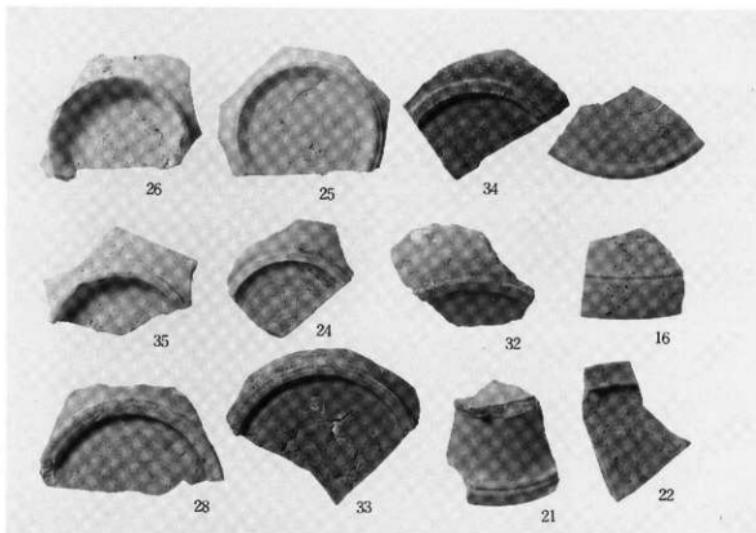
圖版一 木部遺跡・遺物
土師器 黑色土器



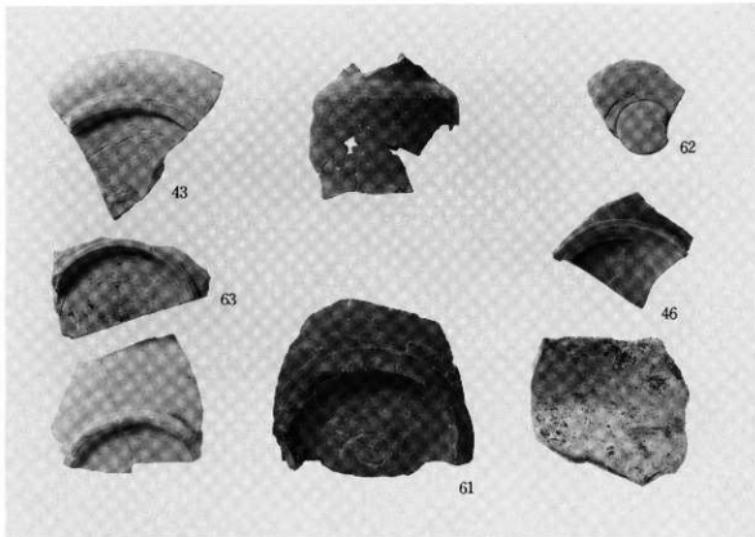
圖版一二
木部遺跡・遺物



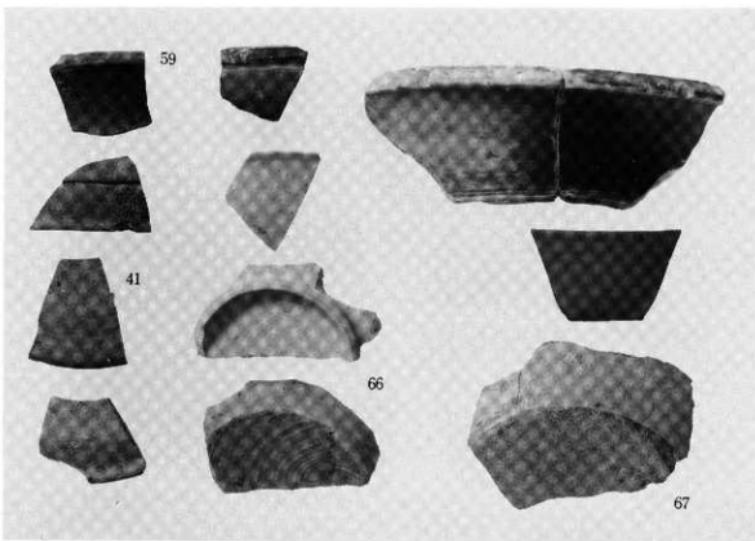
1. T 1 トレンチ出土遺物



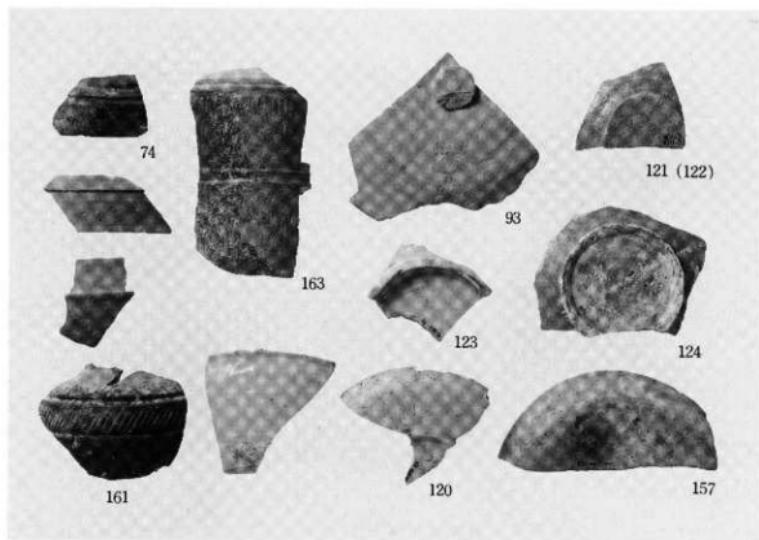
2. T 2 トレンチ出土遺物



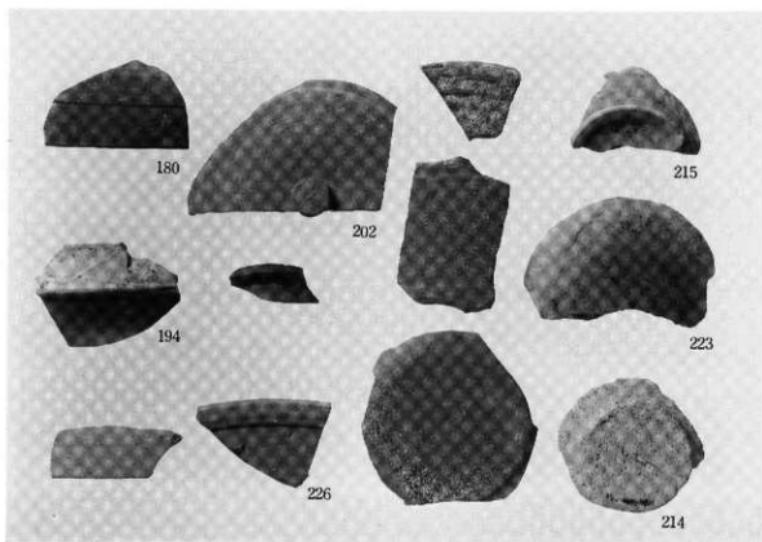
1. T 1 トレンチ出土遺物



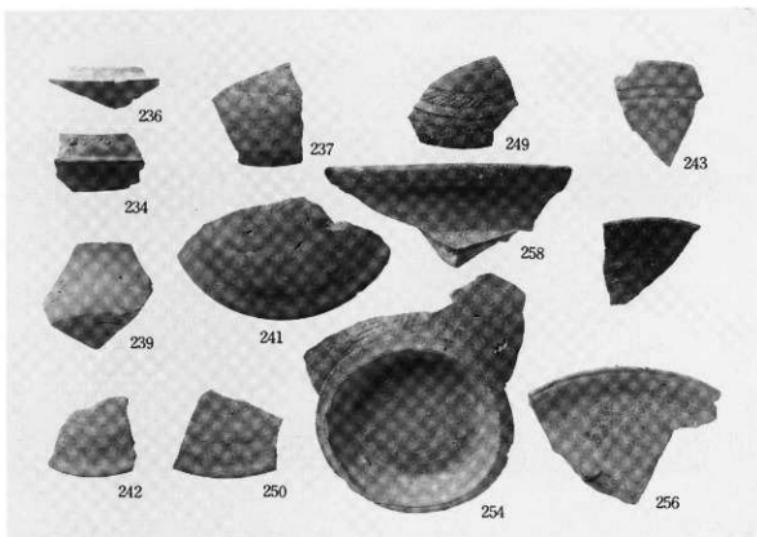
2. T 3 トレンチ出土遺物



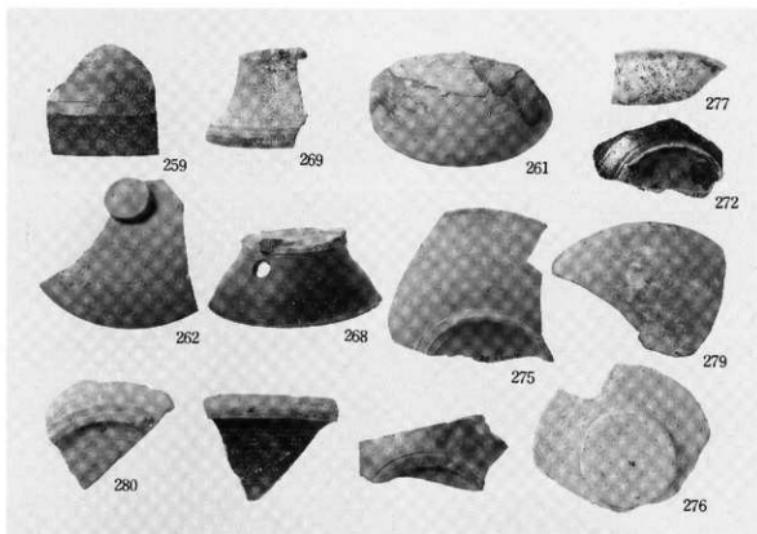
1. T 4 トレンチ出土遺物



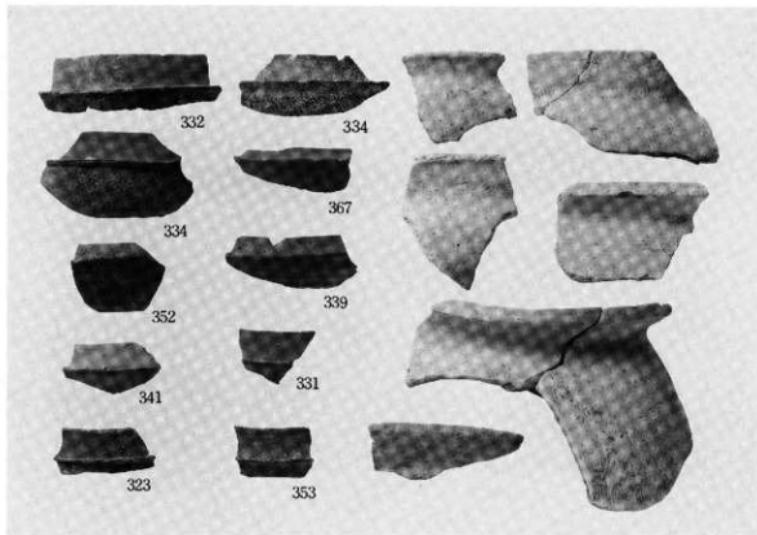
2. T 5 トレンチ出土遺物



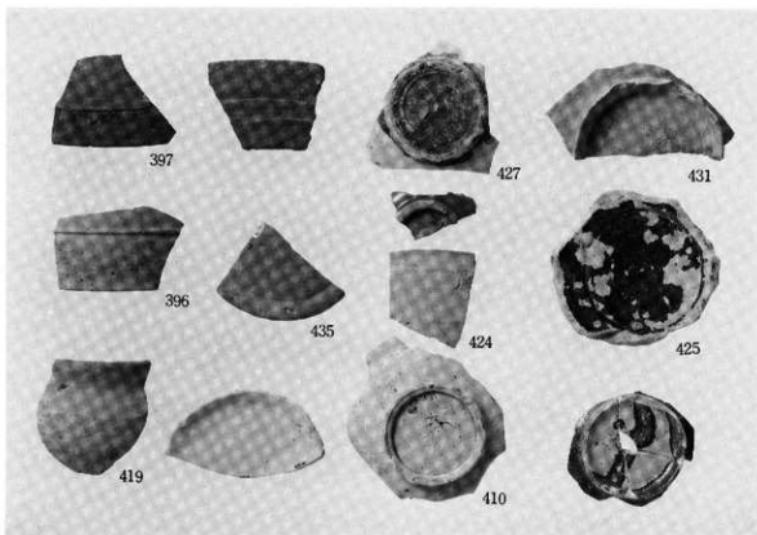
1. T 6 トレンチ出土遺物



2. T 7 トレンチ出土遺物

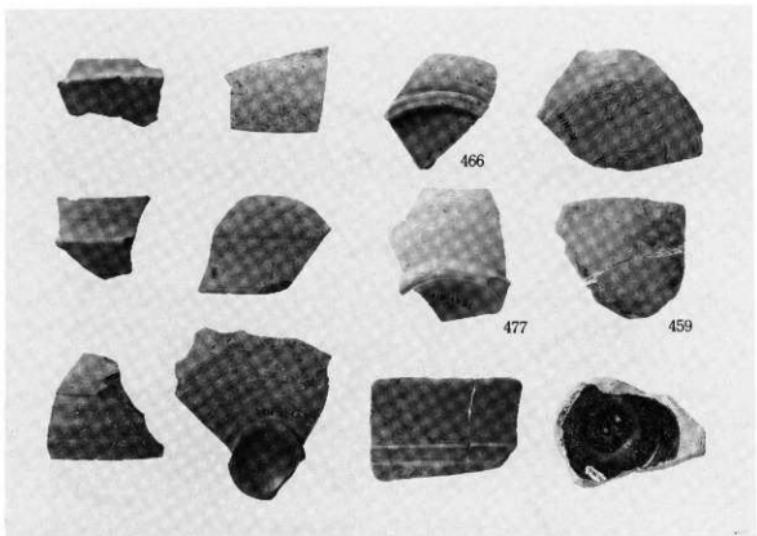


1. T 8 トレンチ出土遺物

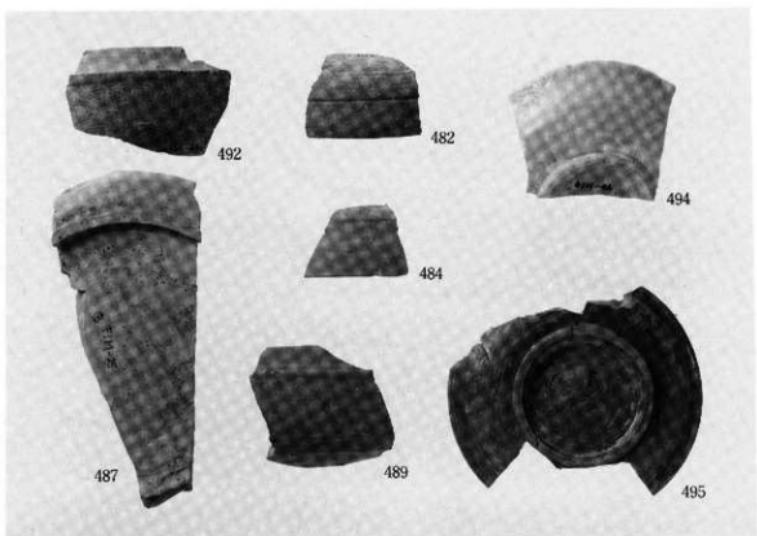


2. T 9 トレンチ出土遺物

図版一七 木部遺跡・遺物

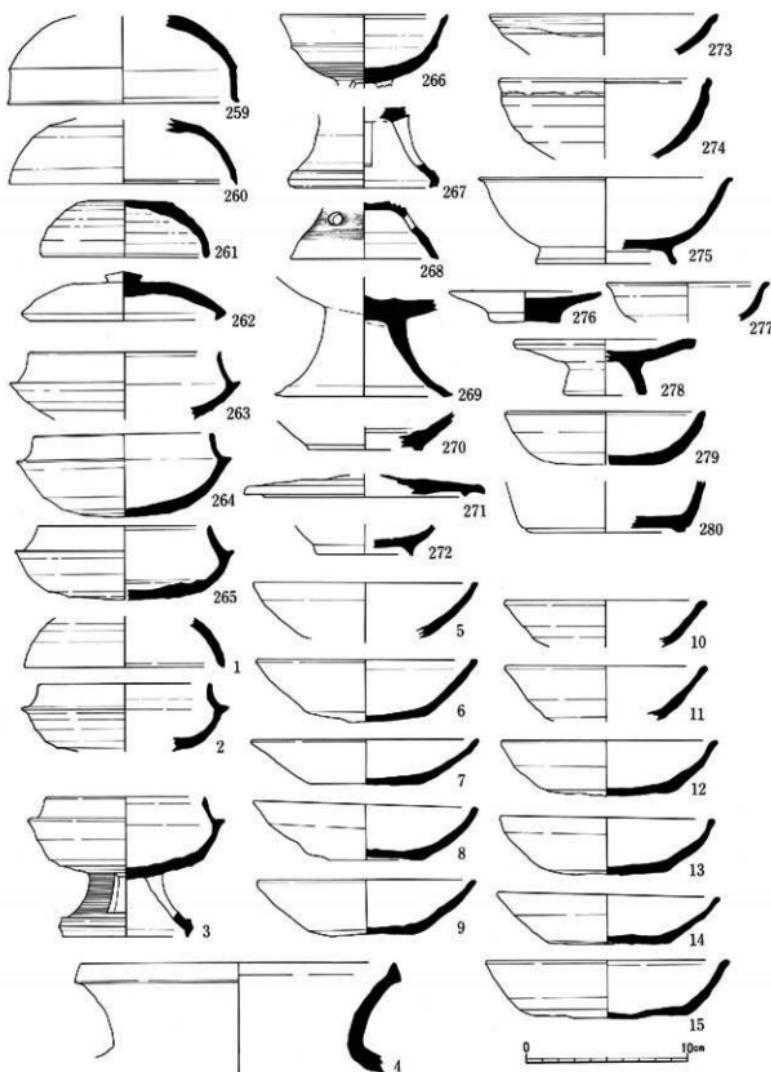


1. T10トレンチ出土遺物

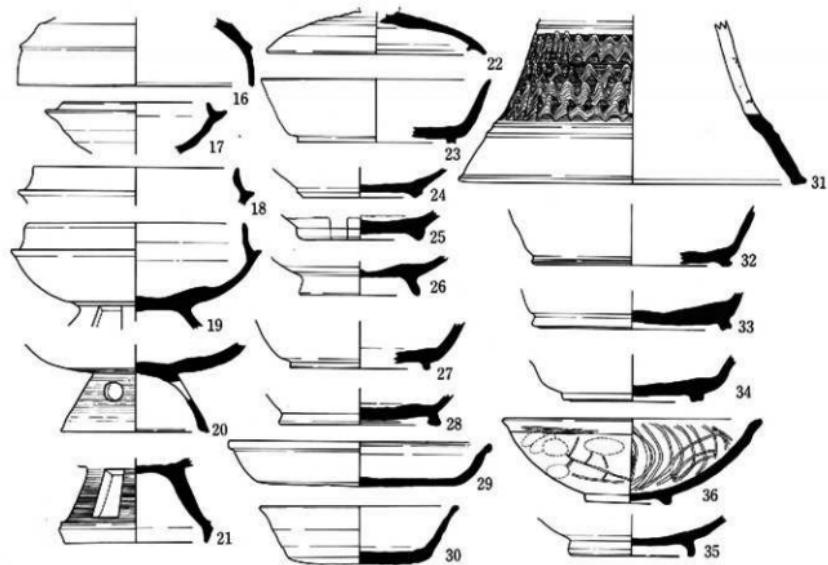
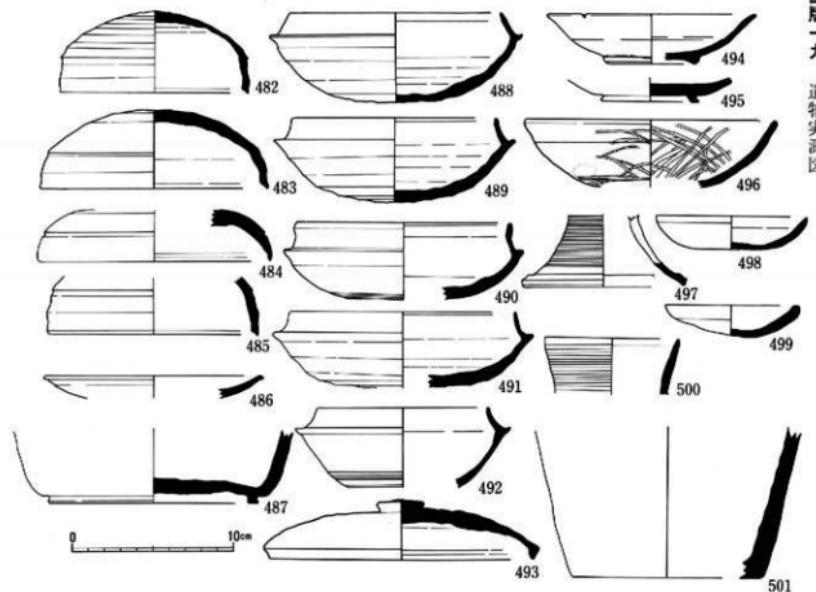


2. T11トレンチ出土遺物

図版一八
遺物実測図



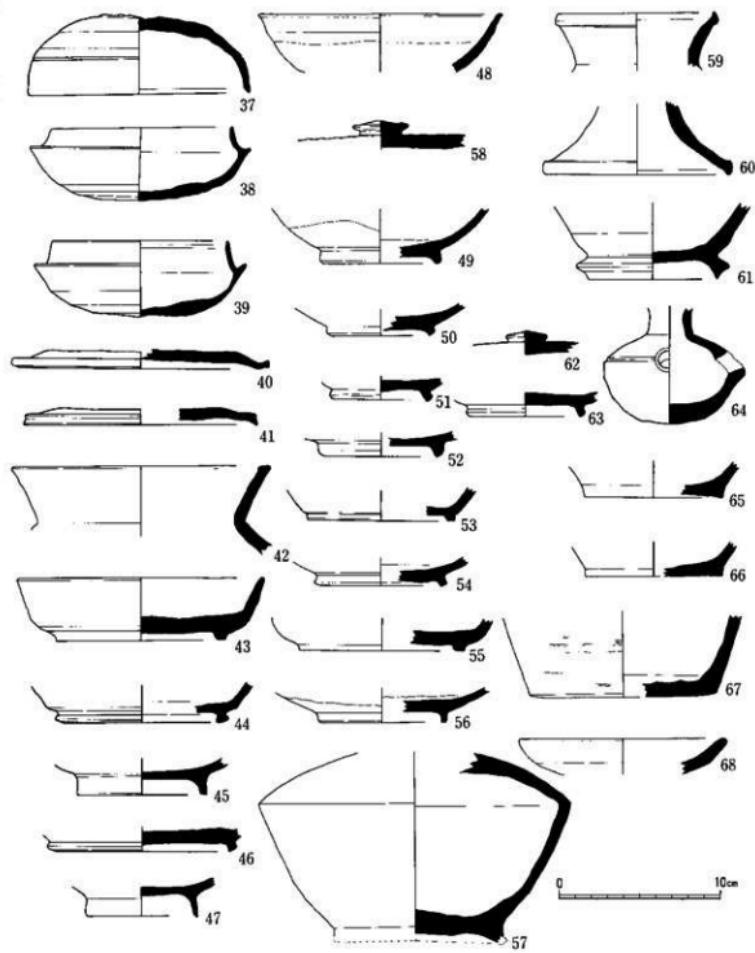
1~15 (T 1 トレンチ) 259~280 (T 7 トレンチ)



482~501 (T 111 トレンチ)

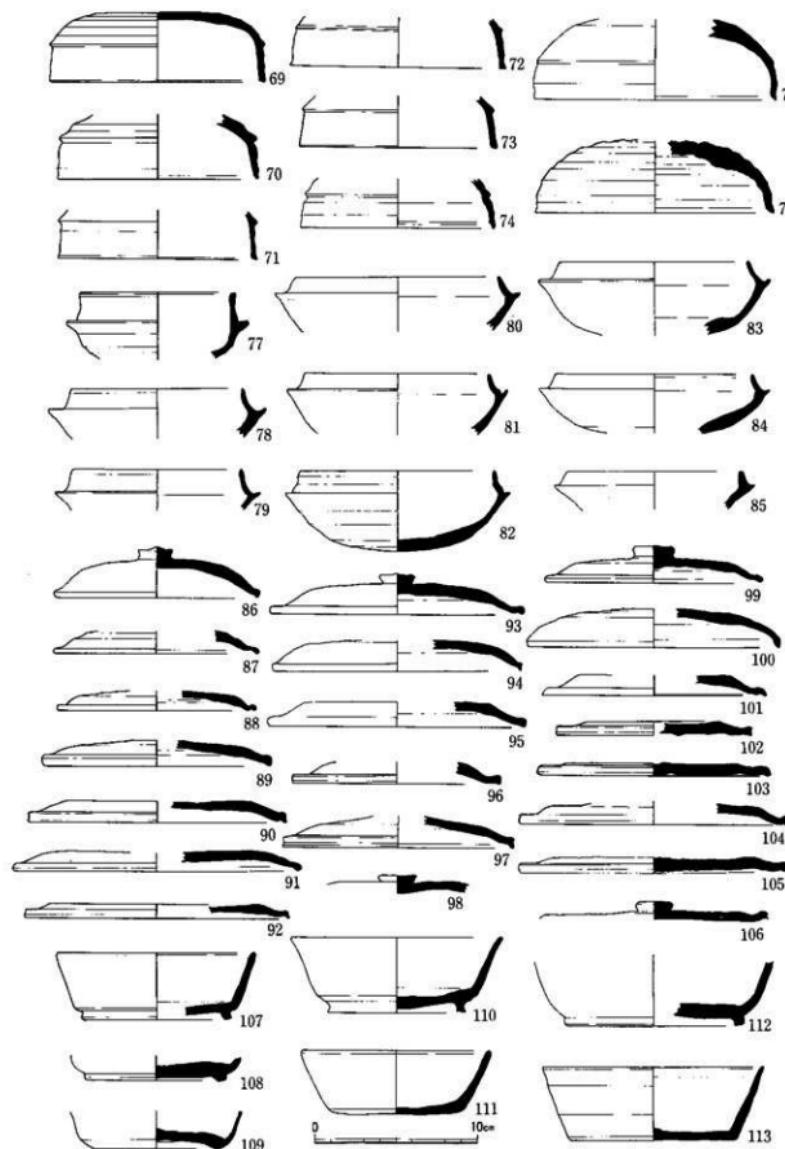
16~36 (T 2 トレンチ)

圖版二〇 遺物実測図

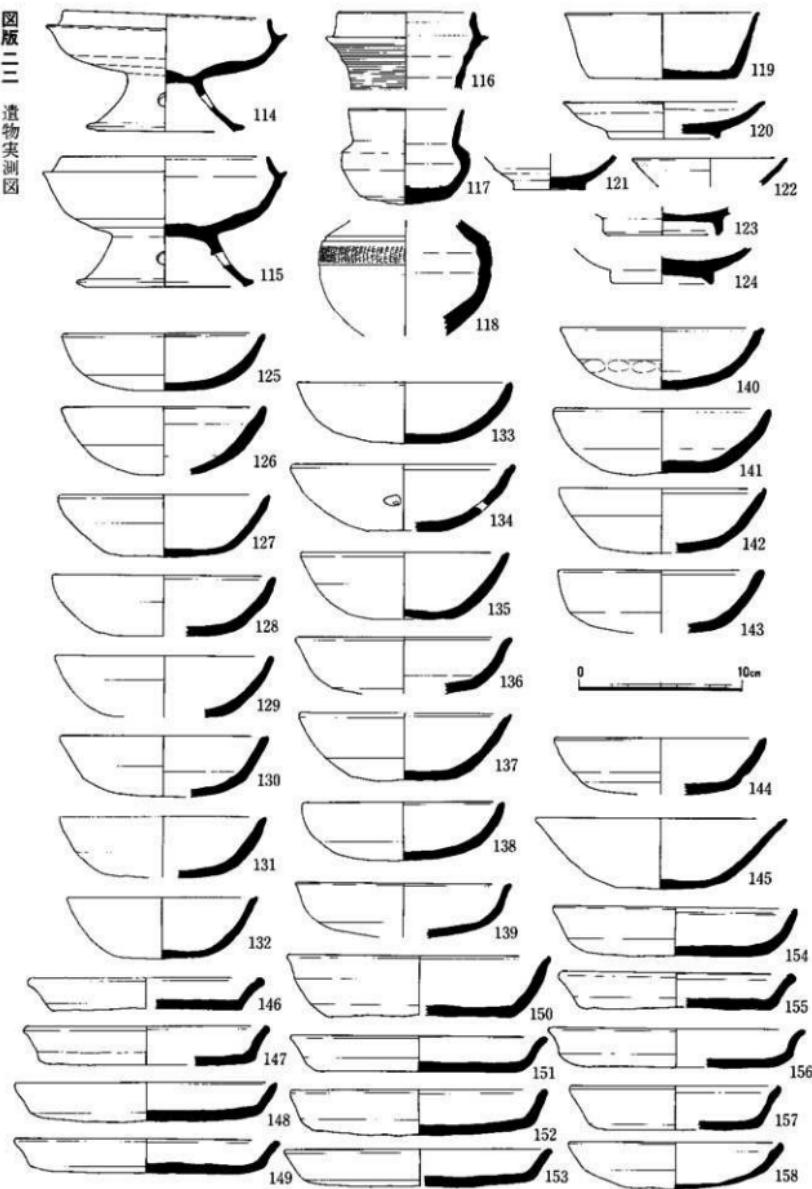


37~68 (T 3 トレンチ)

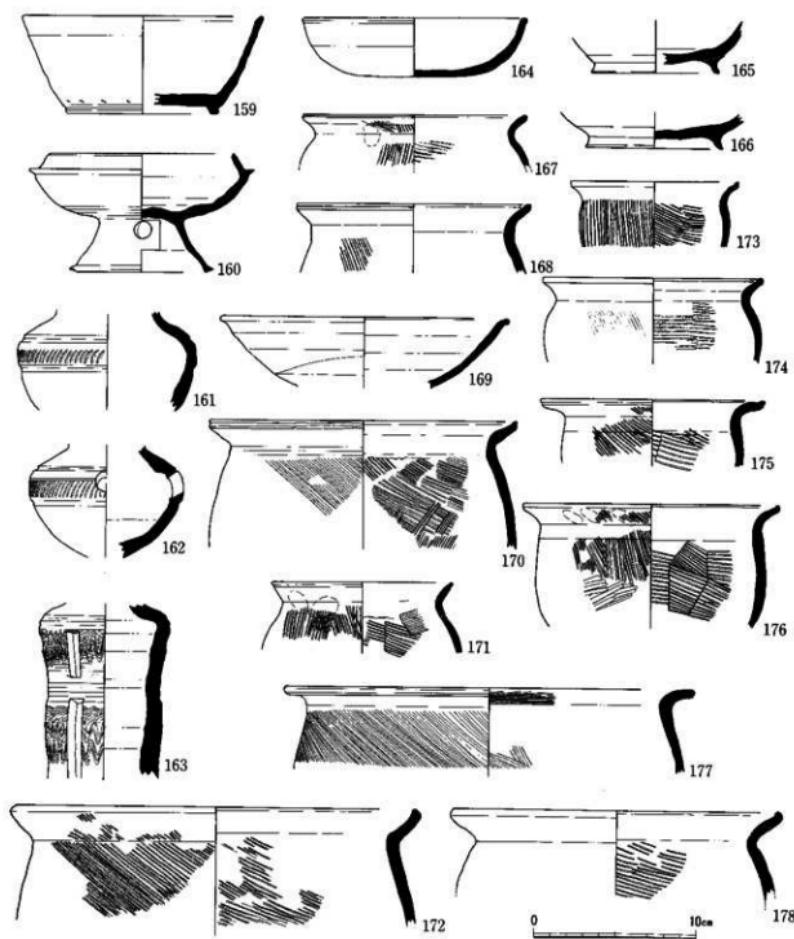
図版二一 遺物実測図



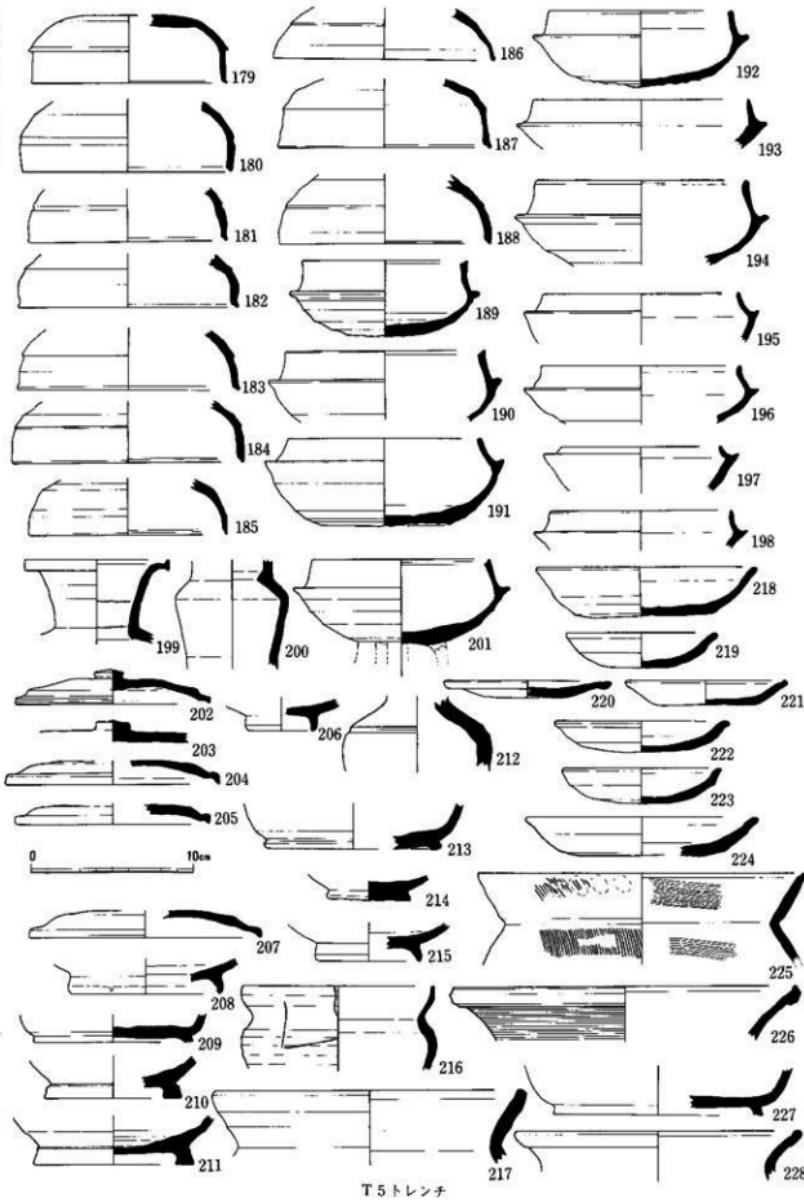
T 4 トレンチ

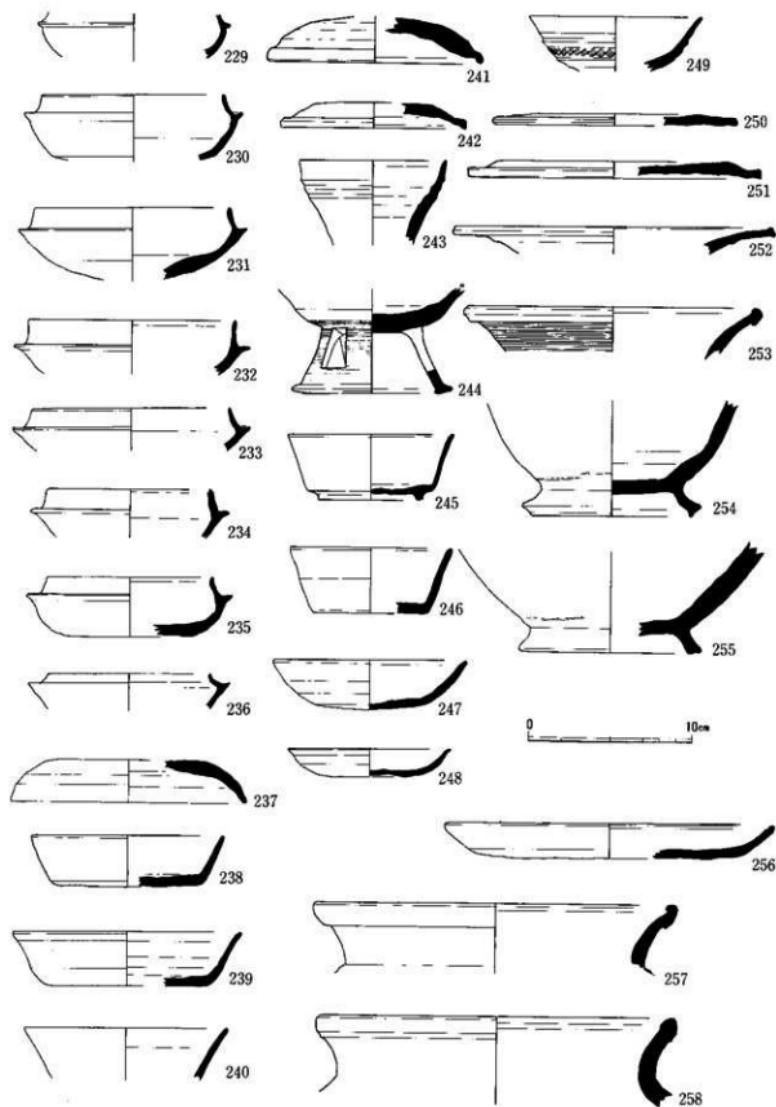


T 4 トレンチ



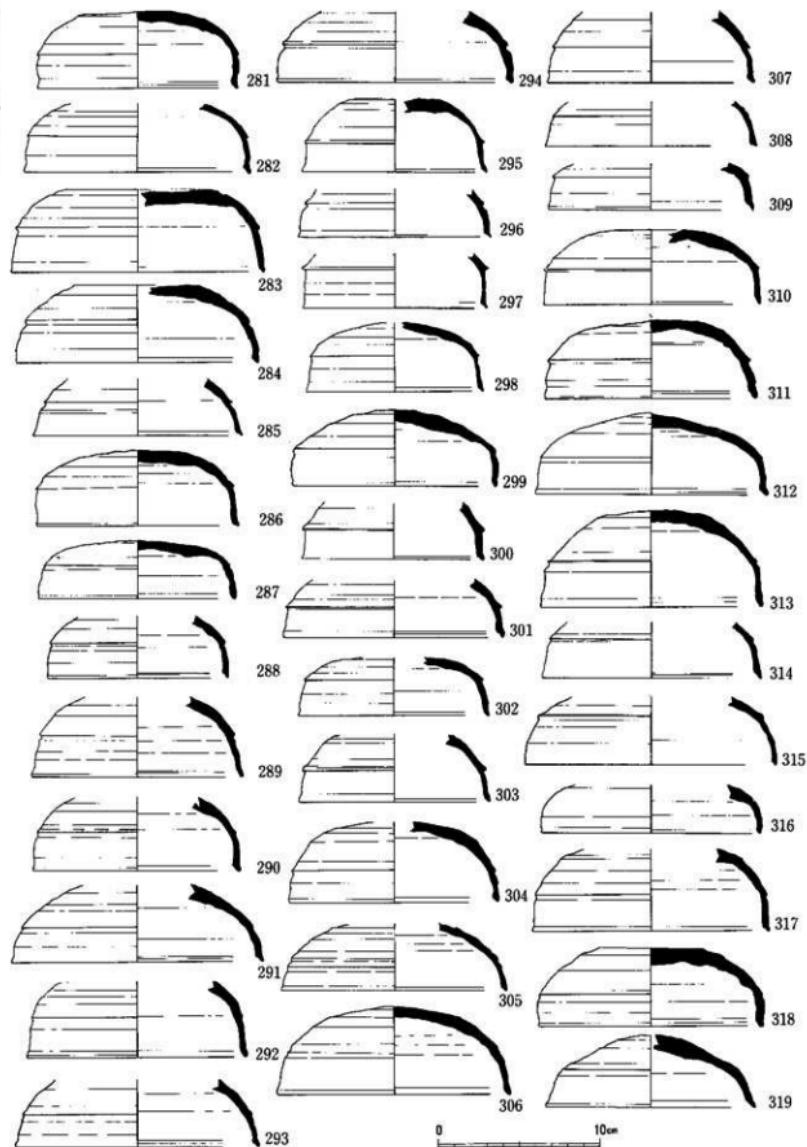
T 4 トレンチ





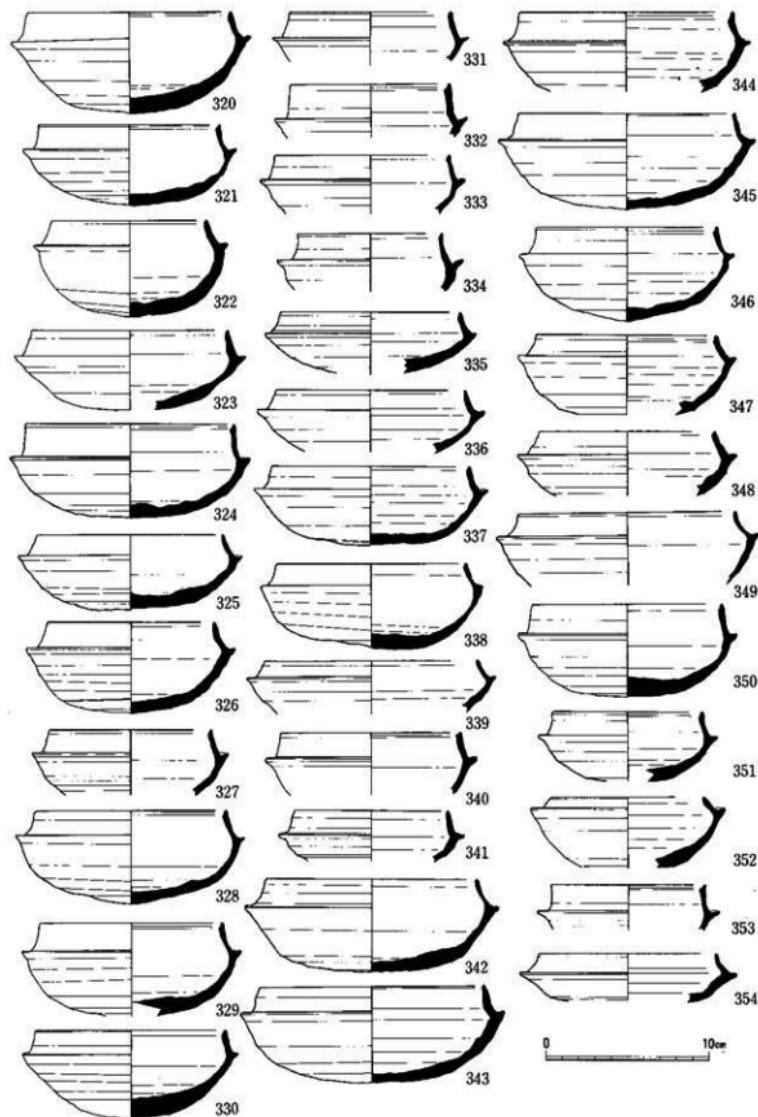
T 6 トレンチ

図版二六 遺物実測図



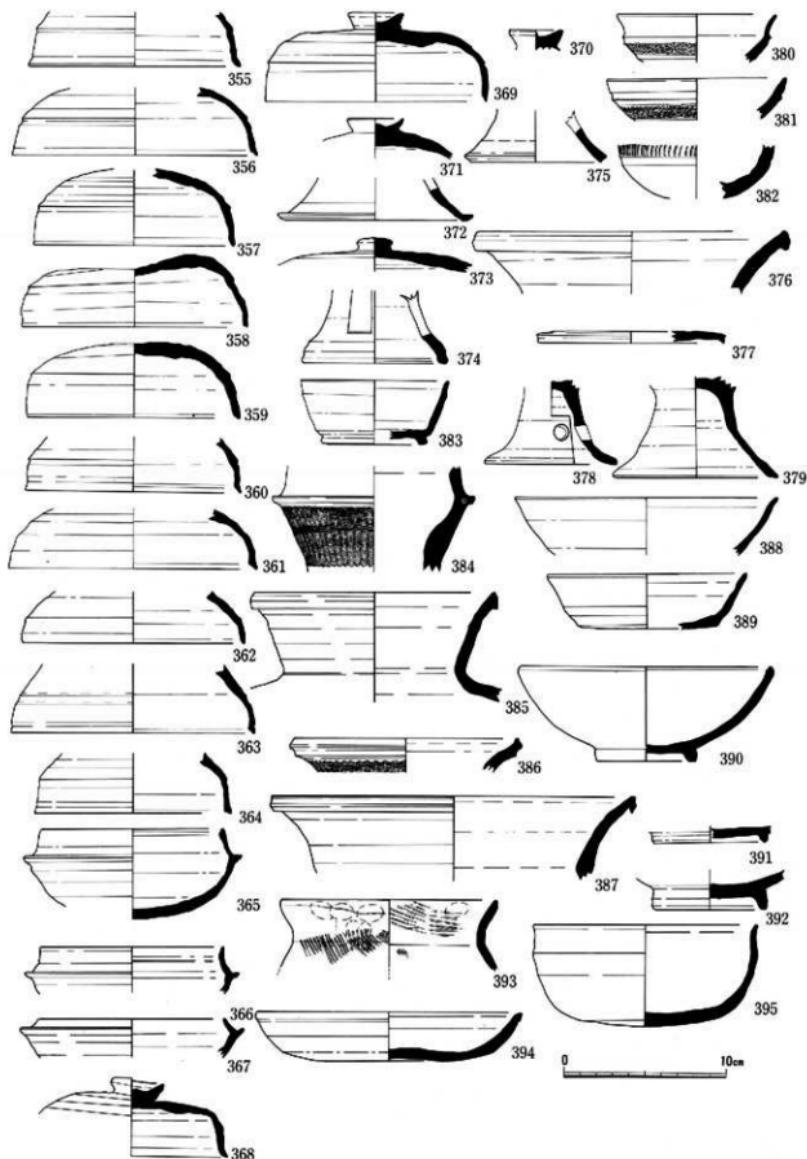
T 8 トレンチ

図版二七 遺物実測図



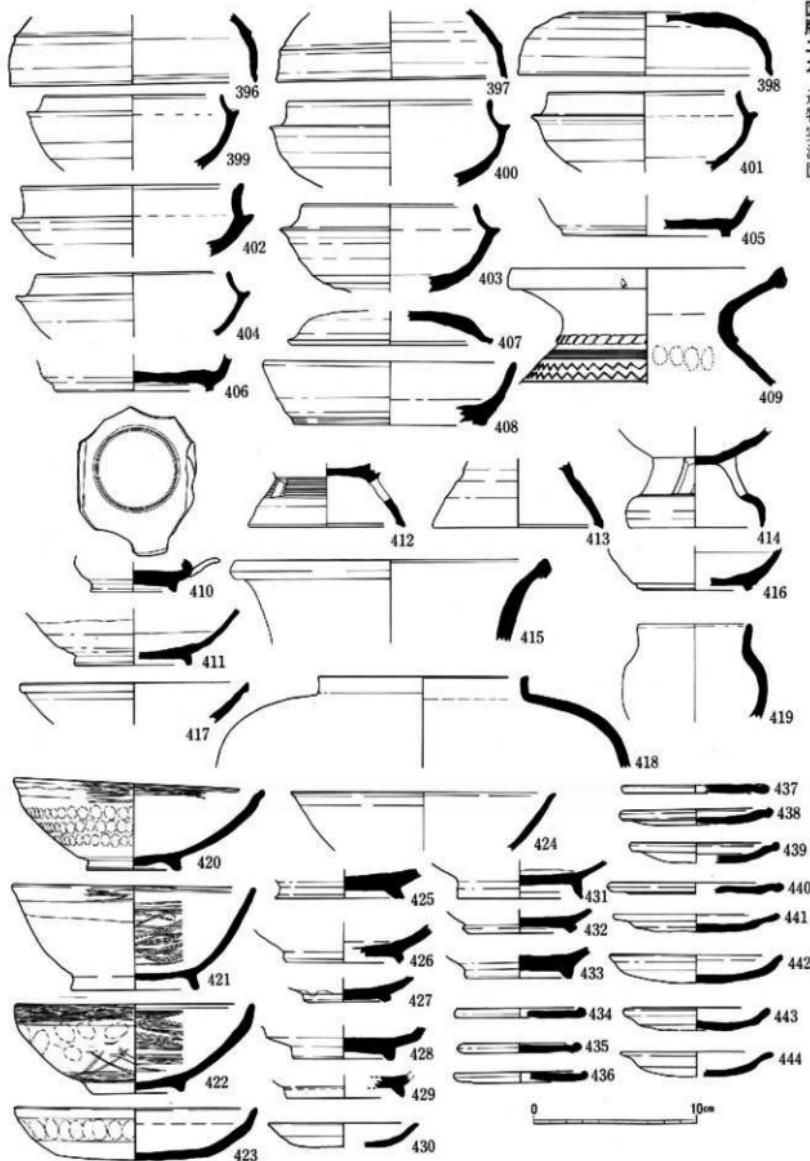
T 8 トレンチ

図版二八
遺物実測図

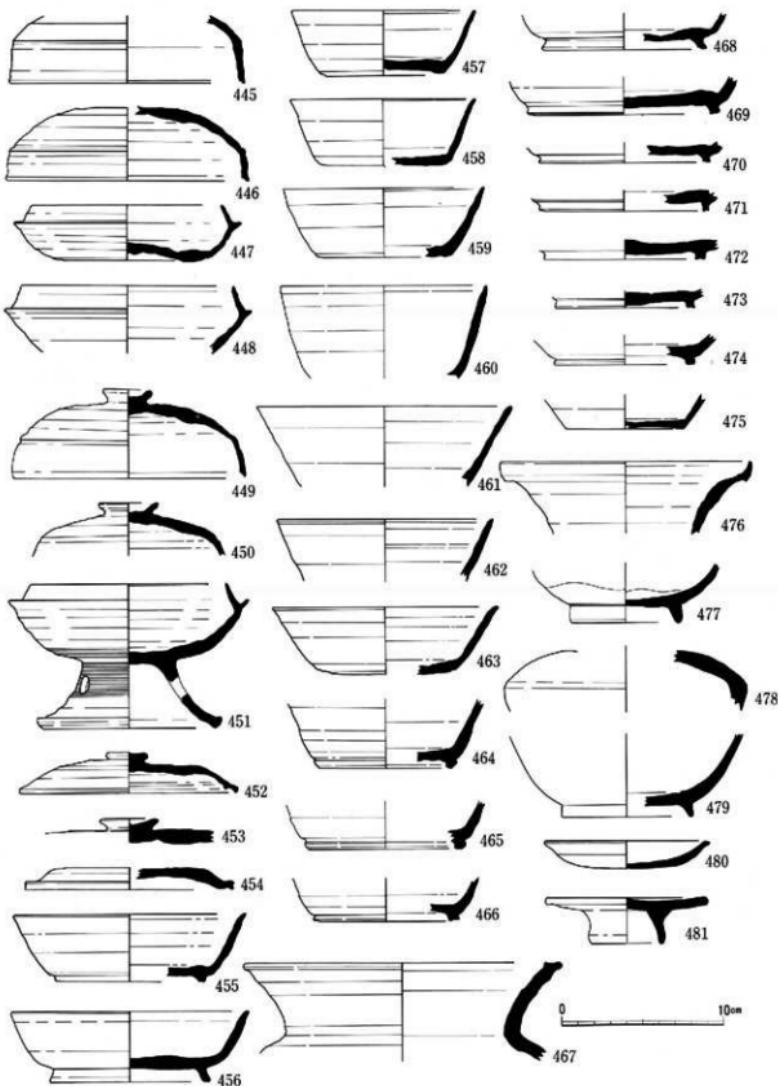


T 8 トレンチ

図版二九 遺物実測図



T 9 トレンチ



T10 トレンチ

刊行年月 昭和61年3月
刊行物名 ば場整備関係遺跡発掘調査報告書図-1
編集・発行 滋賀県教育委員会文化部文化財保護課
大津市京町四丁目1-1
電話 0775-24-1121 内線 2536
(財)滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大萱町1732-2
電話 0775-48-9781
印刷所 物語同朋舎
京都市下京区中堂寺鍵田町2